

男女共同参画市民アンケート調査
報告書

平成28年11月

呉市

はじめに

呉市では、男女共同参画社会の実現に向け、平成13（2001）年12月に「くれ男女共同参画推進条例」を策定しました。この条例に基づき、平成15（2003）年3月に「くれ男女共同参画基本計画」を策定し、現在は、平成25（2013）年3月に策定した、同基本計画（第3次）に基づいて、様々な施策、事業に取り組んでいます。

この第3次基本計画の実施期間は、平成25（2013）年度から平成34（2022）年度までの10年間としていますが、より効果的に施策を展開するため、社会情勢や市民意識の変化などをふまえて、中間年に見直しを行います。その見直しにあたり、男女共同参画に関する呉市の現状や市民ニーズを把握するため、今回の市民アンケート調査を実施しました。

皆さまの貴重なご意見を踏まえ、より充実した計画とするとともに、市民や事業者の皆さまに、男女共同参画の推進について理解を深めていただき、ご協力いただくための参考データとして利用するなど、有効に活用してまいります。

最後になりましたが、調査の実施にあたり、ご協力いただきました市民の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

平成28（2016）年11月
呉市市民部人権センター

目次

I. 調査の概要

1. 調査の概要	
(1) 調査の目的	3
(2) 調査対象者及び調査方法	3
(3) 抽出方法の詳細	3
(4) 調査内容	4
(5) 回収結果	4
2. 本報告書の見方について	
(1) 集計・分析点における留意点	4
(2) 標本誤差について	5
(3) 集計結果の有意性について	5
3. 回答者の属性	

II. 調査結果のまとめ

1. 家庭生活における男女共同参画について	8
2. 職場における男女共同参画について	8
3. 地域活動、市民活動における男女共同参画について	11
4. 仕事と家庭生活、地域活動、市民活動の両立について	12
5. 子育てについて	13
6. 男女の人権の尊重について	13
7. 男女共同参画の取り組みについて	15

III. 調査結果の詳細

1. 家庭生活における男女共同参画について	
(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について	16
(2-1) 家庭での役割分担について	19
(2-2) 家庭での役割分担に対する満足度について	30
2. 職場における男女共同参画について	
(3) 一般的に女性が職業をもつことについて	32
(4) 雇用者の職場の現状について〔複数回答〕	35
(5-1) 管理職への昇進意向について	37
(5-2) 管理職への昇進意向に必要な状況について	39
(6) 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なことについて〔複数回答〕	41
(7) 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔複数回答〕	43
(8) 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔複数回答〕	47
3. 地域活動、市民活動における男女共同参画について	
(9-1) 地域活動や市民活動への参加状況について	49

(9-2) 活動に参加していない理由について〔複数回答〕	53
(10) 地域活動等の現状について〔複数回答〕	55
4. 仕事と家庭生活, 地域活動・市民活動の両立について	
(11) 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて	57
(12) 男性が家事, 育児, 介護等に参加していくために必要なことについて〔複数回答〕	68
5. 子育てについて	
(13) 子どもの育て方について	70
(14) 子どもに受けさせたい教育(最終学歴)について	81
(15) 父親が子育てに関わることについて〔複数回答〕	83
6. 男女の人権の尊重について	
(16) 男女の地位について	85
(17) 配偶者や恋人の間で行われた場合, 暴力だと思ふ行為について	94
(18-1) 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為の経験について	107
(18-2) 配偶者や恋人間の暴力に関する相談状況について〔複数回答〕	110
(19-1) 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験について	111
(19-2) 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントされた場合の相談状況について 〔複数回答〕	114
7. 男女共同参画の取り組みについて	
(20) 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について	116
(21) 男女共同参画を推進する上で, 力を入れて取り組むべきことについて〔複数回答〕	125

IV. 自由回答の一覧

1. 自由回答の記入状況	127
2. 分野別意見数	127
3. 自由意見(要約)一部抜粋	128

<資料>

◇調査票

I. 調査の概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

男女共同参画の推進や、女性の職業生活における活躍に対する市民の意識やニーズを調査し、分析することで、今後の男女共同参画施策の参考とする。

(2) 調査対象者及び調査方法

調査対象	市内に居住する満20歳以上の男女
標本数	2,500
抽出方法	層化二段無作為抽出法
抽出台帳	選挙人名簿
調査方法	郵送による配布・回収（はがきによる礼状兼督促状を1回送付）
調査期間	平成28年6月24日（金）～7月25日（月）
調査地区	呉市全域

(3) 抽出方法の詳細

①呉市内を、支所を置いていない中央部の区域及び支所管轄区域の18地区に区分し、それぞれを層として計18層（地区）に区分した。

- ・中央 ・吉浦 ・警固屋 ・阿賀 ・広 ・仁方
- ・宮原 ・天応 ・昭和 ・郷原 ・下蒲刈 ・川尻
- ・音戸 ・倉橋 ・蒲刈 ・安浦 ・豊浜 ・豊

②上記の各地区（層）には原則として120の標本数を配分し、特に構成比率の高い中央地区には300標本、広地区には220標本、昭和地区には180標本を配分した。

③調査地点の抽出数については、1調査地点の標本数が10となるように、各地区（層）に配分された標本数により算出し、決定した。

各地区（層）における標本数、調査地点数は、下表のとおりである。

地区名	満20歳以上の人口 (母数集団数)	標本数	調査 地点数	地区名	満20歳以上の人口 (母数集団数)	標本数	調査 地点数
中央	46,364	300	30	下蒲刈	1,396	120	12
吉浦	7,108	120	12	川尻	7,429	120	12
警固屋	4,330	120	12	音戸	10,559	120	12
阿賀	13,136	120	12	倉橋	5,085	120	12
広	36,724	220	22	蒲刈	1,681	120	12
仁方	5,613	120	12	安浦	9,529	120	12
宮原	6,054	120	12	豊浜	1,436	120	12
天応	3,570	120	12	豊	1,871	120	12
昭和	27,932	180	18	合計	193,537	2,500	250
郷原	3,720	120	12				

④各調査地点では、第1対象者となる標本を無作為に求め、第1対象者から系統的に（等間隔抽出）10標本を抽出した。

(4) 調査内容

- ①家庭生活における男女共同参画について
- ②職場における男女共同参画について
- ③地域活動、市民活動における男女共同参画について
- ④仕事と家庭生活、地域活動・市民活動の両立について
- ⑤子育てについて
- ⑥男女の人権の尊重について
- ⑦男女共同参画の取り組みについて

(5) 回収結果

	票数	回収率
配布票数	2, 500	—
回収票数	1, 264	50.56%
有効票数	1, 256	50.24%

2. 本報告書の見方について

(1) 集計・分析点における留意点

- ①標本抽出の際に、母集団の構成比とは無関係に標本数を配分（地区別に300, 220, 180, 120標本数を配分）したため、そのままの集計では、実回収構成比が母集団構成比に一致せず、地区別の結果が正しく反映されない。そのため、集計にあたっては、実回収数に抽出率の差を調整した値を乗じて最終的に各地区の抽出率が同一になるようにし、分析に用いた結果数値も、この標本を母数に算出した。
- ②無回答（回答不明）を除いて集計を行った。そのため区分ごとの標本数の合計（例えば、性別の合計、年代別の合計）が全体の標本数と一致しないことがある。
- ③母数となるべき実数は、「N=〇〇〇」として掲載し、各比率はNを100%として算出した。
- ④比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。したがって、合計が100%を上下する場合もある。
- ⑤「複数回答」とある設問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい設問である。したがって、各回答の合計比率が100%を超える場合がある。
- ⑥本調査と同様の内容の設問を含む、以下の国、呉市の過去調査との比較分析も適宜行っている。ただし、各調査によって調査方法やたずね方、選択肢等に違いが見られる場合もあり、この比較結果のみで単純に「呉市の方が高い・低い」というような結論を導き出すことはできない。しかし、全国と比べた場合の市民の男女共同参画社会に関する意識の位置付けや、意識変化を傾向として大まかに把握することは、今後の男女共同参画社会に関する市の施策を進めるために重要であると考えられる。

調査名	実施主体	調査年月
呉市男女共同参画市民アンケート調査	呉市民政部人権センター	平成23年7～8月
女性の活躍推進に関する世論調査(平成26年度)	内閣府男女共同参画局	平成26年8～9月

(2) 標本誤差について

本調査は、その調査対象となる母集団（呉市に居住する満20歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率、平均、標準偏差等を調べ、これらの値から母集団の比率や平均を推測する、いわゆる「標本調査」である。

したがって、母集団に対する「標本誤差」が生じることになる。

標本誤差は以下の数式で統計学的に算出される（信頼度は95%として信頼区間を算出）。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 信頼度95%の標本誤差
 N = 母集団数 (=満20歳以上の男女193,537人)
 n = 有効回答数
 P = 回答比率

【今回の調査における標本誤差早見表】

回答比率 有効回答数	10% or 90%	20% or 80%	30% or 70%	40% or 60%	50%
500票	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
1,000票	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
1,256票	±1.7%	±2.2%	±2.5%	±2.7%	±2.8%
1,500票	±1.5%	±2.0%	±2.3%	±2.5%	±2.5%
2,000票	±1.3%	±1.7%	±2.0%	±2.1%	±2.2%

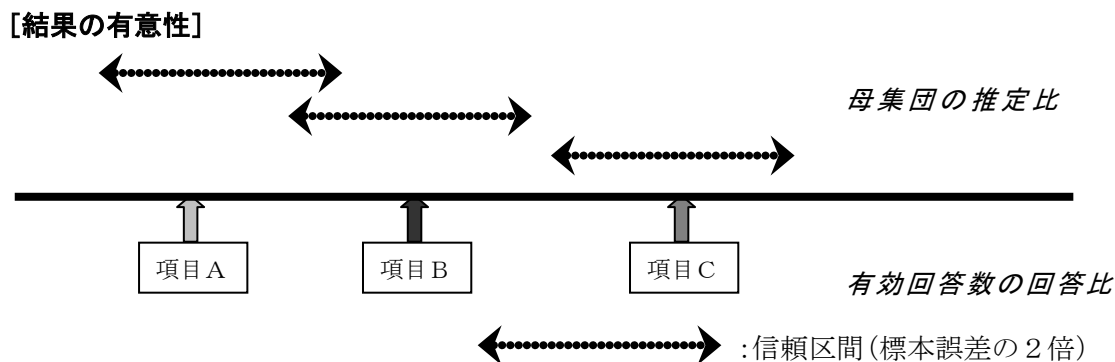
(3) 集計結果の有意性について

前述のとおり、本調査では、母集団への標本誤差が必ず生じる。そのため、どの程度まで意識調査結果に基づく評価ができるのかという有意性が重要な課題となってくる。

本調査で、有効回答数が1,256票であった場合、回答比率がちょうど50%の時の標本誤差は±2.8%となる。したがって、意識調査結果で得た50%という集計結果を実際の母集団の傾向として評価する際には、50%ではなく、50±2.8% (=47.2%~52.8%) という一定の幅を持った値（信頼区間）として取り扱う必要がある。

そのため、調査結果の評価をする場合、少なくとも評価対象となる項目の回答比率の差が標本誤差の2倍以上でなければ意味をなさない、つまり有意性を持たないことになる。評価・分析にあたっては信頼区間未満（本調査では5.6%未満）の差異は切り捨てて考える必要がある。

クロス集計はカイ二乗検定により有意水準5%以下は、差異についてコメントを掲載した。



※この場合、項目Cについては、項目A、項目Bそれぞれよりも有意に高いといえるが、項目Bは項目Aよりも有意に高いとはいえない。

3. 回答者の属性

(1) 性別

項目	件数	割合(%)
男性	549	44.5
女性	686	55.5
計	1,235	100.0

(2) 年代

項目	件数	割合(%)
20歳代	69	5.6
30歳代	120	9.7
40歳代	198	16.0
50歳代	196	15.9
60～64歳	127	10.3
65歳以上	525	42.5
計	1,235	100.0

(3) 性・年代別

項目		件数	割合(%)
男性	20歳代	28	2.3
	30歳代	47	3.8
	40歳代	95	7.7
	50歳代	94	7.6
	60～64歳	51	4.1
	65歳以上	234	19.0
女性	20歳代	41	3.3
	30歳代	73	5.9
	40歳代	102	8.3
	50歳代	103	8.3
	60～64歳	76	6.2
	65歳以上	290	23.5
計		1,234	100.0

(4) 職業 *

項目	件数	割合(%)
自営業	83	6.7
家族従事者	23	1.9
正社員・正職員	316	25.6
派遣・契約社員	31	2.5
パートタイマー・アルバイト	177	14.4
家事専業(主婦・主夫)	252	20.5
学生	8	0.6
無職	296	24.0
その他	46	3.7
計	1,232	100.0

(5) 婚姻状況

項目	件数	割合(%)
結婚している	908	74.0
結婚していたが離別・死別した	151	12.3
結婚していない	168	13.7
計	1,227	100.0

(6) 家族構成

項目	件数	割合(%)
1人世帯	144	12.2
夫婦のみ世帯	370	31.3
親と子の世帯	425	35.9
3世代家族(親と子と孫)	51	4.3
母子, 父子世帯(60歳未満)	57	4.8
母子, 父子世帯(60歳以上)	63	5.3
その他親族と同居の世帯	50	4.2
その他	24	2.0
計	1,184	100.0

(7) 居住地区 *

項目	件数	割合(%)
中央	296	23.9
吉浦	45	3.6
警固屋	28	2.3
阿賀	84	6.8
広	235	19.0
仁方	36	2.9
宮原	39	3.2
天応	23	1.9
昭和	178	14.4
郷原	24	1.9
下蒲刈	9	0.7
川尻	47	3.8
音戸	67	5.4
倉橋	32	2.6
蒲刈	11	0.9
安浦	61	4.9
豊浜	9	0.7
豊	12	1.0
計	1,236	100.0

(8) 夫婦の就業状況 *

項目	件数	割合(%)
共働き家庭	337	37.1
夫のみ就業家庭	187	20.6
妻のみ就業家庭	53	5.8
夫・妻ともに働いていない	305	33.6
その他	27	3.0
計	909	100.0

(9) 夫婦の就業状況 (詳細)

項目	件数	割合(%)
共に自営業	46	5.1
共に正社員・正職員	82	9.0
夫が正社員・正職員 妻が非正社員・非正職員	128	14.1
その他の共働き家庭	81	8.9
夫が正社員, 妻が非就業	114	12.5
夫が非正社員, 妻が非就業	52	5.7
夫が自営業, 妻が非就業	21	2.3
妻のみ就業家庭	53	5.8
夫・妻ともに働いていない	305	33.6
その他	27	3.0
計	909	100.0

*各項目の割合(%)は小数点以下第2位を四捨五入しているため、(4)(7)(8)の「割合(%)」の単純合計は、100%を上下しています。

II. 調査結果のまとめ

1. 家庭生活における男女共同参画について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方（固定的性別役割分担意識）について

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、【全体】で「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた『賛成派』は27.4%、「反対する」と「どちらかといえば反対する」を合わせた『反対派』は60.8%で、『反対派』が33.4ポイント上回っており、その差は前回調査（平成23年）より大きくなっている。全国調査との比較では、各年の全国調査の『賛成派』は40%を超えており、『賛成派』が低下している呉市との差は拡大している。

【性別】では、前回調査と比較すると男女とも「どちらかといえば賛成する」が減少し、「わからない」が増加している。

【性・年代別】では、すべての年代で『反対派』が『賛成派』を上回っており、男性20歳代では、『反対派』が77.7%と最も高い。ただし、男性65歳以上については『賛成派』と『反対派』の差は1.8ポイントに留まっており、有意に『反対派』が『賛成派』上回っているとは言えない。

(2-1) 家庭での役割分担について

「現在結婚している方のみ」の回答で、家庭での役割分担については、【全体】で「主に夫」が高いものは「カ 生活費を得ること」、「主に夫」と「夫・妻で半々」が共に約40%で高いものは「キ 重大事項の決定（高額な商品や土地・家屋の購入など）」であり、その他の役割では「主に妻」が最も高い。

【年代別】ではまた「カ 生活費を得ること」については、30歳代で「主に夫」が77.6%で他の年代より高く、以降年代が上がるほど「主に夫」の比率は低くなっている。「キ 重大事項の決定（高額な商品や土地・家屋の購入など）」については、20歳代と30歳代で「夫・妻で半々」が50%以上で他の年代より高い。「ケ 自治会等の地域活動への参加」については、30歳代で「夫・妻で半々」が44.4%で他の年代より高く、「主に妻」は42.9%で他の年代より低い。

(2-2) 家庭での役割分担に対する満足度について

「現在結婚している方のみ」の回答で、家庭での役割分担に対する満足度は、【全体】で「満足している」「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足層』が、「不満である」「どちらかといえば不満である」を合わせた『不満層』を大きく上回っている。

【性別】では男性の『満足層』が93.0%で、女性の67.8%より25.2ポイント高い。

【性・年代別】では男性20歳代、男性30歳代は、「満足している」が60%以上で他の年代より高く、女性30歳代は、「満足している」が40.7%で他の年代に比べて高い。また、女性60～64歳は、『不満層』が41.0%で他の年代に比べて高い。

2. 職場における男女共同参画について

(3) 一般的に女性が職業をもつことについて

一般的に女性が職業をもつことについては、【全体】で『家事優先型』が33.2%、『再就職型』が29.3%、『職業継続型』が19.9%と続く。平成23年実施の呉市調査結果と比較すると

顕著な変化はないが、『出産退職型』が3.5ポイント減少し、『職業継続型』が3.0ポイント増加している。

【性別】では、男性は『職業継続型』、『家事優先型』が増加し、『出産退職型』が減少している。女性については平成23年と平成28年で特に大きな差異はない。

全国調査との比較では、男性、女性とも『職業継続型』は低く、『再就職型』は高い。

(4) 雇用者の職場の現状について〔複数回答〕

「お勤めしている方のみ」の回答で、雇用者の職場の現状については、【全体】で「あてはまるものはない」が62.2%で最も高く、「仕事の内容・分担に男女差がある」が21.8%、「募集・採用・配属に男女差がある」が16.9%、「能力・成果の評価に男女差がある」が9.8%で続いている。

【性別】では、男性は、「仕事の内容・分担に男女差がある」が30.3%、「募集・採用・配属に男女差がある」が20.5%で女性に比べて高い。女性は「あてはまるものはない」が68.5%で男性の56.7%に比べて11.8ポイント高い。

【年代別】では、30歳代は「仕事の内容・分担に男女差がある」が33.3%、「募集・採用・配属に男女差がある」が22.2%で他の年代より高い。50歳代は「能力・成果の評価に男女差がある」が20.5%、「教育訓練の機会を男女が平等に与えられていない」が12.8%で、他の年代より高い。

(5-1) 管理職への昇進意向について

「お勤めしている方のみ」の回答で、管理職への昇進意向については、【全体】で「どちらかといえば昇進したくない」「昇進したくない」を合わせた『昇進意向なし』が65.7%を占める。「どちらかといえば昇進したい」「昇進したい」を合わせた『昇進意向あり』は34.3%で『昇進意向なし』が『昇進意向あり』を31.4ポイント上回っている。

【性別】では、男性は『昇進意向あり』が45.2%、『昇進意向なし』が54.8%と昇進意向の有無の差が9.6ポイントと拮抗しているが、女性は『昇進意向なし』が77.2%を占め、男性の54.8%より22.4ポイント高くなっている。

【年代別】では、30歳代は、『昇進意向あり』が45.1%で他の年代より高い。また20歳代は、「どちらかといえば昇進したくない」が47.8%で他の年代より高く、65歳以上は、「昇進したくない」が62.5%で他の年代より高い。

【性・年代別】では、男性20歳代は「昇進したい」が30.4%で最も高く、男性30歳代、男性40歳代は『昇進意向あり』が50%を上回っているが、他の年代では『昇進意向なし』が50%を上回っている。

女性20歳代は「どちらかといえば昇進したくない」が73.9%と最も高い。女性30歳代は『昇進意向なし』が65.0%と低く、女性50歳代は『昇進意向なし』が88.2%と高くなっている。

(5-2) 管理職への昇進意向に必要な状況について

前問で「どちらかといえば昇進したくない」「昇進したくない」を選択した方だけの回答で、管理職への昇進意向に必要な状況については、【全体】で「管理職の仕事が魅力あるものに思えば」が42.8%で最も高く、「長時間労働がなければ」が34.5%、「休業・休暇がと

りやすければ」が30.9%、「給与額が自分の希望に合うなら」が26.0%、「どのような状況でも昇進したいと思わない」が21.1%で続いている。

【性別】では、男性は「管理職の仕事が魅力あるものに思えば」が54.2%で女性の34.3%より19.9ポイント高く、女性は「家族の理解・協力があれば」が27.3%で男性の2.3%より25.0ポイント、「育児・介護などが必要なくなれば」が15.7%で男性の3.1%に比べて12.6ポイント高い。

【性・年代別】では、男性20歳代は「管理職の仕事が魅力あるものに思えば」と「長時間労働がなければ」が共に53.8%で最も高く、「長時間労働がなければ」については他の性年代に比べて高い。また、男性のすべての年代、女性20歳代、女性40歳代、50歳代についても「管理職の仕事が魅力あるものに思えば」が最も高い。

男性20歳代、男性40歳代、女性30歳代は「休業・休暇がとりやすければ」がそれぞれ46.2%、40.6%、46.2%で他の年代に比べて高い。「家族の理解・協力があれば」、「育児・介護等が必要なくなれば」は30歳代から60～64歳代の各年代で女性が男性より23.1から36.4ポイント高く、差が大きい。

(6) 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なことについて〔複数回答〕

女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なことについては、【全体】で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が78.6%と最も高く、「男性の家事参加への理解・意識改革」が53.7%、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が52.7%で続いている。

【性別】では、女性は「男性の家事参加への理解・意識改革」が59.0%で、男性の47.5%に比べて11.5ポイント高い。また、女性は「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が55.0%と、男性の49.9%に比べて5.1ポイント高い。

【年代別】では、20歳代は「男性の家事参加への理解・意識改革」が67.7%で他の年代に比べて高く、50歳代は「介護支援サービスの充実」が56.6%で他の年代に比べて高い。

(7) 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔複数回答〕

育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について、【全体】では「職場に迷惑がかかると思うから」が65.8%で最も高い。「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が50.6%、「収入減になるから」が45.6%、「制度利用後の待遇面が心配だから」が44.0%で、「仕事が忙しくて利用できない」が40.7%と続いている。

【性別】では、女性は「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が56.3%、「収入減になるから」が48.2%、「制度利用後の待遇面が心配だから」が46.1%、「子育てや介護は、女性の役割だと思うから」が20.9%で男性に比べて高い。

【性・年代別】では、男性30歳代は「職場に迷惑がかかると思うから」が86.7%で他の年代に比べ目立って高い。また、女性20歳代の「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が78.9%、「収入減になるから」が76.3%、男性20・30歳代の「仕事が忙しくて利用できない」がそれぞれ57.1%、60.0%で他の年代より高い。

(8) 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔複数回答〕

仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて、【全体】では「有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること」が51.0%と最も高く、「育児・介護休業制度を利用しやすくすること」が43.2%、「社内託児所の設置等、子育て支援を充実すること」が34.9%、「経営者や管理職の意識を改革すること」が32.0%で続いている。

【性別】では、男性は「経営者や管理職の意識を改革すること」36.1%で女性の28.5%より7.6ポイント高く、女性は「社内託児所の設置等、子育て支援を充実すること」が39.2%で男性の29.8%より9.4ポイント高い。

【年代別】では、40歳代は「在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入すること」が42.8%で他の年代に比べて高い。20歳代は「労働時間を短縮すること」が33.3%、「育児・介護休業中の給付金を充実すること」が30.3%と他の年代に比べて高く、「経営者や管理職の意識を改革すること」が16.7%で他の年代に比べて低い。

3. 地域活動、市民活動における男女共同参画について

(9-1) 地域活動や市民活動への参加状況について

地域活動や市民活動への参加状況については、【全体】では「参加している」が34.6%、「参加していない」が65.4%で、「参加していない」が30.8ポイント高い。平成23年実施の呉市調査結果との比較では、「参加している」が7.4ポイント増加している。

【性・年代別】男性60～64歳、男性65歳以上は、「参加している」がそれぞれ40.0%、38.5%と他の男性の年代に比べて高く、男性20歳代は、「参加している」が3.7%と最も低い。

女性40歳代は、「参加している」が46.4%と最も高い。女性の20歳代は「参加している」が19.5%で、女性の年代の中では最も低い、男性20歳代に比べて15.8ポイント高い。

(9-2) 活動に参加していない理由について〔複数回答〕

前問で「参加していない」を選択した方のみの回答で、活動に参加していない理由については、【全体】では「きっかけがないから」が37.6%と最も高く、「忙しく、時間がとれないから」が35.6%、「関心がないから」が27.8%と続いている。

【性別】では、「関心がないから」は男性が33.0%で、女性の23.3%より9.7ポイント高い。

【性・年代別】では、男性20歳代、男性30歳代、女性20歳代、女性40歳代は、「忙しく、時間がとれないから」が他の年代に比べて高く、女性30歳代は、「きっかけがないから」、「情報がないから」が他の年代に比べて高い。

(10) 地域活動等の現状について〔複数回答〕

地域活動等の現状について、【全体】では「男性の参加が少ない」が31.8%と最も高い。

【性別】では、女性は、「活動の準備や後かたづけ等は、女性がやる慣行がある」が22.7%で男性の14.2%より8.5ポイント高い。

【年代別】では、「男性の参加が少ない」は40歳代、65歳以上が他の年代に比べて高い。「男女が平等に活動している」、「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない」は60～64歳、65歳以上が他の年代に比べて高い。また、60～64歳は「活動の準備や後かたづけ等は、女性がやる慣行がある」についても28.9%で他の年代に比べて高い。

4. 仕事と家庭生活, 地域活動, 市民活動の両立について

(11) 生活における優先度について

生活における優先度について、「優先している」「どちらかといえば優先している」を合わせた『優先している（優先する）』と、「優先していない」「どちらかといえば優先していない」を合わせた『優先していない（優先しない）』で分けた場合、「仕事」「家庭生活」「個人の時間」は【現実】【理想】の優先度とも『優先している（優先する）』が『優先していない（優先しない）』より高い。

一方「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」については【現実】では『優先していない（優先しない）』が『優先している（優先する）』より高いが、【理想】では逆転しており、【現実】より【理想】の優先度が高い。

また【現実】【理想】で優先度の差が最も大きいのは、「個人の時間（現実：47.6%，理想：76.4%）」であり、「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間（現実：15.6%，理想：33.1%）」、「家庭生活（現実：61.3%，理想：78.1%）」、「仕事（現実：63.5%，理想：61.2%）」と続いている。

【性別】は、「仕事」の『優先している（優先する）』は、【現実】【理想】とも男性が女性より高いが、男性は現実より理想が低く（現実：75.7%，理想：65.5%）。女性については大きな差は見られない（現実：53.5%，理想：57.7%）。

「家庭生活」の『優先している（優先する）』は、【現実】（男性：53.6%，女性：67.5%），【理想】（男性：77.0%，女性：78.9%）で、【理想】では男女差は見られないが、【現実】は女性が高い。

「個人の時間」の『優先している（優先する）』は、【理想】（男性：77.0%，女性：76.0%）では男女差は見られないが、【現実】（男性54.2%，女性：42.3%）は男性が高い。

「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の『優先している（優先する）』は【現実】（男性：17.7%，女性：13.9%）では男女差が少なく、【理想】（男性：37.7%，女性：29.6%）は男性が高い。

(12) 男性が家事, 育児, 介護等に参加していくために必要なことについて〔複数回答〕

男性が家事, 育児, 介護等に参加していくために必要なことについて、【全体】では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」が45.8%と最も高い。【性別】では、男性は「講習会や研修等を行い、男性の家事等の技能を高めること」が13.4%で女性の5.3%に比べて高く、「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと（男性:27.2%, 女性:39.8%）」、「まわりの人が、夫・妻の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること（男性15.0%, 女性23.3%）」は女性が高い。

【年代別】では、65歳以上は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」が53.7%で他の年代に比べて高く、20歳代は「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと」が44.8%で他の年代に比べて高い。20歳代, 30歳代, 40歳代は「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること」が50%以上で他の年代に比べて高い。

5. 子育てについて

(13) 子どもの育て方について

子どもの育て方について、【全体】では「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成派』が高いのは、「イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる (96.6%)」、「ア 男女とも経済的自立ができるように育てる (95.2%)」、「オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる (94.7%)」、「ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる (66.9%)」で、いずれも「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた『反対派』を大きく上回っている。

一方、「エ 男は仕事、女は家庭を守るように育てる」については『賛成派』が27.8%、『反対派』が58.5%で、『反対派』が上回っている。

【性・年代別】では、「ア 男女とも経済的自立ができるように育てる」「イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる」「オ 性別に関わらず子供の個性を大切に育てる」について「賛成」は女性が男性より高く、『賛成派』については性・年代の差は見られない。

「ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」「エ 男は仕事、女は家庭を守るように育てる」については、『賛成派』は男性が女性より多く、「ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」では65歳以上の『賛成派』が74.3%、「エ 男は仕事、女は家庭を守るように育てる」では60～64歳の『反対派』が73.2%で他の年代より高い。

(14) 子どもに受けさせたい教育（最終学歴）について

自分の子どもに受けさせたい教育（最終学歴）は、【全体】では子どもが「男の子の場合」「女の子の場合」とも最も高いのは「大学」だが、子どもが「男の子の場合 (73.6%)」、は「女の子の場合 (59.7%)」より13.9ポイント高い。

【年代別】では、65歳以上の「短期大学、各種学校、専修学校」について、「女の子の場合 (26.8%)」が「男の子の場合 (5.8%)」より21ポイント高く。「大学」は「男の子の場合 (74.7%)」が「女の子の場合 (56.6%)」より18.1ポイント高く、差が大きい。他の年代では、40歳代の「大学」で、「男の子の場合 (82.7%)」が「女の子の場合 (67.4%)」より15.3ポイント高くなっている。

(15) 父親が子育てに関わることについて〔複数回答〕

父親が子育てに関わることについて、【全体】では「父親も育児を行うことは当然だ」が70.9%と最も高く、【性別】では、女性は「子どもに良い影響を与える」が70.6%、「父親自身に良い影響を与える」が61.8%で男性（それぞれ64.9%、50.4%）に比べて高い。

【性・年代別】60～64歳男性は、「父親も育児を行うことは当然だ」が87.2%で他の年代に比べて最も高い。また、30歳代男性と男性60～64歳は、「子どもに良い影響を与える」が70%以上で他の男性の年代に比べて高い。

6. 男女の人権の尊重について

(16) 男女の地位について

男女の地位について、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が高いのは、「イ 就職や職場」(73.1%)、「キ 政治

や政策決定の場」(70.7%),「ク 社会全体」(68.1%),「カ 社会の通念や慣習」(67.4%),「ア 家庭生活」(46.4%)である。また、『平等である』は「エ 学校教育」(69.5%)が最も高く、「オ 法律や制度」(40.7%),「ウ 地域活動」(37.9%)と続いている。

【性別】では、いずれの事柄においても『男性優遇』の回答は女性が6.0~12.4ポイント男性を上回っており、また「平等である」の回答は男性が8.0~18.6ポイント女性を上回っている。

(17) 配偶者や恋人の間で行われた場合、暴力だと思ふ行為について

配偶者や恋人の間で行われた場合に暴力だと思ふ行為について、【全体】で、9割以上が「暴力だと思ふ」と回答しているのは「オ 刃物等を突きつけて脅す」「ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る」である。「暴力だと思ふ」が最も低いのは「ク 何を言っても長時間無視し続ける」の57.2%である。

【性別】では、「コ 「誰のおかげで生活できているんだ」など、相手が傷つくようなことを言う」「サ 大声でどなる」について、「暴力だと思ふ」がそれぞれ女性は84.9%、70.8%、男性は76.7%、58.1%と女性が男性に比べて高い。

(18-1) 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為の経験について

配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為について「経験がある」は49.4%、「経験はない」は50.6%であり、経験の有無では【性別】で大きな差異はないが、いずれかの行為を「したことがある」は男性209人、女性88人、「されたことがある」は男性64人、女性275人で「したことがある」は男性が多く、「されたことがある」は女性が多い。【年代別】では40歳代は「経験がある」が60.6%で最も高く、50歳代が56.1%で続いている。【婚姻状況】では「経験がある」が結婚していたが離別・死別した人は64.2%と高く、結婚していない人は32.9%と低い。

(18-2) 配偶者や恋人間の暴力に関する相談状況について〔複数回答〕

配偶者や恋人間の暴力の経験がある方みの回答で、暴力の相談状況について、【全体】で最も高かったのは「どこ(だれ)にも相談しなかった」の67.2%である。【性別】では、男性は、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が84.9%で、女性の52.7%に比べて32.2ポイント高い。女性は、「友人・知人に相談した」が29.0%、「親族に相談した」が28.0%でいずれも男性(それぞれ9.2%、8.4%)に比べて高い。

(19-1) 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントについて

職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、【全体】では「経験がある」が30.3%、「経験はない」が69.7%であり、【性別】では女性の「経験がある」が36.7%で男性の22.4%に比べて14.3ポイント高く、【年代別】では30歳代の「経験がある」が55.0%で他の年代より高い。

【行為別】では各行為とも「経験はない」が「経験がある」より高いが、「経験がある」が多い行為としては「エ 容姿について傷つくようなことを言われた(20.4%)」、「ウ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(18.0%)」が高い。

(19-2) 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントをされた場合の相談状況について 〔複数回答〕

問19-1で「職場」、「学校」、「地域」のうち、1つでも「経験がある」と回答した方だけの回答では、職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントを経験した場合の相談状況について、【全体】で最も高いのは「どこ（だれ）にも相談していない」（51.3%）で、「友人・知人に相談した」（30.8%）、「親族に相談した」（22.9%）と続く。「公的機関に相談した」は0.3%と少ない。

【性別】では男性は、「どこ（だれ）にも相談していない」が71.7%で、女性の41.2%に比べて30.5ポイント高い。女性は、「友人・知人に相談した」が38.6%、「親族に相談した」が27.6%で男性（それぞれ14.2%、13.3%）に比べて高い。

7. 男女共同参画の取り組みについて

(20) 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について

男女共同参画に関する言葉や法律の認知度については、【全体】で最も認知度が高いものは「エ ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法）」で、「内容まで知っている」（34.7%）と「聞いたことはあるが内容は知らない」（56.4%）を合わせた『知っている』は91.1%である。次に『知っている』が高いものとしては、「ウ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」の87.0%、「ア 男女共同参画社会」の66.7%、「オ ワーク・ライフ・バランス」の42.4%、「イ ポジティブアクション」「キ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍躍進法）」の31.5%が続いている。「カ くれ男女共同参画基本計画」は71.0%、「ク リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」については86.2%が「知らない」と回答している。

(21) 男女共同参画を推進する上で、力を入れて取り組むべきことについて〔複数回答〕

男女共同参画を推進する上で力を入れて取り組むべきことは、【全体】では、「子育て支援の充実」が58.9%と最も高く、「男女共同参画に関する情報の提供（49.7%）」「高齢者支援の充実（49.4%）」、「学校における男女平等教育の推進（42.8%）」が続いている。

【性別】では、女性は「高齢者支援の充実」が51.8%、「仕事と生活の調和に向けた企業への働きかけ」が42.4%、「就職・再就職や起業等による女性の就業支援の充実」が38.2%で男性より高い。

【年代別】では20歳代、30歳代は、「子育て支援の充実」がそれぞれ76.9%、77.8%で他の年代に比べて高い。また20歳代は、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に向けた企業への働きかけ」が63.1%で他の年代に比べて高く、「男女共同参画に関する情報の提供」が32.3%で他の年代に比べて低い。65歳以上では「高齢者支援の充実」が61.3%で他の年代に比べて高い。

Ⅲ. 調査結果の詳細

1. 家庭生活における男女共同参画について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方（固定的性別役割分担意識）について

問1 「男は仕事、女は家庭」といった性別によって男女の役割を固定する考え方（固定的性別役割分担意識）についてあなたの考えを教えてください。○は1つだけ

『賛成派』 全体 27.4% 男性 31.3% 女性 24.1% ⇒ 男性の方が高い
 『反対派』 全体 60.8% 男性 57.8% 女性 63.4% ⇒ 女性の方が高い

※「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせて『賛成派』, 「反対する」と「どちらかといえば賛成しない」を合わせて『反対派』とする。

【全体】

「賛成する」が5.6%, 「どちらかといえば賛成する」が21.8%で『賛成派』は27.4%, 「反対する」が21.7%, 「どちらかといえば賛成しない」が39.1%で『反対派』は60.8%で、『反対派』が33.4ポイント高く、大きく上回っている。

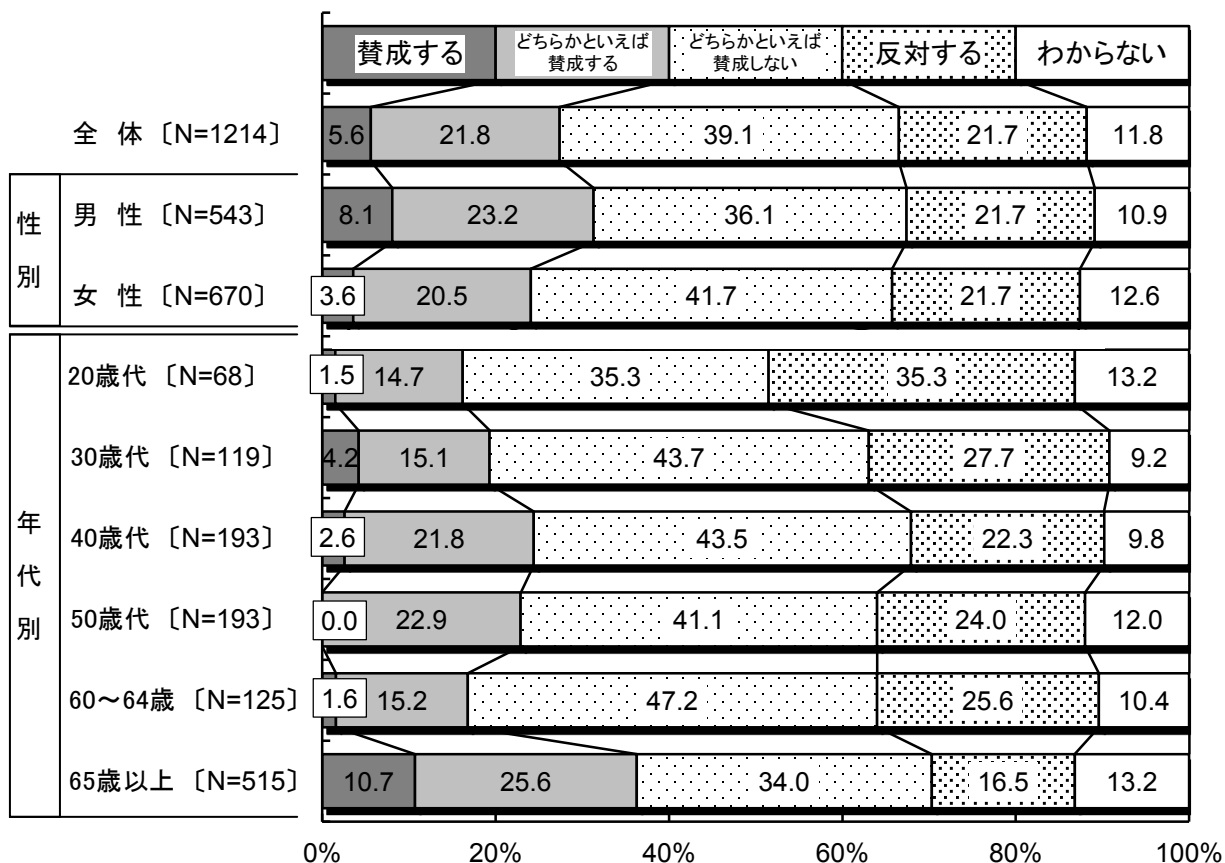
【性別】

男性は『賛成派』が31.3%, 『反対派』が57.8%, 女性は『賛成派』が24.1%, 『反対派』が63.4%で、いずれも『反対派』が大きく上回っている。

【年代別】

60～64歳は『反対派』が72.8%と最も高く、次いで30歳代で71.4%, 20歳代で70.6%と続く。どの年代も『反対派』が『賛成派』を上回っているが、65歳以上はその差が14.2ポイントと小さい。

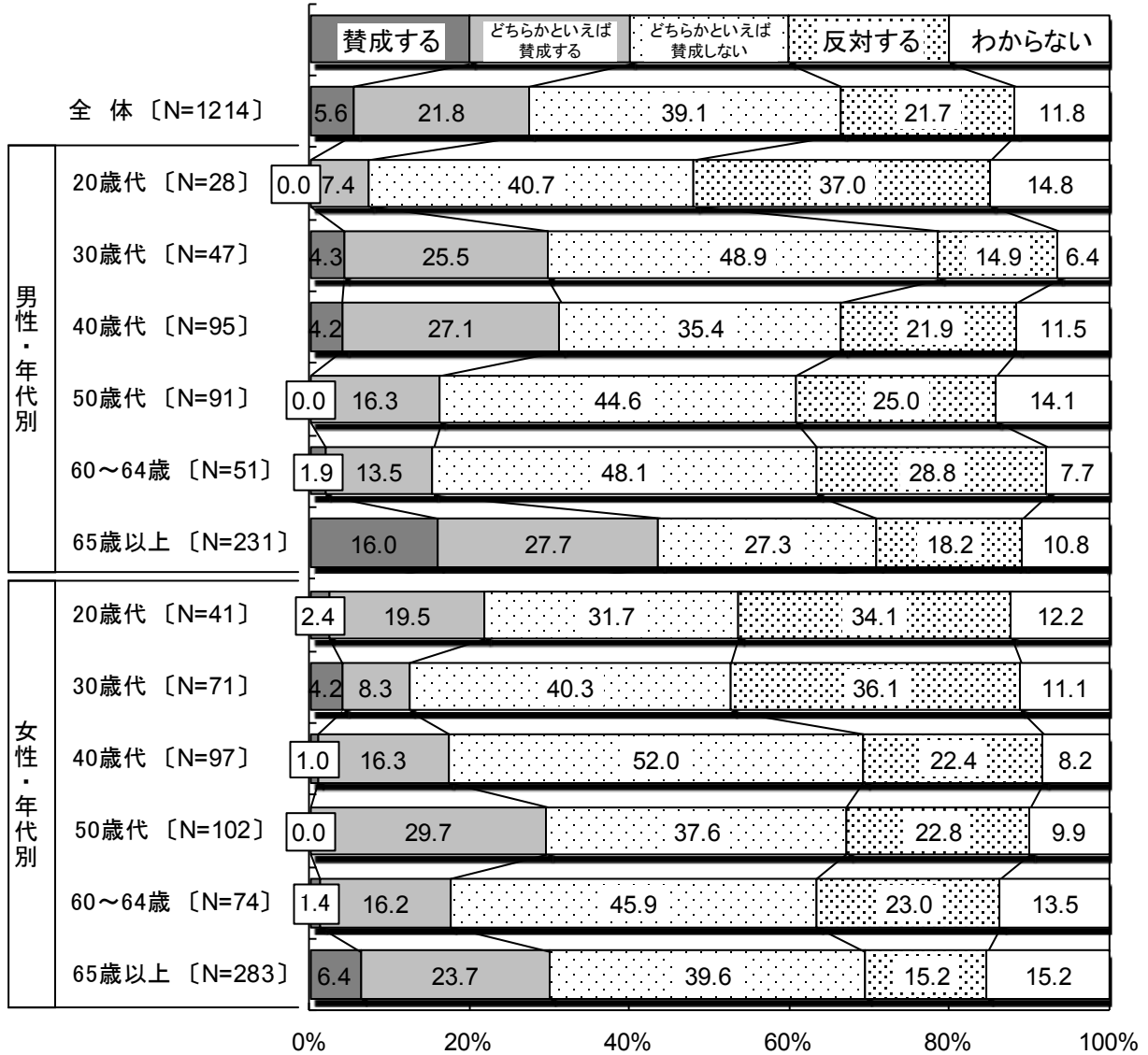
1-1 図 「男は仕事、女は家庭」という考え方について〔全体・性別・年代別〕



【性・年代別】

すべての年代で『反対派』が『賛成派』を上回っており、男性20歳代では、『反対派』が77.7%と最も高い。ただし、男性65歳以上については『賛成派』と『反対派』の差は1.8ポイントに留まっており、有意に『反対派』が『賛成派』上回っているとは言えない。

1-2 図 「男は仕事、女は家庭」という考え方について〔性・年代別〕



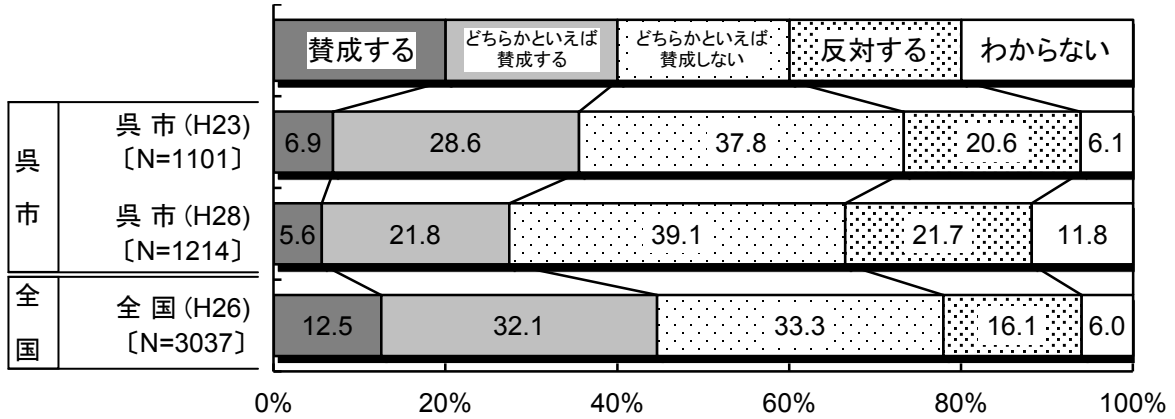
<参考> 全国調査結果，呉市の過去の調査結果との比較

【全体】

平成23年実施の呉市調査結果と比較すると、「どちらかといえば賛成する」が28.6%から21.8%に低下し、『賛成派』は平成23年調査結果の35.5%から27.4%に8.1ポイント減少している。

全国調査の『賛成派』は44.6%であり，全国調査に比べて『賛成派』が少ない。

◆「男は仕事，女は家庭」という考え方について 全国との比較【全体】

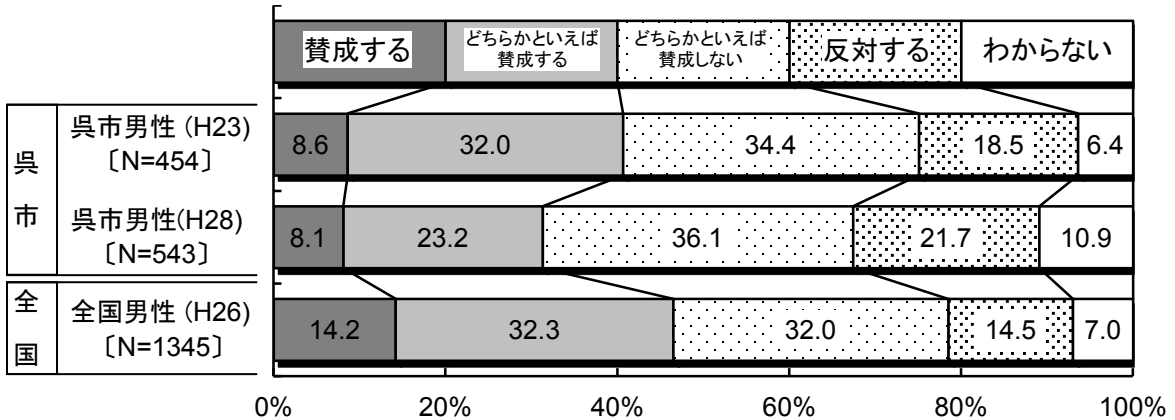


【性別】

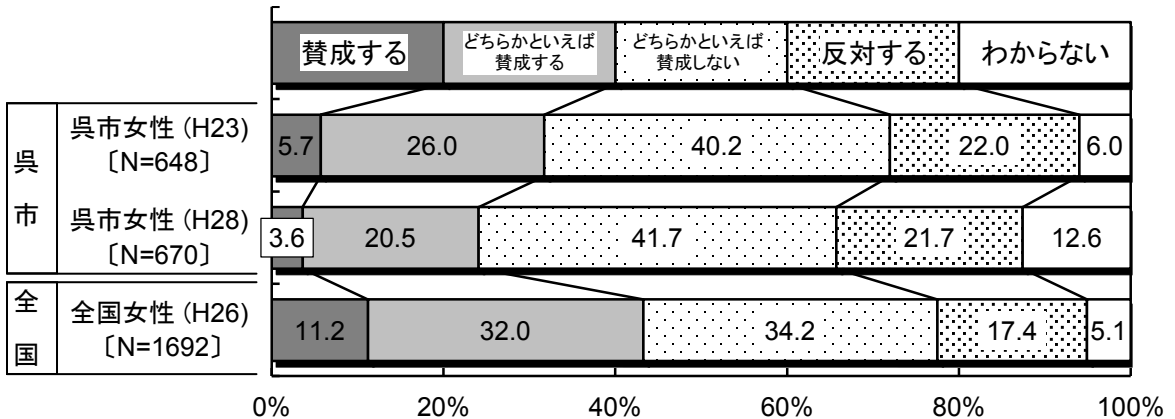
平成23年実施の呉市調査結果と比較すると，男女とも「どちらかといえば賛成する」が減少し，「わからない」が増加している。

全国調査との比較では，男女とも全国調査に比べて『賛成派』が少ない。

◆「男は仕事，女は家庭」という考え方について 全国との比較【性別・男性】



◆「男は仕事，女は家庭」という考え方について 全国との比較【性別・女性】



(2-1) 家庭での役割分担について

問2-1 あなたの家庭の役割分担は、どのようにしていますか。
それぞれについて1～6のいずれかに○

「主に夫」⇒「生活費を得ること」

「主に妻」⇒「炊事」「学校行事への参加」「洗濯」「育児」「家計の管理」「掃除」

「主に夫」「夫・妻で半々」が高い⇒「重大事項の決定（高額な商品の購入など）」

■「主に妻」が最も高い

ア 炊事(かたづけを含む)	83.1%
コ P T A活動等の学校行事への参加	82.2%
ウ 洗濯	80.4%
エ 育児(乳幼児の世話)	78.7%
ク 家計の管理	75.8%
イ 掃除	69.4%
オ 介護・看護	55.3%
ケ 自治会等の地域活動への参加	50.1%

■「主に夫」が最も高い

カ 生活費を得ること 64.7%

■「主に夫」「夫・妻で半々」が高い

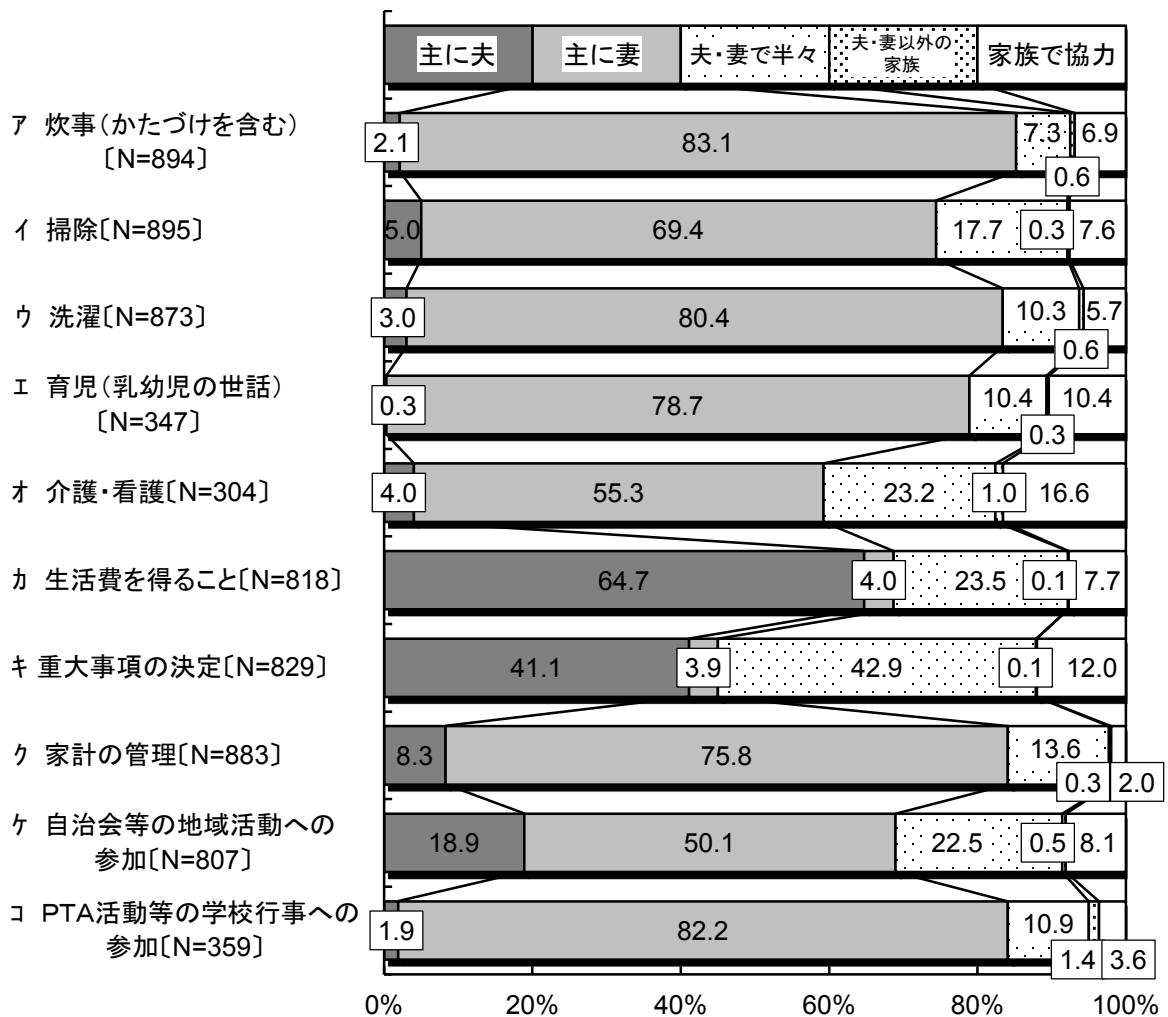
キ 重大事項の決定
(高額な商品や土地・家屋の購入など)

※「主に夫」：41.1%，

※「夫・妻で半々」：42.9%

現在結婚している方のみ

2(1)-1図 家庭の役割分担について〔全体〕



ア 炊事（かたづけを含む）

「主に妻」が83.1%で最も高い

【全体】

「主に妻」が83.1%と最も高く、「夫・妻で半々」が7.3%、「家族で協力」が6.9%で続いている。

【性別】

「主に妻」は、女性が87.7%で、男性の76.9%より10.8ポイント高い。

「夫・妻で半々」は、男性が11.1%で女性の4.4%より6.7ポイント高い。

【年代別】

60～64歳と20歳代は、「家族で協力」がそれぞれ13.9%、12.0%で他の年代より高い。

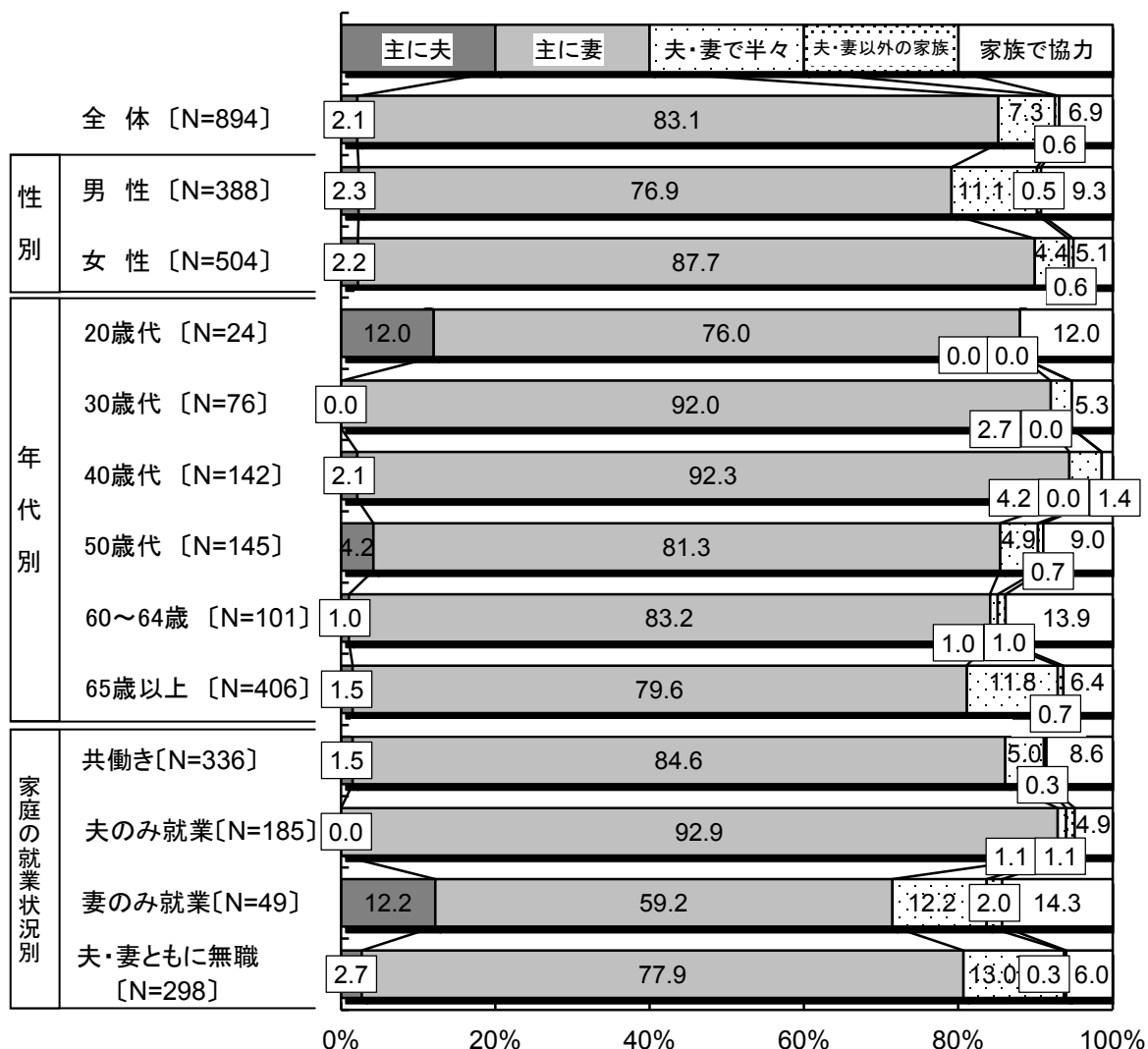
【家庭の就業状況別】

夫のみ就業家庭と共働き家庭は、「主に妻」がそれぞれ92.9%と84.6%で他の就業家庭より高い。夫・妻ともに無職家庭と妻のみ就業家庭は、「夫・妻で半々」がそれぞれ13.0%と12.2%で他の就業家庭より高い。

現在結婚している方のみ

2(1)-2図 家庭の役割分担について ア 炊事(かたづけを含む)

〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



イ 掃除

「主に妻」が69.4%で最も高い

【全体】

「主に妻」が69.4%と最も高く、「夫・妻で半々」が17.7%、「家族で協力」が7.6%で続いている。

【性別】

「主に妻」は、女性が74.8%で男性の62.6%より12.2ポイント高い。

「夫・妻で半々」は、男性が21.3%で女性の14.7%より6.6ポイント高い。

【年代別】

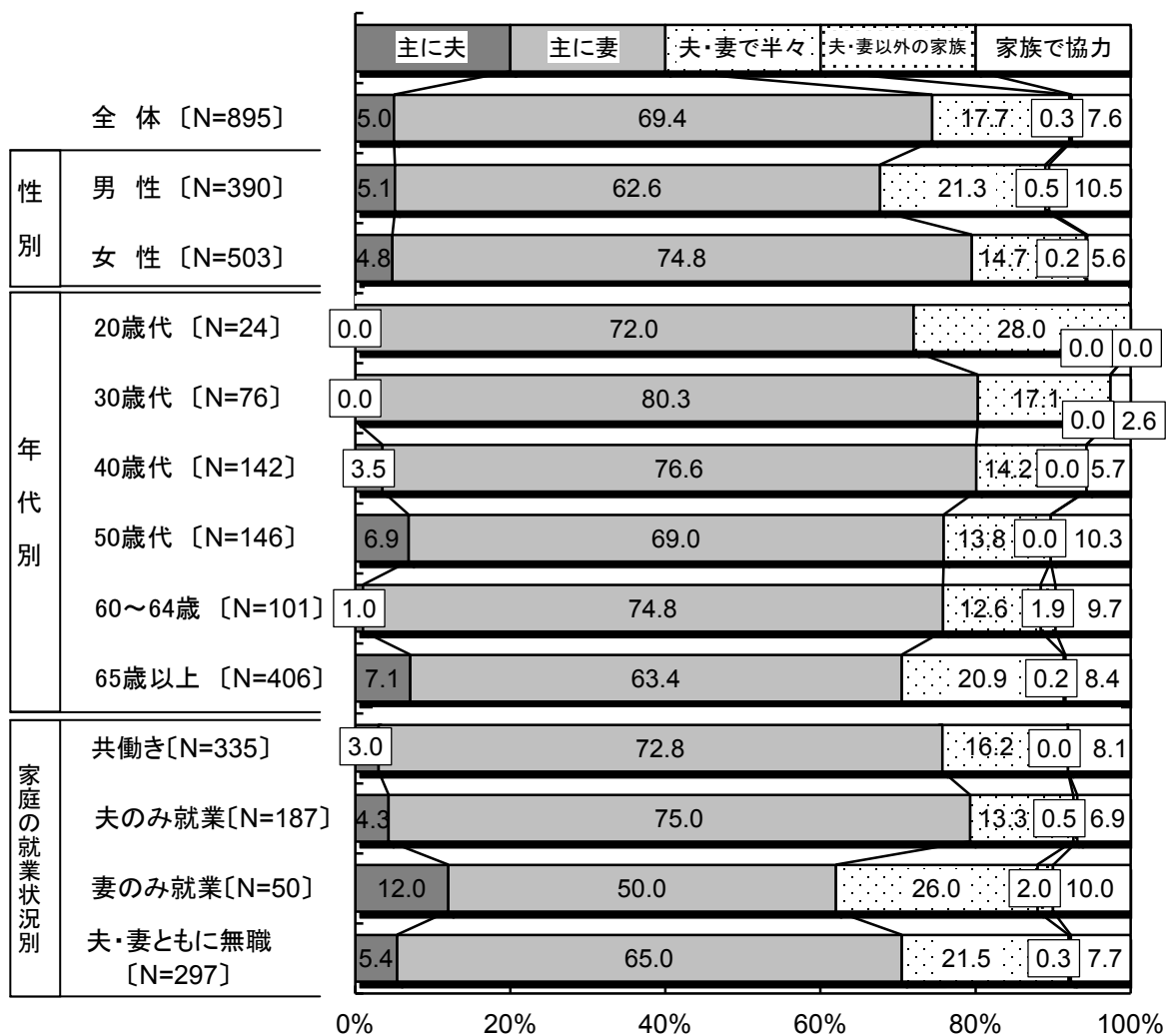
20歳代と65歳以上では、「夫・妻以外の家族」が、それぞれ28.0%と20.9%と他の年代より高い。

【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭は、「主に妻」が50.0%で他の就業家庭より低く、「夫・妻で半々」が26.0%と、他の就業家庭より高い。

現在結婚している方のみ

2(1)-3図 家庭の役割分担について イ 掃除〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



ウ 洗濯

「主に妻」が80.4%で最も高い

【全体】

「主に妻」が80.4%と最も高く、「夫・妻で半々」が10.3%で続いている。

【性別】

「主に妻」が女性84.6%で男性の75.1%より9.5ポイント高い。

「夫・妻で半々」は、男性が15.2%で女性の6.6%より8.6ポイント高い。

【年代別】

30歳代では、「夫・妻で半々」が17.1%と他の年代より高い。

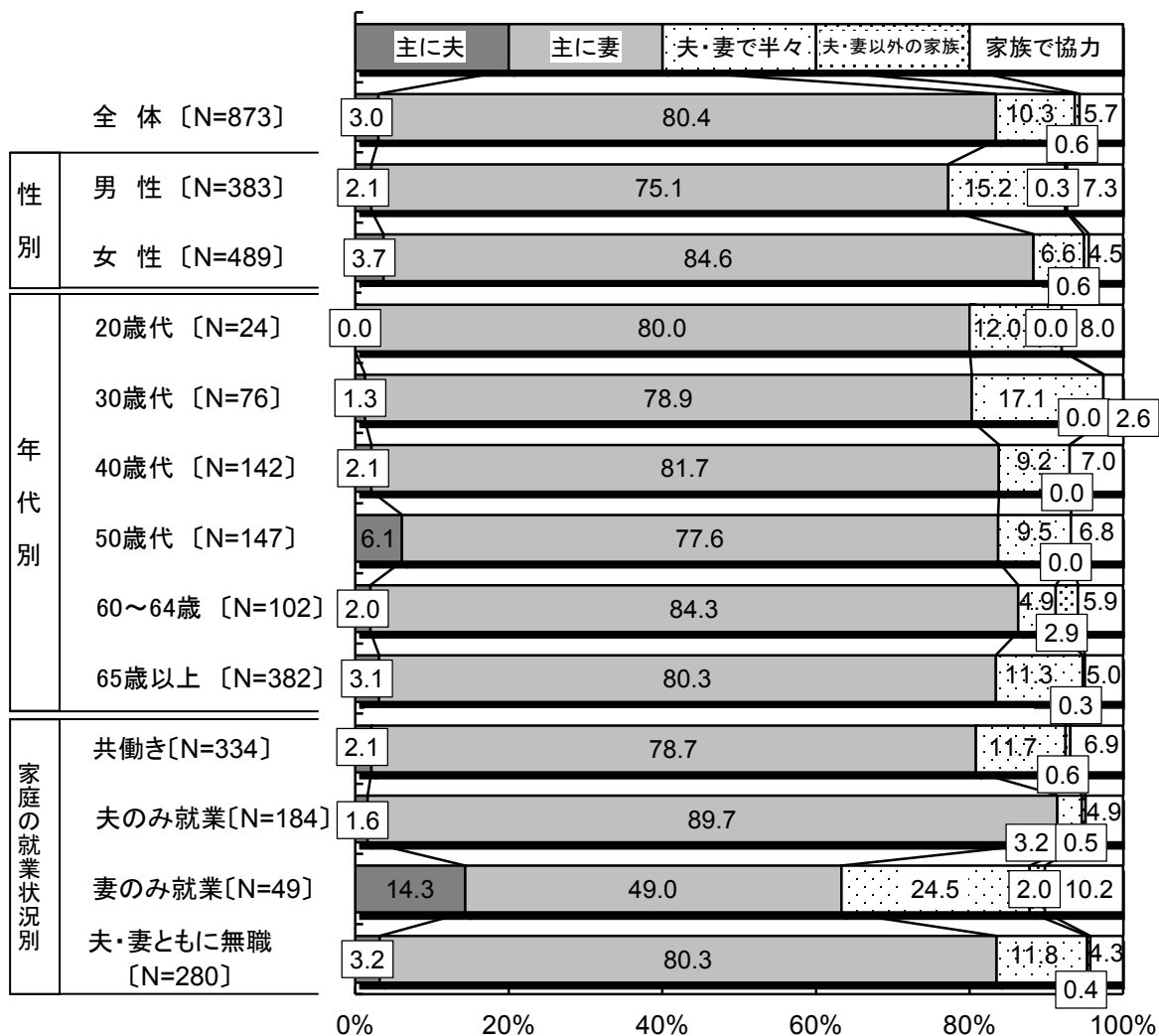
【家庭の就業状況別】

夫のみ就業家庭が89.7%、夫・妻ともに無職家庭が80.3%、共働き家庭が78.7%の順に、「主に妻」が高い。

妻のみ就業家庭は、「主に夫」が14.3%、「夫・妻で半々」が24.5%と他の就業家庭より高い。

現在結婚している方のみ

2(1)-4図 家庭の役割分担について ウ 洗濯【全体・性別・年代別・家庭の就業状況別】



エ 育児（乳幼児の世話）

「主に妻」が78.7%で最も高い

【全体】

「主に妻」が78.7%と最も高く、「夫・妻で半々」が10.4%で続いている。

【性別】

「夫・妻で半々」は、男性が16.5%で女性の6.5%より10.0ポイント高い。

【年代別】

20歳代、40歳代は、「夫・妻で半々」がそれぞれ21.1%、16.7%と、他の年代より高い。

【家庭の就業状況別】

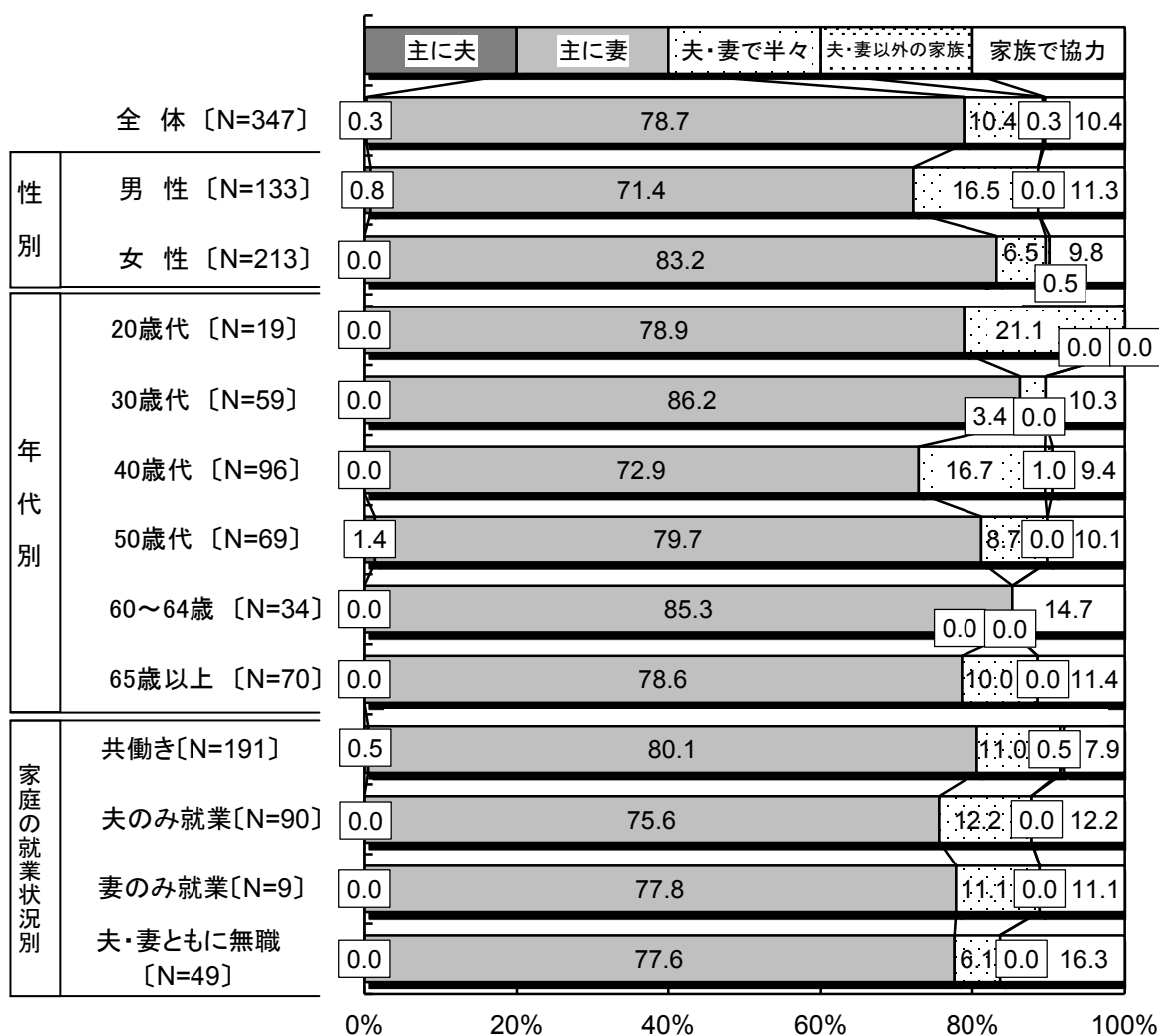
夫・妻ともに無職家庭は「家族で協力」が16.3%と、他の就業家庭より高い。

※妻のみ就業、その他は、標本数が少ないので参考掲載、分析の対象からは除外。

現在結婚している方のみ

2(1)-5図 家庭の役割分担について エ 育児（乳幼児の世話）

〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



オ 介護・看護

「主に妻」が55.3%で最も高い

【全体】

「主に妻」が55.3%と最も高く、「夫・妻で半々」が23.2%、「家族で協力」が16.6%で続いている。

【性別】

「夫・妻で半々」は、男性が28.1%で女性の20.2%より7.9ポイント高い。

【年代別】

30歳代では、「主に妻」「夫・妻以外の家族」がそれぞれ75.0%、18.8%で他の年代より高く、「夫・妻で半々」は6.3%で他の年代より低い。

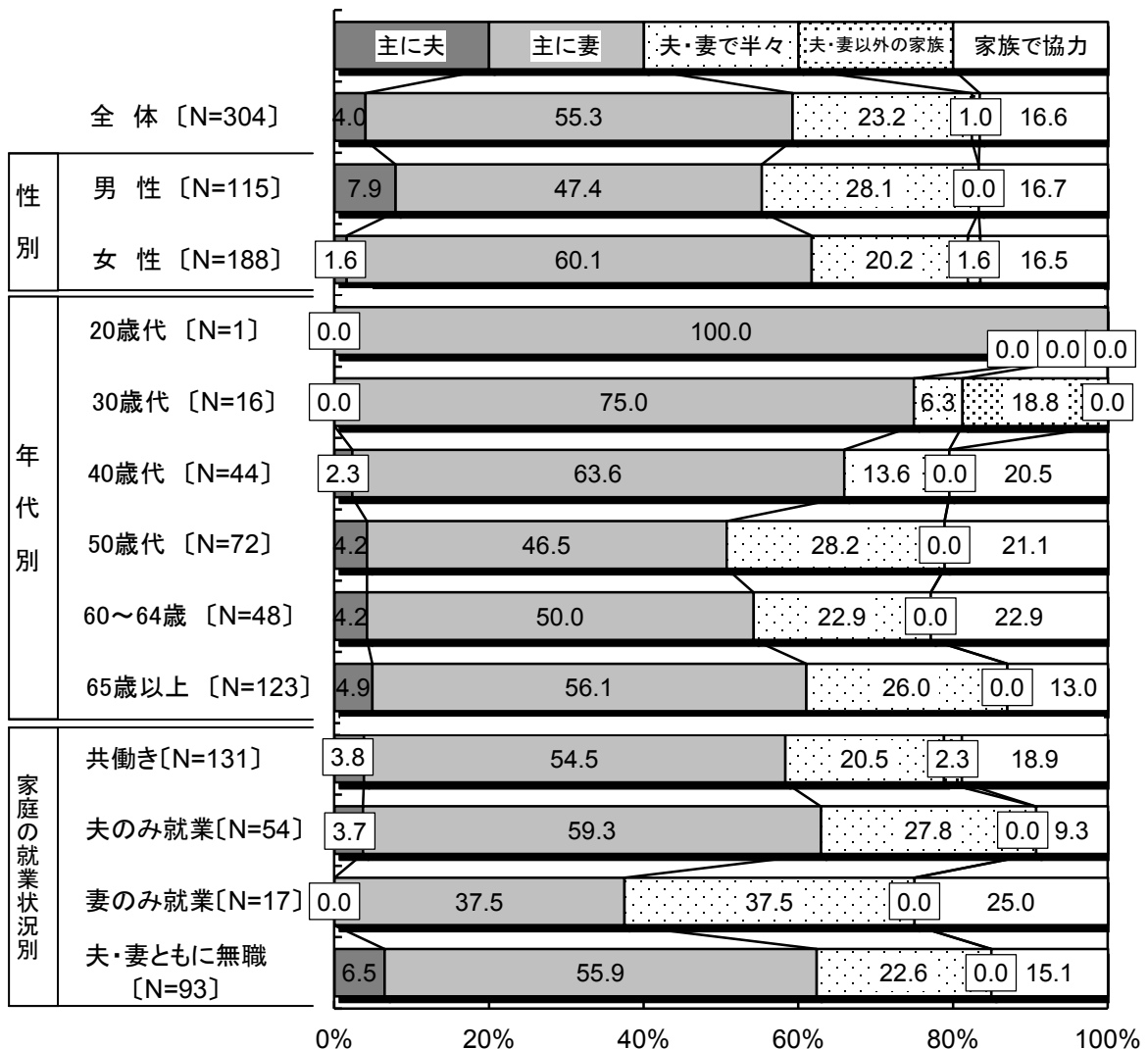
※20歳代は、標本数が少ないので参考掲載，分析の対象からは除外。

【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭は、「主に妻」が37.5%で他の就業状況より低い。また、「夫・妻で半々」が37.5%で他の就業家庭より高い。

現在結婚している方のみ

2(1)-6図 家庭の役割分担について オ 介護・看護 [全体・性別・年代別・家庭の就業状況別]



カ 生活費を得ること

「主に夫」が64.7%で最も高い

【全体】

「主に夫」が64.7%と最も高く、「夫・妻で半々」が23.5%が続いている。

【性別】

「家族で協力」は、男性が11.0%で女性の5.0%より6.0ポイント高い。

【年代別】

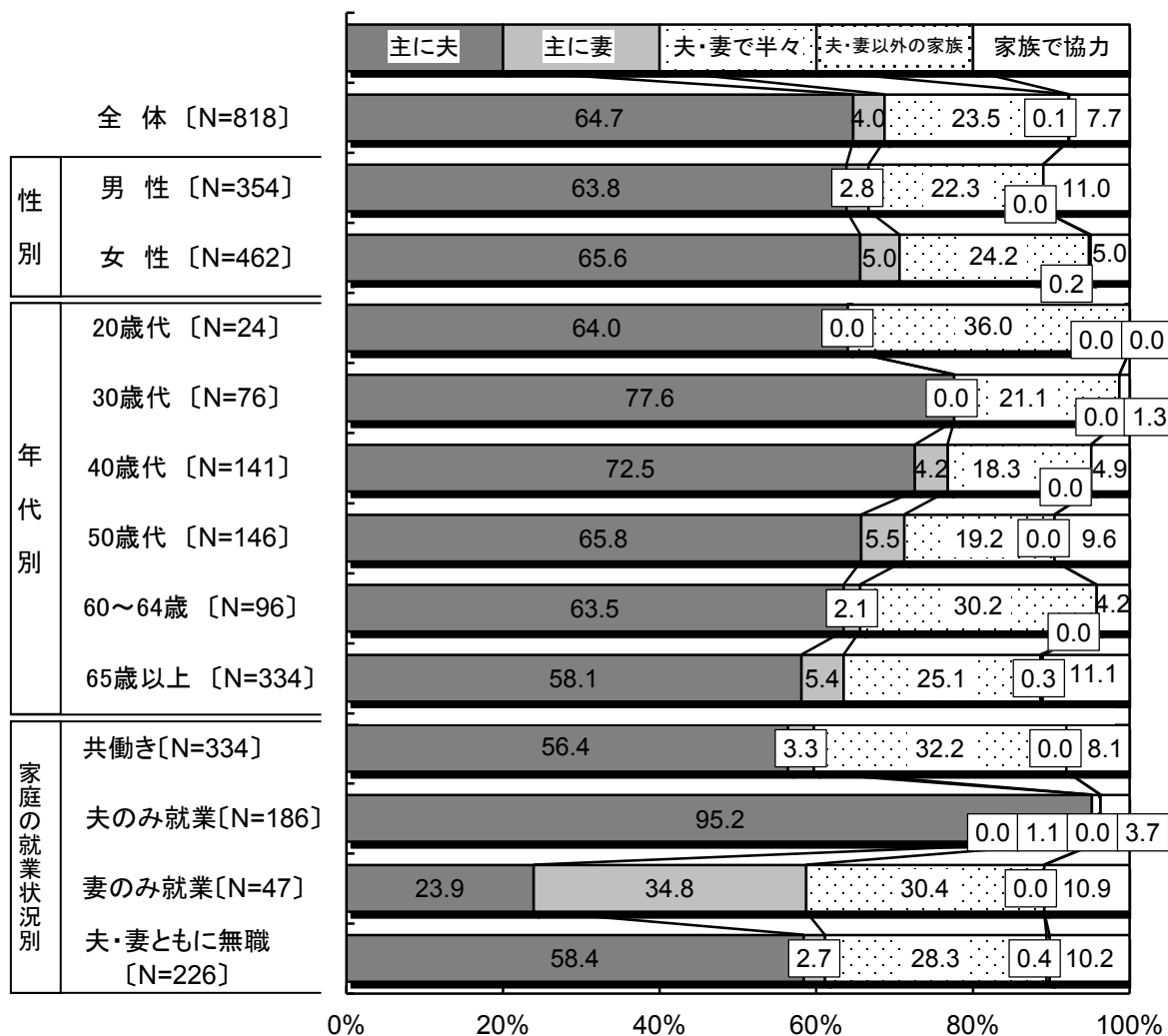
30歳代は、「主に夫」が77.6%で他の年代より高く、年代が上がるほど「主に夫」の比率は低くなっている。

【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭を除き、「主に夫」が高い。妻のみ就業家庭では、「主に妻」が34.8%と最も高く、「夫・妻で半々」が30.4%、「主に夫」が23.9%が続いている。

現在結婚している方のみ

2(1)-7図 家庭の役割分担について カ 生活費を得ること〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



キ 重大事項の決定（高額な商品や土地・家屋の購入など）

「夫・妻で半々」と「主に夫」が共に約 40%で高い

【全体】

「夫・妻で半々」が42.9%、「主に夫」が41.1%と共に高く、「家族で協力」が12.0%で続いている。

【性別】

「主に夫」は、女性が45.7%で男性の35.7%より10.0ポイント高い。

【年代別】

20歳代、30歳代は、「夫・妻で半々」が50%以上で他の年代より高く、また「主に夫」が他の年代より低い。

30歳代から50歳代までは、「主に夫」が年代代が上がるほど高くなり、その後は低くなっている。

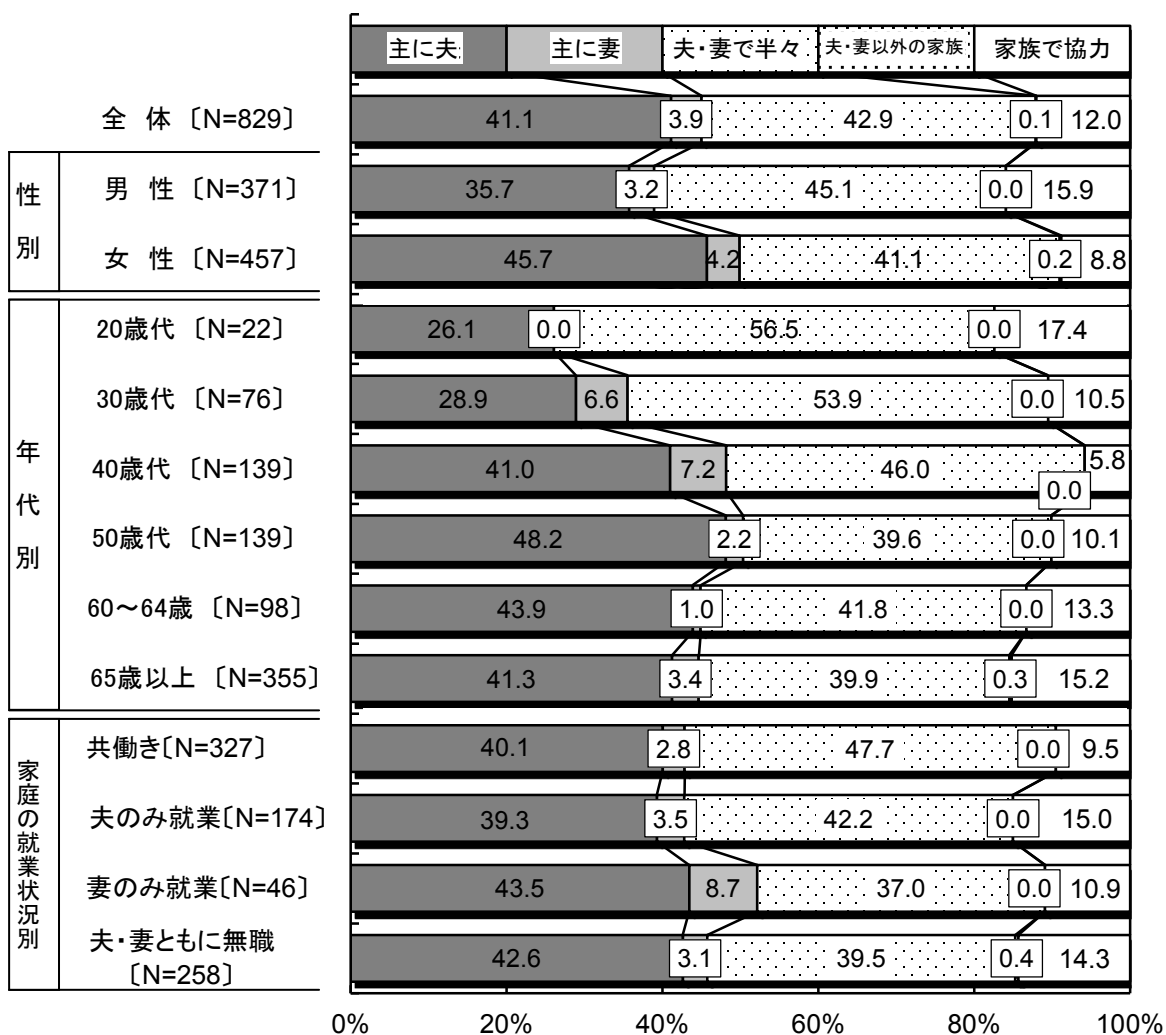
【家庭の就業状況別】

共働き家庭では、「夫・妻で半々」が47.7%で他の年代より高い。

現在結婚している方のみ

2(1)-8図 家庭の役割分担について キ 重大事項の決定（高額な商品や土地・家屋の購入など）

〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



ク 家計の管理

「主に妻」が75.8%で最も高い

【全体】

「主に妻」が75.8%と最も高く、「夫・妻で半々」が13.6%、「主に夫」が8.3%が続いている。

【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

30歳代は、「主に妻」が85.3%で他の年代より高い。

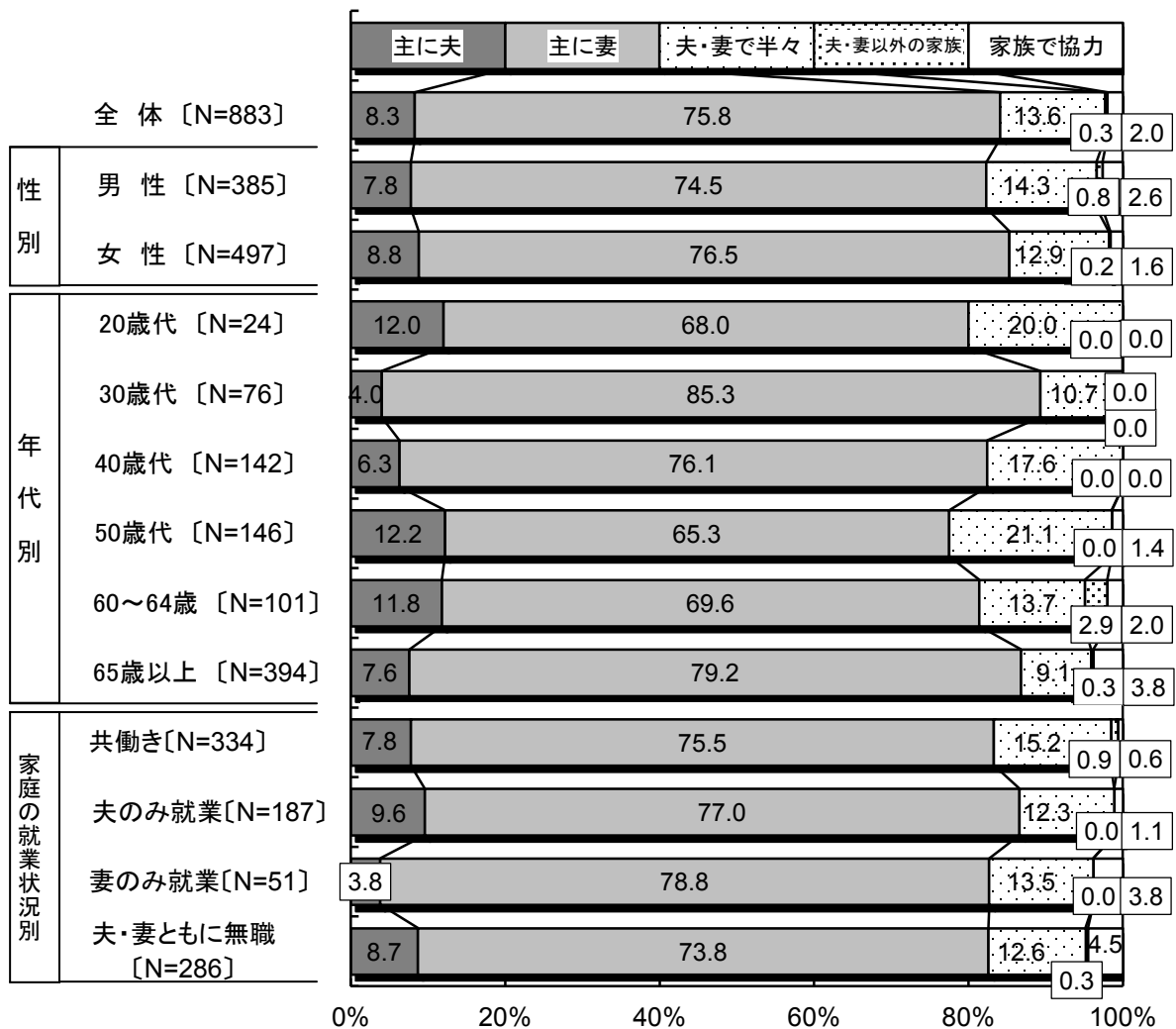
20歳代と50歳代は、「夫・妻で半々」がそれぞれ20.0%、21.1%で他の年代より高い。

【家庭の就業状況別】

特に大きな差異はない。

現在結婚している方のみ

2(1)-9図 家庭の役割分担について ク 家計の管理〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



ケ 自治会等の地域活動への参加

「主に妻」が50.1%で最も高い

【全体】

「主に妻」が50.1%と最も高く、「夫・妻で半々」が22.5%、「主に夫」が18.9%が続いている。

【性別】

「主に妻」は、女性が53.9%で男性の45.0%より8.9ポイント高い。

【年代別】

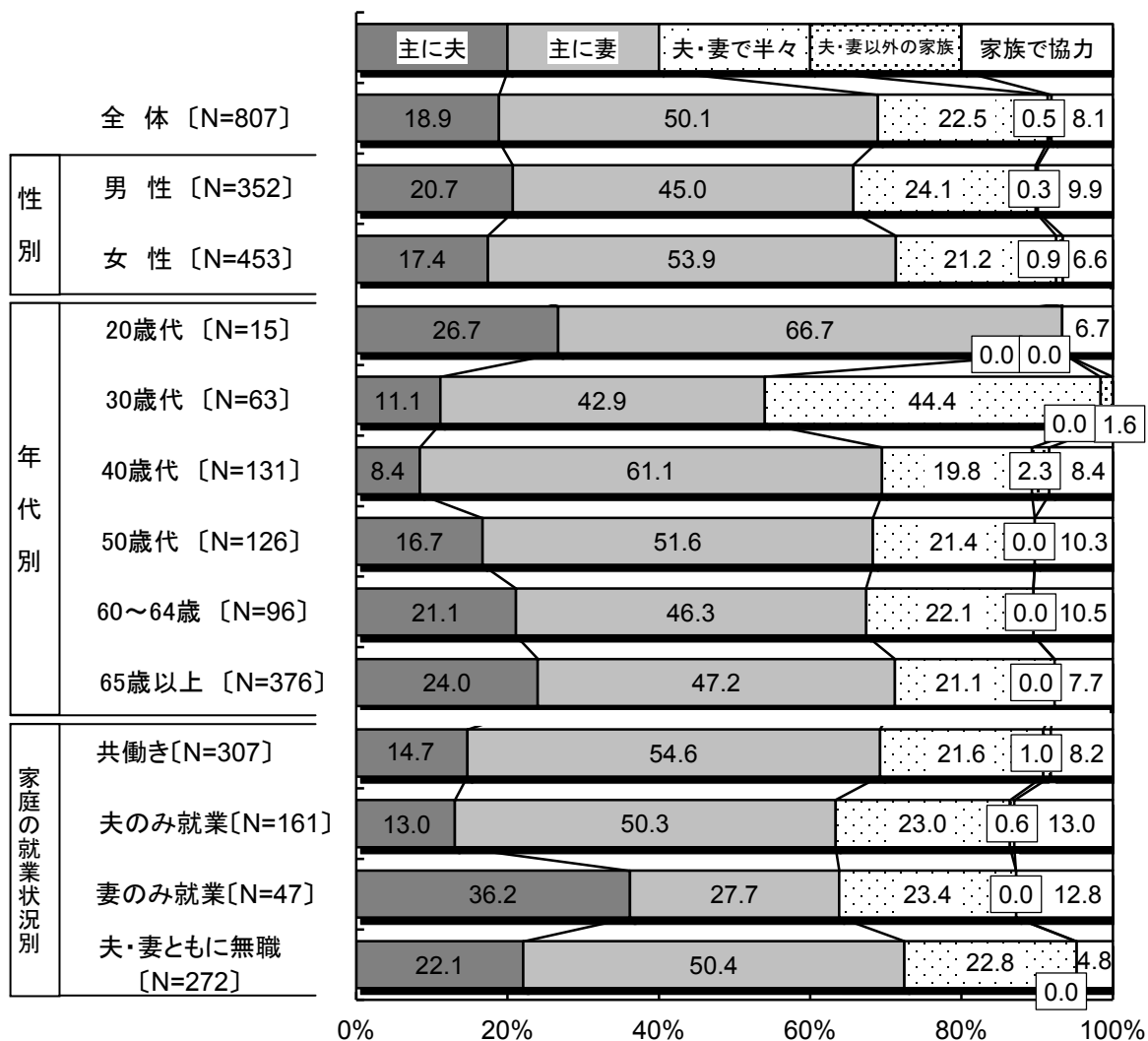
30歳代は、「夫・妻で半々」が44.4%で他の年代より高く、「主に妻」が42.9%で他の年代より低い。

【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭は、「主に夫」が36.2%で他の就業家庭より高く、「主に妻」が27.7%で他の就業家庭より低い。

現在結婚している方のみ

2(1)-10図 家庭の役割分担について ケ 自治会等の地域活動への参加
【全体・性別・年代別・家庭の就業状況別】



コ P T A活動等の学校行事への参加

「主に妻」が82.2%で最も高い

【全体】

「主に妻」が82.2%と最も高く、「夫・妻で半々」が10.9%が続いている。

【性別】

「主に妻」は、女性が85.5%で男性の77.2%より8.3ポイント高い。

【年代別】

30歳代は、「夫・妻で半々」が16.3%で他の年代より高い。

65歳以上は、「主に夫」と「夫・妻以外の家族」が共に4.9%で他の年代より若干高い。

※20歳代は、標本数が少ないので参考掲載、分析の対象からは除外。

【家庭の就業状況別】

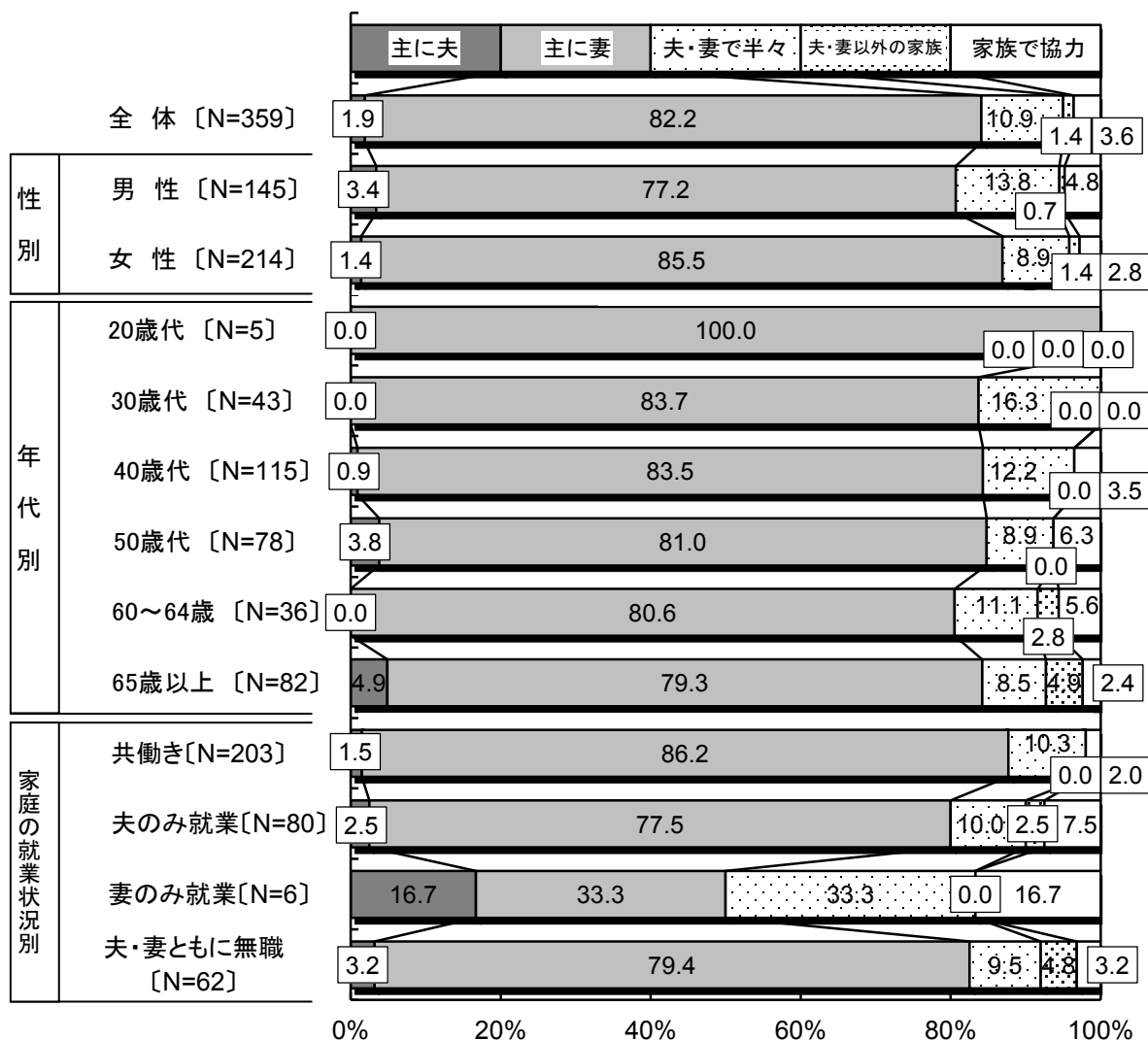
共働き家庭では、「主に妻」が86.2%で他の就業家庭より高い。

夫・妻ともに無職家庭は、「夫・妻以外の家族」が4.8%で他の就業家庭より若干高い。

※妻のみ就業家庭は、標本数が少ないので参考掲載、分析の対象からは除外。

現在結婚している方のみ

2(1)-11図 家庭の役割分担について コ P T A活動等の学校行事への参加
[全体・性別・年代別・家庭の就業状況別]



(2-2) 家庭での役割分担に対する満足度について

問2-2 あなたは家庭での役割分担について、どのように感じていますか。○は1つだけ

『満足層』 全体 78.9% 男性 93.0% 女性 67.8% ⇒ 男性の方が高い
 『不満層』 全体 21.0% 男性 7.1% 女性 32.2% ⇒ 女性の方が高い

※「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせて『満足層』, 「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせて『不満層』とする。

【全体】

「満足している」が33.6%, 「どちらかといえば満足している」が45.3%で『満足層』は78.9%, 「不満である」が4.4%, 「どちらかといえば不満である」が16.6%で『不満層』は21.0%となっており, 『満足層』が57.9ポイント高く, 大きく上回っている。

【性別】

男女とも『満足層』が『不満層』を大きく上回っているが, 特に男性は『満足層』が93.0%で女性の67.8%より25.2ポイント高い。女性は『不満層』が32.2%で男性の7.1%より25.1ポイント高い。また, 男性は, 「満足している」が48.9%で女性の21.5%より27.4ポイント高い。

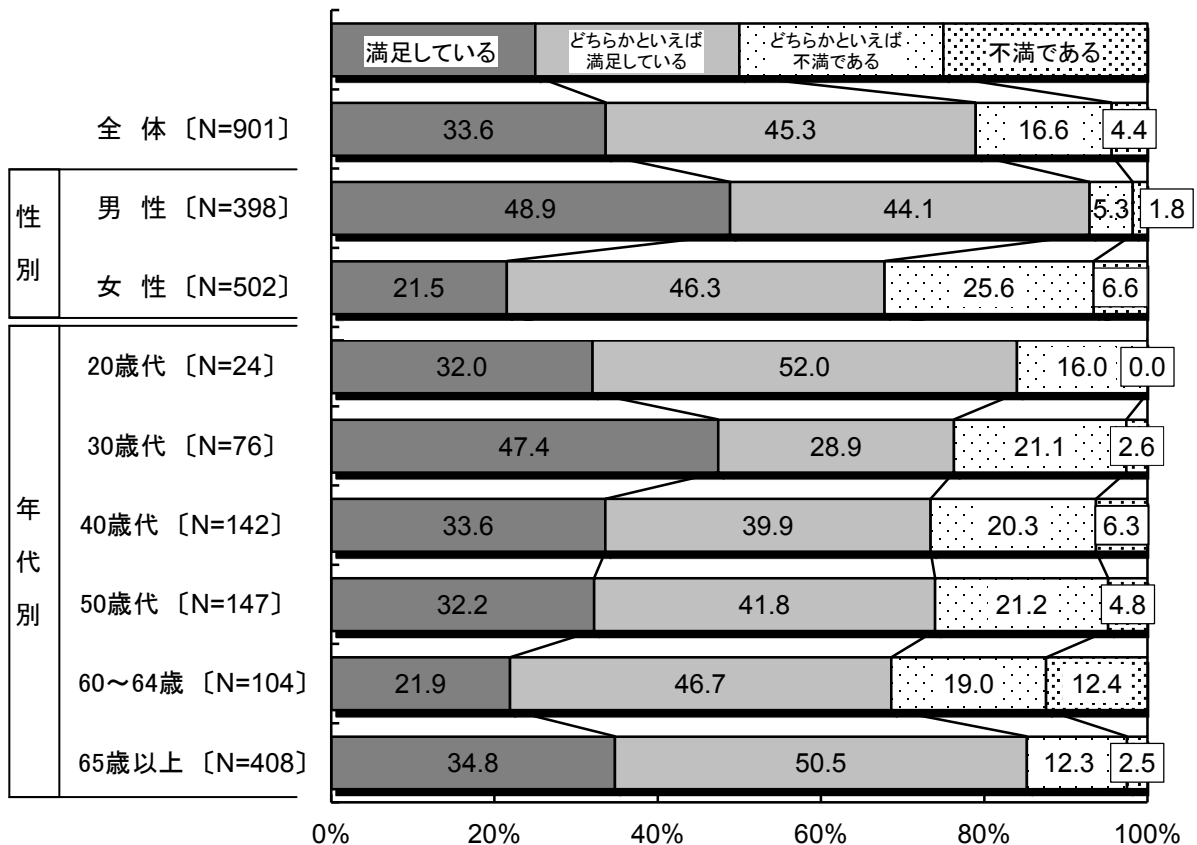
【年代別】

65歳以上は, 『満足層』が85.3%と最も高く, 次いで20歳代で84.0%と続く。

30歳代は, 「満足している」が47.4%で他の年代より高く, 60~64歳では21.9%で他の年代より低い。

現在結婚している方のみ

2(2)-1図 家庭生活での役割分担に対する満足度について〔全体・性別・年代別〕



【性・年代別】

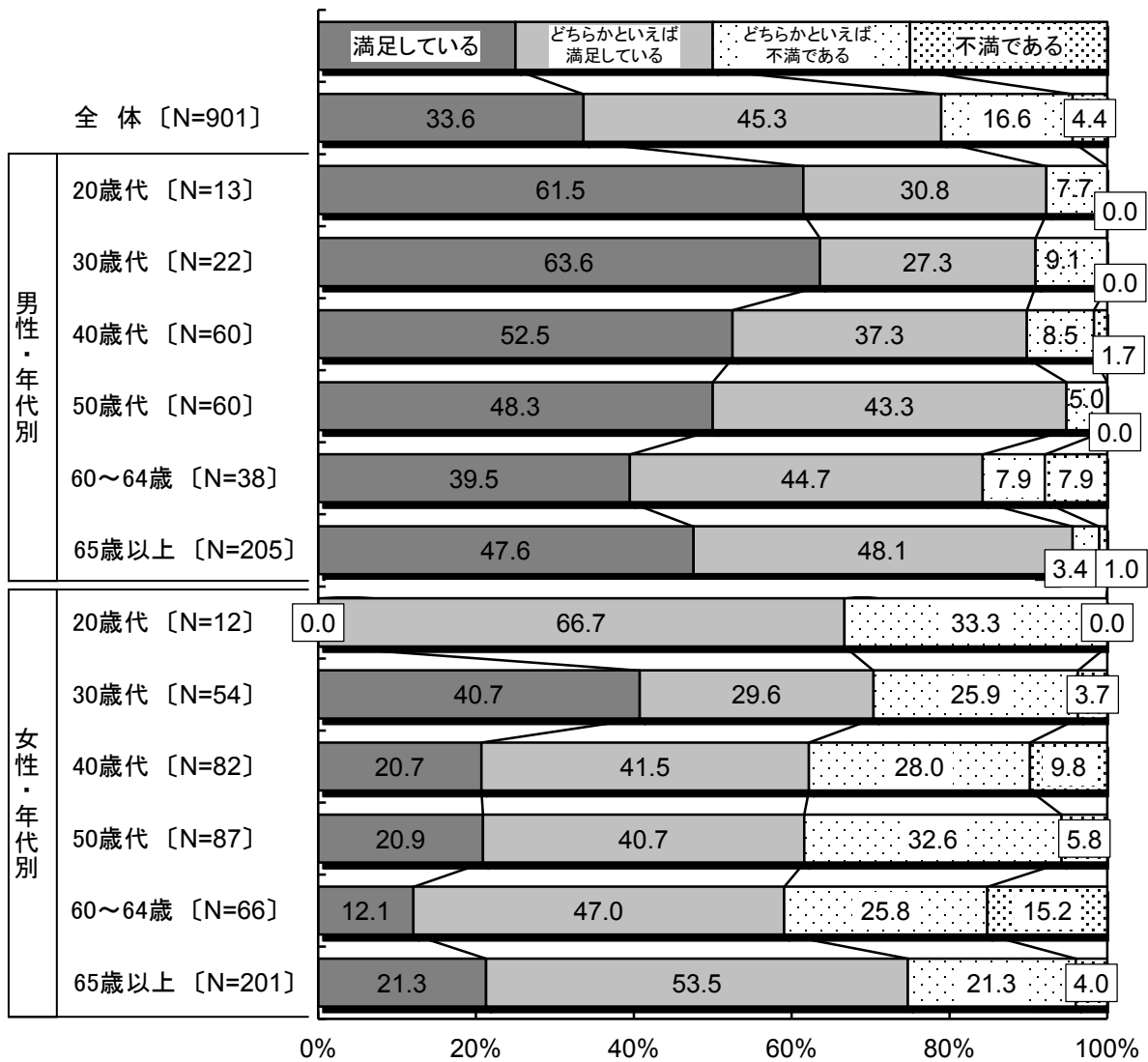
どの年代においても、男性の方が女性より満足度合いが高く、また、女性の方が不満度合いが高い。男性20歳代、男性30歳代は、「満足している」が60%以上で他の年代より高い。また、男性60～64歳は、『不満層』が15.8%で他の男性の年代に比べて高い。

女性30歳代は、「満足している」が40.7%で他の年代に比べて高い。

女性60～64歳は、『不満層』が41.0%で他の年代に比べて高い

現在結婚している方のみ

2(2)-2 図 家庭生活での役割分担に対する満足度について〔性・年代別〕



2. 職場における男女共同参画について

(3) 一般的に女性が職業をもつことについて

問3 あなたは、一般的に女性が職業をもつことについて、どのように思いますか。

○は1つだけ

『家事優先型』 33.2%, 『再就職型』 29.3%, 『職業継続型』 19.9%

- ※『専業主婦型(家事専念型)』女性は職業をもたない方がよい
- 『結婚退職型』結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 『出産退職型』子どもができるまでは職業をもち、子どもができたなら辞める方がよい
- 『職業継続型』結婚・出産に関わらず、ずっとフルタイムで職業を続ける方がよい
- 『再就職型』子どもができたなら辞め、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 『家事優先型』家事・育児に影響がない程度で、パートタイマーやアルバイトをする方がよい

【全体】

『家事優先型』が33.2%で最も高く、『再就職型』が29.3%、『職業継続型』が19.9%、『出産退職型』が4.9%と続いている。

【性別】

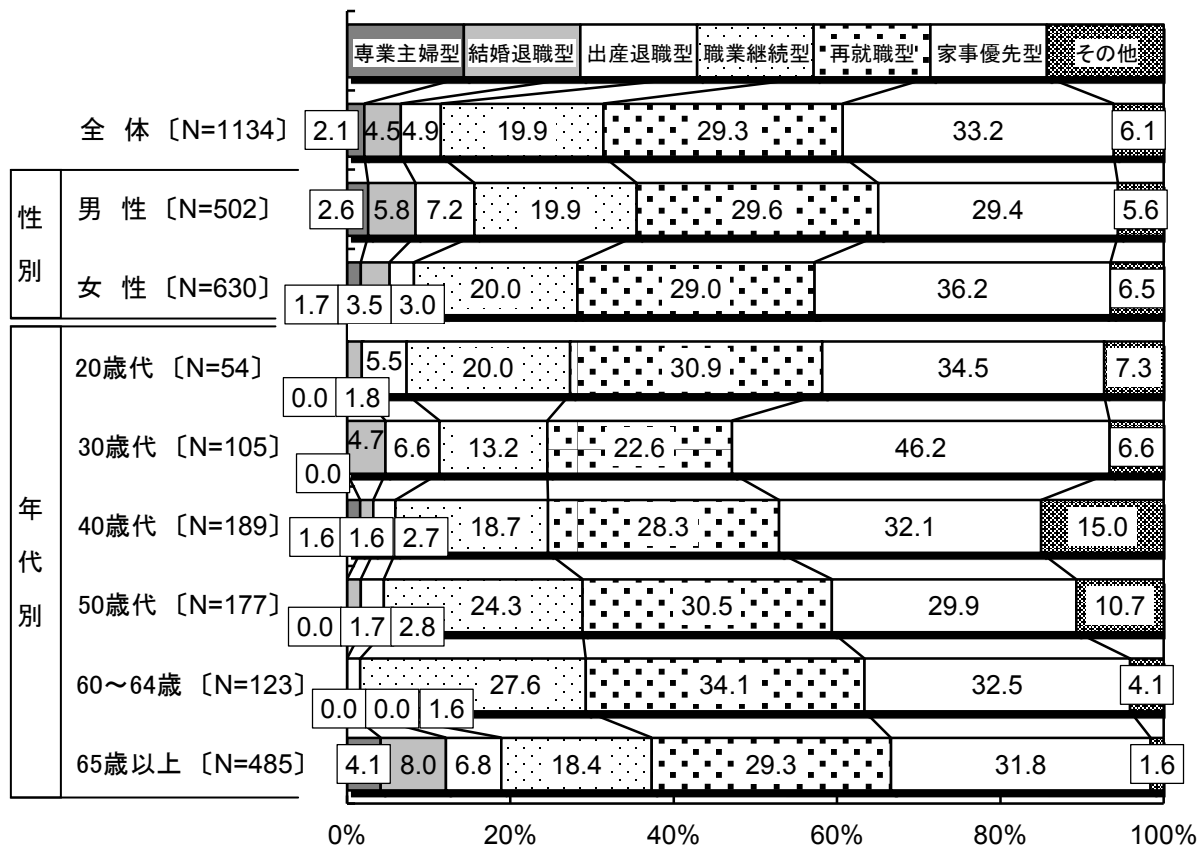
男性は、『出産退職型』が7.2%で、女性の3.0%より4.2ポイント高い。

女性は、『家事優先型』が36.2%で男性の29.4%より6.8ポイント高い。

【年代別】

30歳代は『家事優先型』が46.2%と他の年代に比べて高い。また、60～64歳は『職業継続型』が27.6%と他の年代に比べて高い。

3-1図 女性が職業をもつことについて〔全体・性別・年代別〕

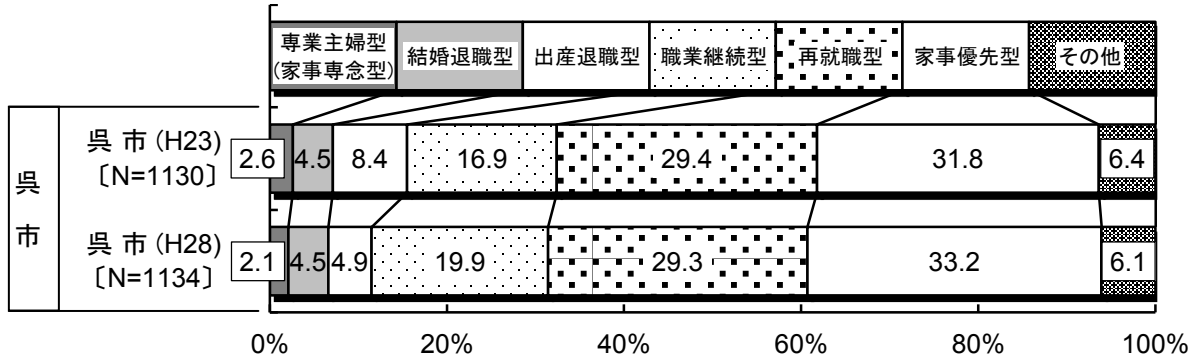


<参考> 全国調査結果，呉市の過去の調査結果との比較

【全体・呉市の過去調査結果との比較】

平成23年実施の呉市調査結果と比較すると顕著な変化はないが、『出産退職型』が3.5ポイント減少し、『職業継続型』が3.0ポイント増加している。

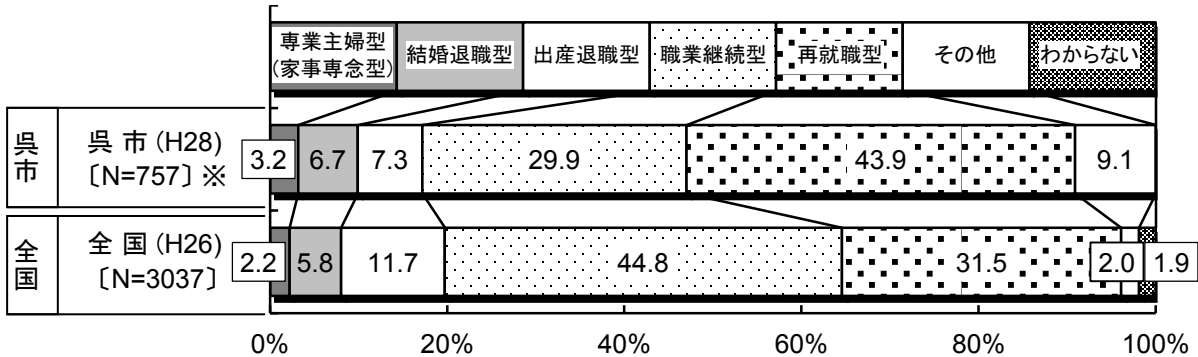
◆女性が職業をもつことについて 呉市過去調査との比較〔全体〕



【全体・全国調査結果との比較】

全国調査には『家事優先型』の意の選択肢がないため、『家事優先型』を含まず集計した結果と今回の調査を比較すると，全国調査と比較して『職業継続型』は低く，『再就職型』は高い。

◆女性が職業をもつことについて 全国との比較〔全体〕

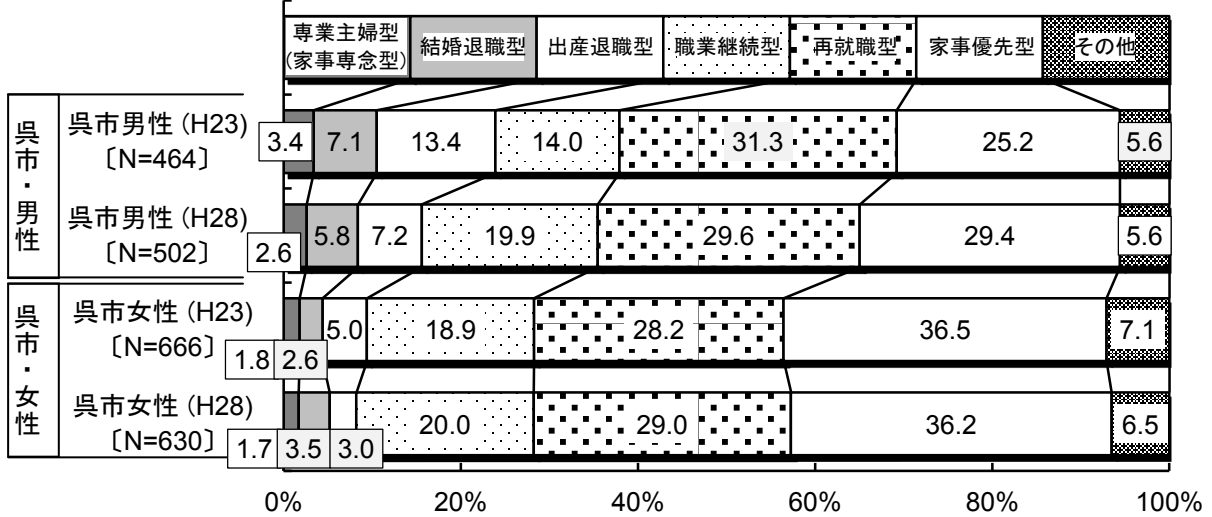


※全国調査には『家事優先型』の意の選択肢がないため、『家事優先型』を含まずに，平成28年の呉市調査を集計した。

【性別・呉市の過去調査結果との比較】

平成23年実施の呉市調査結果と比較すると、男性は『職業継続型』、『家事優先型』が増加し、『出産退職型』が減少している。女性については平成23年と平成28年で特に大きな差異はない。

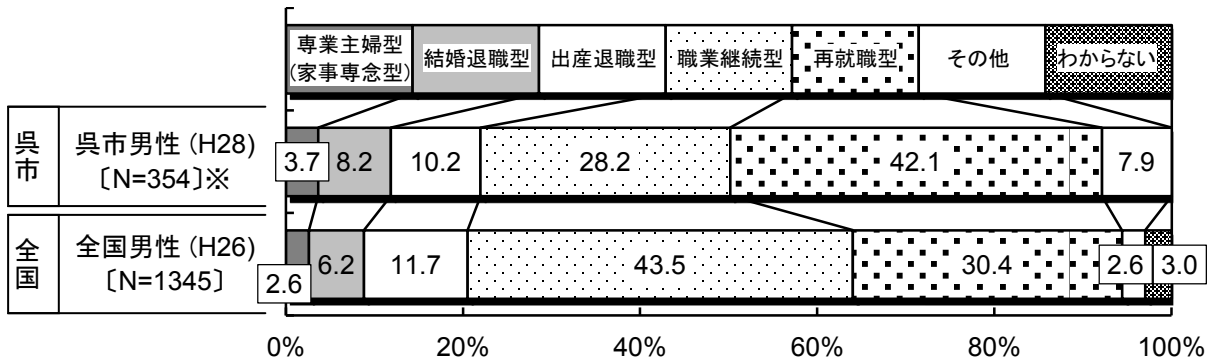
◆女性が職業をもつことについて 呉市過去調査との比較〔性別〕



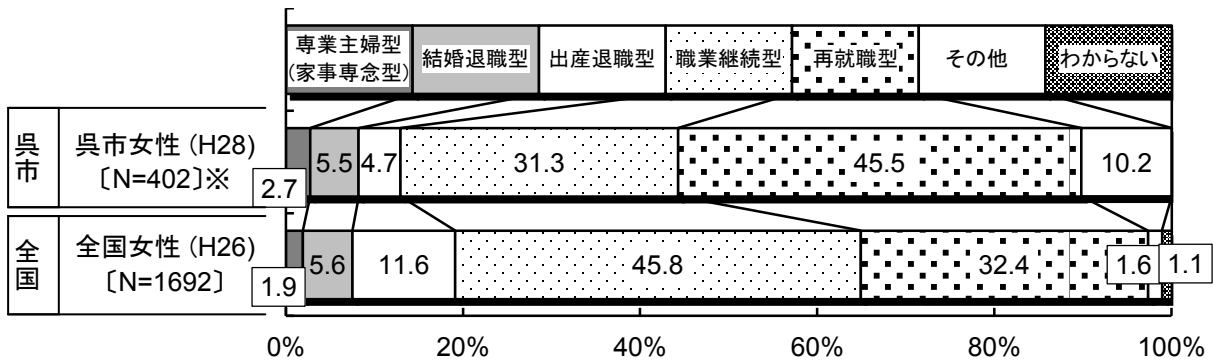
【性別・全国調査結果との比較】

男性、女性とも全国調査と比較して『職業継続型』は低く、『再就職型』は高い。

◆女性が職業をもつことについて 全国との比較〔性別・男性〕



◆女性が職業をもつことについて 全国との比較〔性別・女性〕



※全国調査には『家事優先型』の意の選択肢がないため、『家事優先型』を含まずに、平成28年の呉市調査を集計した。

(4) 雇用者の職場の現状について〔複数回答〕

問4 あなたの職場の現状にあてはまることは、次のうちどれですか。○はいくつでも

「あてはまるものはない」	62.2%
「仕事の内容・分担に男女差がある」	21.8%
「募集・採用・配属に男女差がある」	16.9%

【全体】

「あてはまるものはない」が62.2%と最も高く、「仕事の内容・分担に男女差がある」が21.8%、「募集・採用・配属に男女差がある」が16.9%、「能力・成果の評価に男女差がある」が9.8%で続いている。

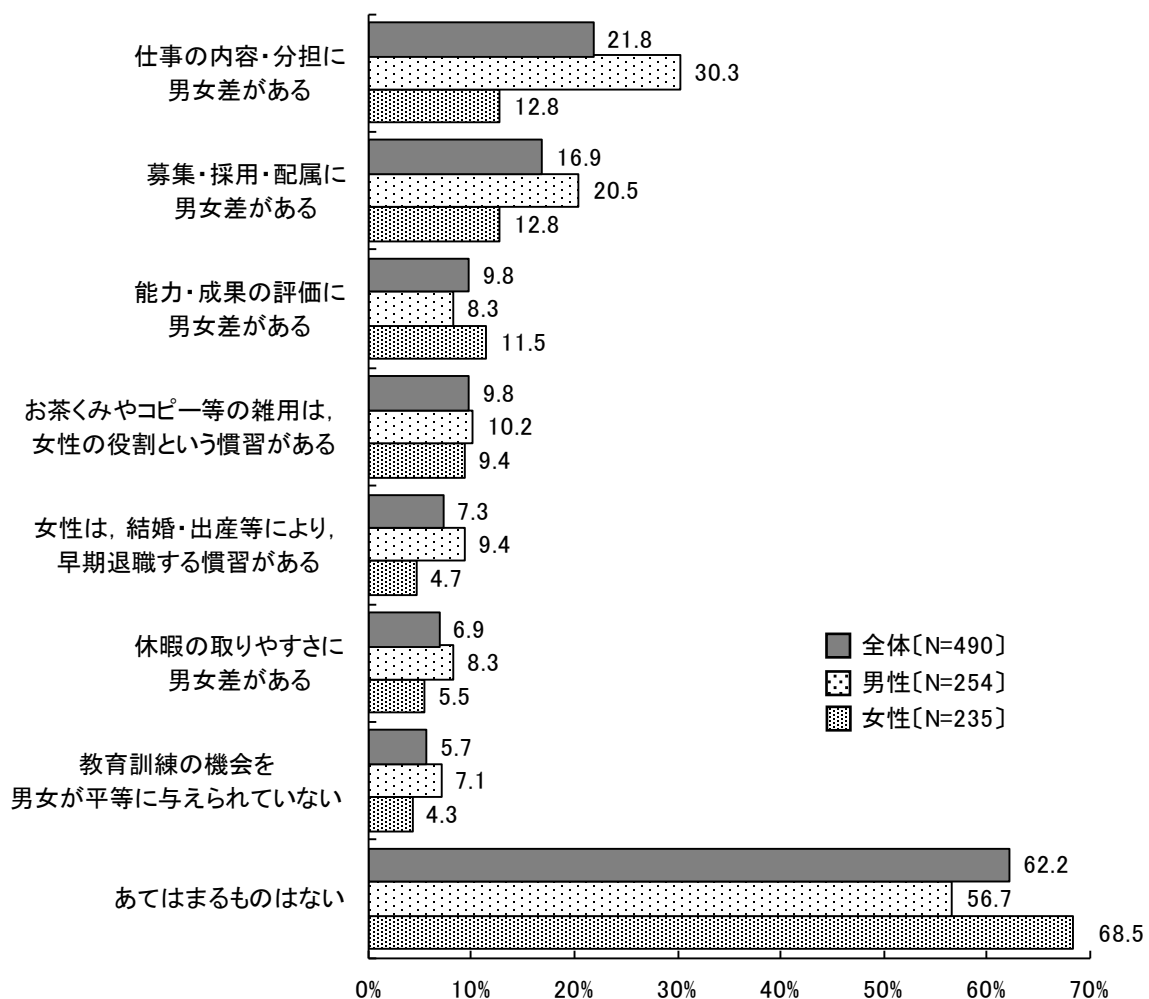
【性別】

男性は、「仕事の内容・分担に男女差がある」が30.3%、「募集・採用・配属に男女差がある」が20.5%で女性に比べて高い。

女性は、「あてはまるものはない」が68.5%で男性の56.7%に比べて11.8ポイント高い。

お勤めしている方のみ

4-1図 雇用者の職場の現状について〔全体・性別〕



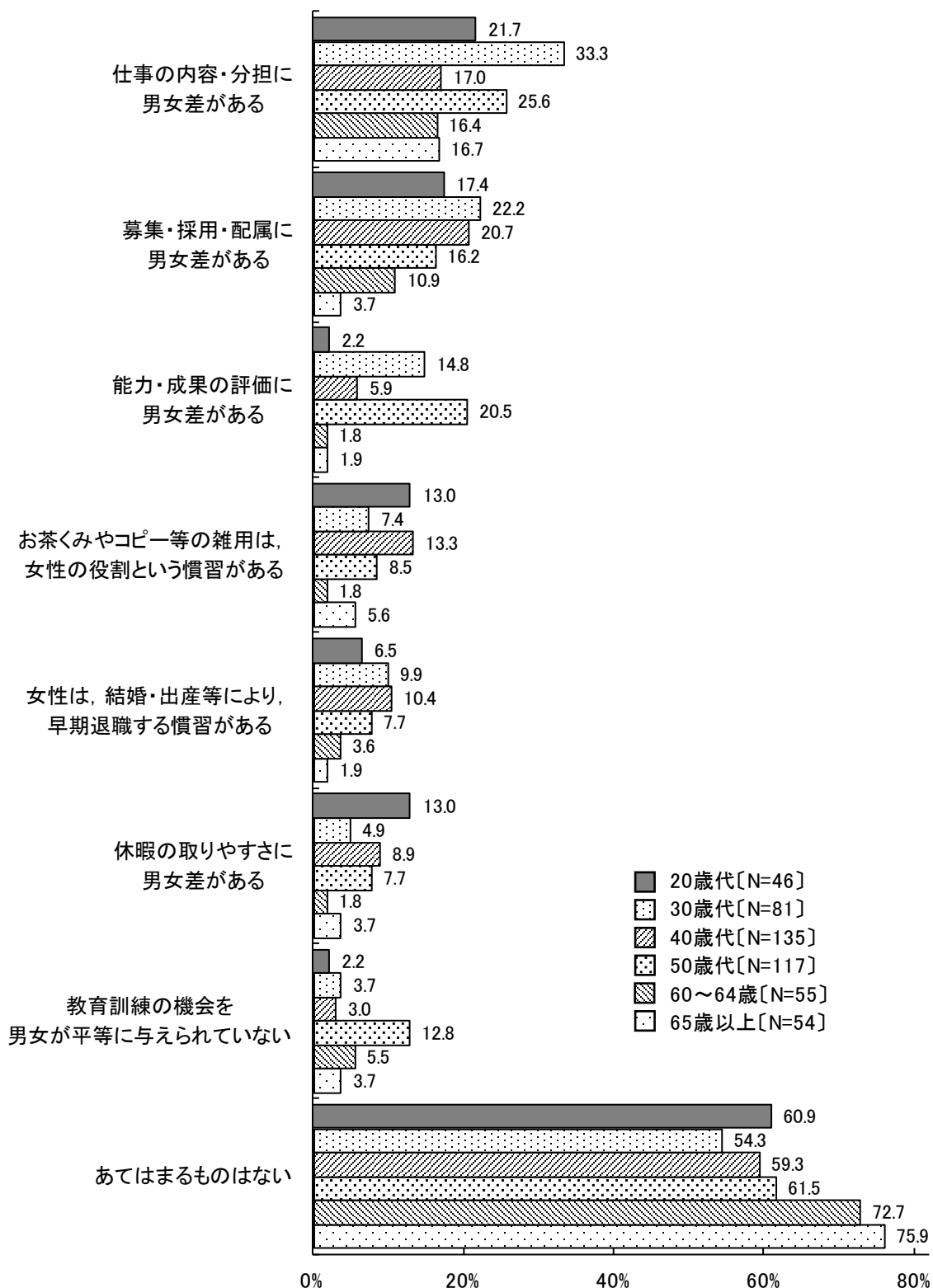
【年代別】

30歳代は「仕事の内容・分担に男女差がある」が33.3%、「募集・採用・配属に男女差がある」が22.2%で他の年代より高い。

50歳代は「能力・成果の評価に男女差がある」が20.5%、「教育訓練の機会を男女が平等に与えられていない」が12.8%で、他の年代より高い。

お勤めしている方のみ

4-2図 雇用者の職場の現状について〔年代別〕



(5-1) 管理職への昇進意向について

問5-1 あなたは、管理職に昇進できるのであれば、昇進したいと思いますか。○は1つだけ

『昇進意向あり』 全体 34.3% 男性 45.2% 女性 22.8% ⇒ 男性の方が高い
 『昇進意向なし』 全体 65.7% 男性 54.8% 女性 77.2% ⇒ 女性の方が高い

※「昇進したい」と「どちらかといえば昇進したい」を合わせて『昇進意向あり』, 「昇進したくない」と「どちらかといえば昇進したくない」を合わせて『昇進意向なし』とする。

【全体】

「どちらかといえば昇進したくない」が34.3%で最も高く, 「昇進したくない」の31.4%と合わせた『昇進意向なし』が65.7%を占める。「どちらかといえば昇進したい」, 「昇進したい」を合わせた『昇進意向あり』は34.3%で, 『昇進意向なし』が『昇進意向あり』を31.4ポイント上回っている。

【性別】

男性は『昇進意向あり』が45.2%, 『昇進意向なし』が54.8%と昇進意向の差が9.6ポイントとなっているが, 女性は『昇進意向あり』が22.8%と男性より22.4ポイント低く, 『昇進意向なし』が77.2%で, 男性の54.8%より22.4ポイント高くなっている。

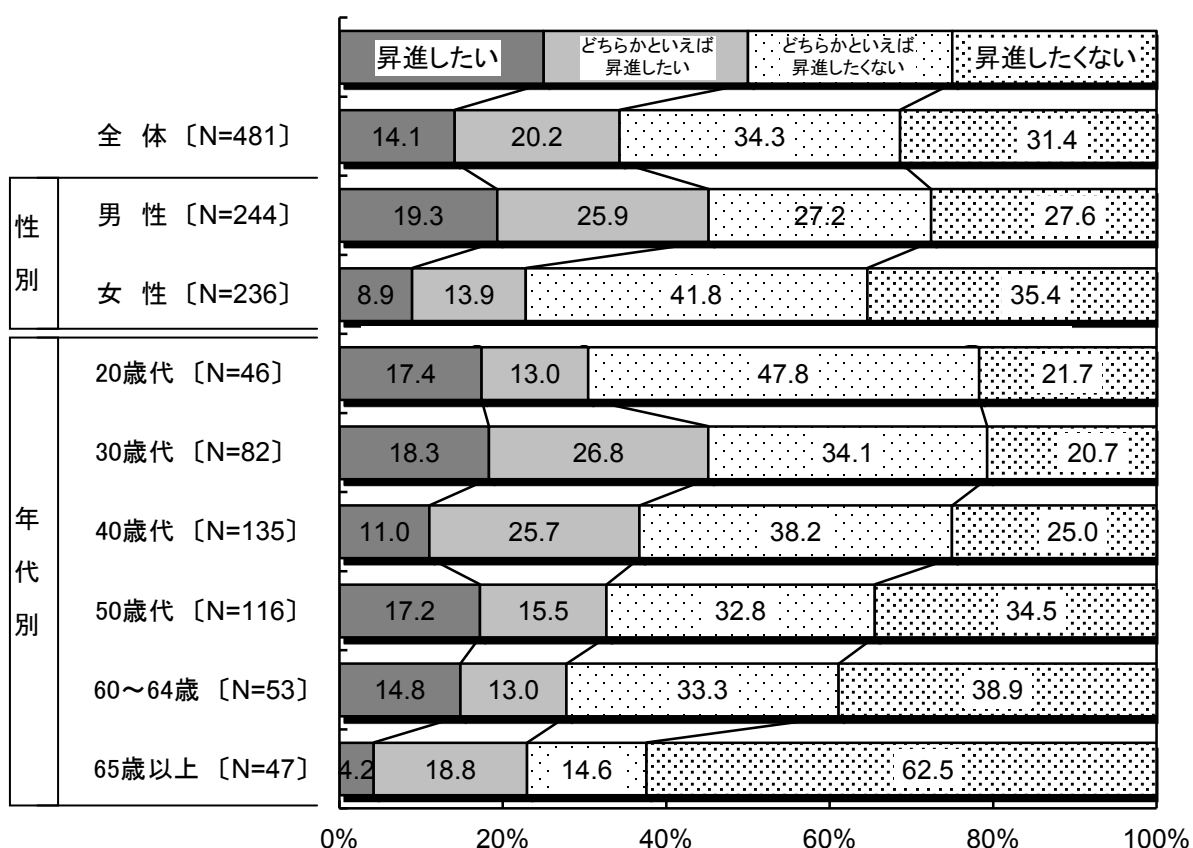
【年代別】

30歳代は, 『昇進意向あり』が45.1%で他の年代より高い。

20歳代は, 「どちらかといえば昇進したくない」が47.8%で他の年代より高く, 65歳以上は, 「昇進したくない」が62.5%で他の年代より高い。

お勤めしている方のみ

5(1)-1図 管理職への昇進意向について〔全体・性別・年代別〕



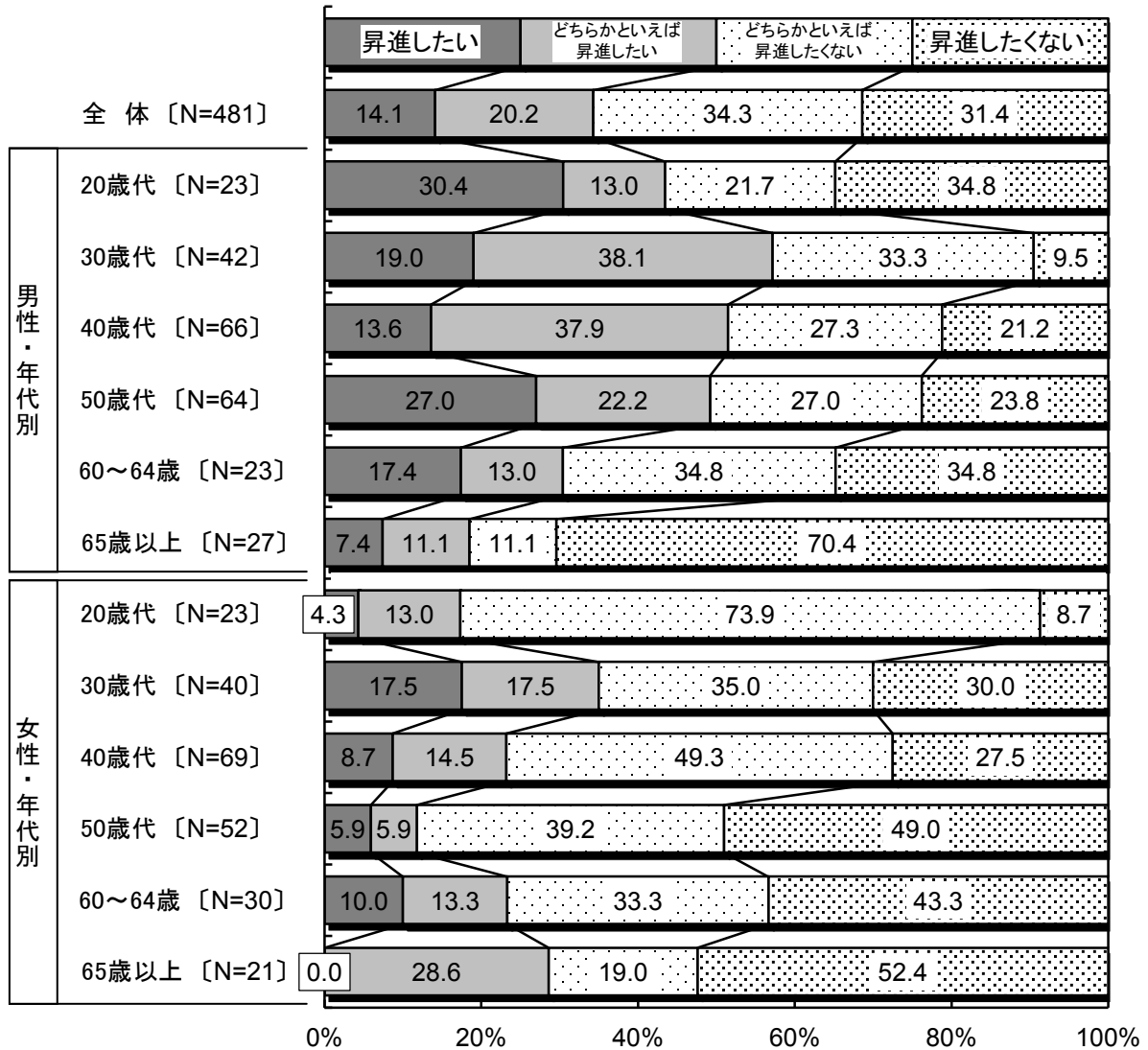
【性・年代別】

男性20歳代では、「昇進したい」が30.4%で最も高く、男性30歳代、男性40歳代は『昇進意向あり』が50%を上回っているが、他の年代では『昇進意向なし』が50%を上回っている。

女性20歳代は「どちらかといえば昇進したくない」が73.9%と最も高い。女性30歳代は『昇進意向なし』が65.0%と低く、女性50歳代は『昇進意向なし』が88.2%と高くなっている。

お勤めしている方のみ

5(1)-2図 管理職への昇進意向について〔性・年代別〕



(5-2) 管理職への昇進意向に必要な状況について

問5-2 どのような状況が整えられたら昇進したいと思いますか。○は1つだけ

「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」	42.8%
「長時間労働がなければ」	34.5%
「休業・休暇がとりやすければ」	30.9%

【全体】

「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」が42.8%で最も高く、「長時間労働がなければ」が34.5%、「休業・休暇がとりやすければ」が30.9%、「給与額が自分の希望に合うなら」が26.0%、「どのような状況でも昇進したいと思わない」が21.1%で続いている。

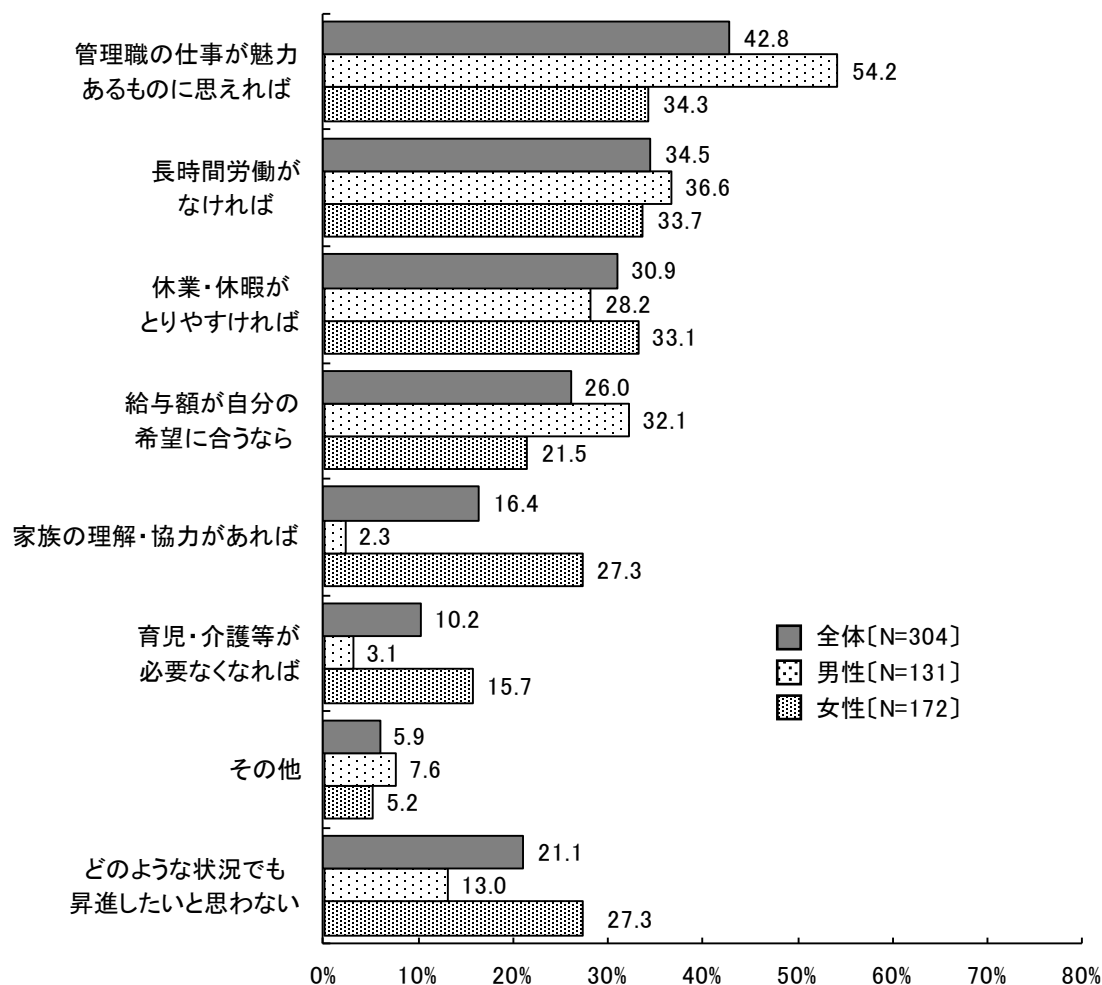
【性別】

男性は、「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」が54.2%で女性の34.3%より19.9ポイント高い。

女性は「家族の理解・協力があれば」が27.3%で男性の2.3%に比べて25.0ポイント高く、「育児・介護等が必要なくなれば」が15.7%で男性の3.1%に比べて12.6ポイント高い。

問5-1で「どちらかといえば昇進したくない」「昇進したくない」を選択した方のみ

5(2)-1図 管理職への昇進意向に必要な状況について〔全体・性別〕



【性・年代別】

男性20歳代は、「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」と「長時間労働がなければ」が共に53.8%で最も高く、「長時間労働がなければ」については他の年代に比べて高い。また、男性のすべての年代、女性20歳代、女性40歳代、50歳代についても「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」が最も高い。

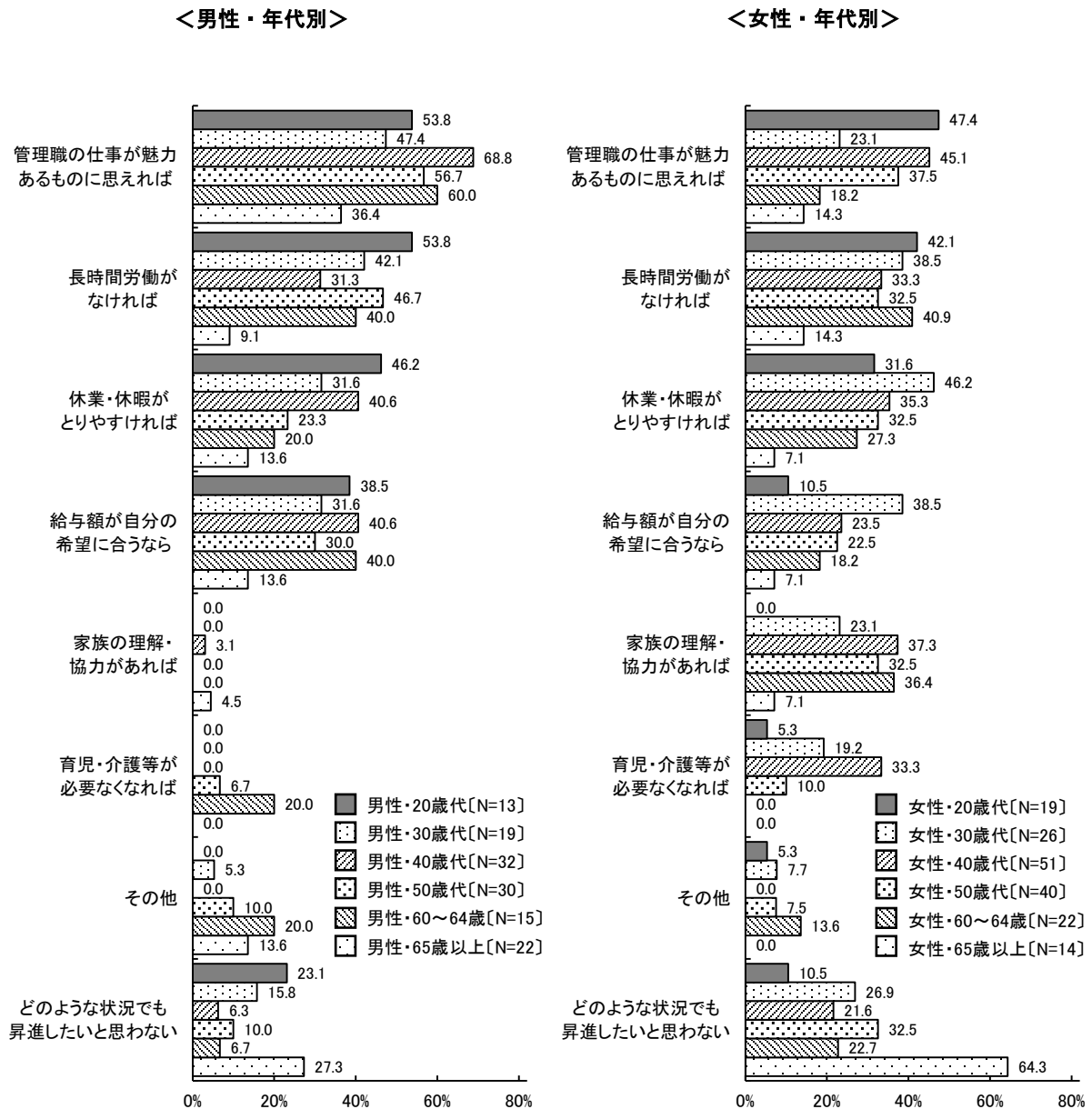
男性20歳代、男性40歳代、女性30歳代は「休業・休暇がとりやすければ」がそれぞれ46.2%、40.6%、46.2%で他の年代に比べて高い。

女性65歳以上は、「どのような状況でも昇進したいと思わない」が64.3%と他の年代に比べて著しく高い。

「家族の理解・協力があれば」は30歳代から60～64歳代の各年代で女性が男性より23.1から36.4ポイント高く差が大きい。

問 5-1 で「どちらかといえば昇進したくない」「昇進したくない」を選択した方のみ

5(2)-2図 どのような状況が整えられたら昇進したいと思うか〔性・年代別〕



(6) 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なことについて〔複数回答〕

問6 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。〇はいくつでも

「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」	78.6%
「男性の家事参加への理解・意識改革」	53.7%
「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」	52.7%

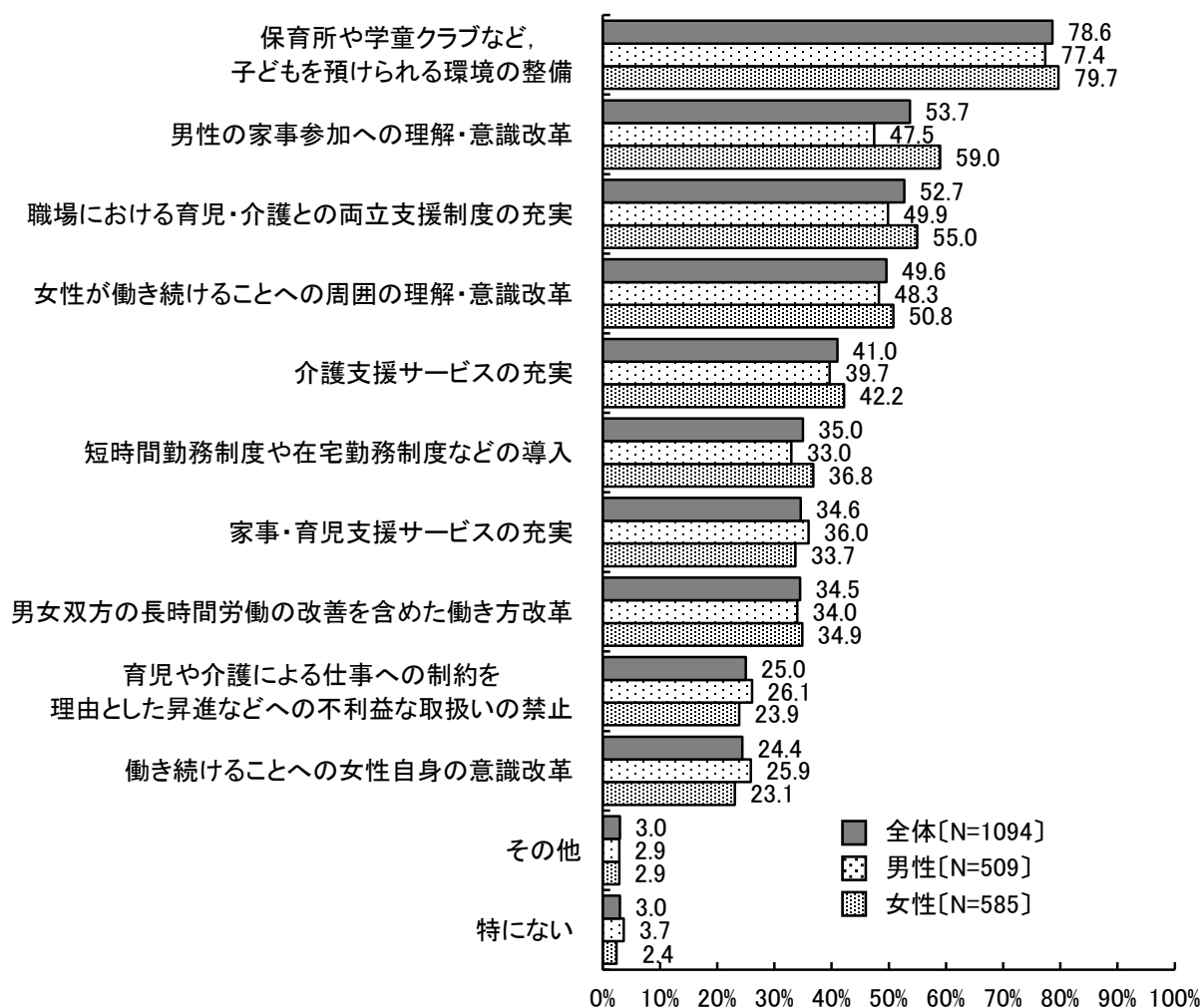
【全体】

「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が78.6%と最も高く、「男性の家事参加への理解・意識改革」が53.7%、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が52.7%で続いている。

【性別】

女性は「男性の家事参加への理解・意識改革」が59.0%で、男性の47.5%に比べて11.5ポイント高い。また、女性は「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が55.0%と、男性の49.9%に比べて5.1ポイント高い。

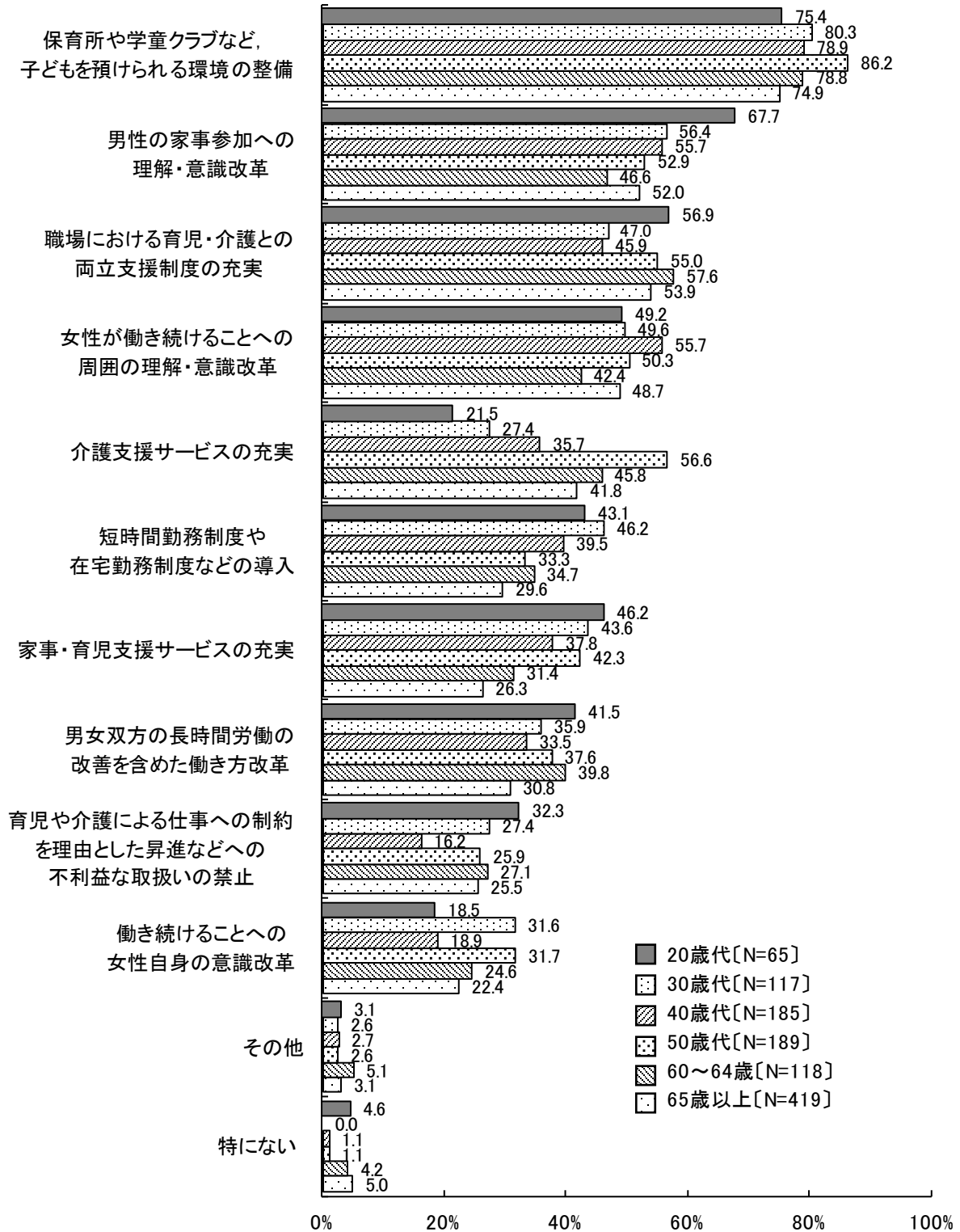
6-1図 女性が出産後も働き続けるために必要なこと〔全体・性別〕



【年代別】

すべての年代で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も高い。
 20歳代は「男性の家事参加への理解・意識改革」が67.7%で、他の年代に比べて高い。
 50歳代は「介護支援サービスの充実」が56.6%で、他の年代に比べて高い。

6-2図 女性が出産後も働き続けるために必要なこと〔年代別〕



(7) 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔複数回答〕

問7 育児・介護休業制度は、男女がともに取得できる制度ですが、男性の利用者が少ないのが現状です。その理由は何だと思えますか。○はいくつでも

「職場に迷惑がかかると思うから」	65.8%
「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」	50.6%
「収入減になるから」	45.6%
「制度利用後の待遇面が心配だから」	44.0%
「仕事が忙しくて利用できない」	40.7%

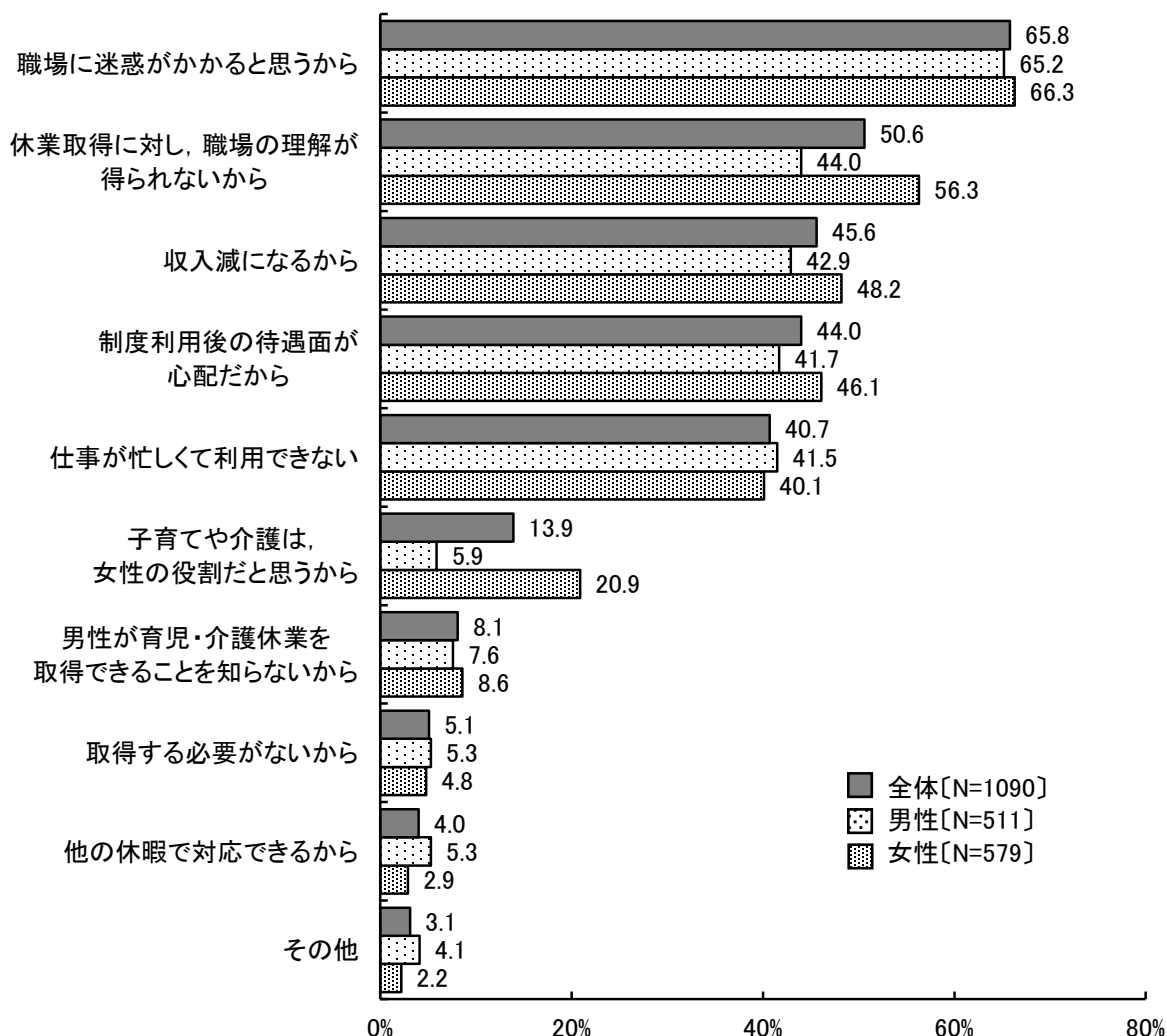
【全体】

「職場に迷惑がかかると思うから」が65.8%と最も高く、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が50.6%、「収入減になるから」が45.6%、「制度利用後の待遇面が心配だから」が44.0%、「仕事が忙しくて利用できない」が40.7%と続いている。

【性別】

女性は、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が56.3%、「収入減になるから」が48.2%、「制度利用後の待遇面が心配だから」が46.1%、「子育てや介護は、女性の役割だと思うから」が20.9%で男性に比べて高い。

7-1図 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔全体・性別〕

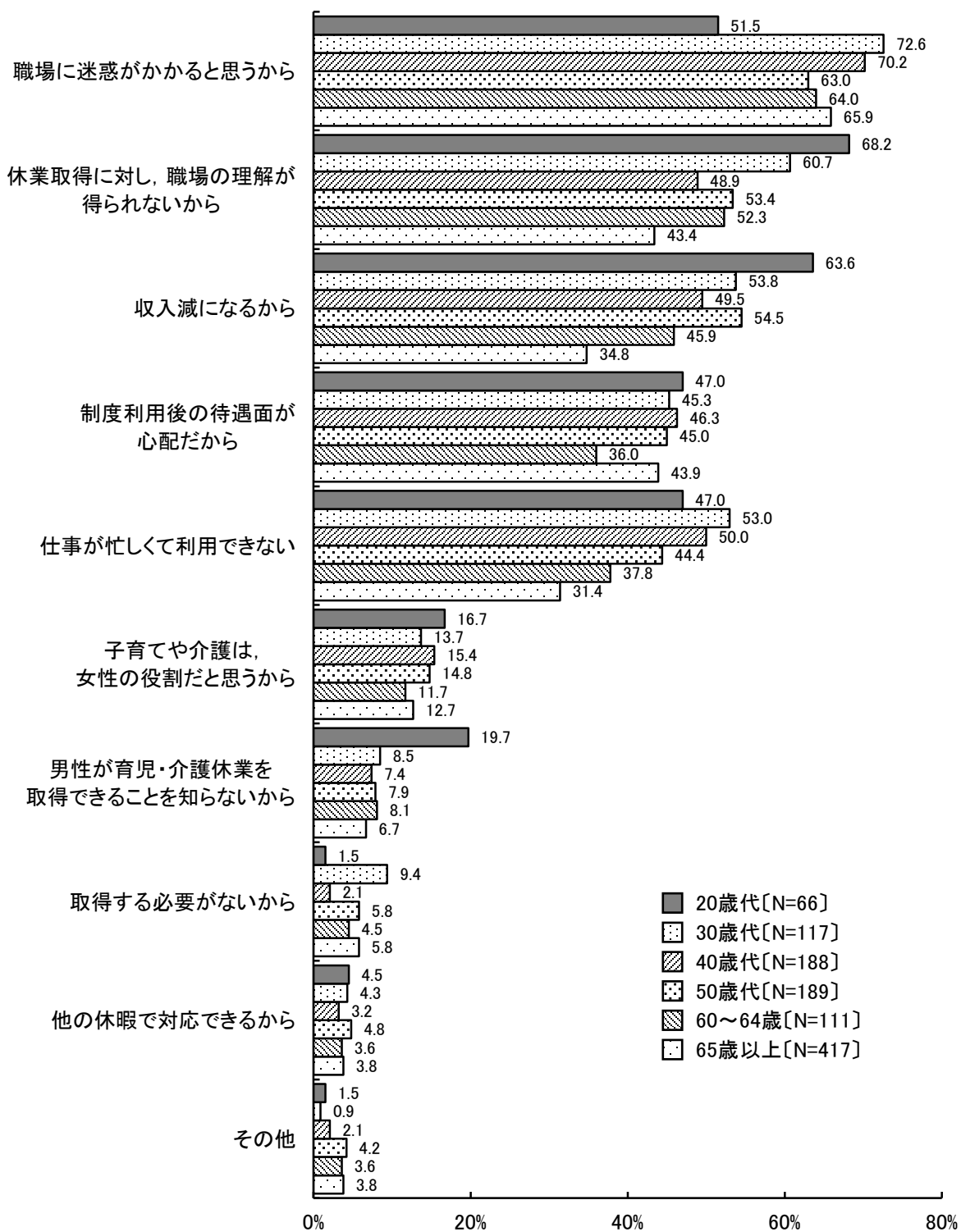


【年代別】

30歳代、40歳代は、「職場に迷惑がかかると思うから」が70%以上で他の年代に比べて高い。

20歳代は、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が68.2%、「収入減になるから」が63.6%、「男性が育児・介護休業を取得できることを知らないから」が19.7%で他の年代に比べて高い。30歳代は、「仕事が忙しくて利用できない」が53.0%で他の年代に比べて高い。

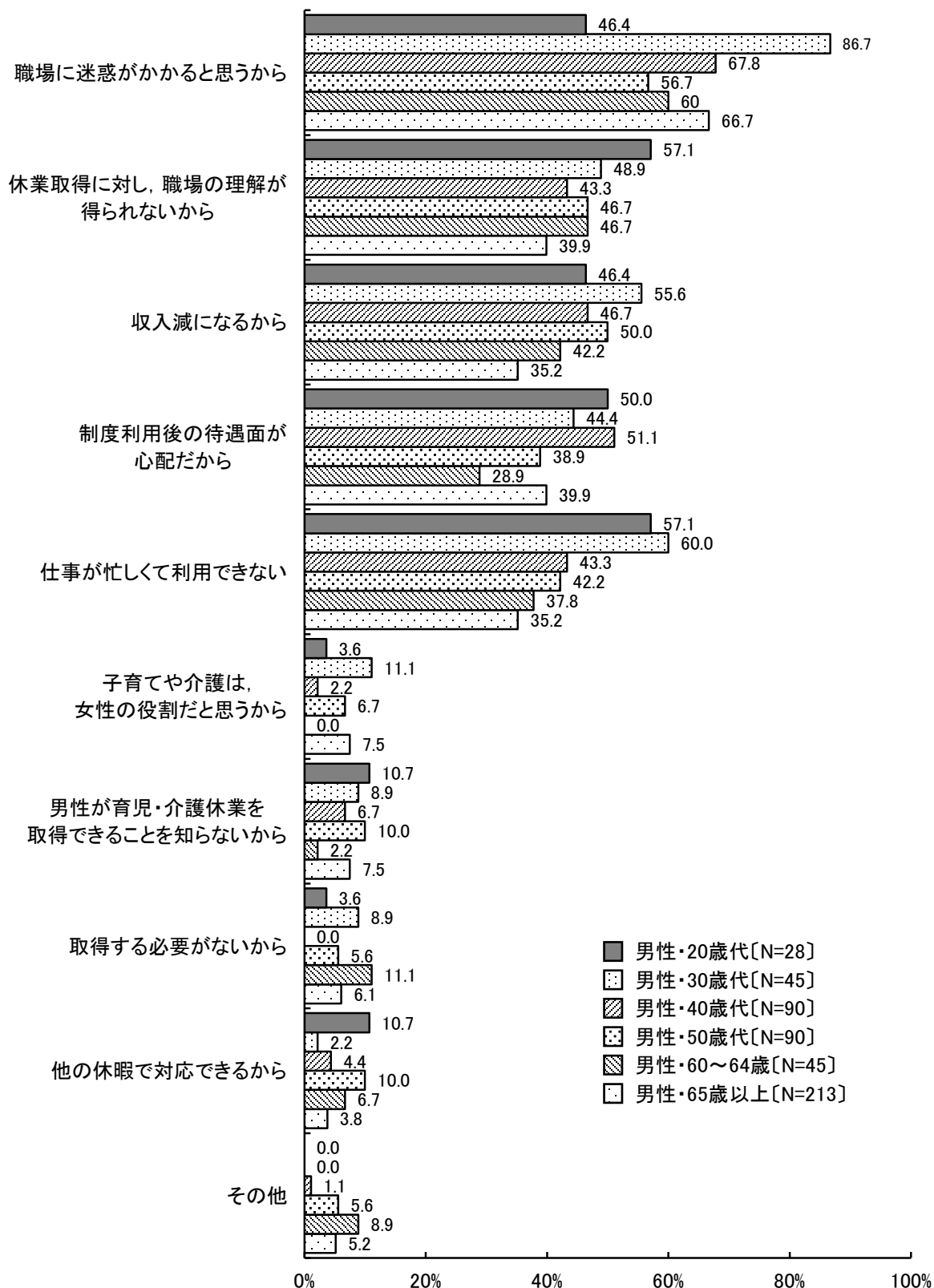
7-2図 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔年代別〕



【男性・年代別】

男性30歳代は、「職場に迷惑がかかると思うから」が86.7%で他の年代に比べ目立って高い。男性20歳代は、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が57.1%で他の年代に比べ高い。また、男性20歳代、男性30歳代は「仕事が忙しくて利用できない」がそれぞれ57.1%、60.0%と他の年代に比べ高くなっている。

7-3図 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔男性・年代別〕

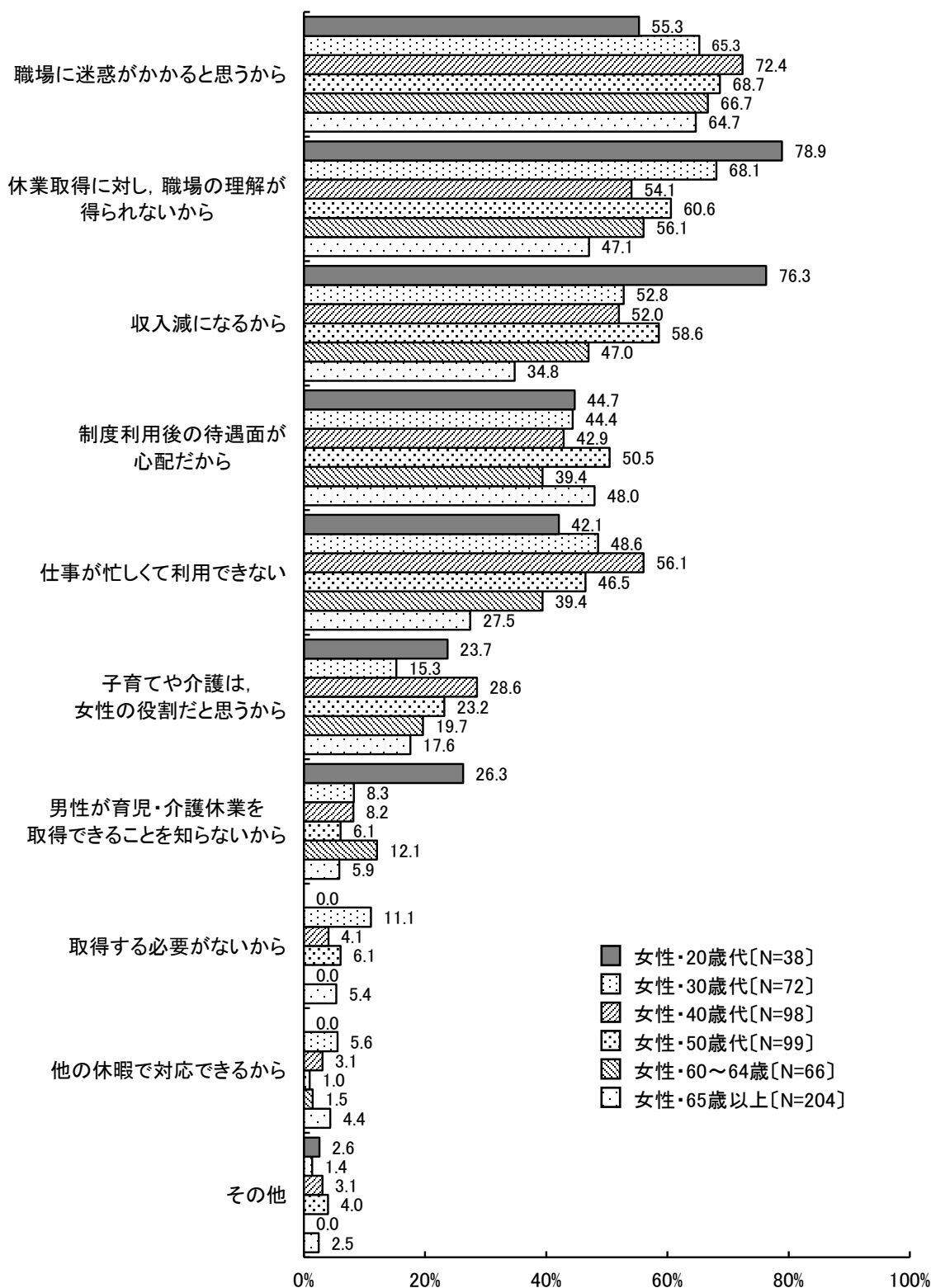


【女性・年代別】

女性20歳代は、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が78.9%、「収入減になるから」が76.3%、「男性が育児・介護休業を取得できることを知らないから」が26.3%で他の年代より高い。

女性40歳代は、「職場に迷惑がかかると思うから」が72.4%、「仕事が忙しくて利用できない」が56.1%と他の年代に比べて高い。

7-4図 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔女性・年代別〕



(8) 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔複数回答〕

問8 男女がともに仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。○は3つまで

「有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること」	51.0%
「育児・介護休業制度を利用しやすくすること」	43.2%
「社内託児所の設置等、子育て支援を充実すること」	34.9%
「経営者や管理職の意識を改革すること」	32.0%

【全体】

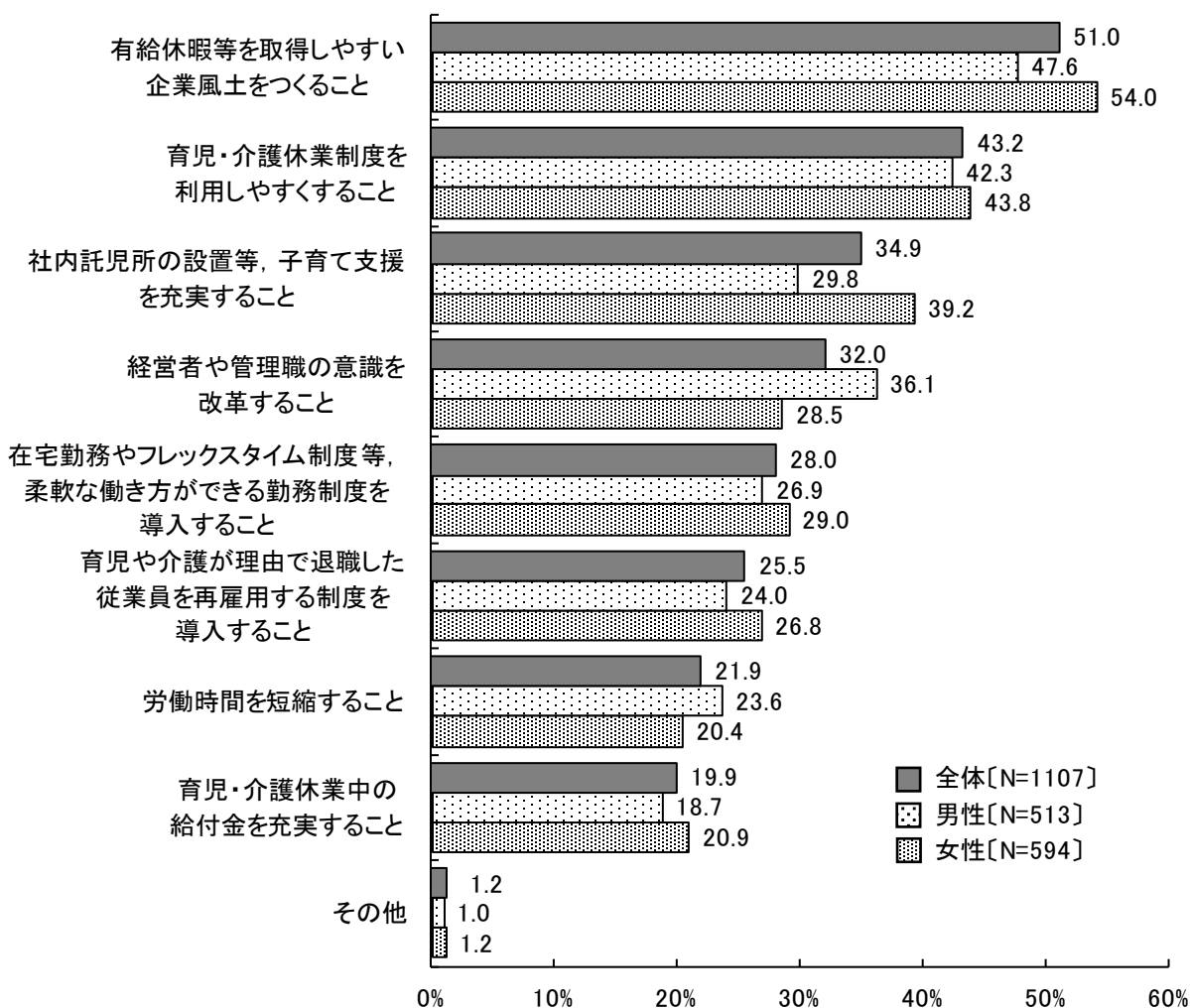
「有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること」が51.0%と最も高く、「育児・介護休業制度を利用しやすくすること」が43.2%、「社内託児所の設置等、子育て支援を充実すること」が34.9%、「経営者や管理職の意識を改革すること」が32.0%で続いている。

【性別】

男性は、「経営者や管理職の意識を改革すること」が36.1%で女性の28.5%より7.6ポイント高い。

女性は、「社内託児所の設置等、子育て支援を充実すること」が39.2%で男性の29.8%より9.4ポイント高い。

8-1図 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔全体・性別〕

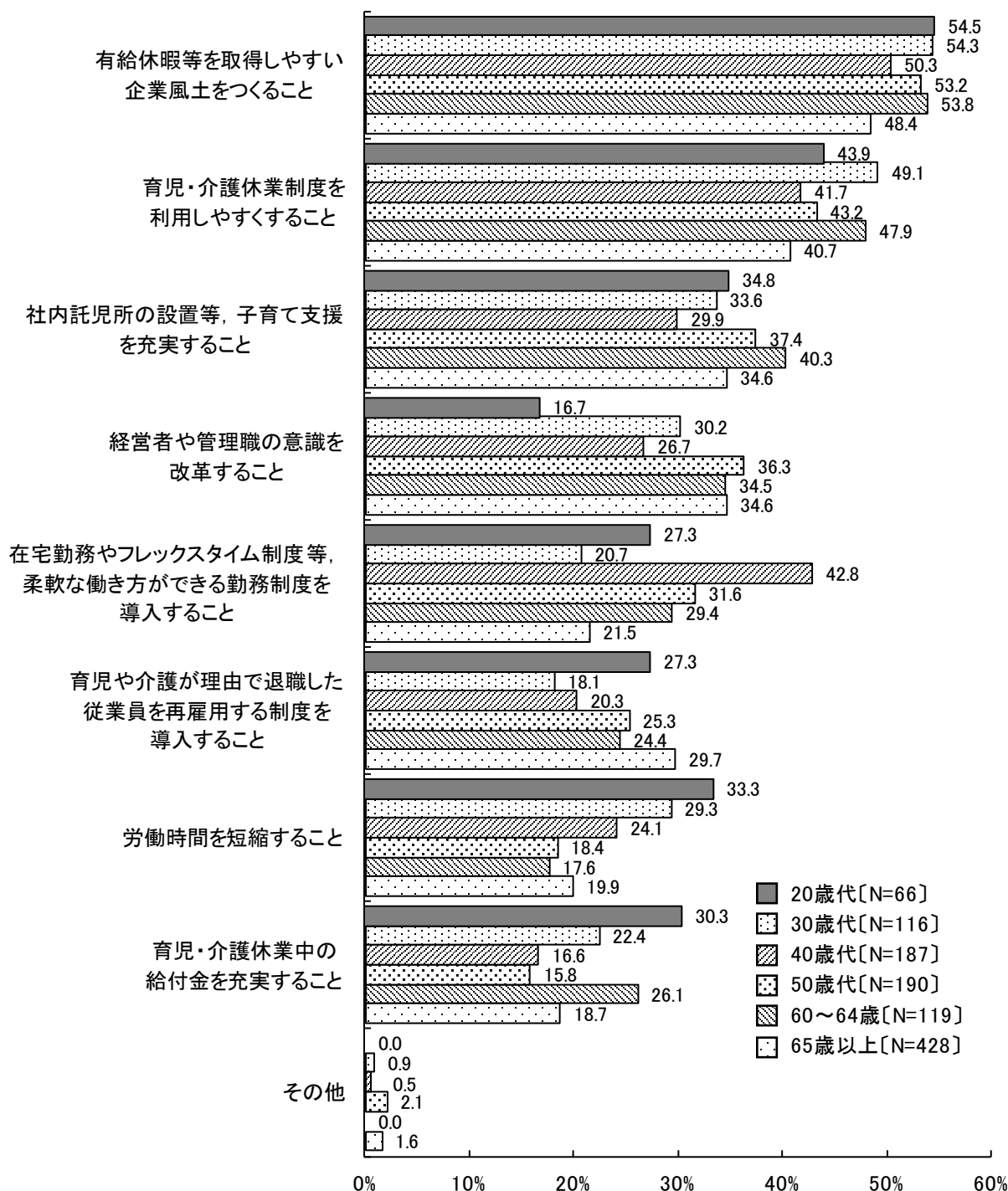


【年代別】

40歳代は、「在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入すること」が42.8%で他の年代に比べて高い。

20歳代は、「労働時間を短縮すること」が33.3%、「育児・介護休業中の給付金を充実すること」が30.3%と他の年代に比べて高く、「経営者や管理職の意識を改革すること」が16.7%で他の年代に比べて低い。

8-2図 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔年代別〕



3. 地域活動，市民活動における男女共同参画について

(9-1) 地域活動や市民活動への参加状況について

問9-1 あなたは，地域活動や市民活動に現在参加していますか。○は1つだけ

「参加している」34.6%，「参加していない」65.4%
⇒「参加していない」が30.8ポイント高い

【全体・過去調査との比較】

「参加している」が34.6%，「参加していない」が65.4%で「参加していない」が30.8ポイント高い。

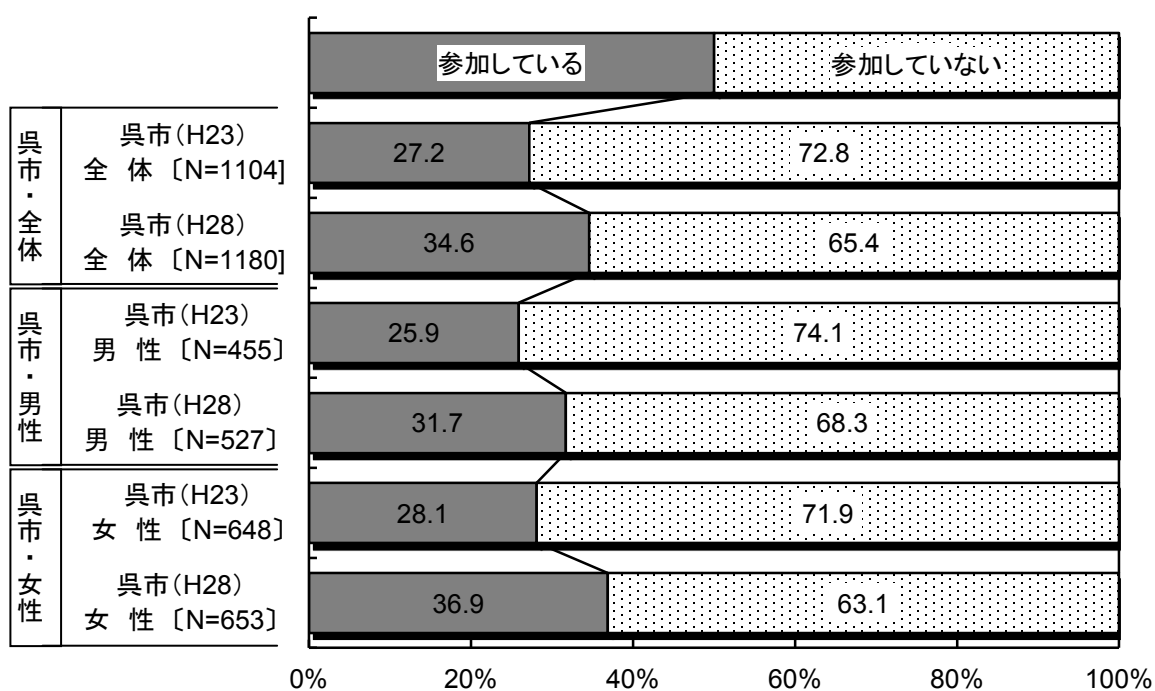
平成23年実施の呉市調査結果との比較では，「参加している」が7.4ポイント増加している。

【性別・過去調査との比較】

性別では特に大きな差異はない。

平成23年実施の呉市調査結果と比較では，「参加している」が男性は5.8ポイント，女性は8.8ポイント増加し，男女とも地域活動への参加が増加している。

9(1)-1図 地域活動，市民活動の参加について 【全体・性別・過去調査との比較】

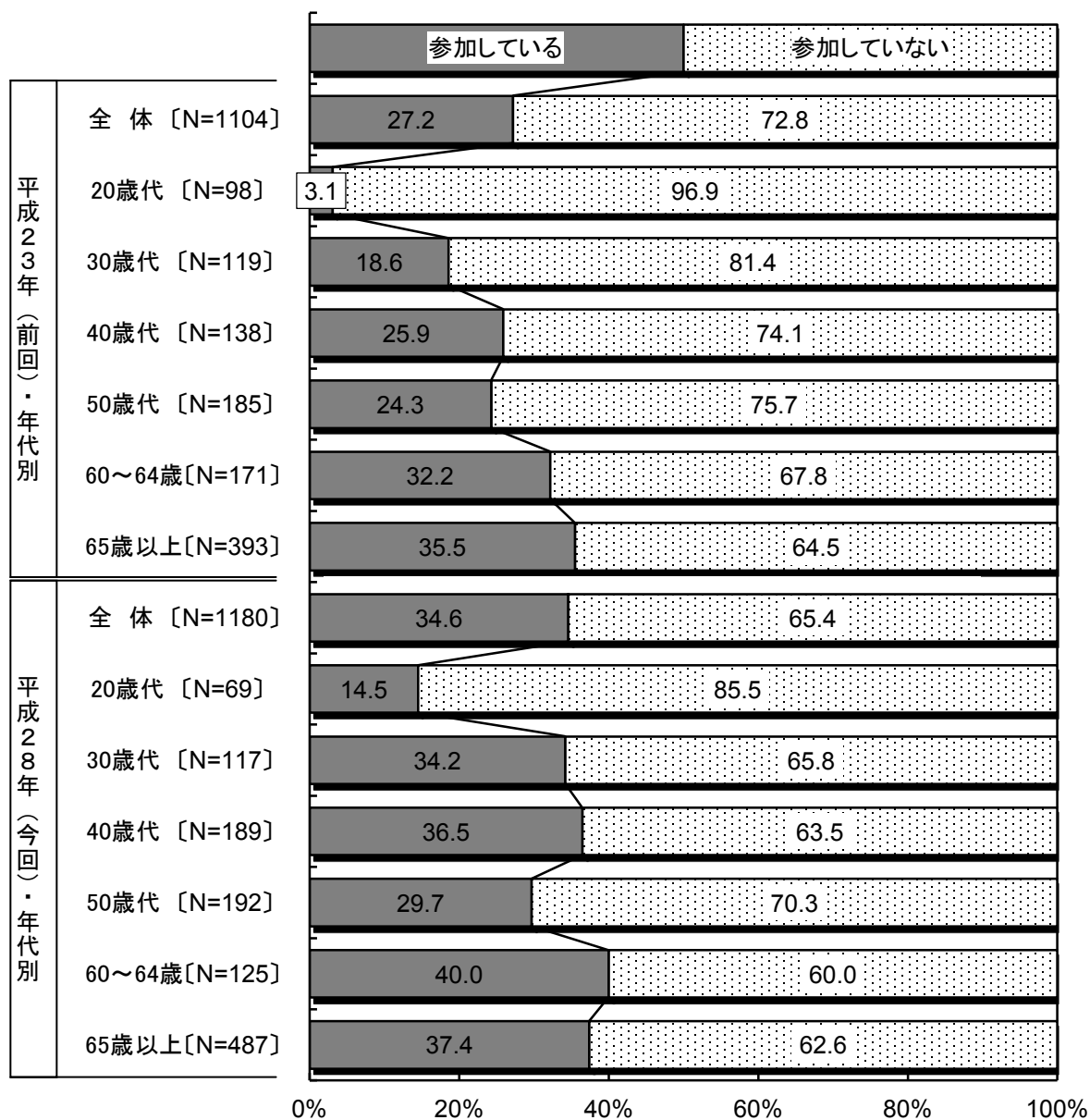


【年代別・過去調査との比較】

20歳代は「参加している」が14.5%で最も低い。

平成23年実施の呉市調査結果との比較では、65歳以上については平成23年調査の「参加している」が35.5%、今回調査は37.4%と差は1.9ポイントに留まっているが、他の年代では5.4ポイントから15.6ポイント増加しており、前回調査と比較してすべての年代の地域活動への参加が増加している。

9(1)-2図 地域活動，市民活動の参加について 【年代別・過去調査との比較】

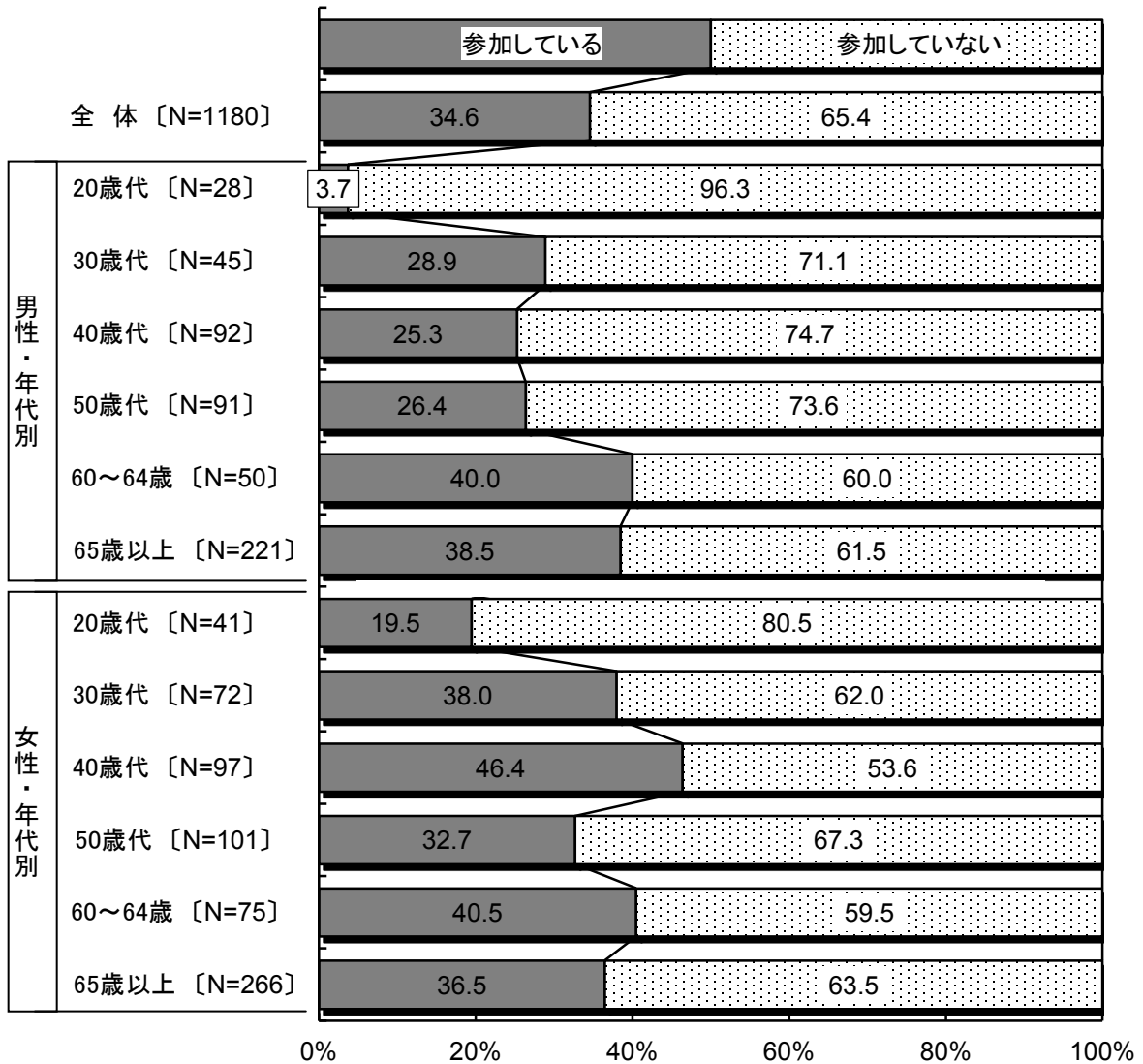


【性・年代別】

男性60～64歳，男性65歳以上は，「参加している」がそれぞれ40.0%，38.5%と他の男性の年代に比べて高い。また，男性20歳代は，「参加している」が3.7%と最も低い。

女性40歳代は，「参加している」が46.4%と最も高い。女性の20歳代は「参加している」が19.5%で，女性の年代の中では最も低いだが，男性20歳代に比べて15.8ポイント高い。

9(1)-3 図 地域活動，市民活動の参加について〔性・年代別〕

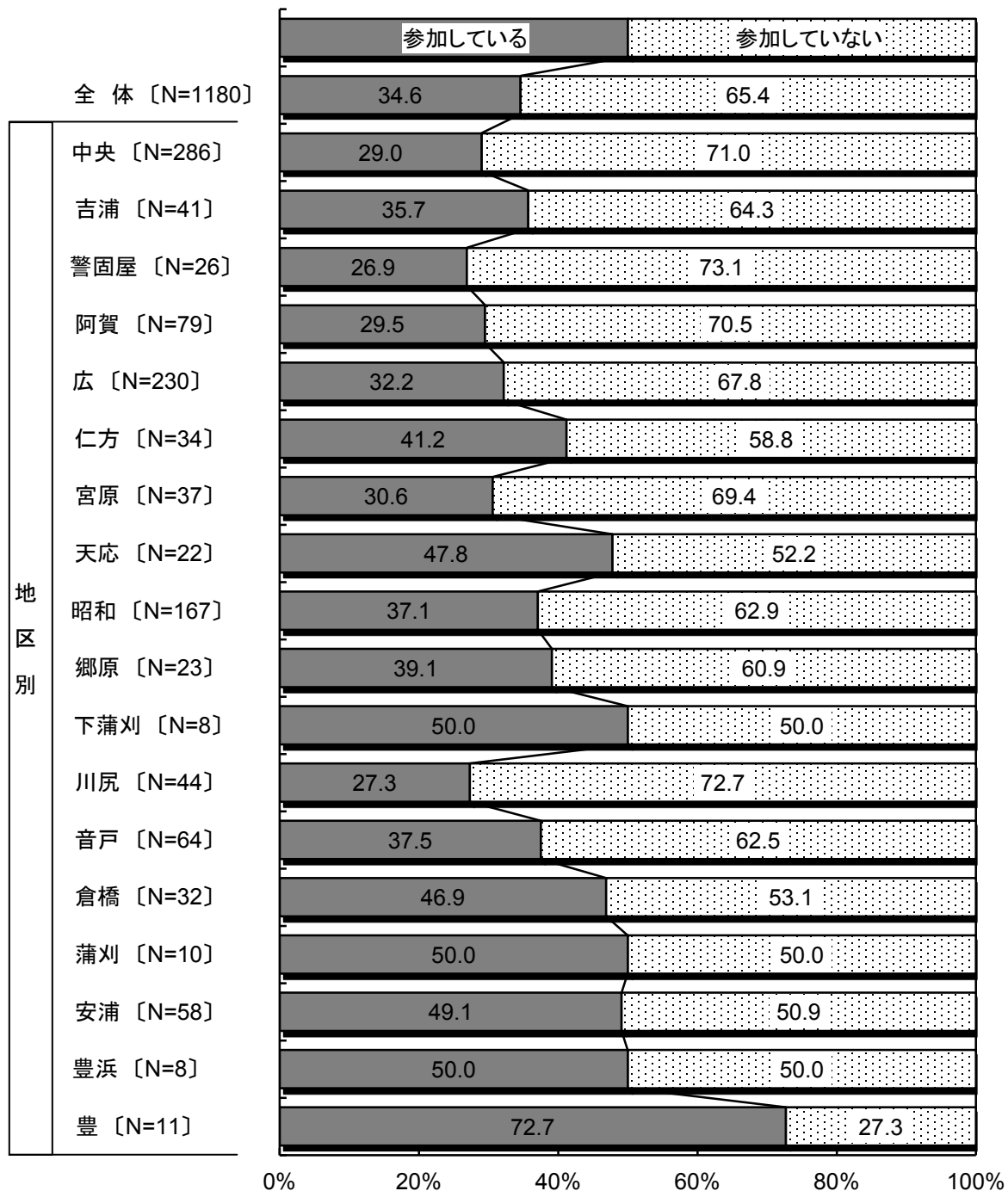


【地区別】

豊地区は、「参加している」が72.7%と最も高い。蒲刈地区が50.0%、安浦地区が49.1%、天応地区が47.8%、倉橋地区が46.9%、仁方地区が41.2%で、「参加している」が40%を超えている。

※下蒲刈、豊浜地区は標本数が少ないので参考掲載。

9(1)-4図 地域活動、市民活動の参加について〔地区別〕



(9-2) 活動に参加していない理由について〔複数回答〕

問9-2 あなたが、現在、活動に参加していない理由は何ですか。○はいくつでも

「きっかけがないから」	37.6%
「忙しく、時間がとれないから」	35.6%
「関心がないから」	27.8%

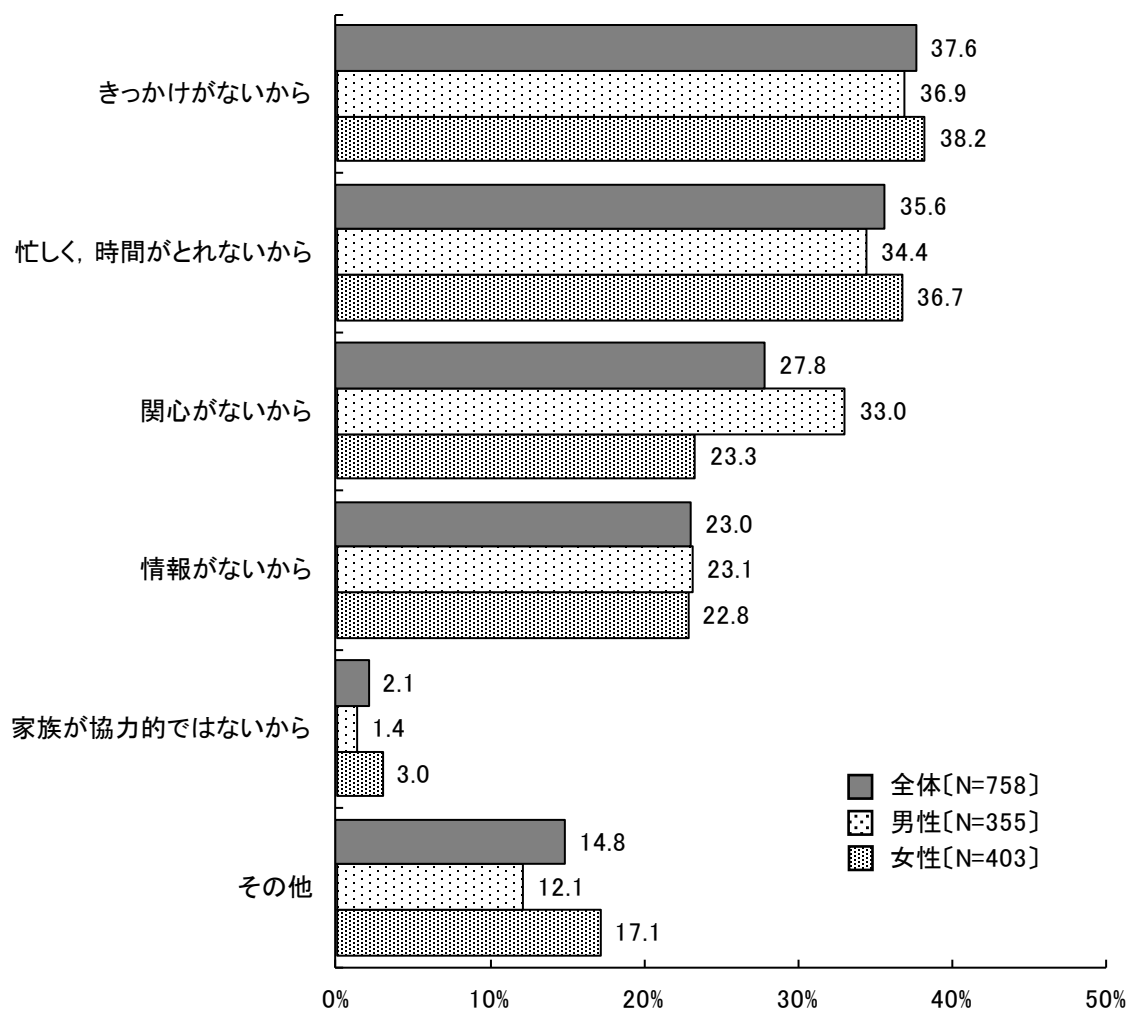
【全体】

「きっかけがないから」が37.6%と最も高く、「忙しく、時間がとれないから」が35.6%、「関心がないから」が27.8%と続いている。

【性別】

「関心がないから」は、男性が33.0%で、女性の23.3%より9.7ポイント高い。

9(2)-1 図 活動に参加していない理由について〔全体・性別〕

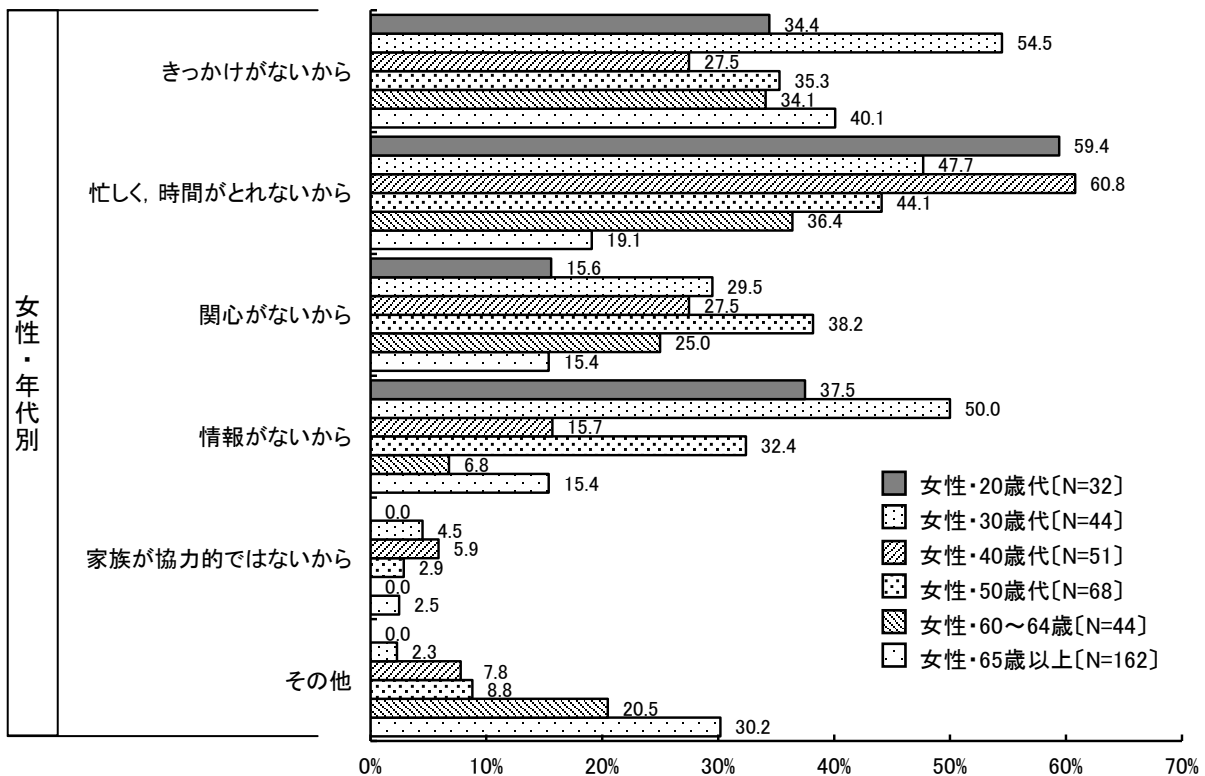
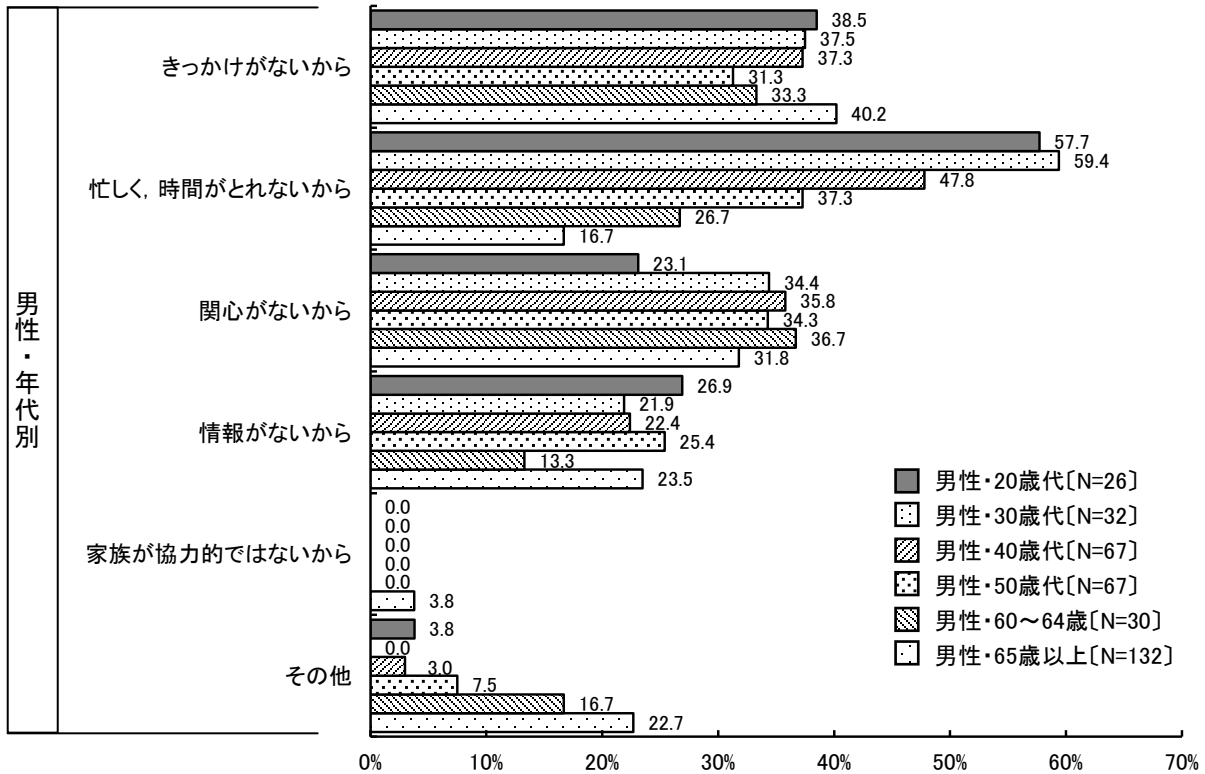


【性・年代別】

男性20歳代，男性30歳代，女性20歳代，女性40歳代は，「忙しく，時間がとれないから」が他の年代に比べて高い。

女性30歳代は，「きっかけがないから」，「情報がないから」が他の年代に比べて高い。

9(2)-2図 活動に参加していない理由について〔性・年代別〕



(10) 地域活動等の現状について〔複数回答〕

問10 あなたは、地域活動等の現状についてどのように思いますか。○はいくつでも

「男性の参加が少ない」	31.8%
「男女が平等に活動している」	25.4%
「団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく慣行がある」	23.7%

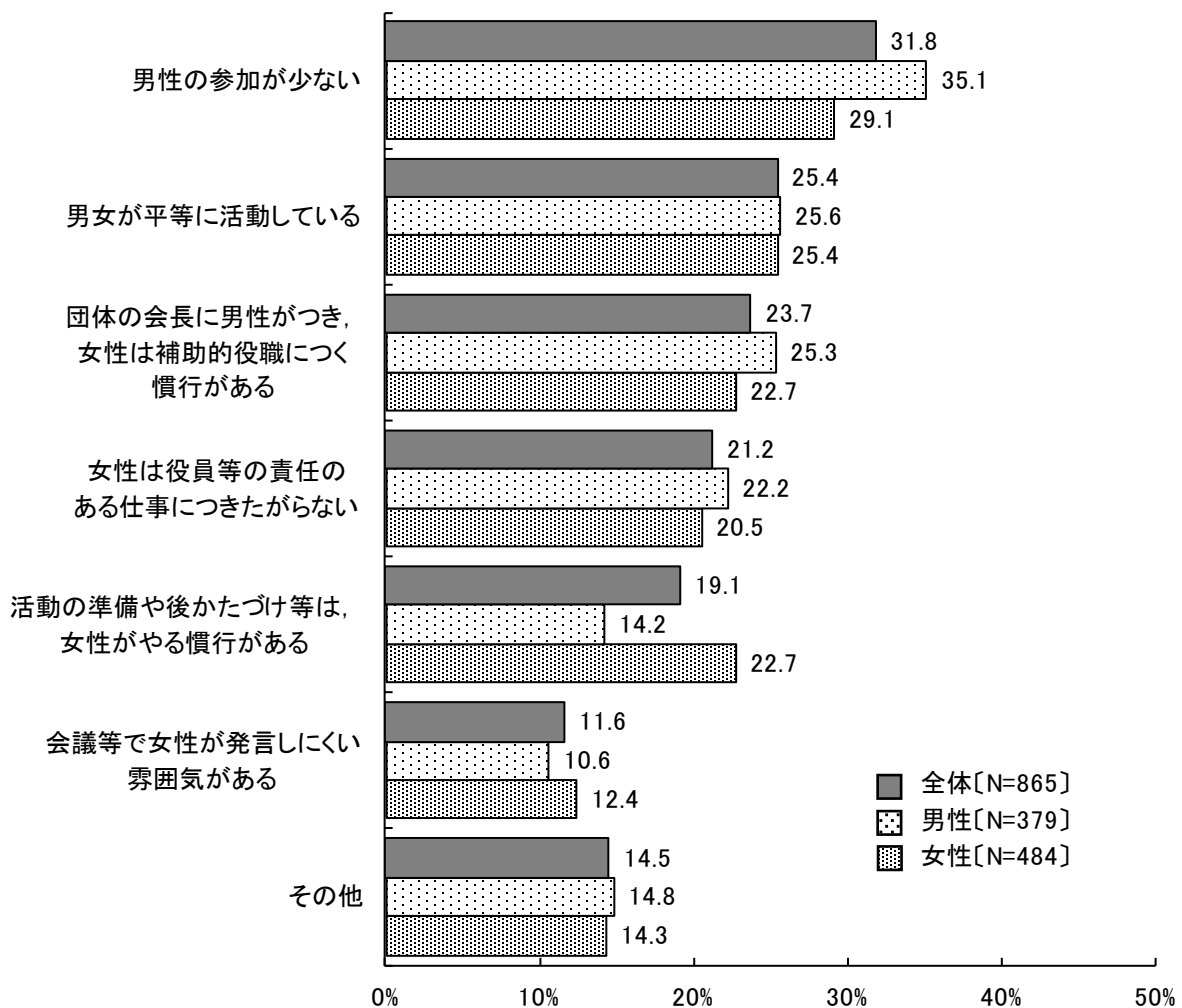
【全体】

「男性の参加が少ない」が31.8%と最も高く、「男女が平等に活動している」が25.4%、「団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく慣行がある」が23.7%、「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない」が21.2%で続いている。

【性別】

女性は、「活動の準備や後かたづけ等は、女性がやる慣行がある」が22.7%で男性の14.2%より8.5ポイント高い。

10-1図 地域活動等の現状について〔全体・性別〕

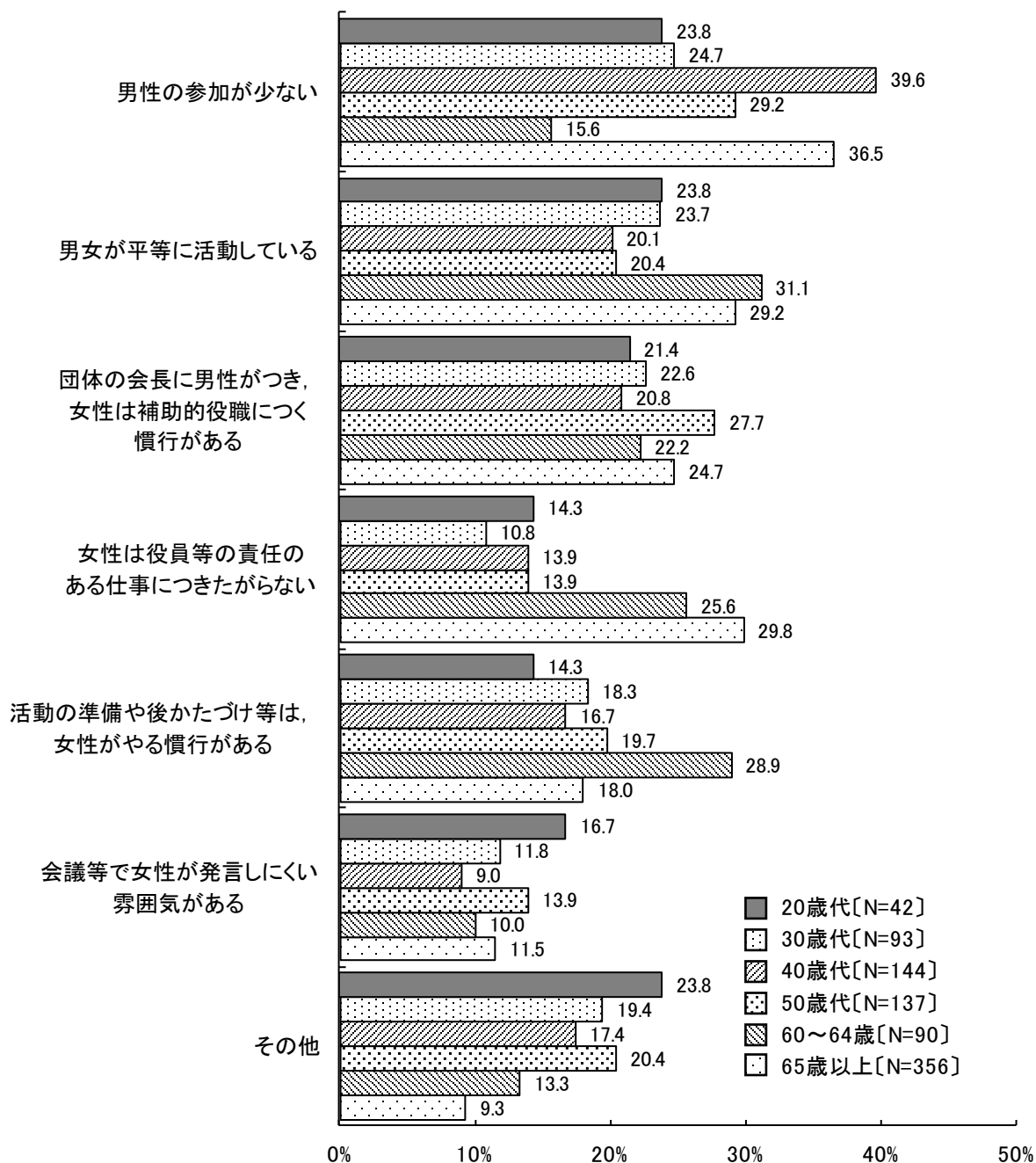


【年代別】

「男性の参加が少ない」は40歳代が39.6%，65歳以上が36.5%で他の年代に比べて高い。

「男女が平等に活動している」と、「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない」は60～64歳，65歳以上が他の年代に比べて高い。また，60～64歳は「活動の準備や後かたづけ等は，女性がやる慣行がある」についても28.9%で他の年代に比べて高い。

10-2図 地域活動等の現状について〔年代別〕



4. 仕事と家庭生活，地域活動・市民活動の両立について

(11) 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて

問11 あなたの生活における優先度について，あなたの**現実**と**理想**がいちばん近いものを，次の中から選んでください。**現実**と**理想**それぞれについて1～5のいずれかに○

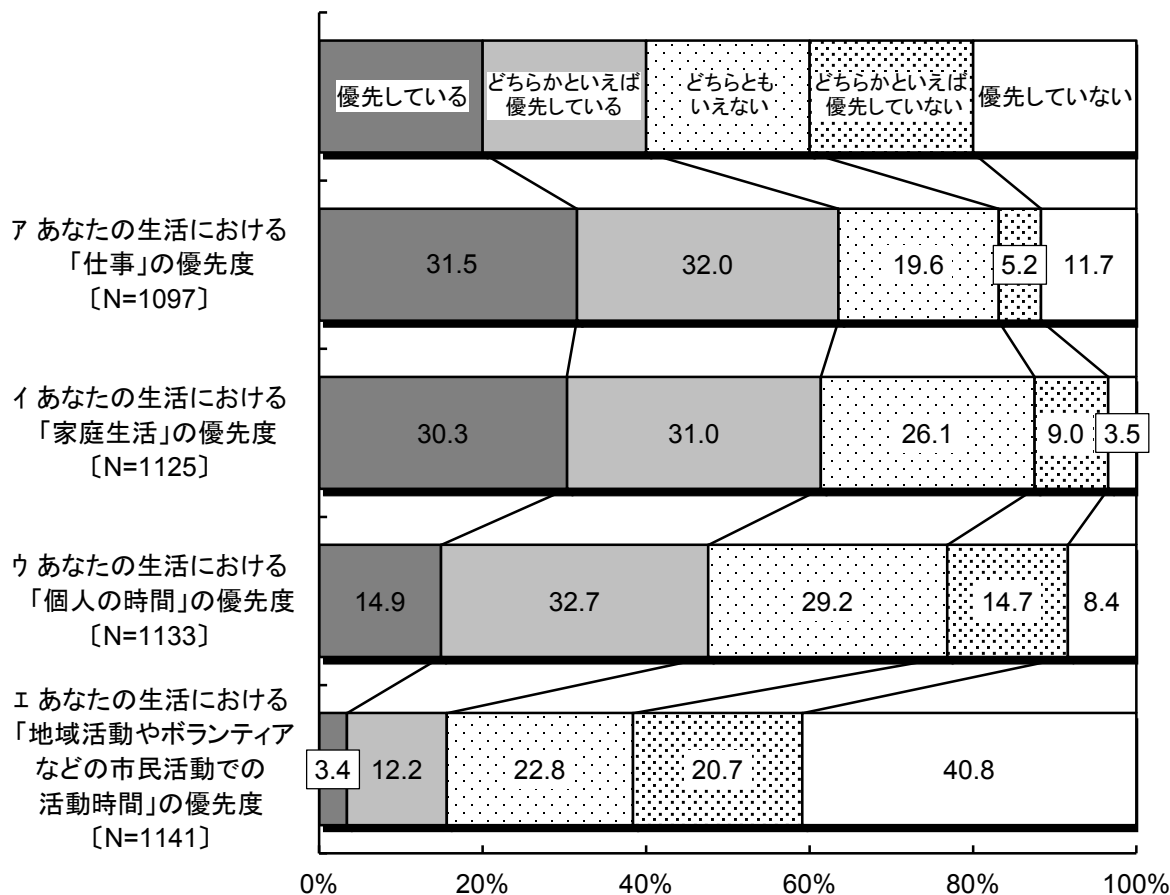
「仕事」「家庭生活」「個人の時間」
 ⇒『優先している』が『優先していない』より高い
 「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」
 ⇒『優先していない』が『優先している』より高い

【生活における**現実**の優先度】

■優先度	『優先している』	『優先していない』
ア 「仕事」の優先度	63.5%	16.9%
イ 「家庭生活」の優先度	61.3%	12.5%
ウ 「個人の時間」の優先度	47.6%	23.1%
エ 「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度	15.6%	61.5%

※「優先している」と「どちらかといえば優先している」を合わせて『優先している』，
 「優先していない」と「どちらかといえば優先していない」を合わせて『優先していない』とする。

11-1図 生活における<現実>の優先度〔全体〕

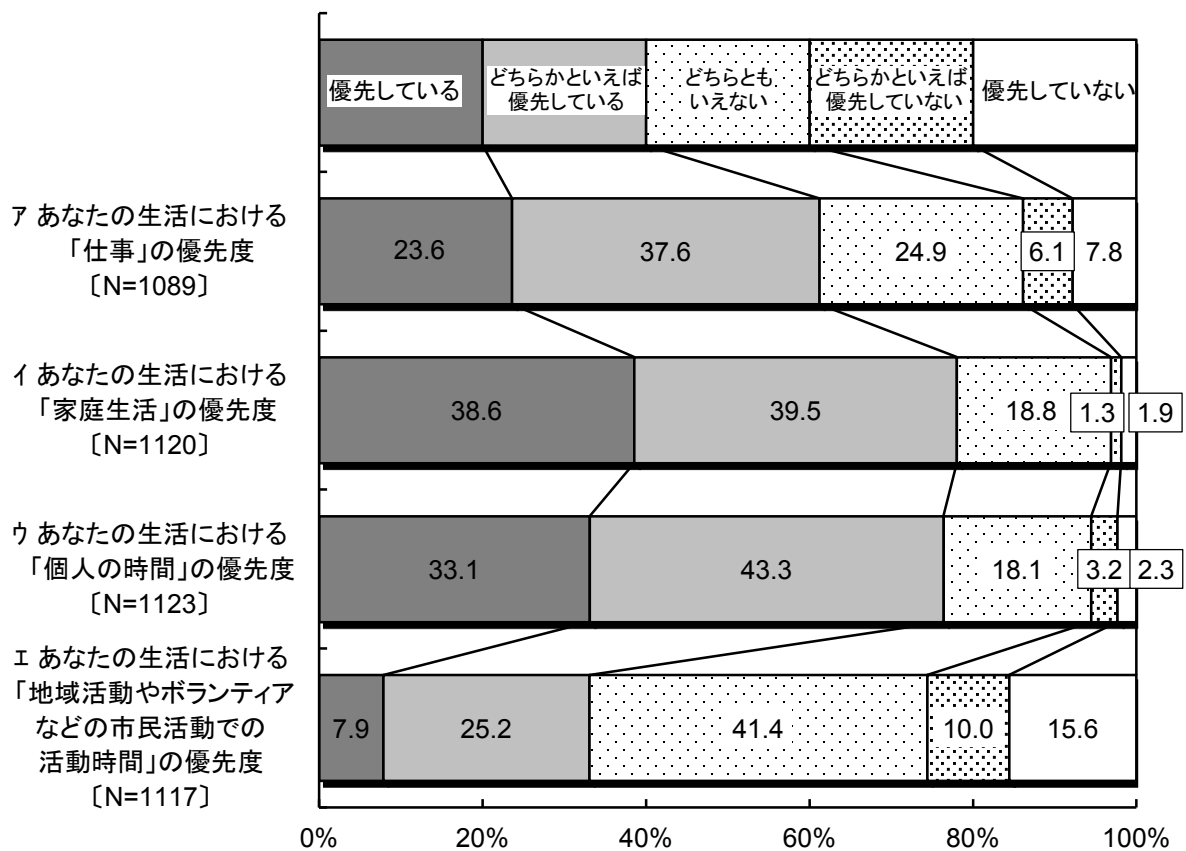


【生活における理想の優先度】

■優先度	『優先する』	『優先しない』
ア 「仕事」の優先度	61.2%	13.9%
イ 「家庭生活」の優先度	78.1%	3.2%
ウ 「個人の時間」の優先度	76.4%	5.5%
エ 「地域活動やボランティアなどの 市民活動での活動時間」の優先度	33.1%	25.6%

※「優先している」と「どちらかといえば優先している」を合わせて『優先する』、
「優先していない」と「どちらかといえば優先していない」を合わせて『優先しない』とする。

11-2図 生活における<理想>の優先度〔全体〕



ア あなたの生活における「仕事」の優先度（現実）

『優先している』は 63.5%

【全体】

「優先している」が31.5%、「どちらかといえば優先している」が32.0%で『優先している』は63.5%、「優先していない」が11.7%、「どちらかといえば優先していない」が5.2%で『優先していない』は16.9%と、『優先している』が大きく上回っている。

【性別】

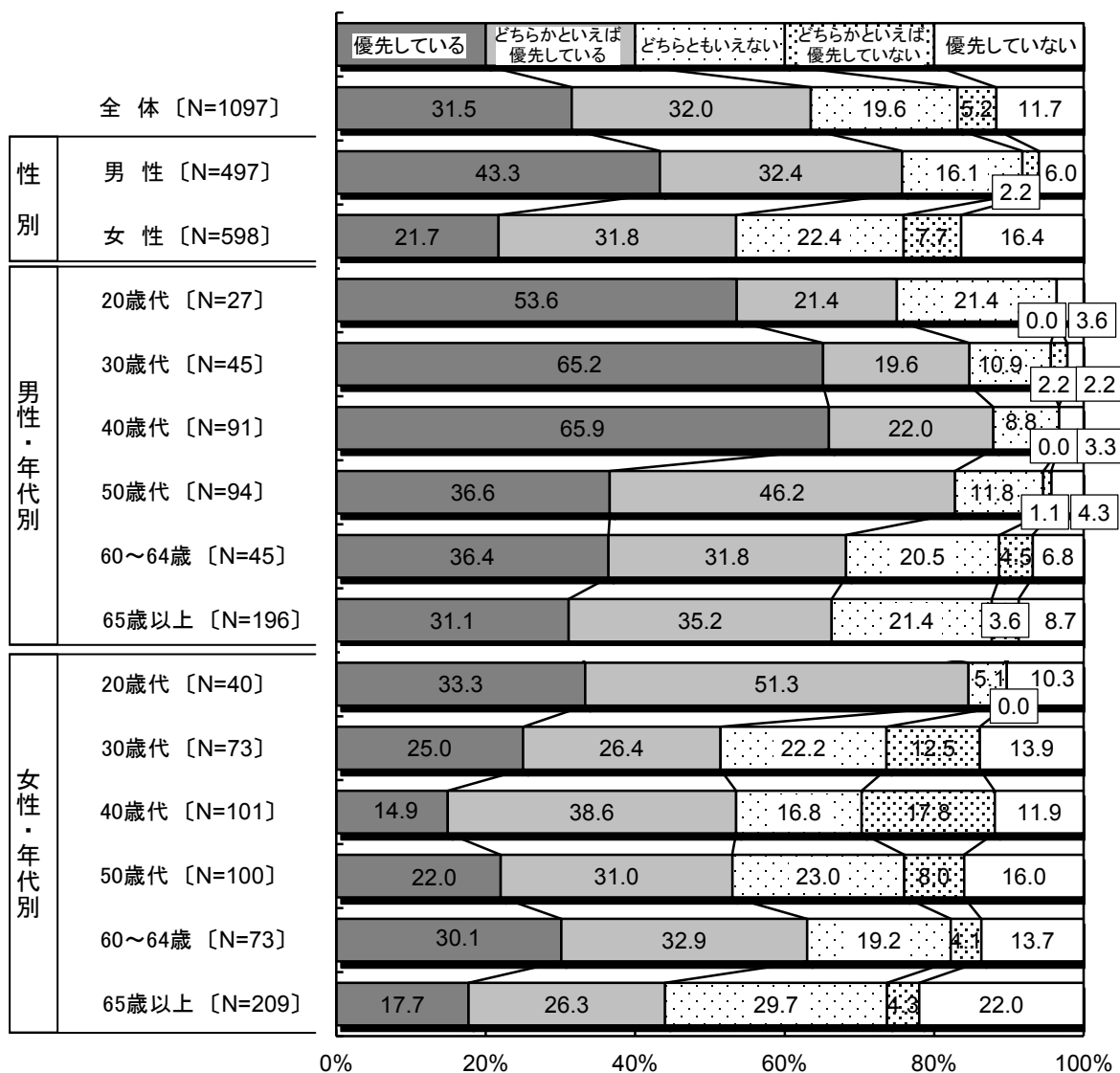
男性は、『優先している』が75.7%で女性の53.5%より22.2ポイント高い。

【性・年代別】

男性30歳代、男性40歳代は、「優先している」が65%を超え、他の年代に比べて高い。

女性40歳代は、「優先している」が14.9%、女性65歳以上17.7%で他の年代に比べて低い。

11-3図 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
（ア あなたの生活における「仕事」の優先度）



イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度（現実）

『優先している』は61.3%

【全体】

「優先している」が30.3%、「どちらかといえば優先している」が31.0%で『優先している』は61.3%、「優先していない」が3.5%、「どちらかといえば優先していない」が9.0%で『優先していない』は12.5%と、『優先している』が大きく上回っている。

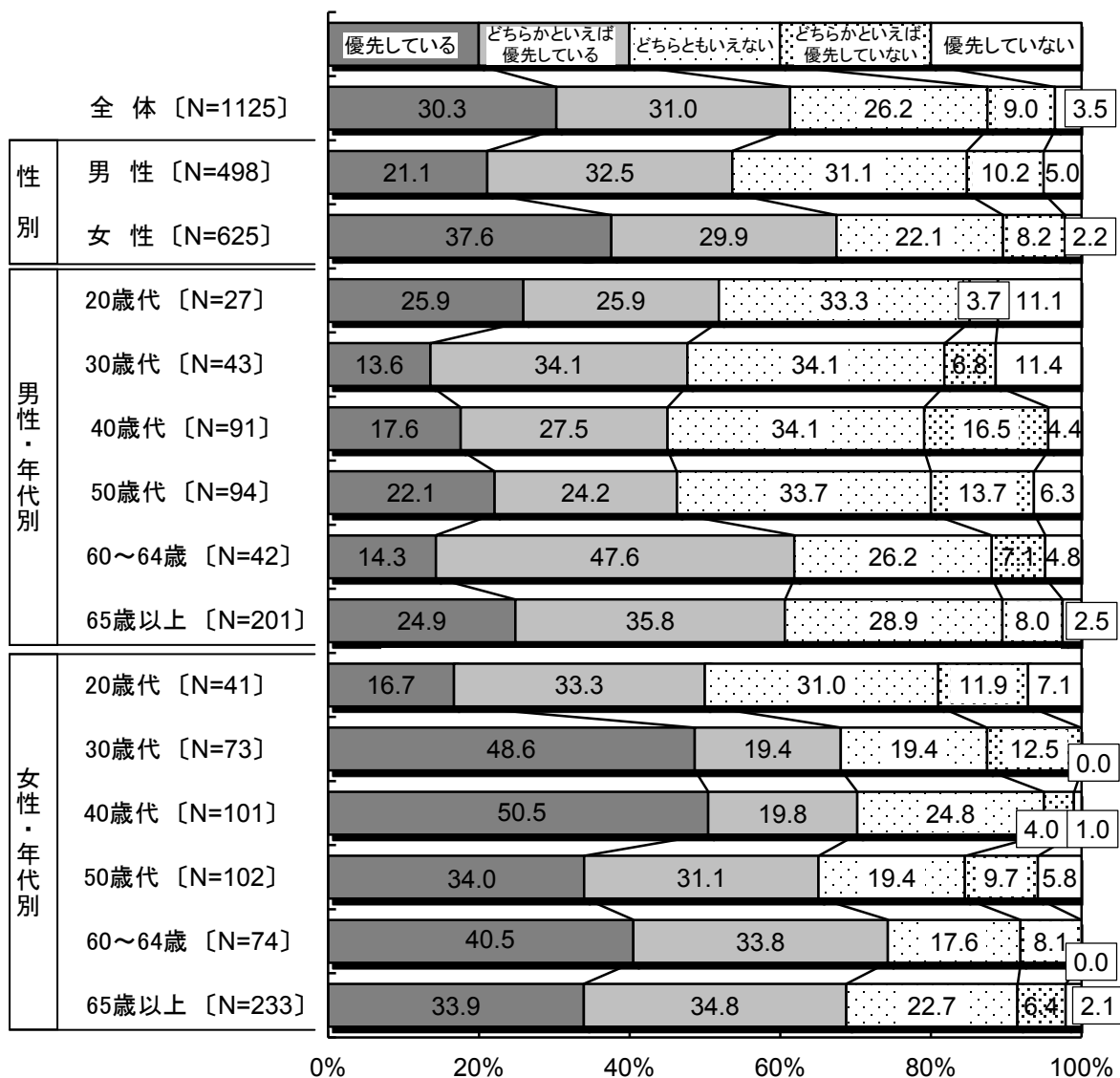
【性別】

男性は、『優先している』が53.6%、女性は67.5%で、『優先していない』を上回っている。女性は、『優先している』が男性より13.9ポイント高い。

【性・年代別】

男性30歳代、男性40歳代、男性50歳代、女性20歳代は、『優先している』が50.0%以下で他の年代に比べて低い。また、男性30歳代は、「優先している」が13.6%で他の年代に比べて低い。

11-4図 生活における優先度で現実には一番近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
（イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度）



ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度（現実）

『優先している』は47.6%

【全体】

「優先している」が14.9%、「どちらかといえば優先している」が32.7%で『優先している』は47.6%、「優先していない」が8.4%、「どちらかといえば優先していない」が14.8%で『優先していない』は23.2%と『優先している』が大きく上回っている。

【性別】

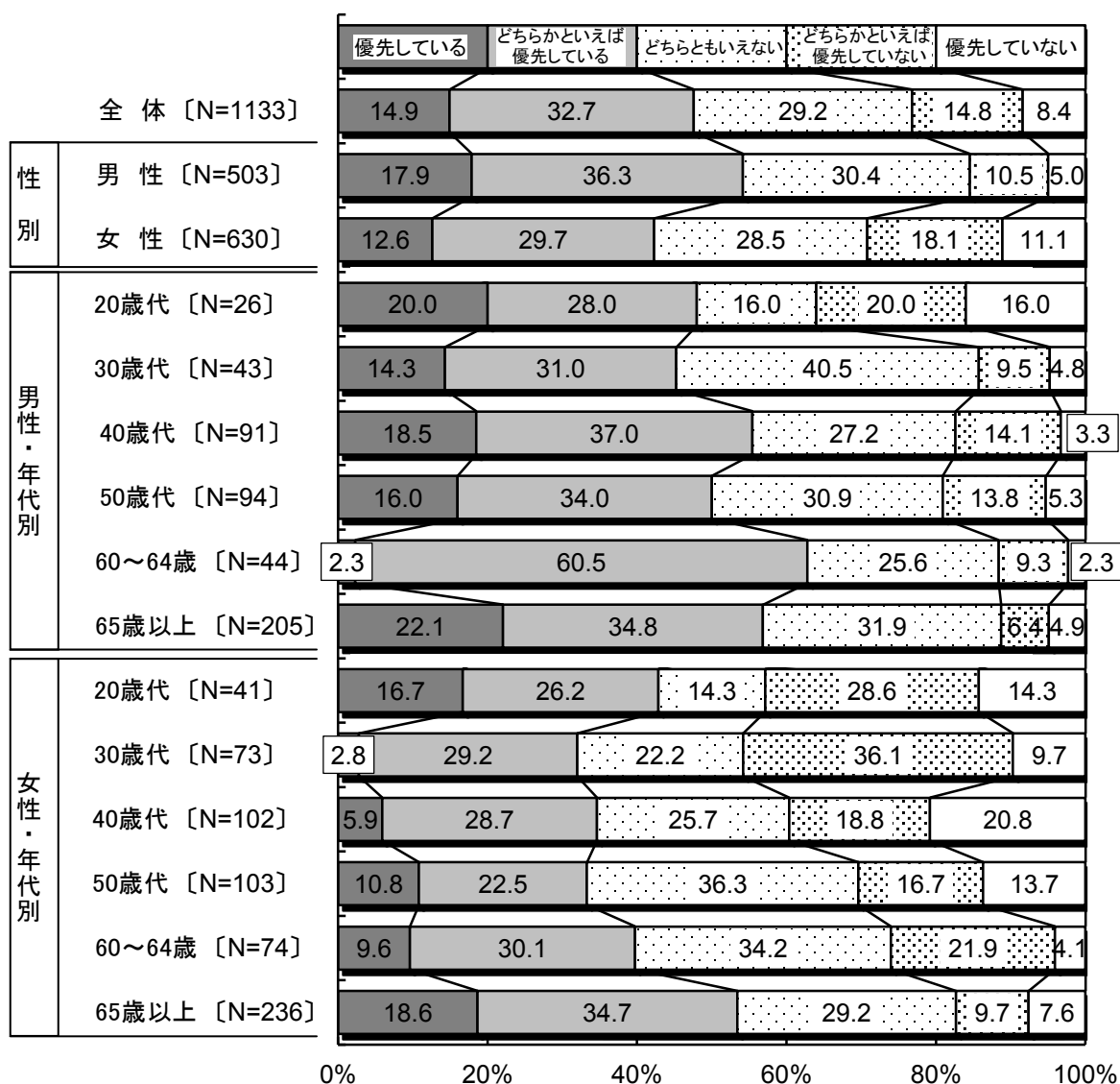
男性は、『優先している』が54.2%、女性は42.3%で、『優先していない』を大きく上回っている。男性は、『優先している』が女性より11.9ポイント高い。

【性・年代別】

男性60～64歳は、『優先している』が62.8%で他の年代より高い。

女性30歳代、女性50歳代は、『優先している』がそれぞれ32.0%、33.3%で他の年代に比べて低い。

11-5図 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
（ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度）



エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度（現実）

『優先していない』は61.6%で『優先している』は15.6%

【全体】

「優先している」が3.4%、「どちらかといえば優先している」が12.2%で『優先している』は15.6%、「優先していない」が40.9%、「どちらかといえば優先していない」が20.7%で『優先していない』は61.6%と『優先していない』が大きく上回っている。

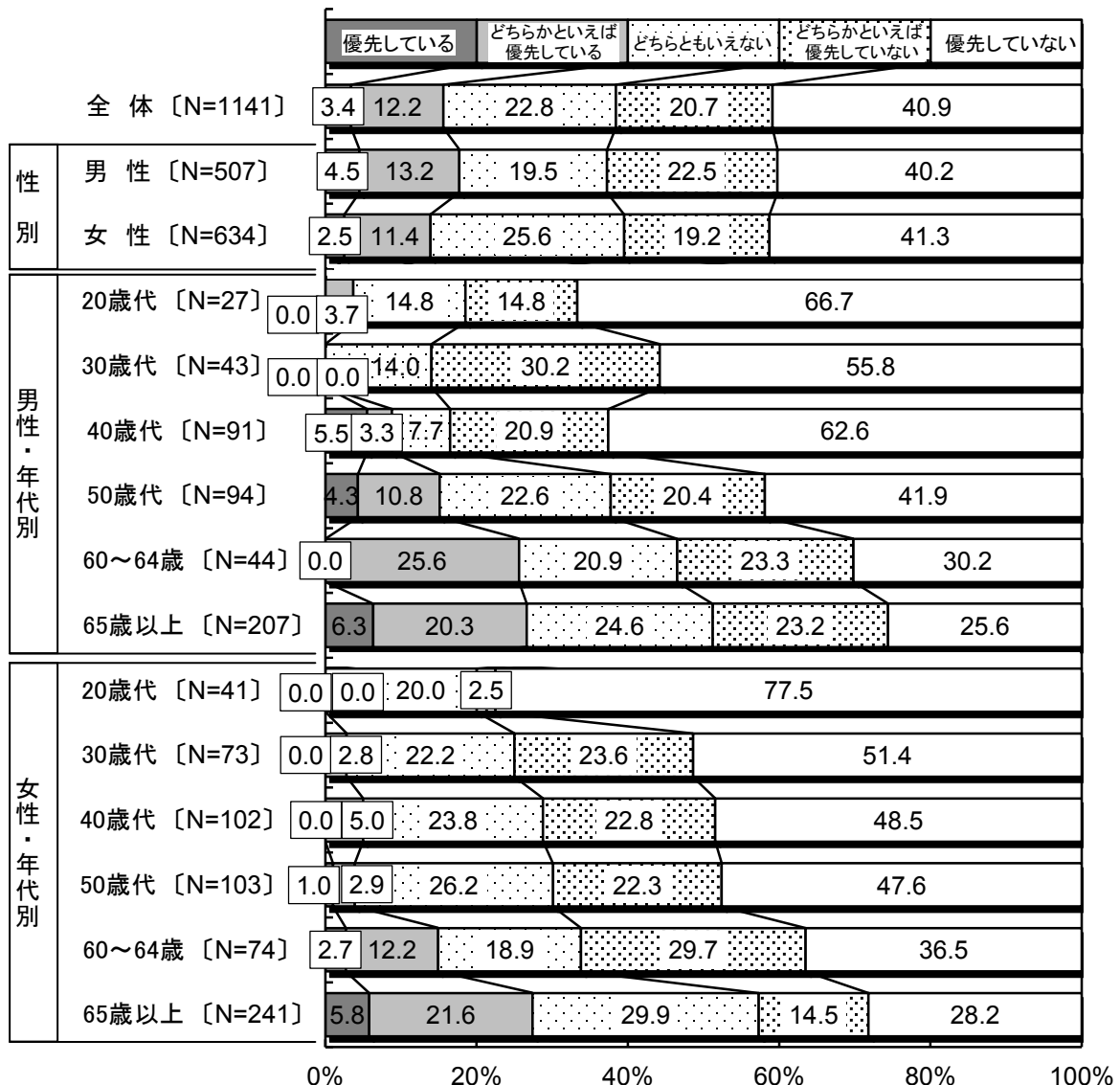
【性別】

男性は、『優先している』が17.7%で、女性の13.9%より3.8ポイント高い。女性は、「どちらともいえない」が25.6%で男性の19.5%より6.1ポイント高い。

【性・年代別】

男性60～64歳，男性65歳以上，女性65歳以上は、『優先している』が他の年代に比べて高く，男性20歳代，女性20歳代，男性30歳代，男性40歳代は、『優先していない』が80%以上で他の年代に比べて高い。

11-6図 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
（エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度）



ア あなたの生活における「仕事」の優先度（理想）

『優先する』は61.2%

【全体】

「優先する」が23.6%、「どちらかといえば優先する」が37.6%で『優先する』は61.2%、「優先しない」が7.8%、「どちらかといえば優先しない」が6.1%で『優先しない』は13.9%と『優先する』が大きく上回っている。

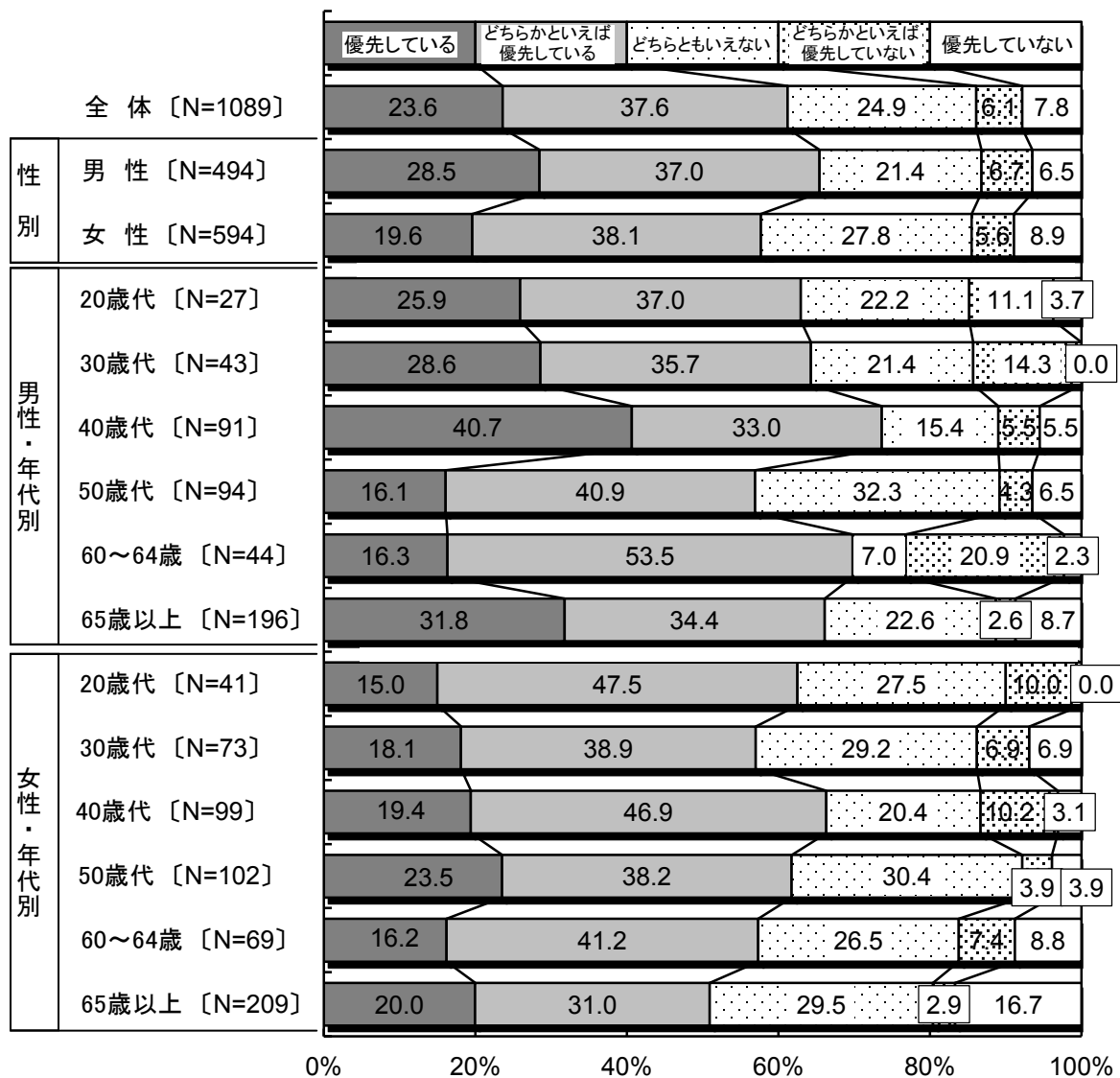
【性別】

男性は、『優先する』が65.5%で女性の57.7%より7.8ポイント高い。

【性・年代別】

男性40歳代は、『優先する』が73.7%で他の年代に比べて高い。また、「優先する」が40.7%で他の年代に比べ高い。

11-7図 生活における優先度で理想にいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
(ア あなたの生活における「仕事」の優先度)



イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度（理想）

『優先する』は 78.1%

【全体】

「優先する」が38.6%、「どちらかといえば優先する」が39.5%で『優先する』は78.1%、「優先しない」が1.9%、「どちらかといえば優先しない」が1.3%で『優先しない』は3.2%で『優先する』が大きく上回っている。

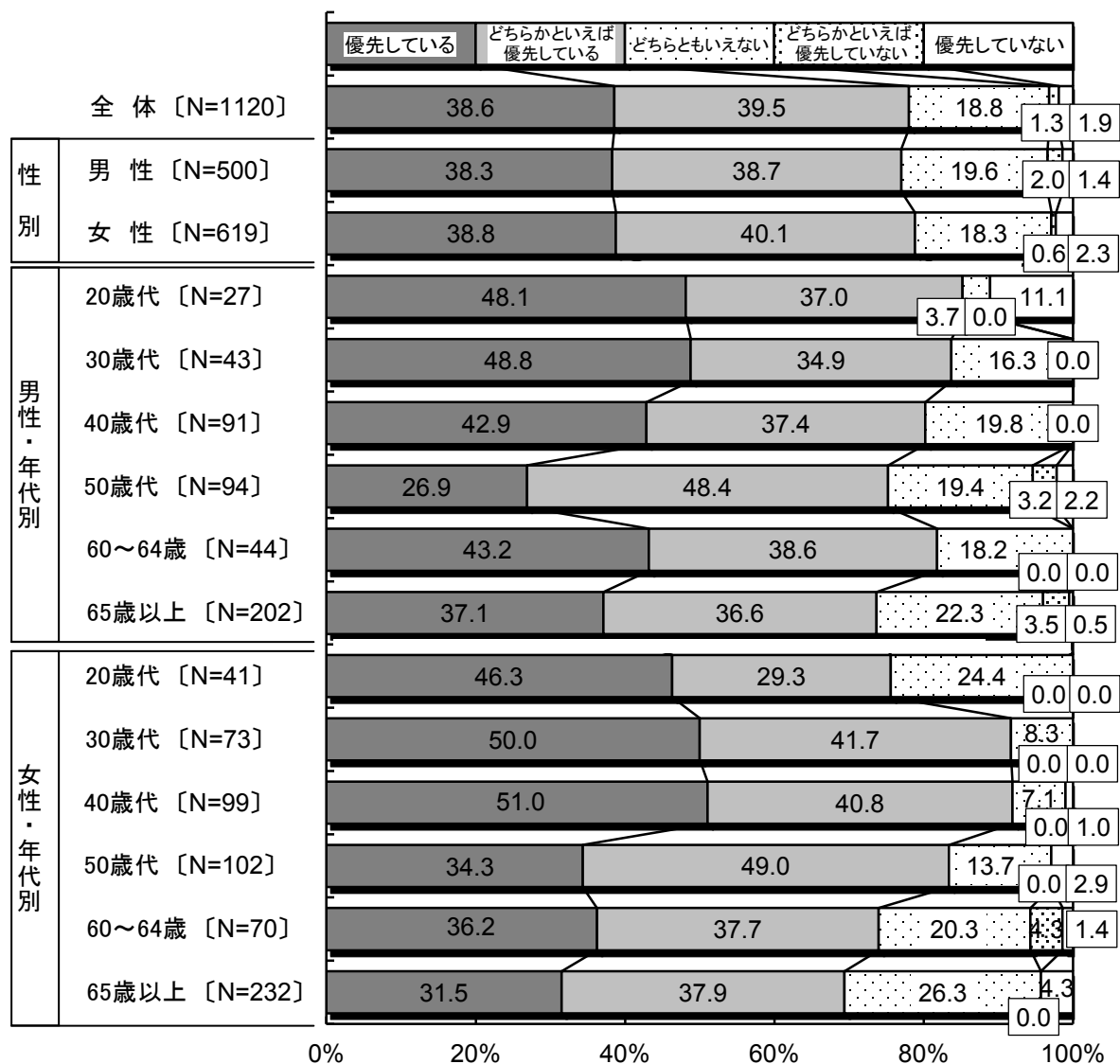
【性別】

特に大きな差異はない。

【性・年代別】

女性30歳代、女性40歳代は、『優先する』が90%程度で他の年代に比べて高い。また、男性50歳代は、「優先する」が26.9%で他の年代に比べて低い。

11-8図 生活における優先度で理想にいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
（イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度）



ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度（理想）

『優先する』は76.4%

【全体】

「優先する」が33.1%、「どちらかといえば優先する」が43.3%で『優先する』は76.4%、「優先しない」が2.3%、「どちらかといえば優先しない」が3.2%で『優先しない』は5.5%と『優先する』が大きく上回っている。

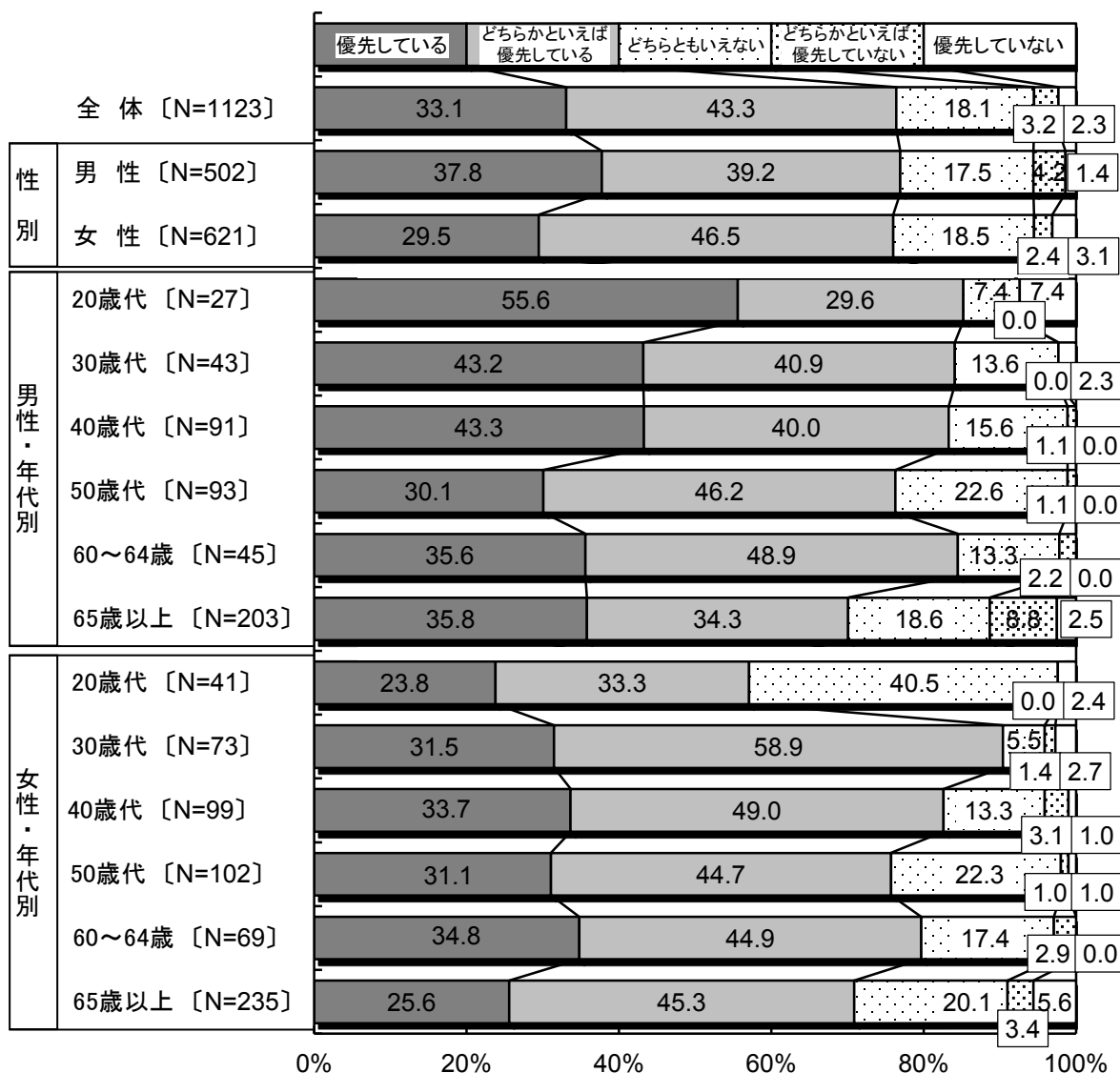
【性別】

男性は、「優先する」が37.8%で女性の29.5%より8.3ポイント高い。

【性・年代別】

男性20歳代は、「優先する」が55.6%で他の年代に比べて高く、『優先する』は女性30歳代が90.4%で他の年代に比べて高い。

11-9図 生活における優先度で理想にいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
（ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度）



エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度（理想）

『優先する』は33.1% 「どちらともいえない」が41.3%

【全体】

「どちらともいえない」が41.3%と最も高く、『優先する』は33.1%、『優先しない』は25.6%。

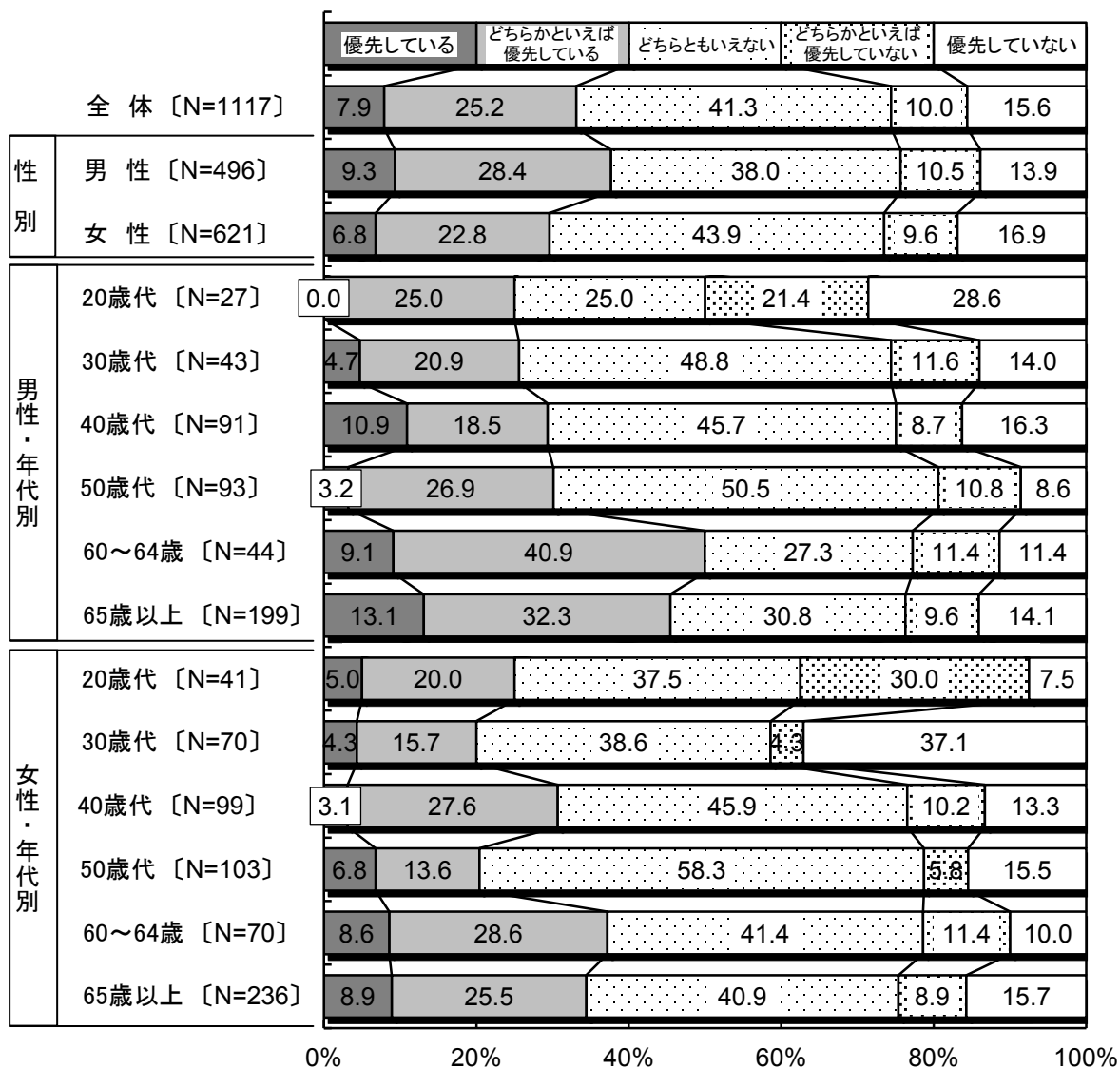
【性別】

男性は、『優先する』が37.7%で女性の29.6%より8.1ポイント高い。

【性・年代別】

男性60～64歳は、『優先する』が50.0%で他の年代に比べて高い。『優先しない』は男性20歳代が50%で最も高く、「優先しない」は女性30歳代が37.1%で最も高い。

11-10図 生活における優先度で理想にいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
 (エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度)



■生活における優先度で現実と理想の比較について

【全体】

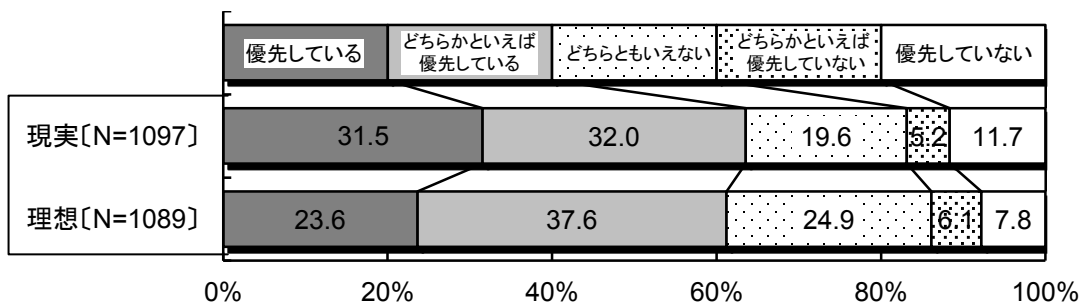
優先度で現実と理想の差が最も大きいのは、『個人の時間』で、「理想」が76.4%に対し、「現実」は47.6%で28.8ポイントの差がある。

次いで差が大きいのは『市民活動での活動時間』で、「理想」が33.1%に対し、「現実」は15.6%で17.5ポイントの差がある。『家庭生活』についても「理想」が78.1%に対し、「現実」は61.3%で16.8ポイントの差がある。

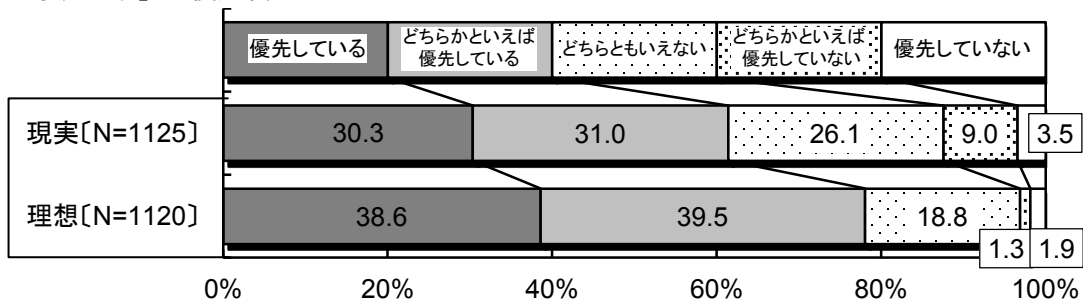
※「優先する」は現実では「優先している」、「優先しない」は現実では「優先していない」。

11-11図 生活における優先順位で現実と理想の比較について〔全体〕

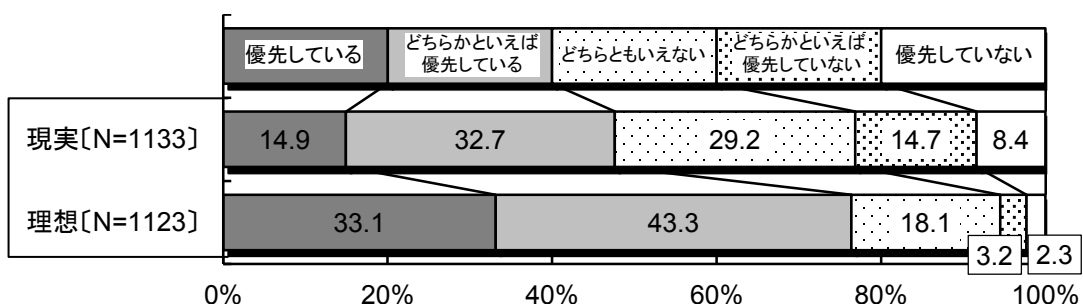
ア「仕事」の優先度



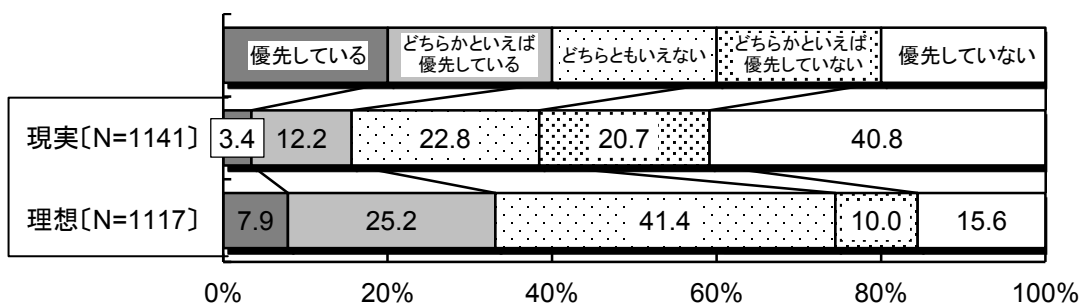
イ「家庭生活」の優先度



ウ「個人の時間」の優先度



エ「市民活動での活動時間」の優先度



(12) 男性が家事,育児,介護等に参加していくために必要なことについて〔複数回答〕

問12 あなたは、今後、男性が女性とともに、家事、育児、介護、地域活動やボランティアなどの市民活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
○は3つまで

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」	45.8%
「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること」	37.3%
「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと」	34.2%

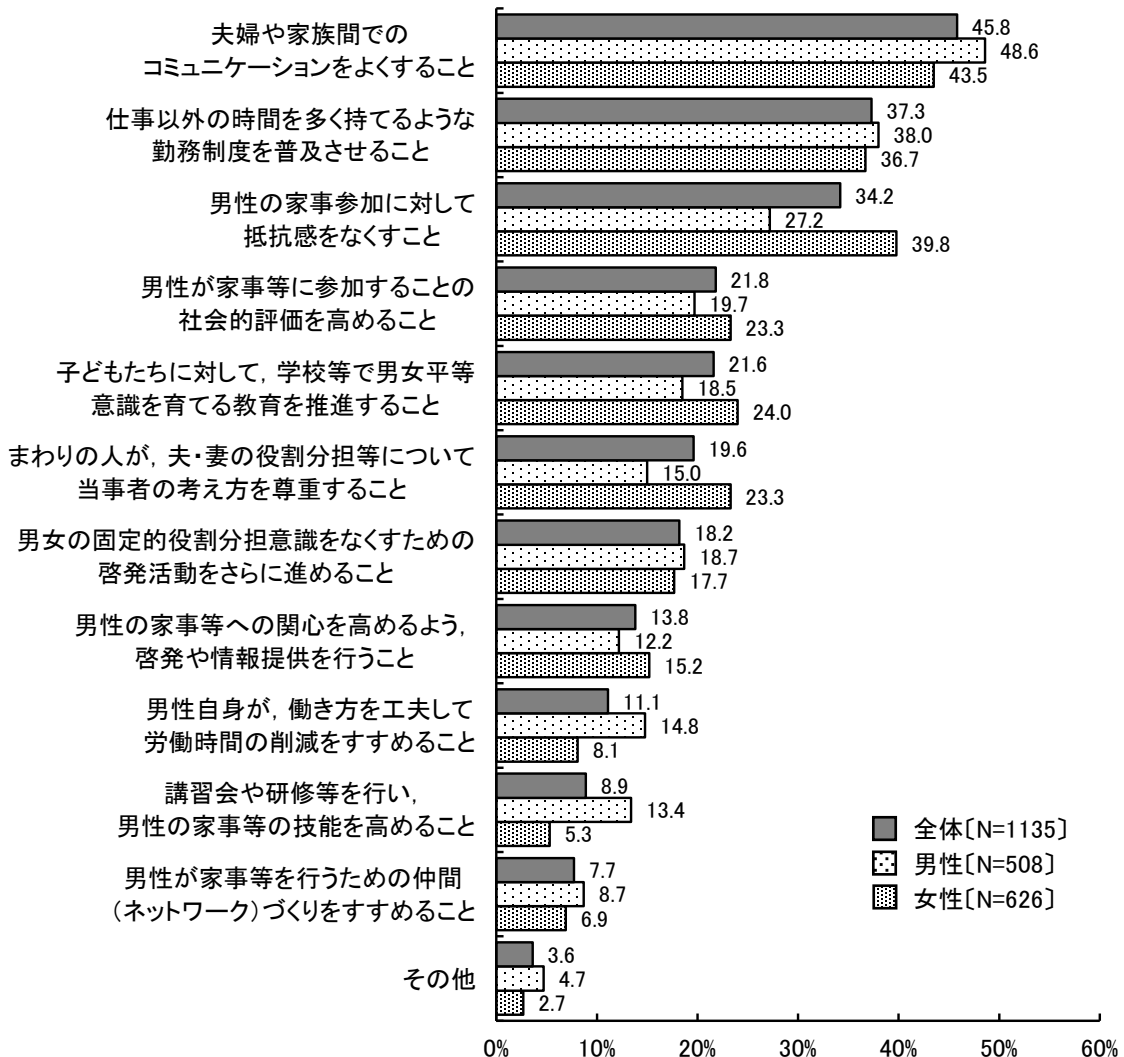
【全体】

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」が45.8%と最も高く、「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること」が37.3%、「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと」が34.2%で続いている。

【性別】

男性は、「講習会や研修等を行い、男性の家事等の技能を高めること」が13.4%、「男性自身が働き方を工夫して労働時間の削減をすすめること」が14.8%で女性に比べて高い。女性は、「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと」が39.8%、「まわりの人が、夫・妻の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」が23.3%で男性に比べて高い。

12-1図 男性が家事,育児,介護等に参加していくために必要なことについて〔全体・性別〕

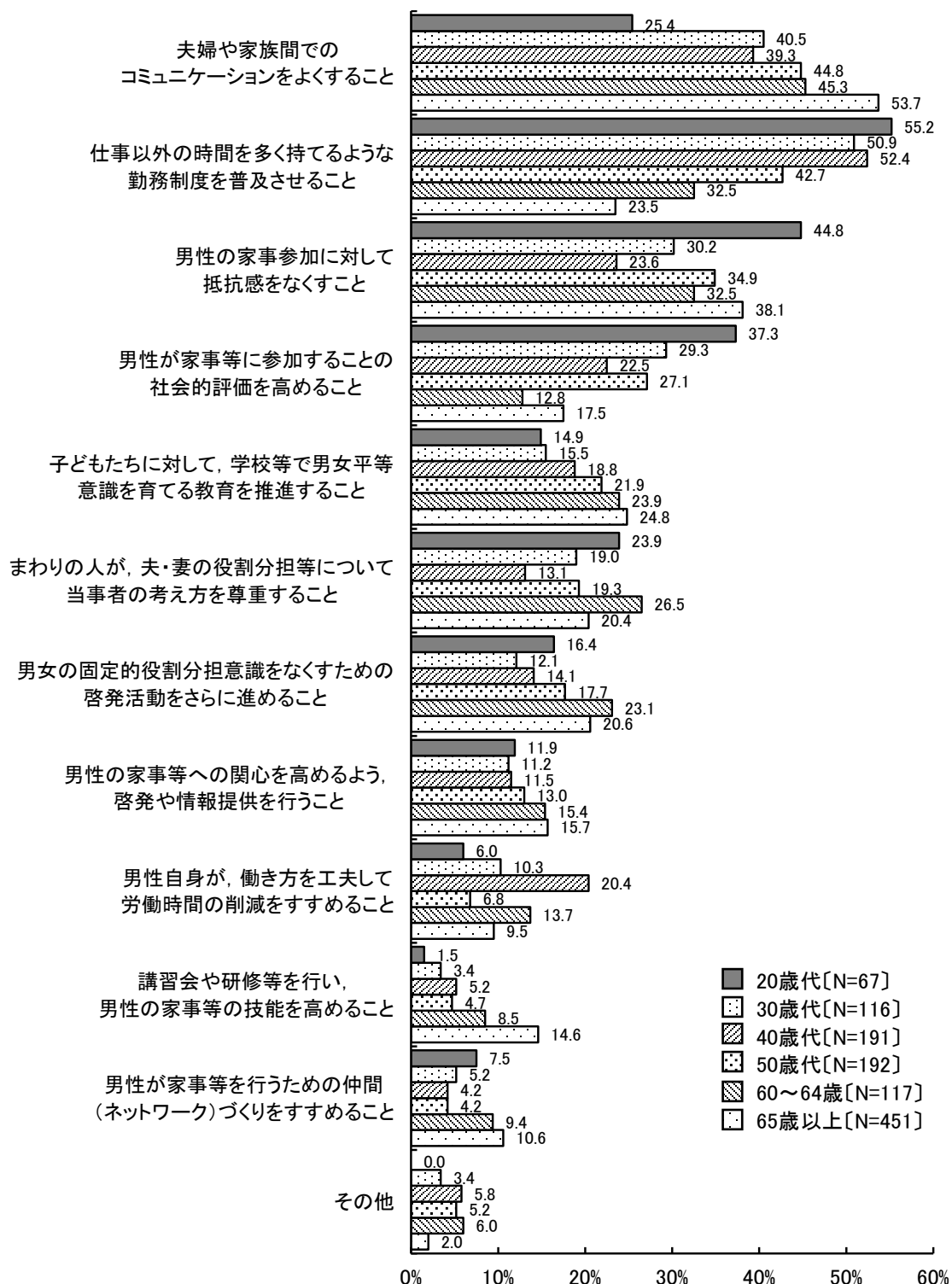


【年代別】

65歳以上は、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」が53.7%で他の年代に比べて高い。20歳代は、「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと」が44.8%で他の年代に比べて高い。20歳代、30歳代、40歳代は「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること」が50%以上で他の年代に比べて高い。

また、40歳代は、「男性自身が働き方を工夫して労働時間の削減をすすめること」が20.4%で、他の年代に比べて高い。

12-2図 男性が家事, 育児, 介護等に参加していくために必要なことについて〔年代別〕



5. 子育てについて

(13) 子どもの育て方について

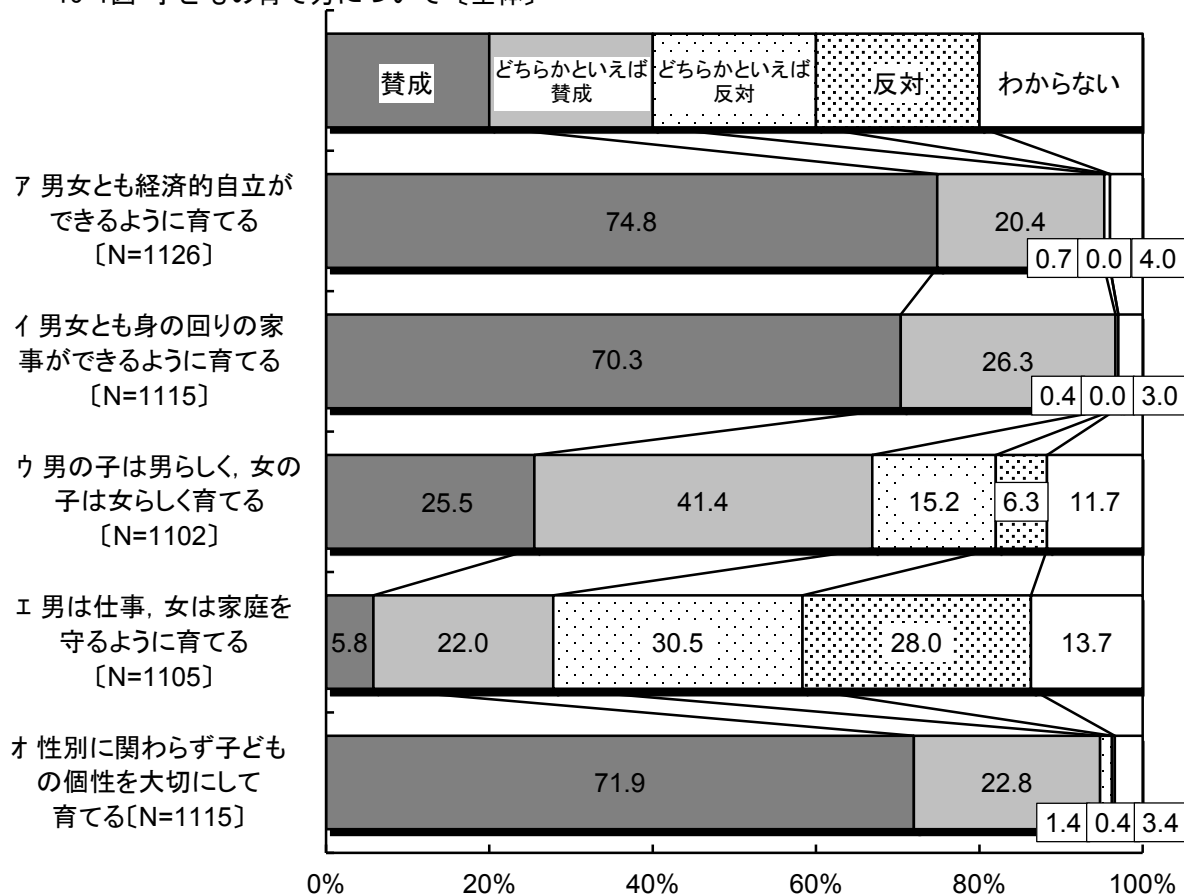
問13 あなたは、子どもの育て方に関する次のような方針について、どのように考えていますか。

「男女とも身の回りの家事ができるように育てる」	『賛成派』 96.6%
「男女とも経済的自立ができるように育てる」	『賛成派』 95.2%
「性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる」	『賛成派』 94.7%
「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」	『賛成派』 66.9%
⇒ 『賛成派』が『反対派』より高い	
「男は仕事、女は家庭を守るように育てる」	『反対派』 58.5%
⇒ 『反対派』が『賛成派』より高い	

※「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせて『賛成派』、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせて『反対派』とする。

■ 『賛成派』と『反対派』	『賛成派』	『反対派』
ア 「男女とも経済的自立ができるように育てる」	95.2%	0.7%
イ 「男女とも身の回りの家事ができるように育てる」	96.6%	0.4%
ウ 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」	66.9%	21.5%
エ 「男は仕事、女は家庭を守るように育てる」	27.8%	58.5%
オ 「性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる」	94.7%	1.8%

13-1図 子どもの育て方について〔全体〕



ア 男女とも経済的自立ができるように育てる

『賛成派』 95.2%, 『反対派』 0.7% ⇒ 『賛成派』が高い

【全体】

「賛成」が74.8%, 「どちらかといえば賛成」が20.4%で『賛成派』は95.2%, 「反対」が0.0%, 「どちらかといえば反対」が0.7%で『反対派』は0.7%と、『賛成派』が大きく上回っている。

【性別】

女性は、「賛成」が77.9%で男性の70.8%より7.1ポイント高い。

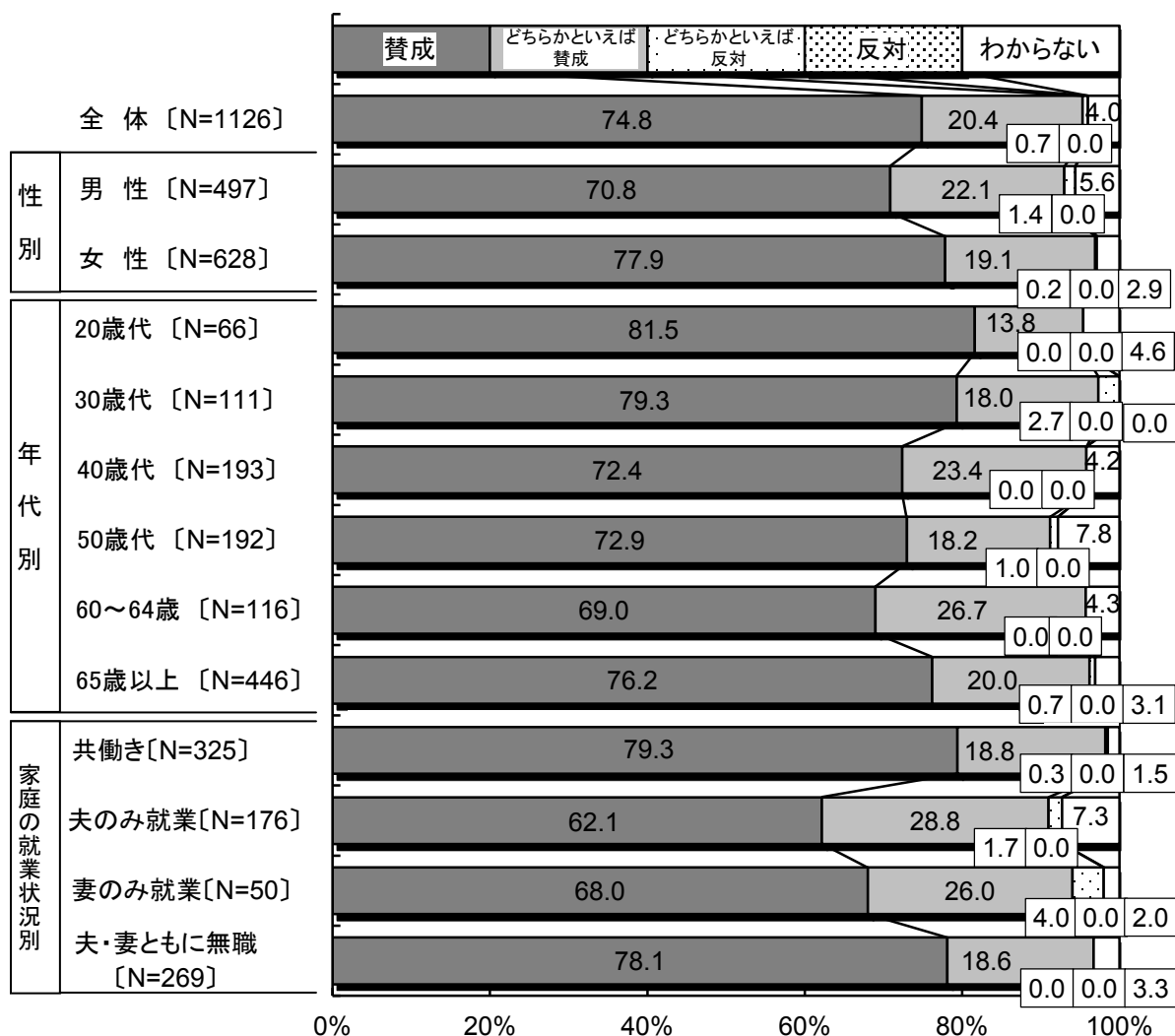
【年代別】

特に大きな差異はない。

【家庭の就業状況別】

夫のみ就業家庭と妻のみ就業家庭は、「賛成」が、それぞれ62.1%, 68.0%と他の就業家庭より低い。

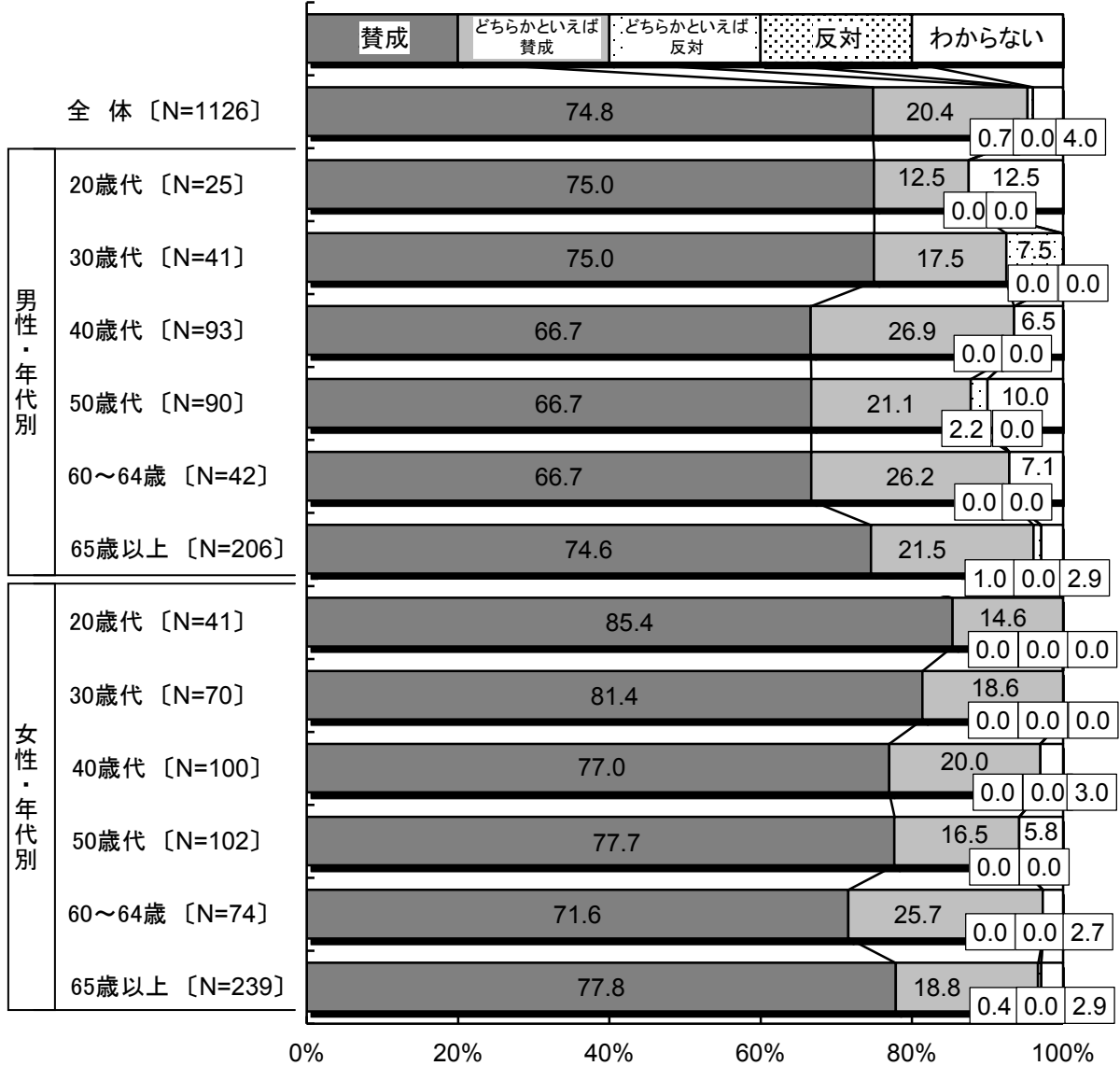
13-2図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別〕
(7 男女とも経済的自立ができるように育てる)



【性・年代別】

『賛成派』は、特に大きな差異はないが、女性20歳代は、「賛成」が85.4%と他の年代に比べて高い。

13-3図 子どもの育て方について〔性・年代別〕
(ア 男女とも経済的自立ができるように育てる)



イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる

『賛成派』96.7%, 『反対派』0.4% ⇒ 『賛成派』が高い

【全体】

「賛成」が70.4%, 「どちらかといえば賛成」が26.3%で『賛成派』が96.7%, 「反対」はなく, 「どちらかといえば反対」が0.4%で『賛成派』が大きく上回っている。

【性別】

女性は, 「賛成」が74.4%で男性の65.1%より9.3ポイント高い。

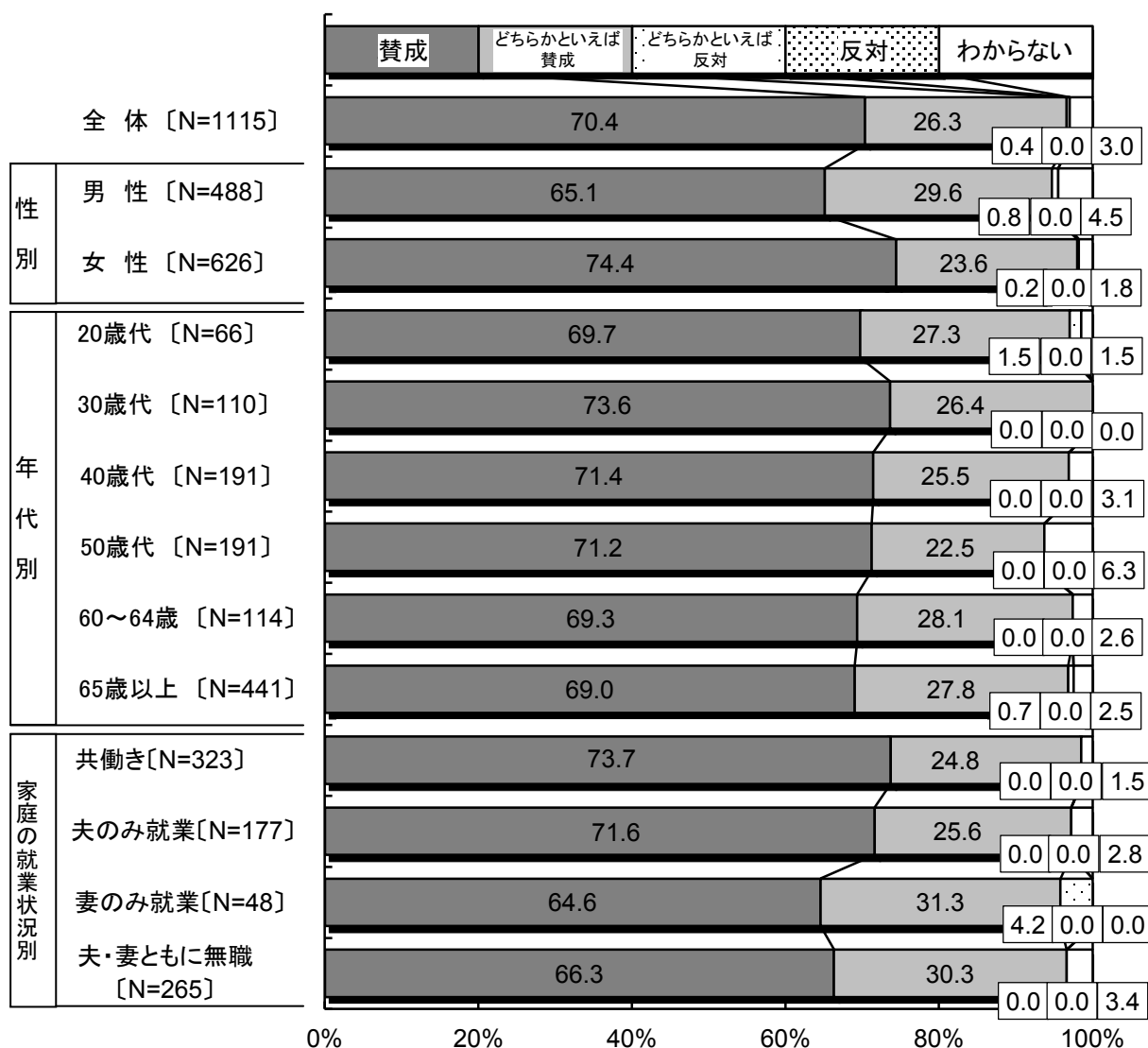
【年代別】

特に大きな差異はない。

【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭, 夫・妻ともに無職家庭は, 「賛成」が60%台で, 共働き家庭, 夫のみ就業家庭と比べて低い。

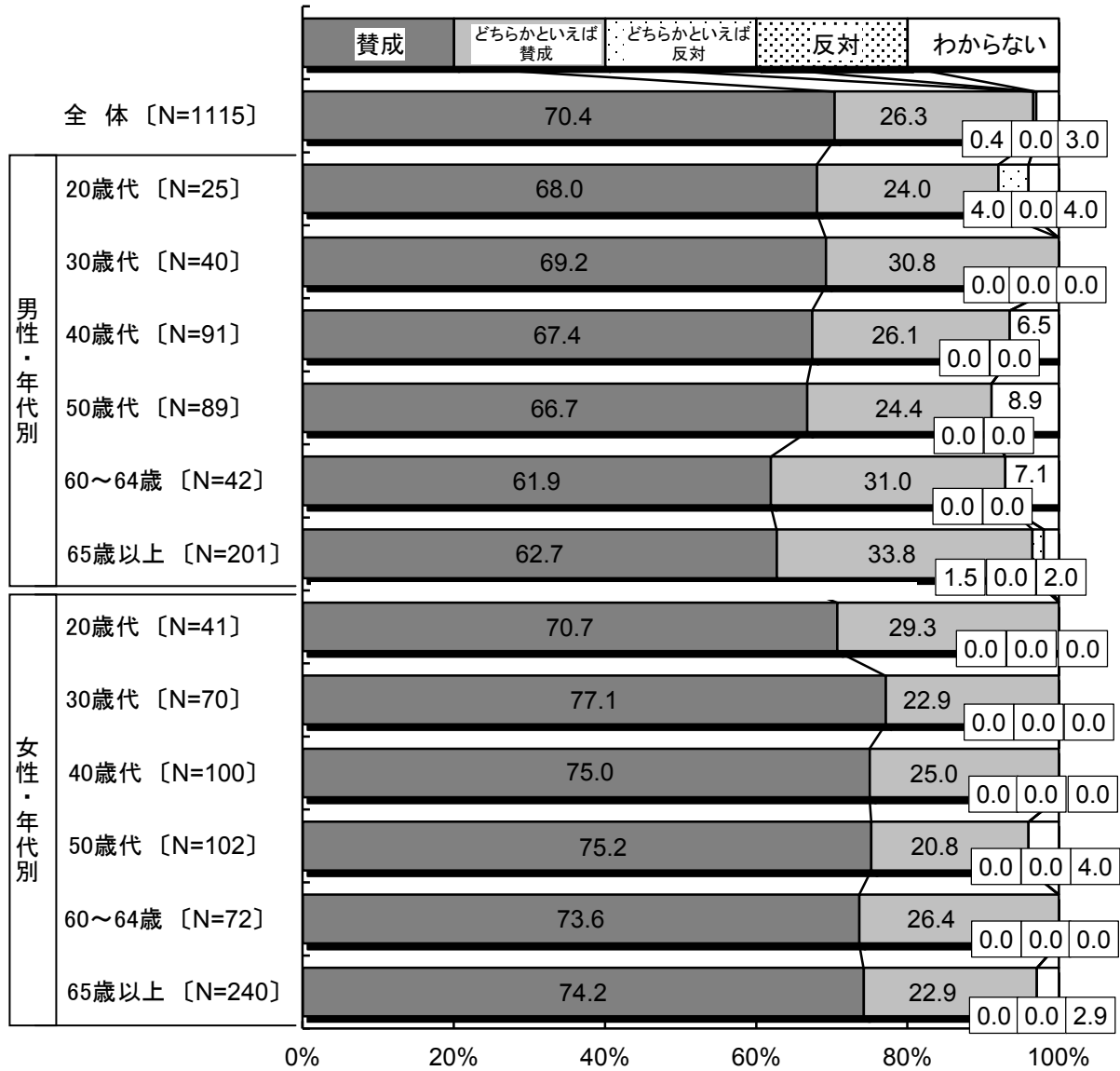
13-4図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別〕
(イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる)



【性・年代別】

特に大きな差異はない。

13-5図 子どもの育て方について〔性・年代別〕
(イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる)



ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる

『賛成派』 66.9%, 『反対派』 21.5% ⇒ 『賛成派』が高い

【全体】

「賛成」が25.5%、「どちらかといえば賛成」が41.4%で『賛成派』は66.9%、「反対」が6.3%、「どちらかといえば反対」が15.2%で『反対派』は21.5%と、『賛成派』が大きく上回っている。

【性別】

男性は、「賛成」が30.3%で女性の21.6%より8.7ポイント高い。

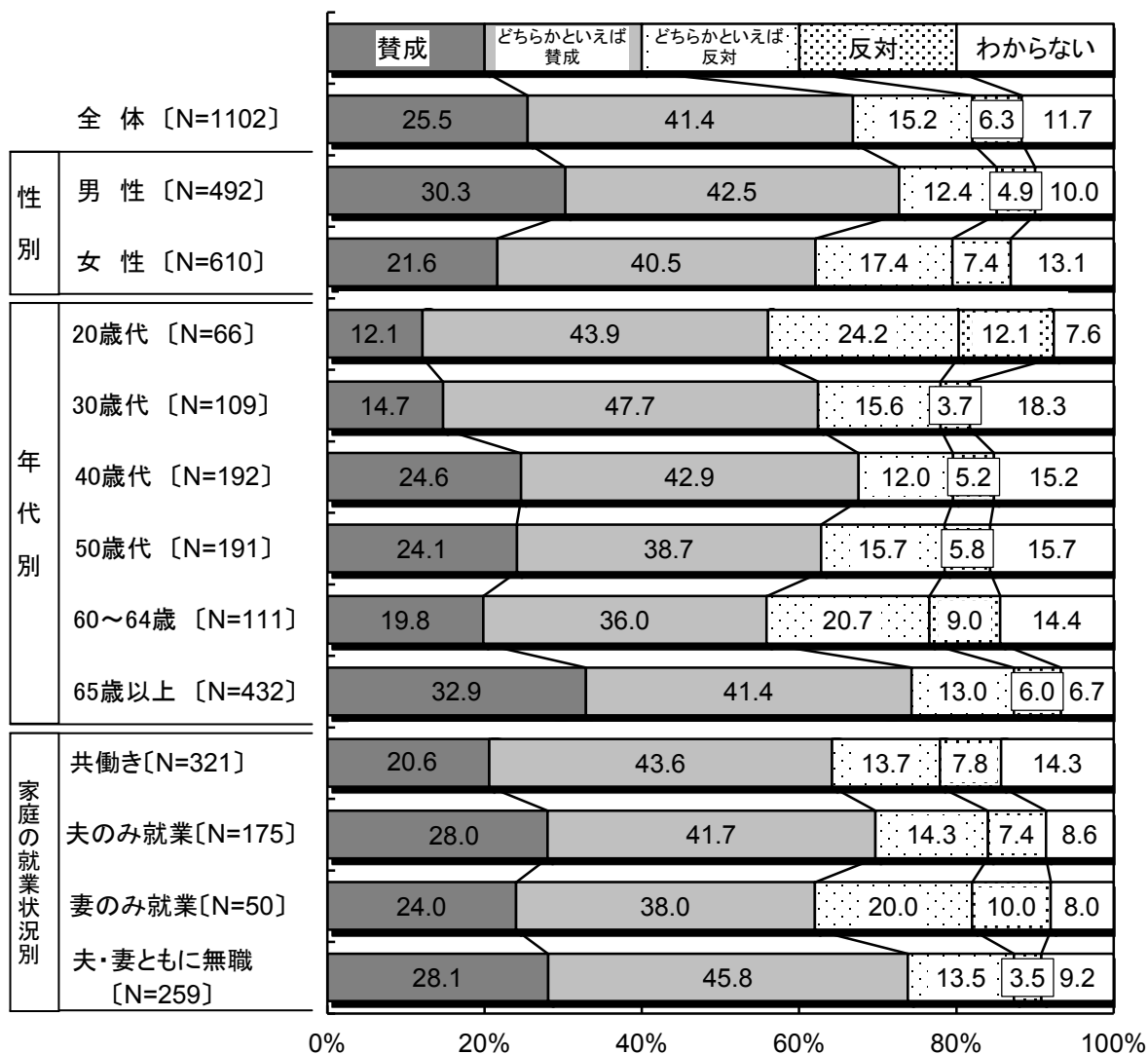
【年代別】

65歳以上は、「賛成」が32.9%、「どちらかといえば賛成」41.4%で、『賛成派』が74.3%と他の年代と比べて高い。

【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭は、「反対」が10.0%、「どちらかといえば反対」が20.0%で『反対派』は30.0%と、他の就業家庭より『反対派』が高い。

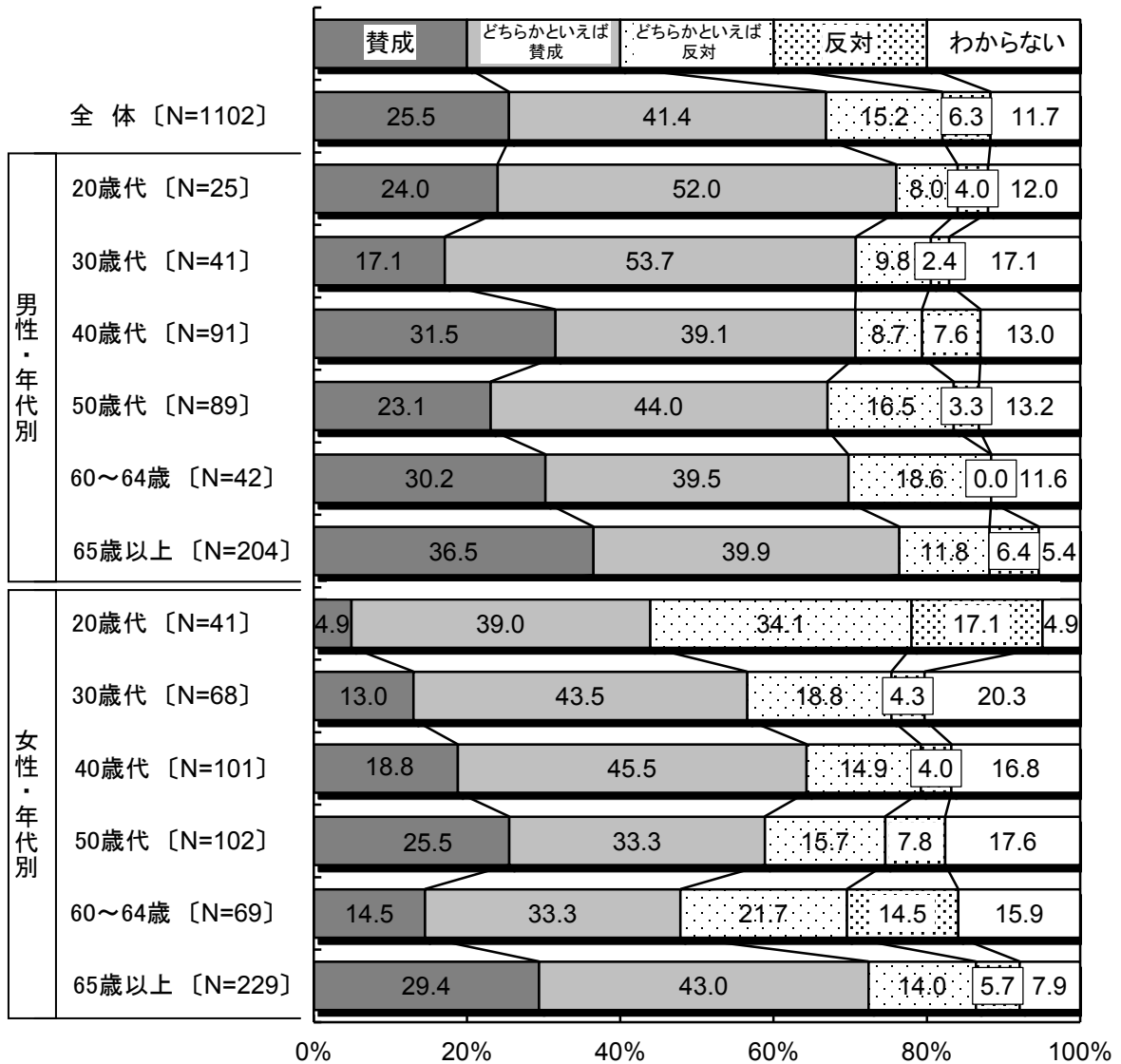
13-6図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別〕
(ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる)



【性・年代別】

男性の『賛成派』は特に大きな差異はないが、女性の『賛成派』は、20歳代が43.9%、60～64歳が47.8%と低い。特に女性20歳代は、「賛成」が4.9%と目立って低く、「どちらかといえば反対」が34.1%、「反対」が17.1%と他の年代より高い。

13-7図 子どもの育て方について〔性・年代別〕
(ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる)



エ 男は仕事，女は家庭を守るように育てる

『賛成派』 27.8%，『反対派』 58.5% ⇒ 『反対派』が高い

【全体】

「賛成」が5.8%，「どちらかといえば賛成」が22.0%で『賛成派』は27.8%，「反対」が28.0%，「どちらかといえば反対」が30.5%で『反対派』は58.5%と、『反対派』が30.7ポイント上回っている。

【性別】

女性は、「反対」が31.5%で男性の23.7%より7.8ポイント高い。

【年代別】

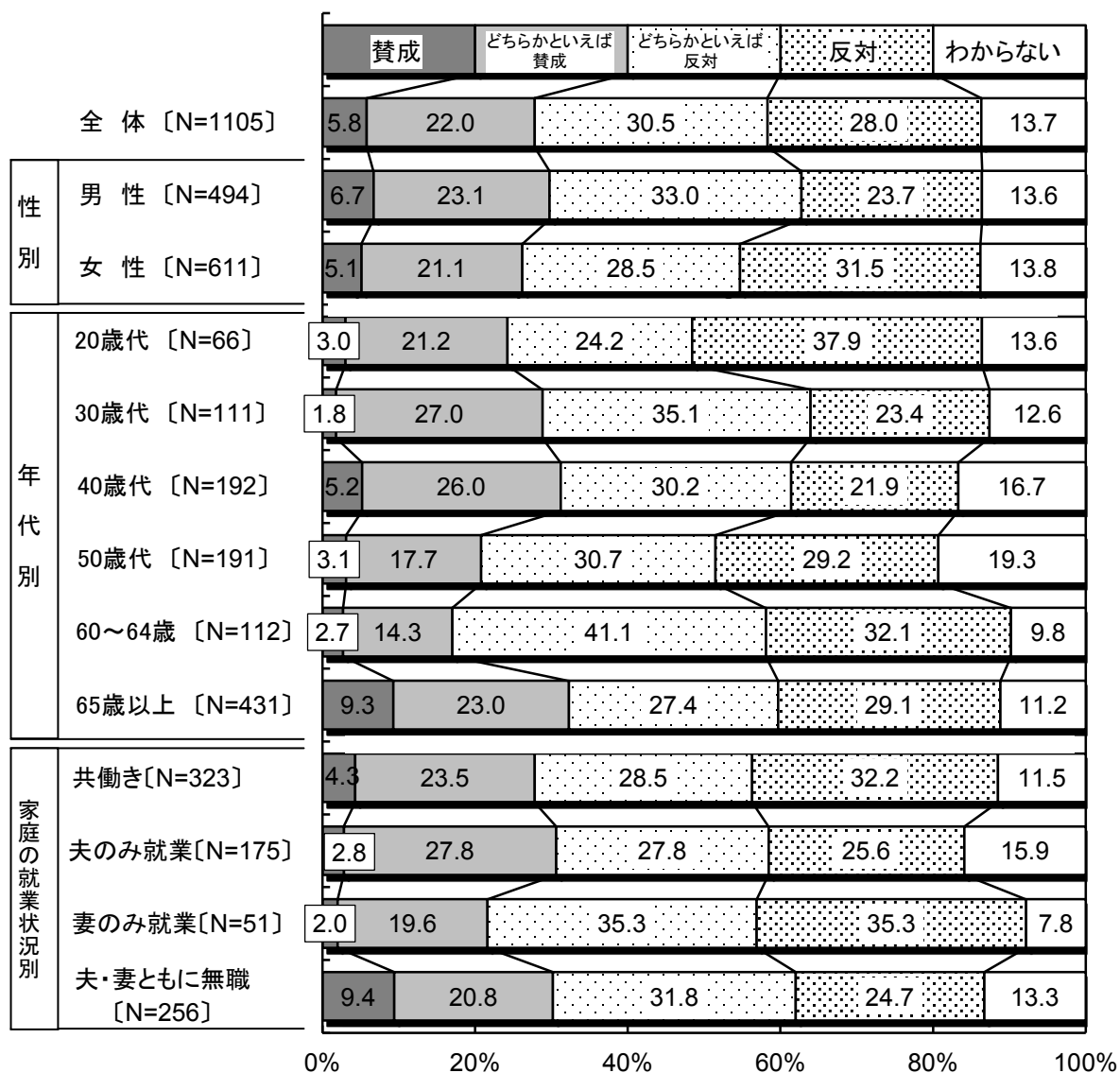
60～64歳は、『賛成派』が17.0%，『反対派』が73.2%で『反対派』が他の年代と比べて高い

【夫婦の就業状況別】

妻のみ就業家庭では、「反対」が35.3%，「どちらかといえば反対」が35.3%と『反対派』が70.6%で，他の就業家庭に比べて高い。

13-8図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別〕

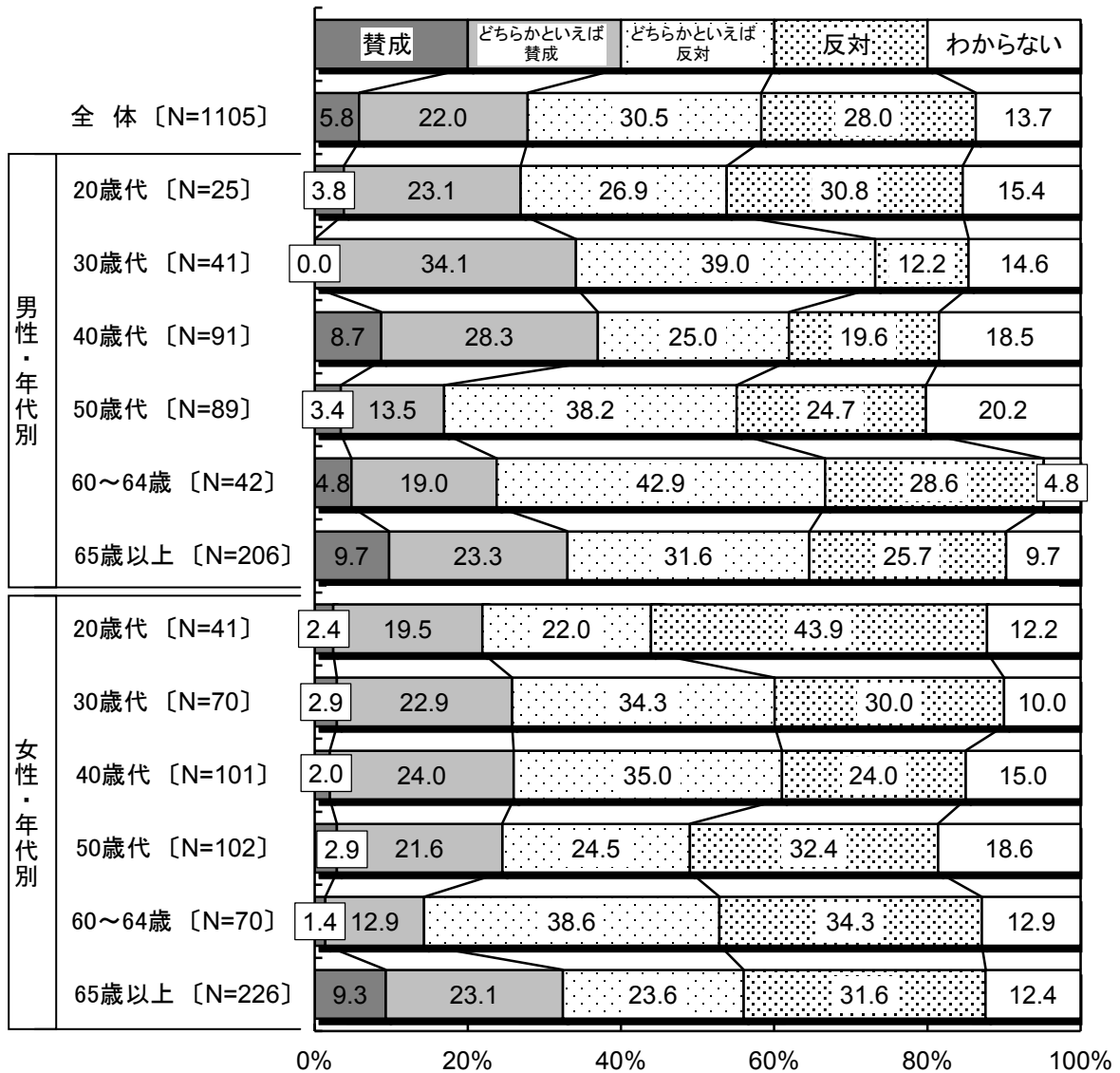
(イ 男は仕事，女は家庭を守るように育てる)



【性・年代別】

『賛成派』は男性50歳代が16.9%，女性60～64歳が14.3%で他の年代に比べて低い。
 男性40歳代，男性65歳以上，女性65歳以上で「賛成」が若干高い。
 女性20歳代は，「反対」が43.9%で他の年代に比べて高い。

13-9図 子どもの育て方について〔性・年代別〕
 (E 男は仕事，女は家庭を守るように育てる)



オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる

『賛成派』94.8%, 『反対派』1.8% ⇒ 『賛成派』が高い

【全体】

「賛成」が72.0%、「どちらかといえば賛成」が22.8%で『賛成派』は94.8%、「反対」が0.4%、「どちらかといえば反対」が1.4%で『反対派』は1.8%と、『賛成派』が大きく上回っている。

【性別】

女性は、「賛成」が76.5%で男性の66.0%より10.5ポイント高い。

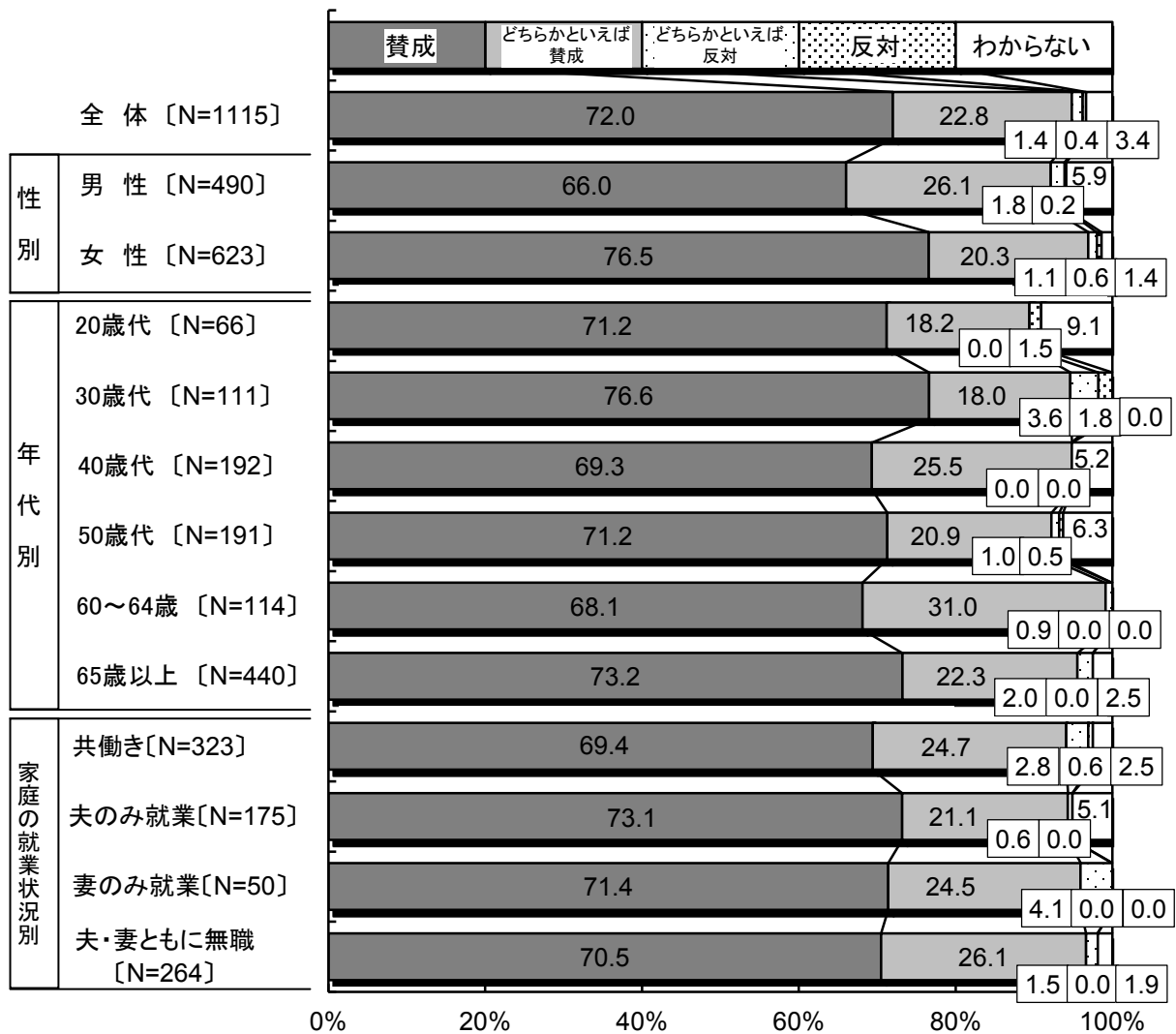
【年代別】

特に大きな差異はない。

【夫婦の就業状況別】

特に大きな差異はない。

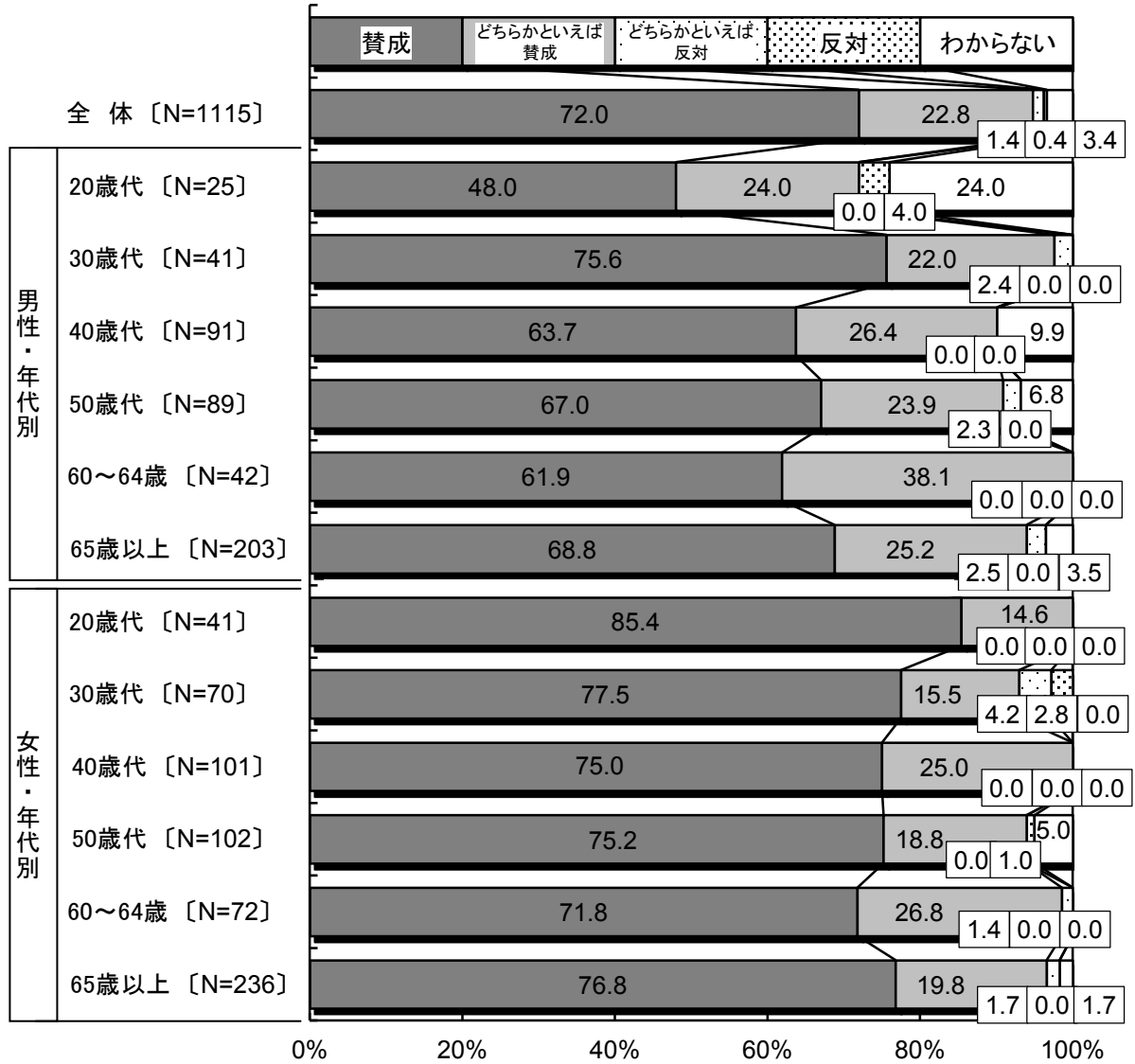
13-10図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別〕
(オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる)



【性・年代別】

男性20歳代は、「賛成」が48.0%と他の年代に比べて低く、『賛成派』が72.0%と最も低い。また、「わからない」が24.0%と高い。

13-11図 子どもの育て方について〔性・年代別〕
(オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる)



(14) 子どもに受けさせたい教育(最終学歴)について

問14 お子さまの有無に関わらず、自分の子どもに受けさせたい教育（最終学歴）についてあてはまるものに○をつけてください。○はそれぞれ1つずつ

<男の子の場合> 「大学」73.6%, 「短期大学, 各種学校, 専修学校」 8.3%
 <女の子の場合> 「大学」59.7%, 「短期大学, 各種学校, 専修学校」 23.4%

【全体】

子どもが男の子の場合、「大学」が73.6%と最も高く、「短期大学, 各種学校, 専修学校」が8.3%で続いている。

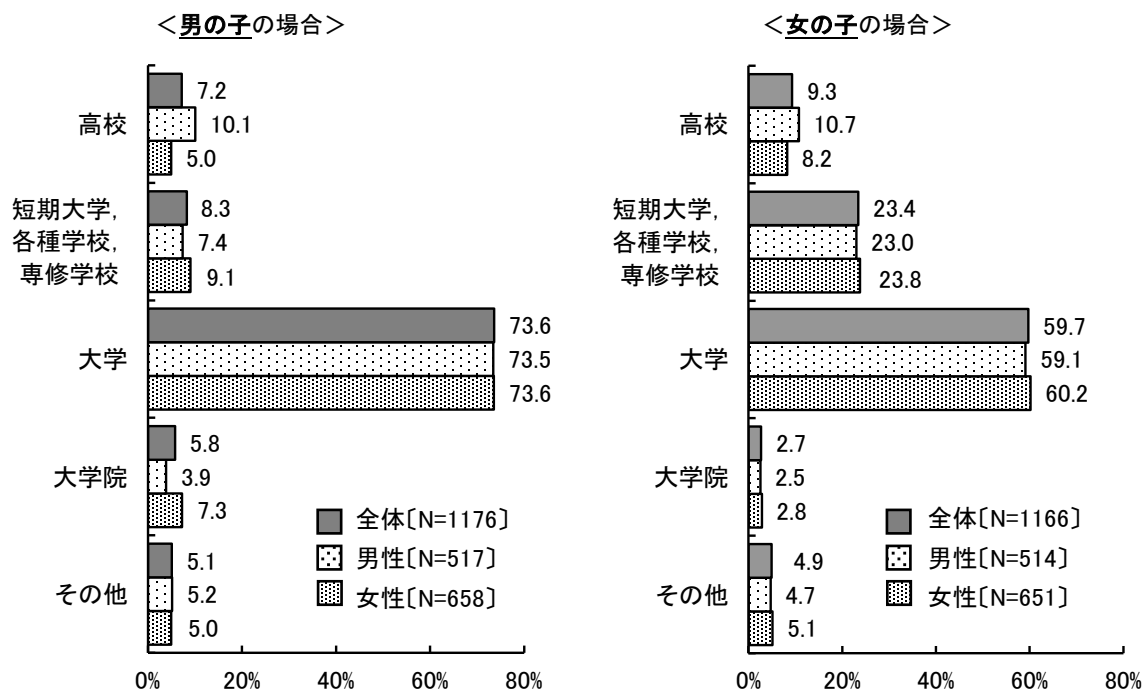
子どもが女の子の場合、「大学」が59.7%と最も高く、「短期大学, 各種学校, 専修学校」が23.4%で続いている。

「大学」は、子どもが男の子の場合は、女の子の場合より13.9ポイント高い。

【性別】

特に大きな差異はない。

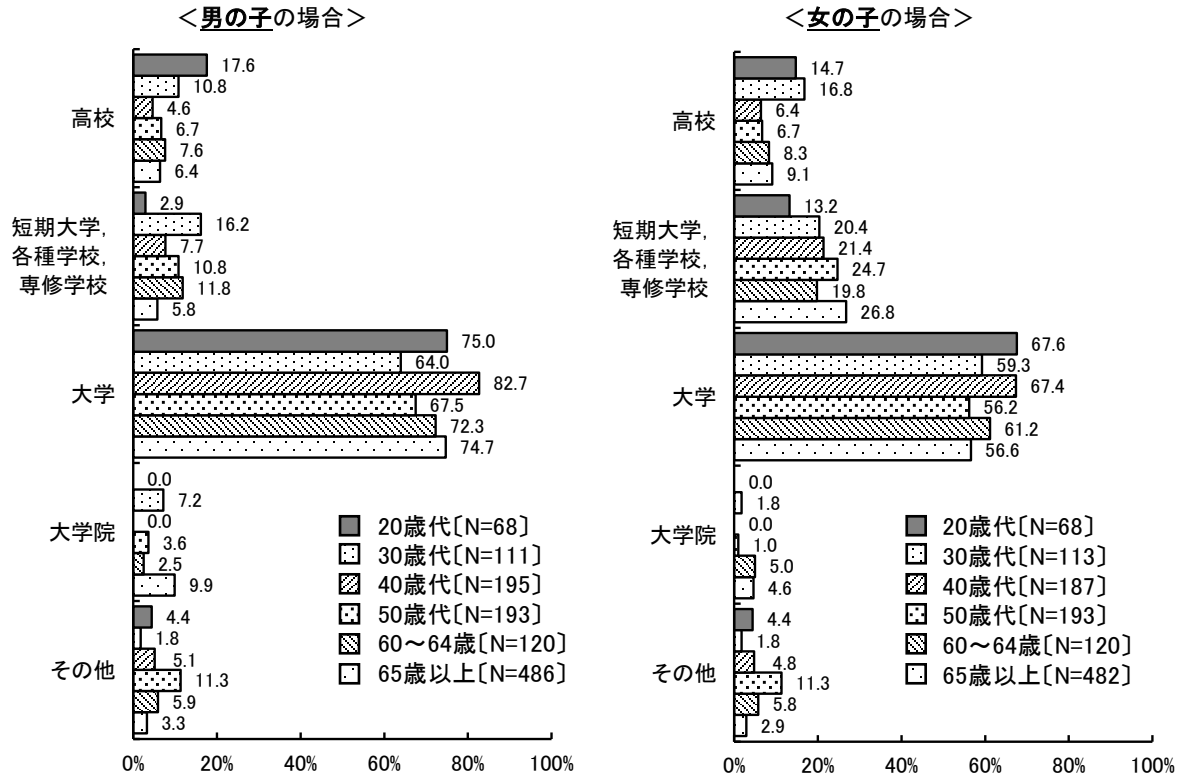
14-1図 子どもに望む最終学歴〔全体・性別〕



【年代別】

子どもが男の子の場合と女の子の場合の差を年代別で比較すると、65歳以上は、「短期大学, 各種学校, 専修学校」において、「女の子の場合 (26.8%)」が「男の子の場合 (5.8%)」より21ポイント高く、「大学」は「男の子の場合 (74.7%)」が「女の子の場合 (56.6%)」より18.1ポイント高く、差が大きい。他の年代では、40歳代の「大学」で、「男の子の場合 (82.7%)」が「女の子の場合 (67.4%)」より15.3ポイント高くなっている。

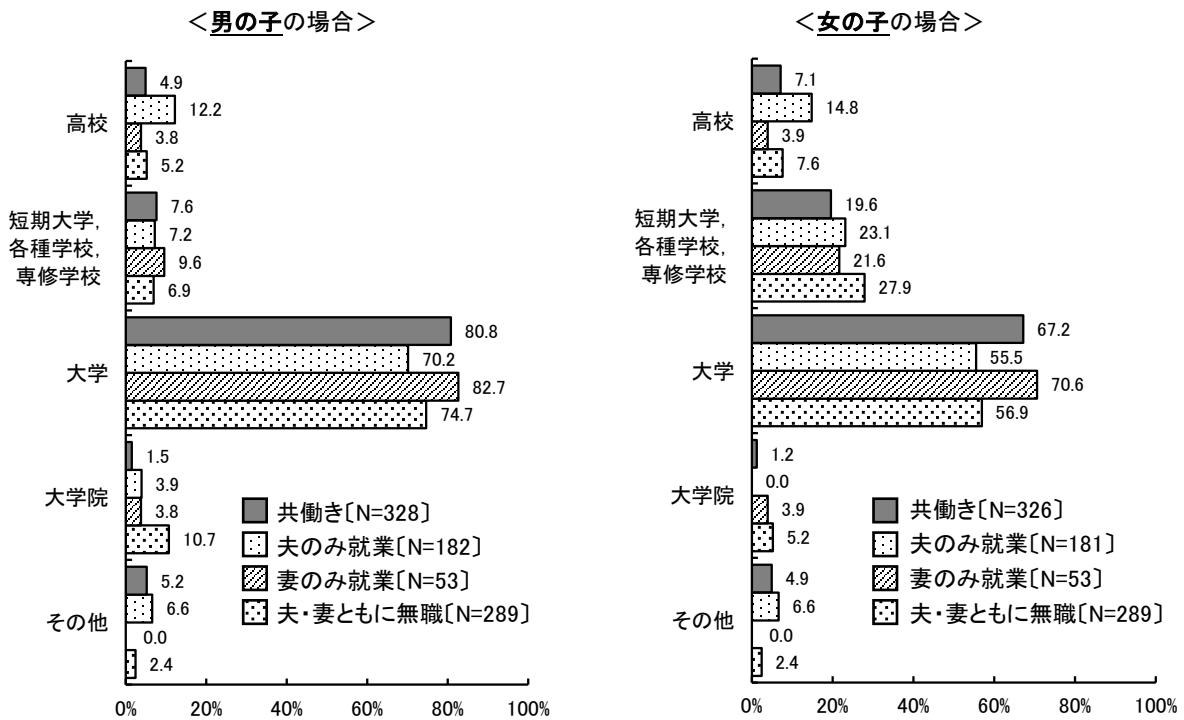
14-2図 子どもに望む最終学歴〔年代別〕



【家庭の就業状況別】

共働き家庭、妻のみ就業家庭は子どもが男子の場合、女子の場合とも「大学」が他の家庭に比べて高い。

14-3図 子どもに望む最終学歴〔夫婦の就業状況別〕



(15) 父親が子育てに関わることについて〔複数回答〕

問15 父親が子育てに関わることについてどのように考えますか。○はいくつでも

「父親も育児を行うことは当然だ」	70.9%
「子どもに良い影響を与える」	68.1%
「父親自身に良い影響を与える」	56.6%

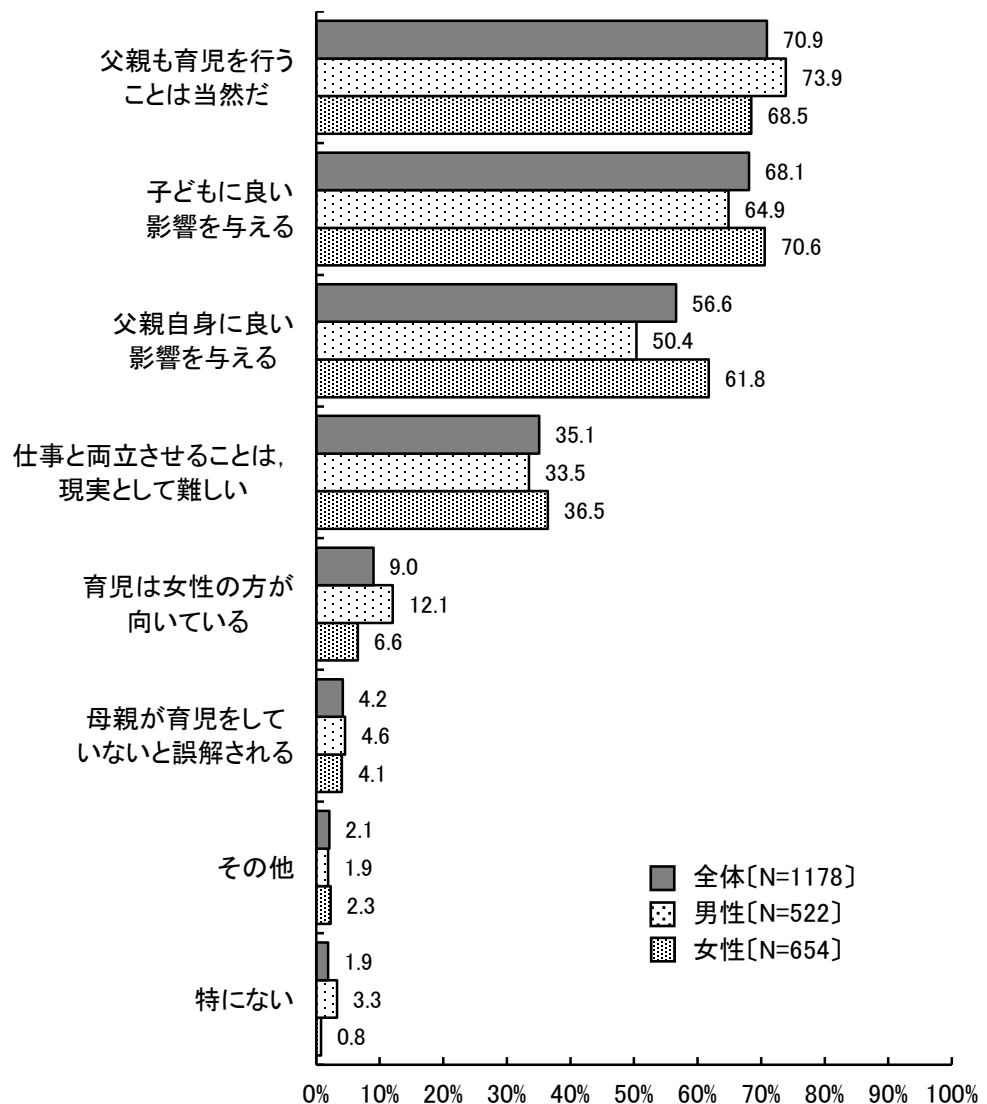
【全体】

「父親も育児を行うことは当然だ」が70.9%と最も高く、「子どもに良い影響を与える」が68.1%「父親自身に良い影響を与える」が56.6%、で続いている。

【性別】

女性は、「子どもに良い影響を与える」が70.6%、「父親自身に良い影響を与える」が61.8%で男性に比べて高い。

15-1図 父親が子育てに関わることについて〔年代別〕

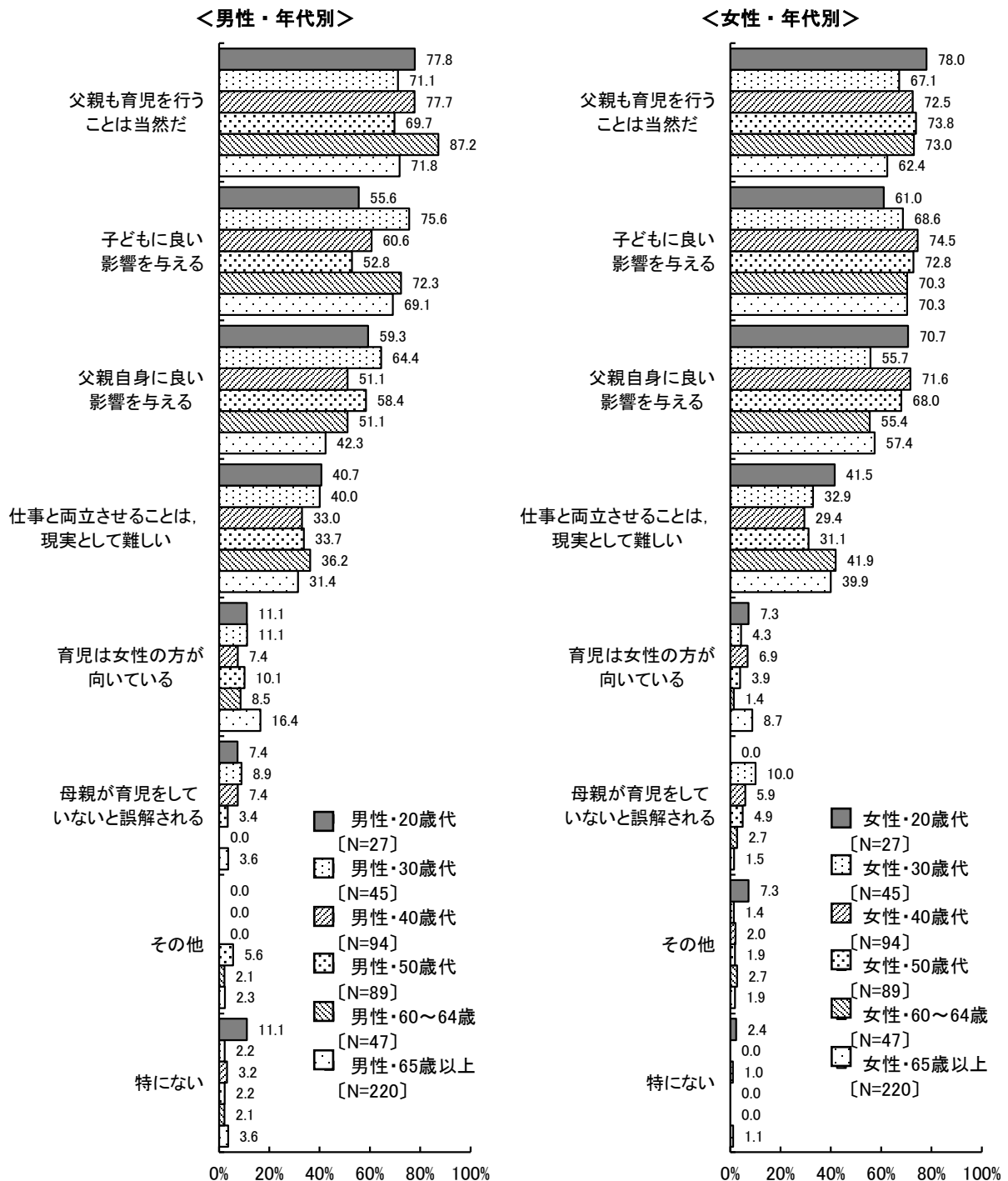


【性・年代別】

60～64歳男性は、「父親も育児を行うことは当然だ」が87.2%で他の年代に比べて最も高い。

30歳代男性と男性60～64歳は、「子どもに良い影響を与える」が70%以上で他の男性の年代に比べて高い。

15-2図 父親が子育てに関わることについて〔性・年代別〕



6. 男女の人権の尊重について

(16) 男女の地位について

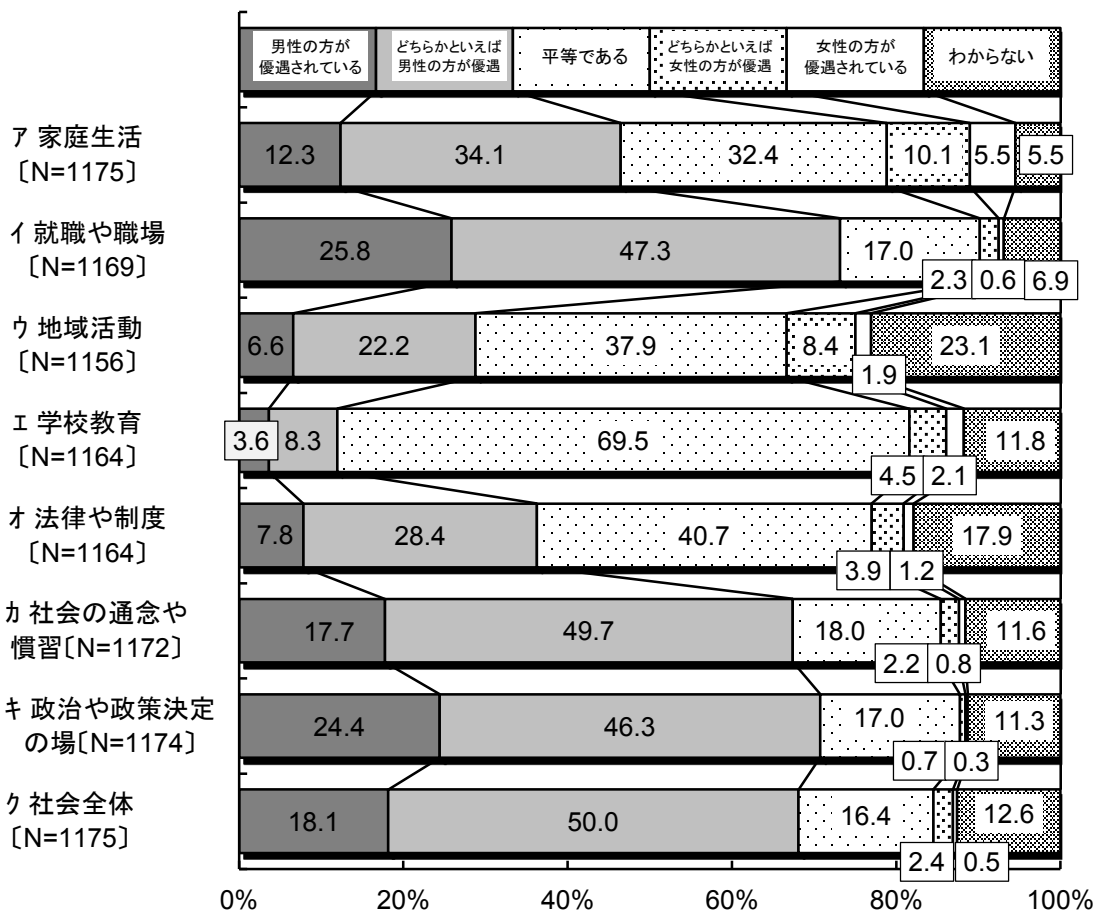
問16 あなたは、次のような事柄における男女の地位について、どのように感じますか。
それぞれについて1～6のいずれかに○

『男性優遇』⇒「家庭生活」「就職や職場」「社会の通念や慣習」
「政治や政策決定の場」「社会全体」
『女性優遇』⇒「地域活動」「学校教育」「法律や制度」

※「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて『男性優遇』，
「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせて『女性優遇』
とする。

男女の地位	『男性優遇』	平等	『女性優遇』
ア 家庭生活	46.4%	32.4%	15.6%
イ 就職や職場	73.1%	17.0%	2.9%
ウ 地域活動	28.8%	37.9%	10.3%
エ 学校教育	11.9%	69.5%	6.6%
オ 法律や制度	36.2%	40.7%	5.1%
カ 社会の通念や慣習	67.4%	18.0%	3.0%
キ 政治や政策決定の場	70.7%	17.0%	1.0%
ク 社会全体	68.1%	16.4%	2.9%

16-1図 男女の地位について〔全体〕



ア 家庭生活

『男性優遇』 46.4%, 「平等である」 32.4%, 『女性優遇』 15.6%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が12.3%, 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が34.1%で『男性優遇』は46.4%となっている。

「女性の方が優遇されている」が5.5%, 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が10.1%で『女性優遇』は15.6%と『男性優遇』が大きく上回っている。

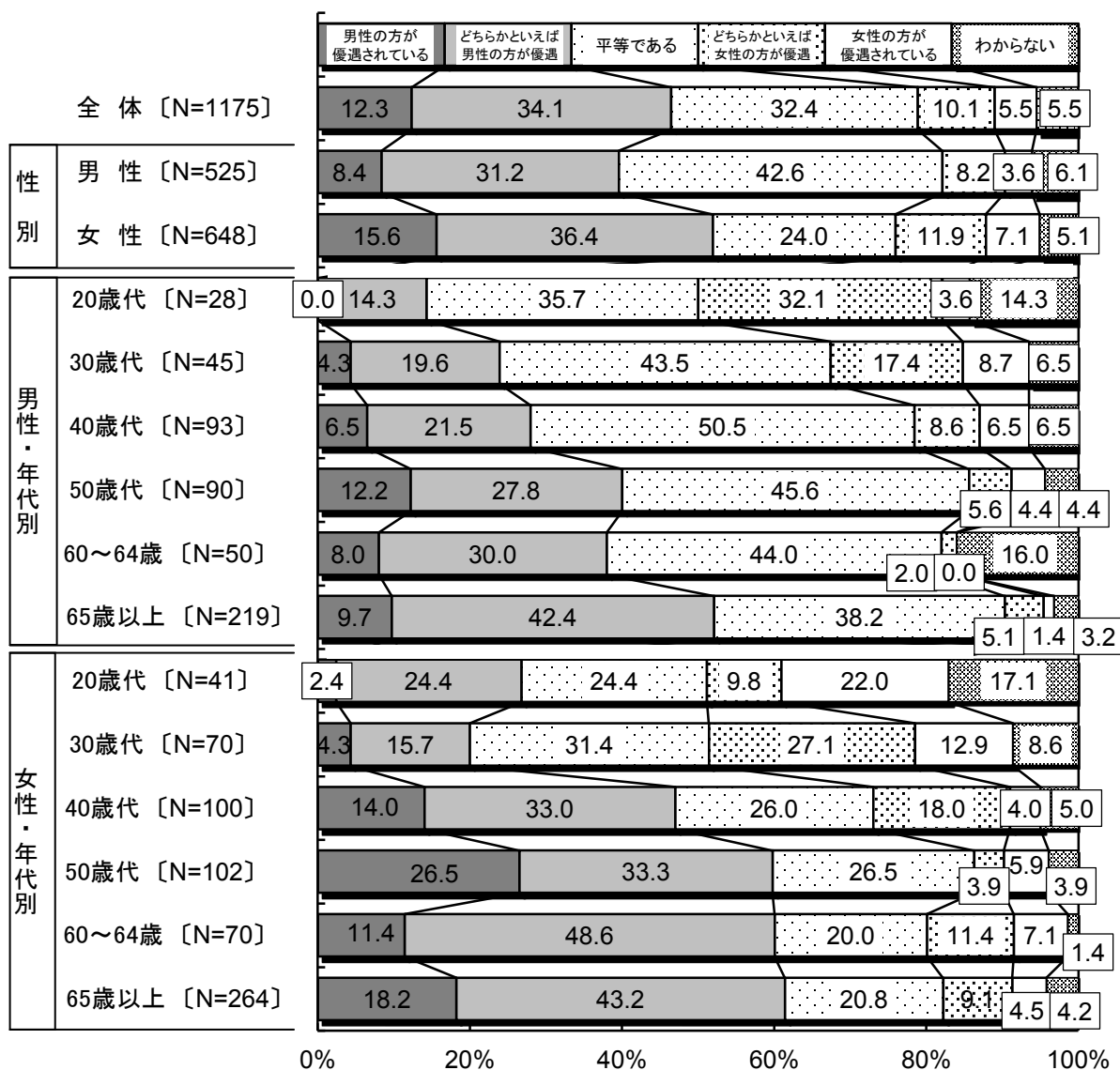
【性別】

女性は、『男性優遇』が52.0%で男性の39.6%より12.4ポイント高い。男性は、「平等である」が42.6%で女性の24.0%より18.6ポイント高い。

【性・年代別】

女性50歳代, 60~64歳, 65歳以上は、『男性優遇』が約6割で他の年代に比べて高い。また, 女性50歳代は「男性の方が優遇されている」が26.5%で他の年代に比べ目立って高い。

16-2図 男女の地位について(ア 家庭生活)〔全体・性別・性・年代別〕



イ 就職や職場

『男性優遇』73.1%、「平等である」17.0%、『女性優遇』2.9%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が25.8%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が47.3%で『男性優遇』は73.1%となっている。

「女性の方が優遇されている」が0.6%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が2.3%で『女性優遇』は2.9%と『男性優遇』が大きく上回っている。

【性別】

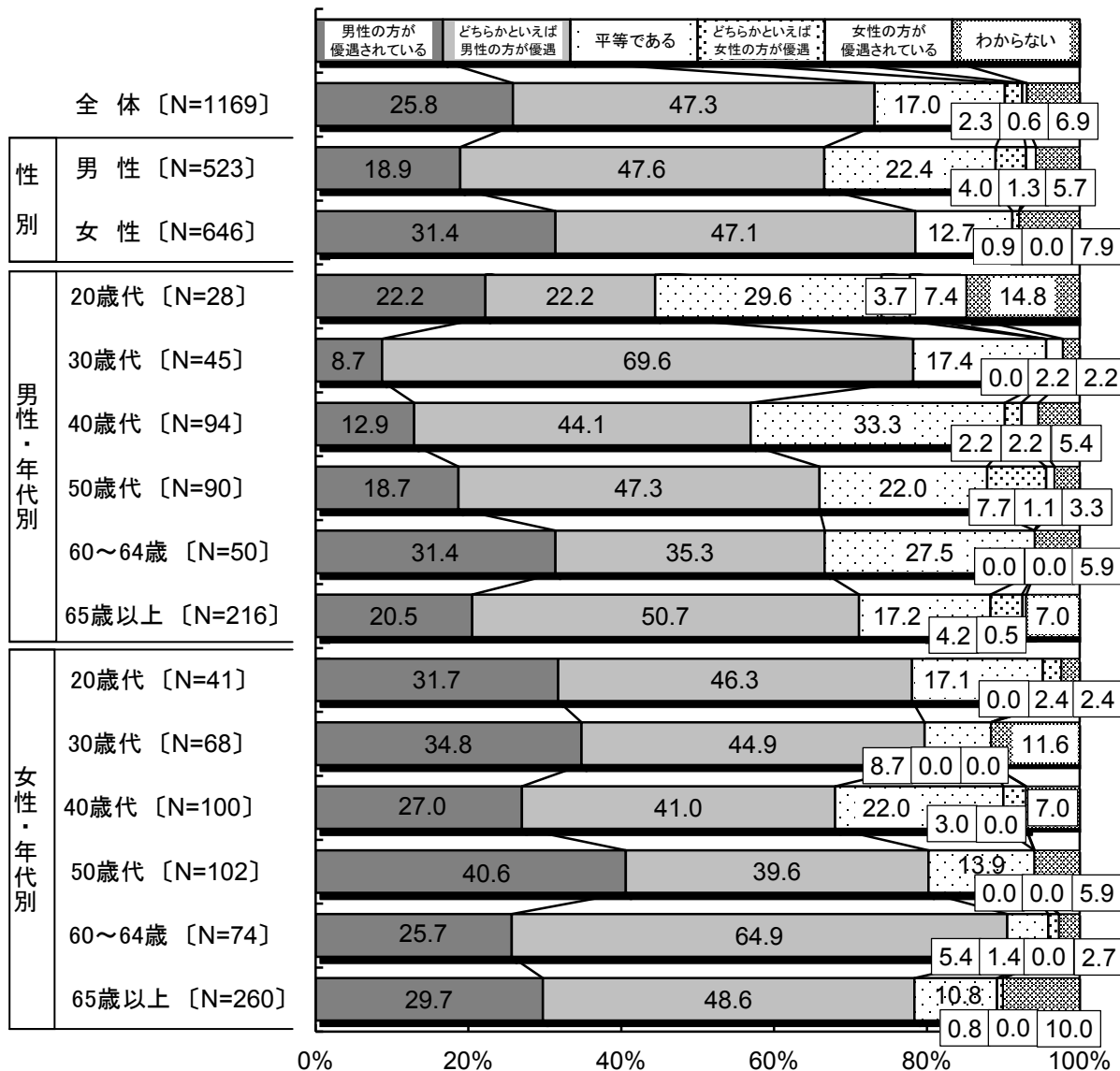
女性は、『男性優遇』が78.5%で男性の66.5%より12ポイント高い。男性は、「平等である」が22.4%で女性の12.7%より9.7ポイント高い。

【性・年代別】

女性60～64歳は、『男性優遇』が90.6%で他の年代に比べて高い。また、女性50歳代は、「男性の方が優遇されている」が40.6%で他の年代に比べ高い。

男性40歳代は、「平等である」が33.3%で他の年代に比べて高い。

16-3図 男女の地位について(イ 就職や職場)〔全体・性別・性・年代別〕



ウ 地域活動

『男性優遇』 28.8%, 「平等である」 37.9%, 『女性優遇』 10.3%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が6.6%, 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が22.2%で『男性優遇』は28.8%となっている。

「女性の方が優遇されている」が1.9%, 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が8.4%で『女性優遇』は10.3%と『男性優遇』が大きく上回っている。

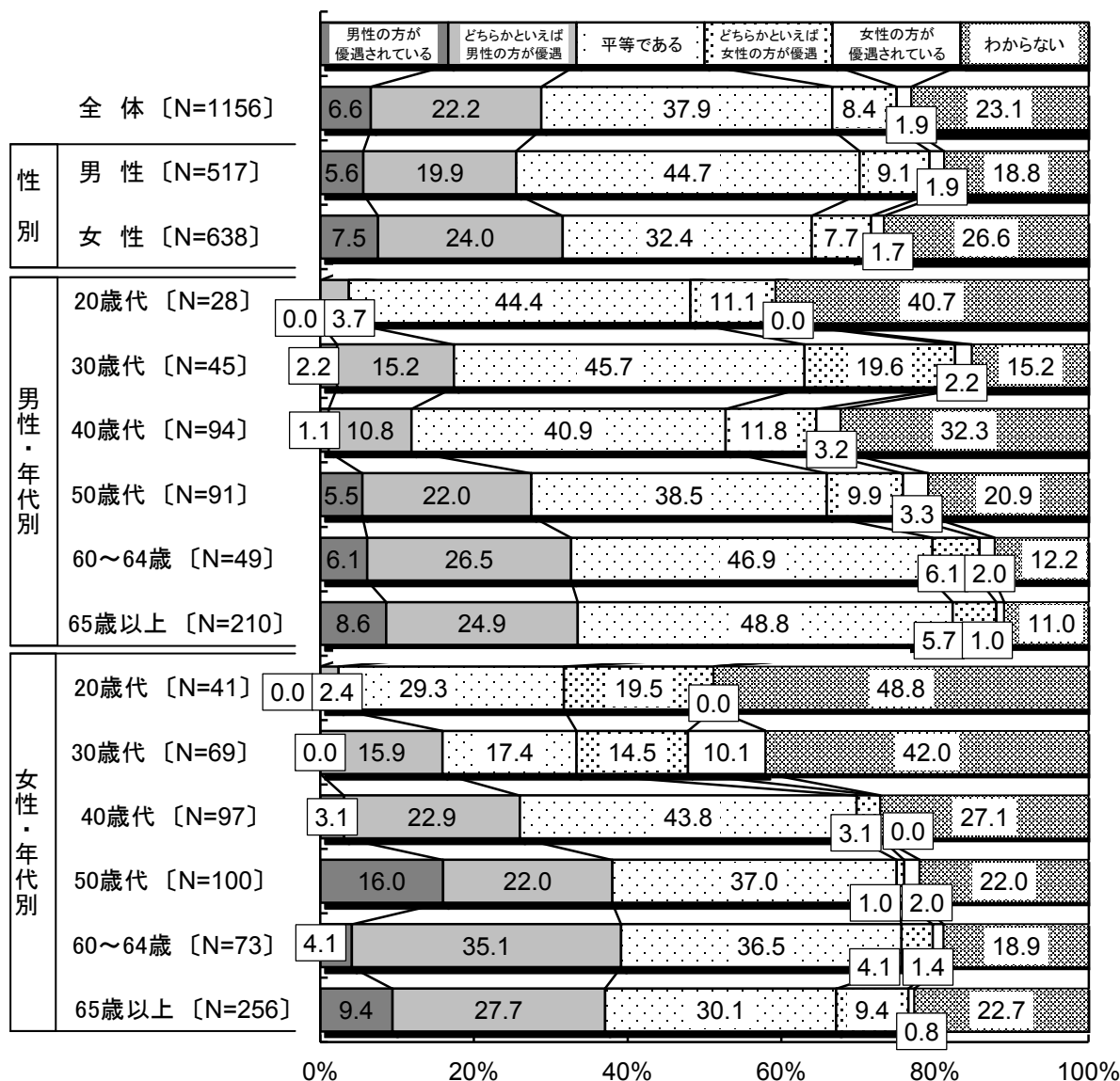
【性別】

女性は、『男性優遇』が31.5%で男性の25.5%より6ポイント高い。男性は、「平等である」が44.7%で女性の32.4%より12.3ポイント高い。

【性・年代別】

男性20歳代, 女性20歳代は、『男性優遇』がそれぞれ3.7%, 2.4%と他の年代に比べて低い。男性の全年代, 女性40歳代は「平等である」が最も高くなっている。

16-4図 男女の地位について(ウ 地域活動) [全体・性別・性・年代別]



エ 学校教育

「平等である」69.6%, 『男性優遇』11.9%, 『女性優遇』6.7%

【全体】

「平等である」が69.6%で最も高い。「男性の方が優遇されている」が3.6%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が8.3%で『男性優遇』は11.9%、「女性の方が優遇されている」が2.2%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が4.5%で『女性優遇』は6.7%と続いている。

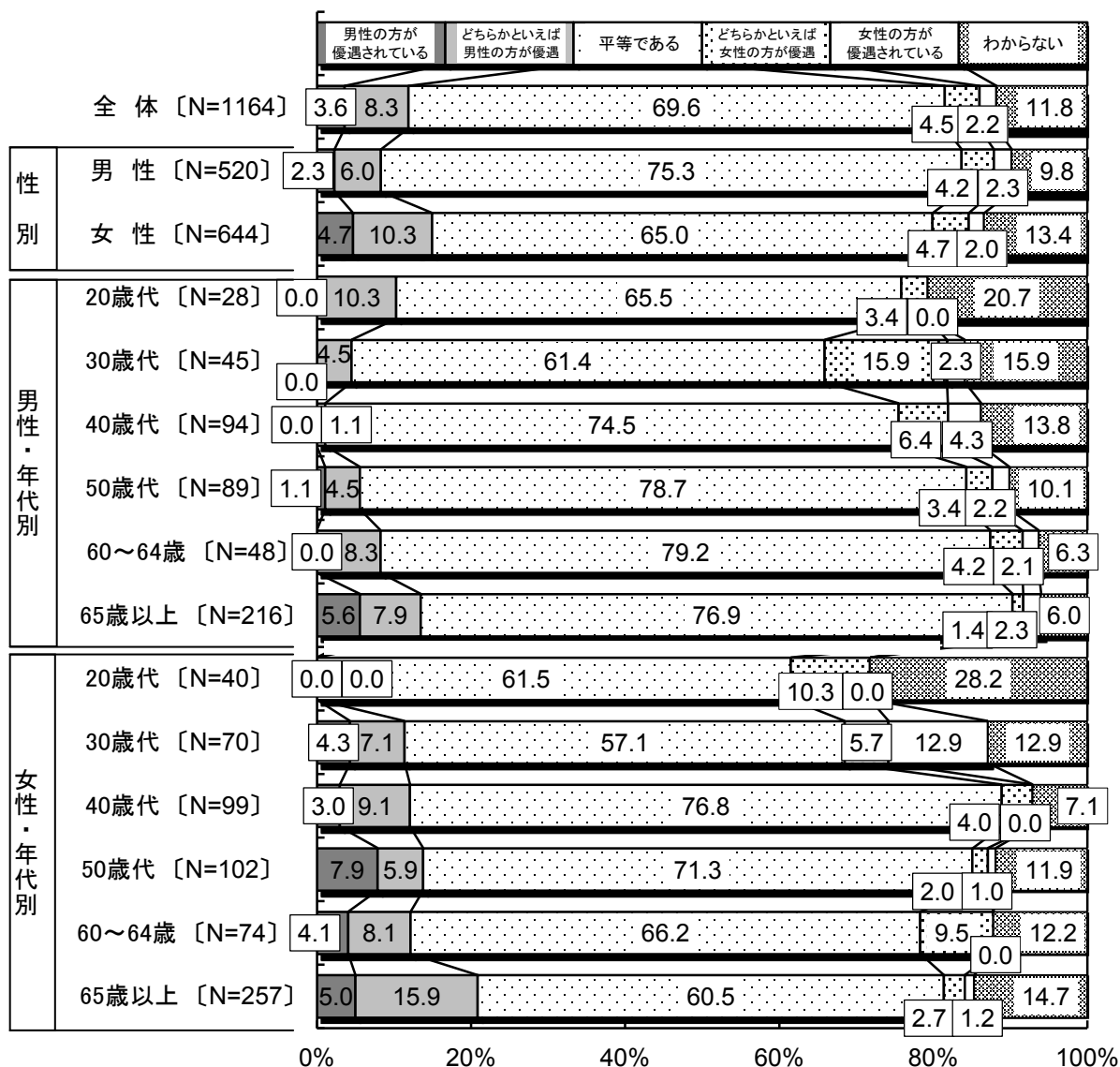
【性別】

男性は、「平等である」が75.3%で女性の65.0%より10.3ポイント高い。女性は、『男性優遇』が15.0%で男性の8.3%より6.7ポイント高い。

【性・年代別】

すべての年代で「平等である」が最も高いが、女性65歳以上は『男性優遇』が20.9%で他の年代に比べて高い。

16-5図 男女の地位について(エ 学校教育)〔全体・性別・性・年代別〕



オ 法律や制度

「平等である」40.7%, 『男性優遇』36.2%, 『女性優遇』5.1%

【全体】

「平等である」が40.7%で最も高い。「男性の方が優遇されている」が7.8%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が28.4%で『男性優遇』は36.2%、「女性の方が優遇されている」が1.2%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」は3.9%で『女性優遇』が5.1%と続いている。

【性別】

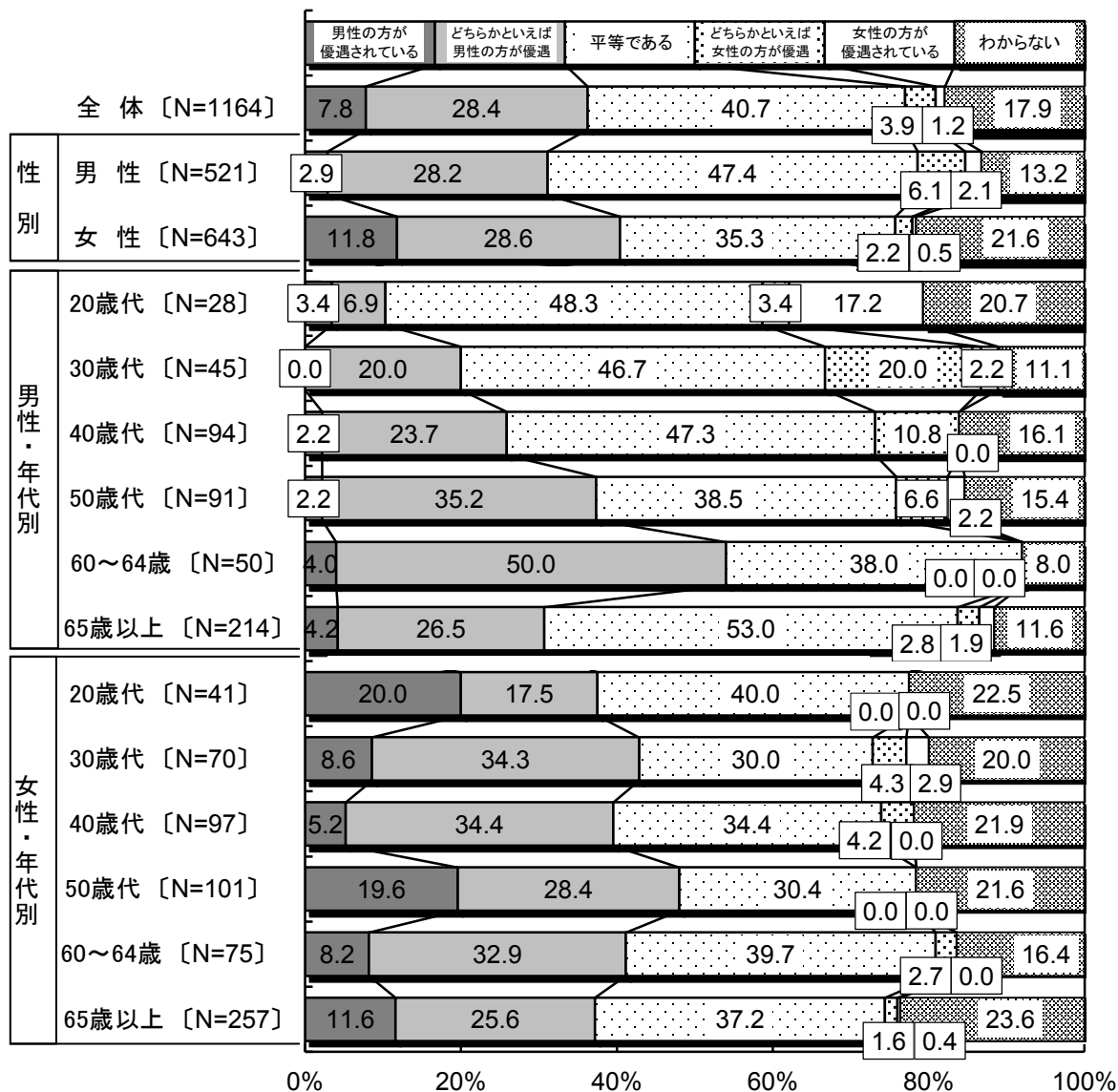
女性は、『男性優遇』が40.4%で男性の31.1%より9.3ポイント高い。男性は、「平等である」が47.4%で女性の35.3%より12.1ポイント高い。

【性・年代別】

男性20歳代は、『男性優遇』が10.3%、『女性優遇』が20.6%で、『女性優遇』が10.3ポイント上回っている。男性65歳以上は、「平等である」が53.0%で他の年代に比べて高い。

女性は、どの年代も『男性優遇』が『女性優遇』を上回っている。

16-6図 男女の地位について(オ 法律や制度)〔全体・性別・性・年代別〕



カ 社会の通念や慣習

『男性優遇』 67.4%, 「平等である」 18.0%, 『女性優遇』 3.0%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が17.7%, 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が49.7%で『男性優遇』は67.4%となっている。

「女性の方が優遇されている」が0.8%, 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が2.2%で『女性優遇』は3.0%と『男性優遇』が大きく上回っている。

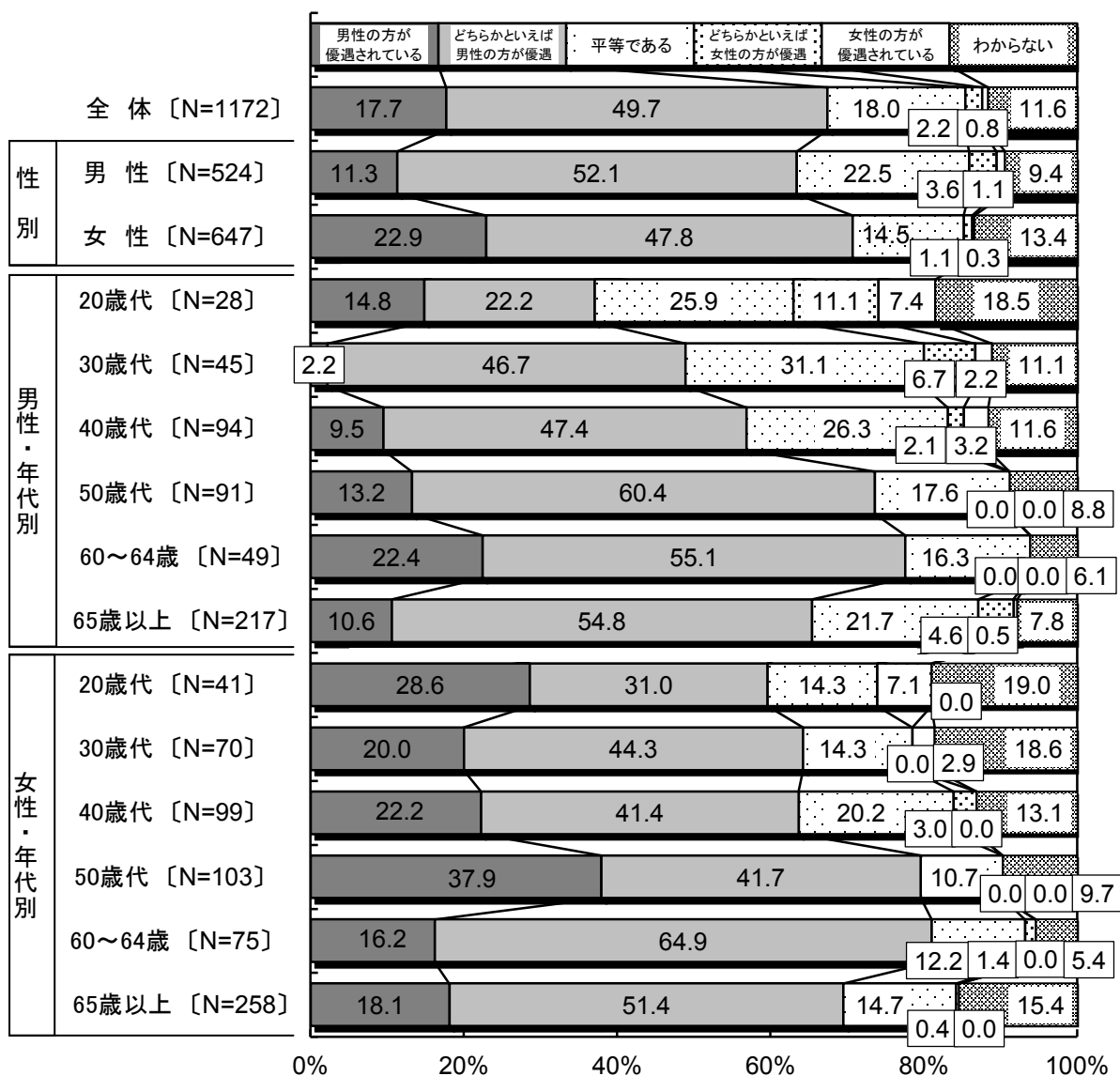
【性別】

女性は、『男性優遇』が70.7%で男性の63.4%より7.3ポイント高い。男性は、「平等である」が22.5%で女性の14.5%より8.0ポイント高い。

【性・年代別】

女性50歳代, 男性・女性60~64歳は『男性優遇』が約80%で他の年代に比べて高い。また, 女性50歳代は, 「男性の方が優遇されている」が37.9%で他の年代に比べ高い。

16-7図 男女の地位について(カ 社会の通念や慣習) [全体・性別・性・年代別]



キ 政治や政策決定の場

『男性優遇』70.7%, 「平等である」17.0%, 『女性優遇』1.0%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が24.4%, 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が46.3%で『男性優遇』は70.7%となっている。

「女性の方が優遇されている」が0.3%, 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が0.7%で『女性優遇』は1.0%と『男性優遇』が大きく上回っている。

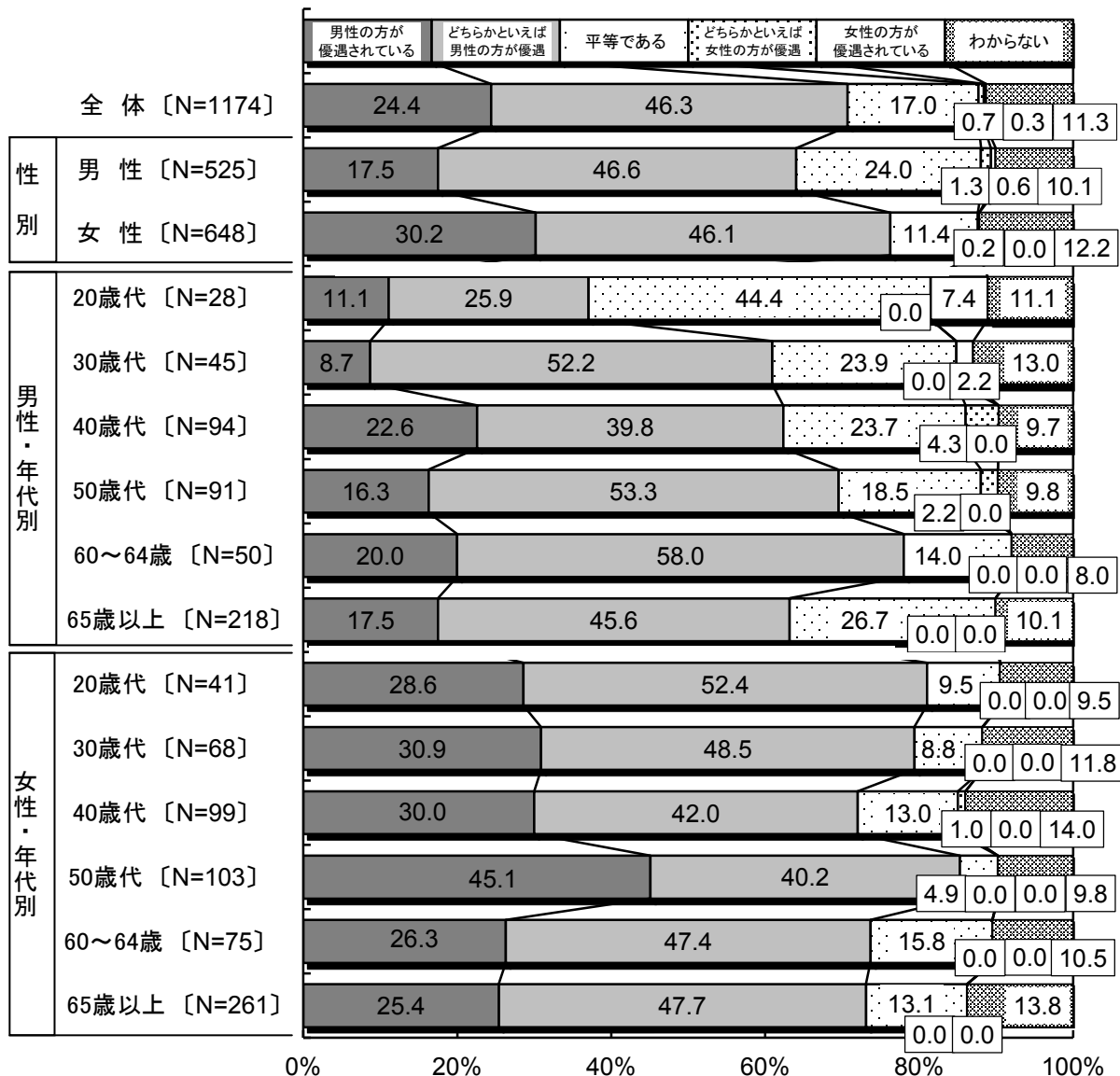
【性別】

女性は、『男性優遇』が76.3%で男性の64.1%より12.2ポイント高い。男性は, 「平等である」が24.0%で女性の11.4%より12.6ポイント高い。

【性・年代別】

男性20歳代は, 「平等である」が44.4%で他の年代に比べて高い。女性50歳代は『男性優遇』が85.3%で他の年代に比べて高い。また, 「男性の方が優遇されている」が45.1%で他の年代に比べて高い。

16-8図 男女の地位について(キ 政治や政策決定の場) [全体・性別・性・年代別]



ク 社会全体

『男性優遇』68.1%、「平等である」16.4%、『女性優遇』2.9%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が18.1%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が50.0%で『男性優遇』は68.1%、「女性の方が優遇されている」が0.5%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が2.4%で『女性優遇』は2.9%と、『男性優遇』が大きく上回っている。

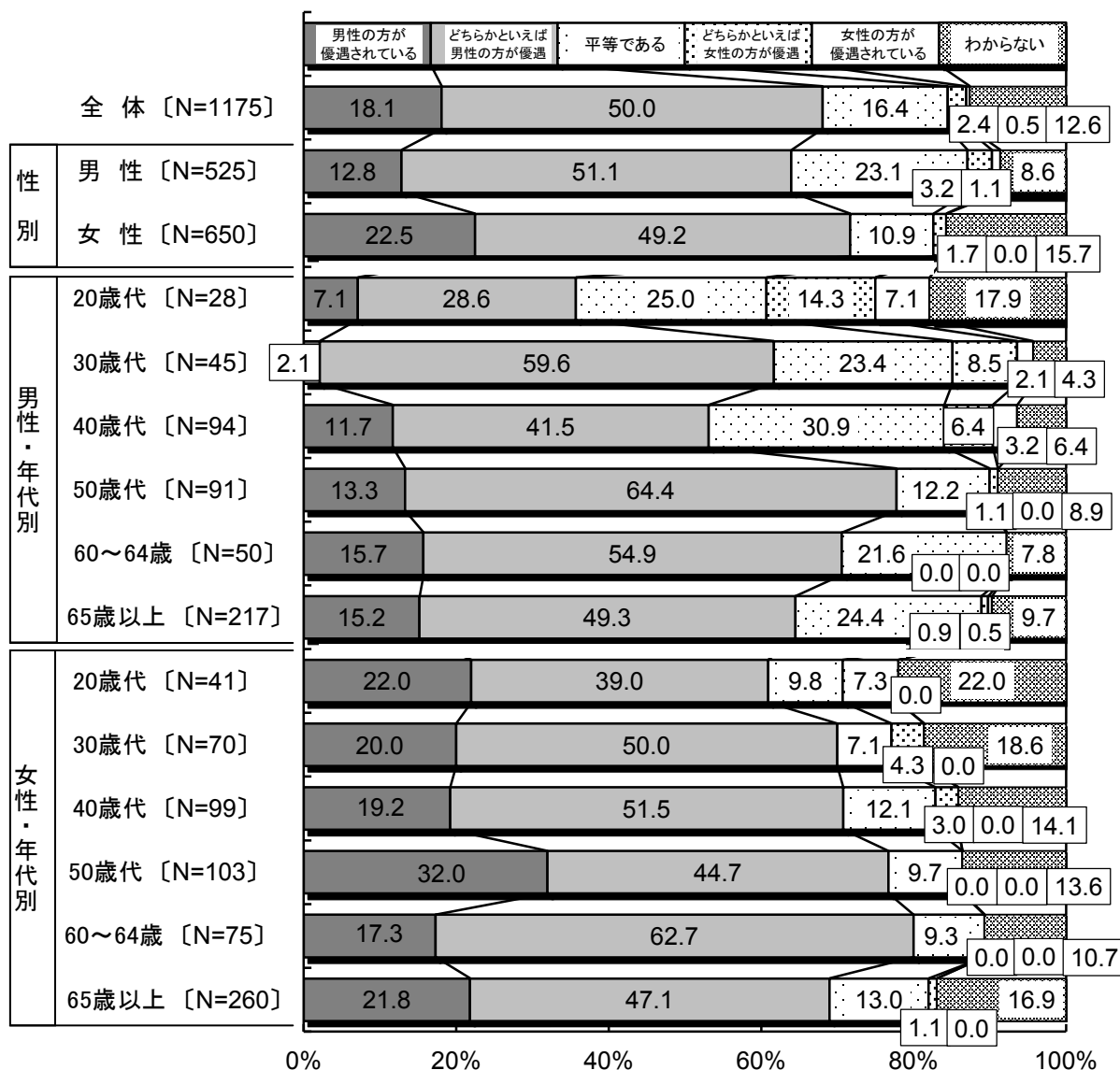
【性別】

女性は、『男性優遇』が71.7%で男性の63.9%より7.8ポイント高い。男性は、「平等である」が23.1%で女性の10.9%より12.2ポイント高い。

【性・年代別】

男性20歳代は、『男性優遇』が35.7%で他の年代に比べて低い。「男性の方が優遇されている」は男性20歳代、男性30歳代がそれぞれ7.1%、2.1%と他の年代に比べて低く、女性50歳代が32.0%と他の年代に比べて高い。

16-9図 男女の地位について(ク 社会全体)〔全体・性別・性・年代別〕



(17) 配偶者や恋人の間で行われた場合、暴力だと思う行為について

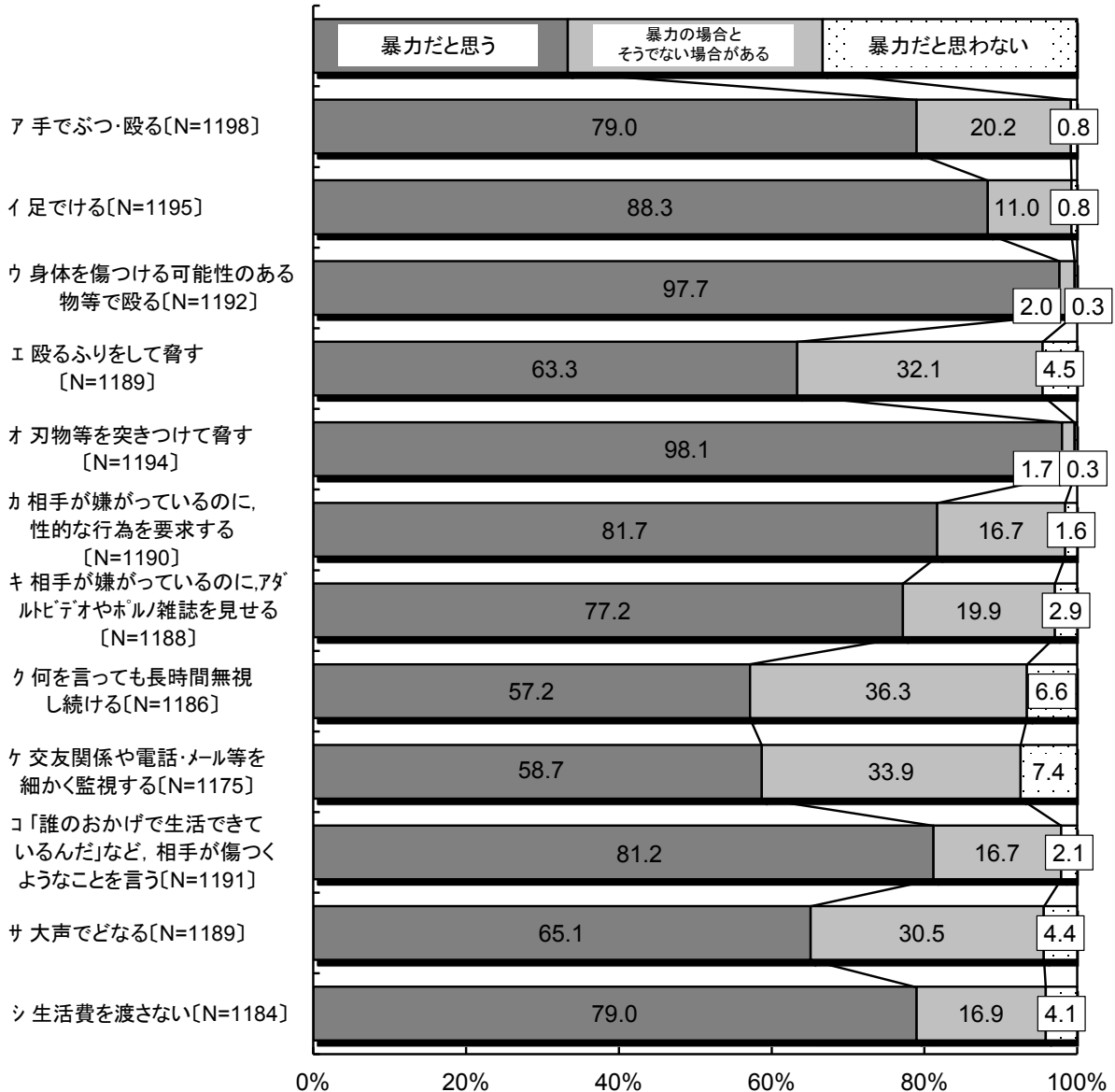
問17 あなたは、配偶者や恋人の間で行われる次のような行為を暴力だと思いますか。
それぞれについて1～3のいずれかに○

「刃物等を突きつけて脅す」	98.1%
「身体を傷つける可能性のある物等で殴る」	97.7%
「足でける」	88.3%

■「暴力だと思う」が70%以上 高い順

オ 刃物等を突きつけて脅す	98.1%
ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る	97.7%
イ 足でける	88.3%
カ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	81.7%
コ 「誰のおかげで生活できているんだ」など、相手が傷つくようなことを言う	81.2%
ア 手でぶつ・殴る	79.0%
シ 生活費を渡さない	79.0%
キ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	77.2%

17-1図 配偶者や恋人の間で行われた場合、暴力だと思う行為について〔全体〕



ア 手でぶつ・殴る

「暴力だと思う」が79.0%、「暴力の場合とそうでない場合がある」20.2%

【全体】

「暴力だと思う」が79.0%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が20.2%、「暴力だと思わない」は0.8%である。

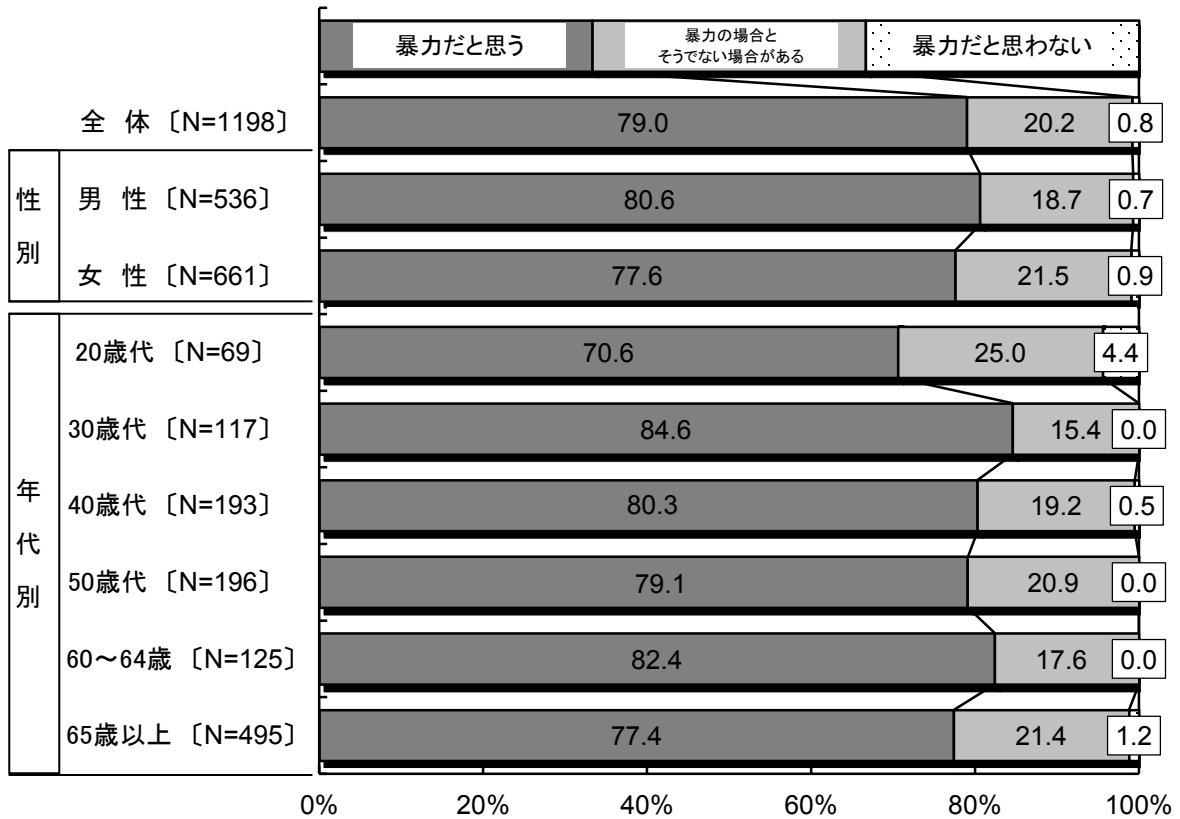
【性別】

20歳代は、「暴力だと思う」が70.6%で他の年代より低い。

【年代別】

特に大きな差異はない。

17-2図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(ア 手でぶつ・殴る)



イ 足でける

「暴力だと思う」が88.3%、「暴力の場合とそうでない場合がある」11.0%

【全体】

「暴力だと思う」が88.3%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が11.0%、「暴力だと思わない」は0.8%である。

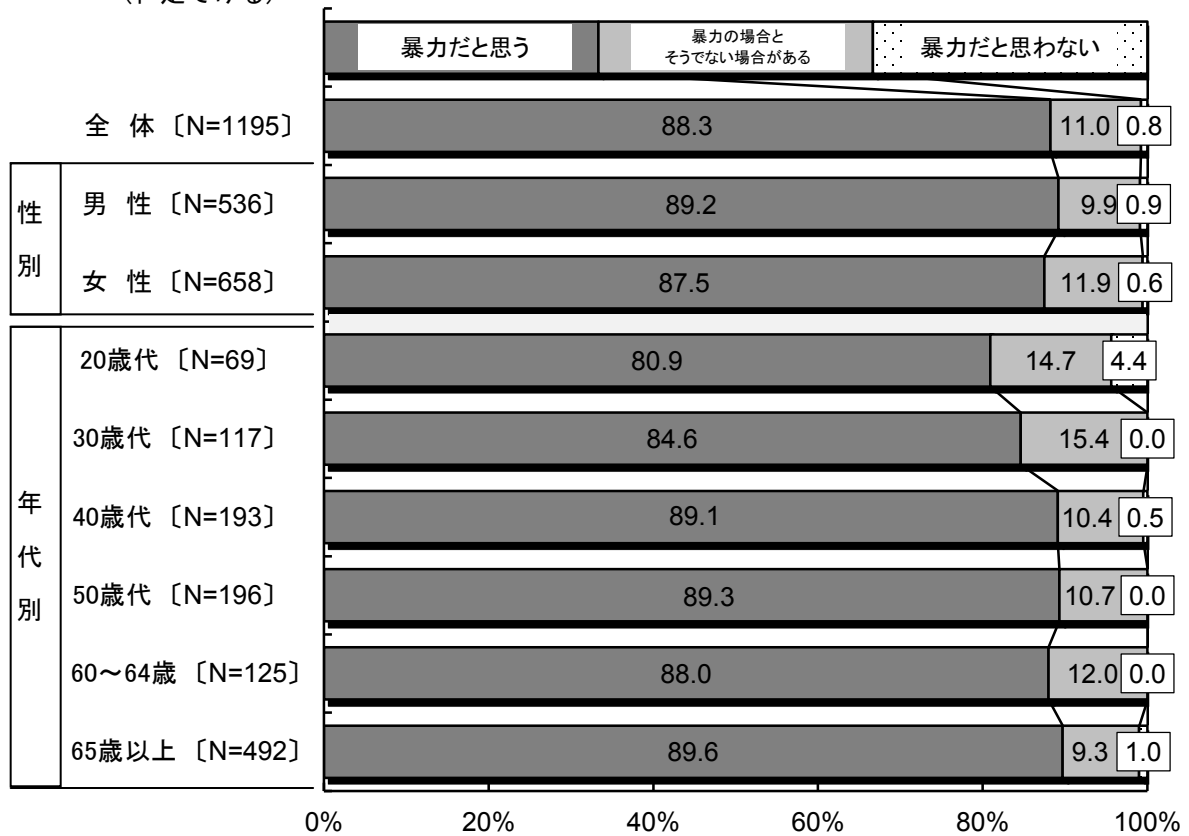
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

特に大きな差異はない。

17-3図 暴力だと思う行為について【全体・性別・年代別】
(イ 足でける)



ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る

「暴力だと思う」が97.7%

【全体】

「暴力だと思う」が97.7%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が2.0%、「暴力だと思わない」は0.3%である。

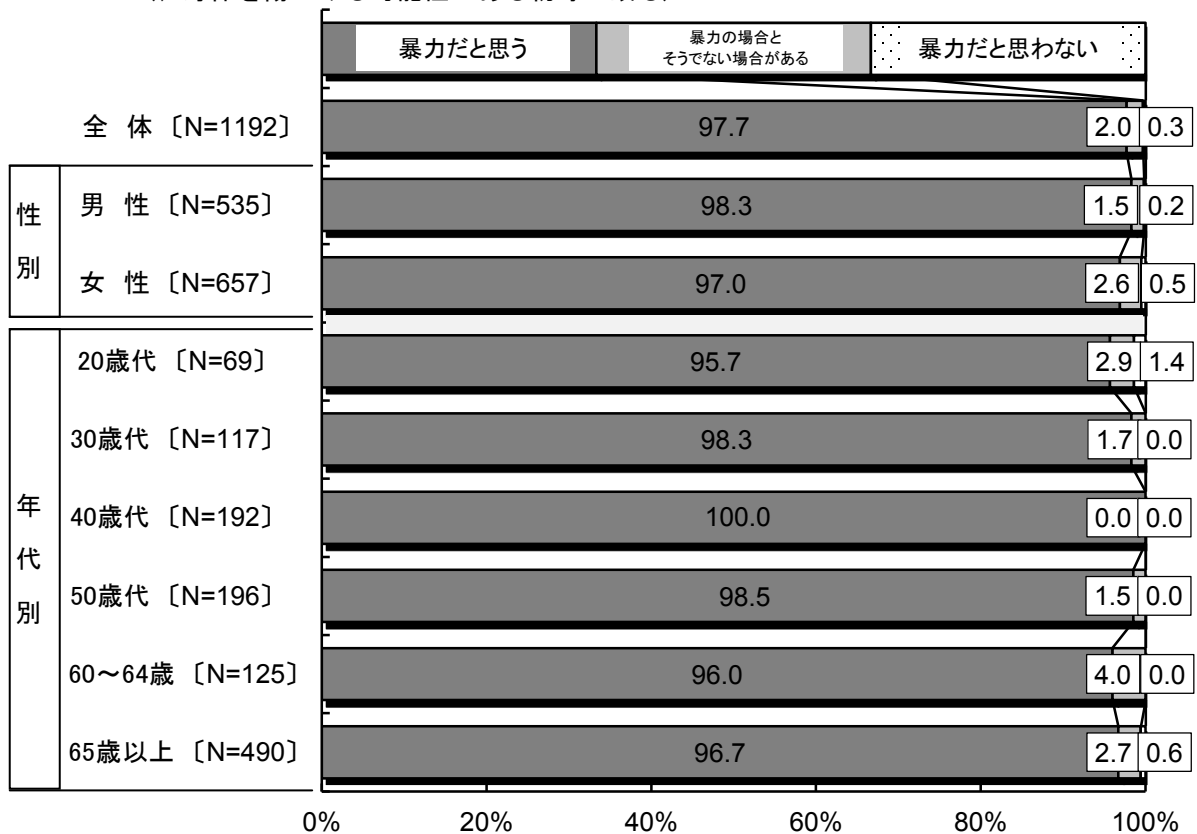
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

特に大きな差異はない。

17-4図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る)



エ 殴るふりをして脅す

「暴力だと思う」63.3%、「暴力の場合とそうでない場合がある」32.1%

【全体】

「暴力だと思う」が63.3%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が32.1%、「暴力だと思わない」は4.5%である。

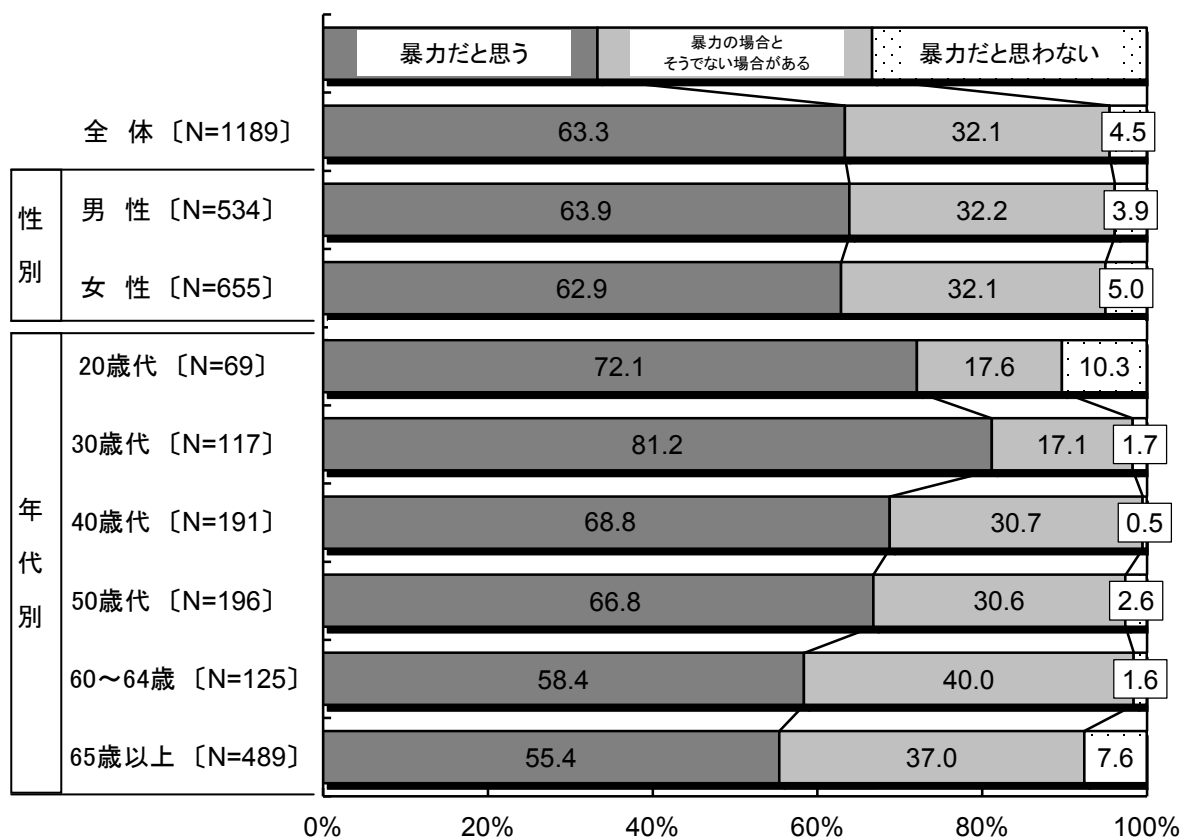
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

30歳代は、「暴力だと思う」が81.2%で他の年代に比べて高い。年代が上がるにつれて「暴力だと思う」は低くなり、「暴力の場合とそうでない場合がある」が高くなっている。

17-5図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(エ 殴るふりをして脅す)



オ 刃物等を突きつけて脅す

「暴力だと思う」が98.0%

【全体】

「暴力だと思う」が98.0%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」は1.7%、「暴力だと思わない」は0.3%である。

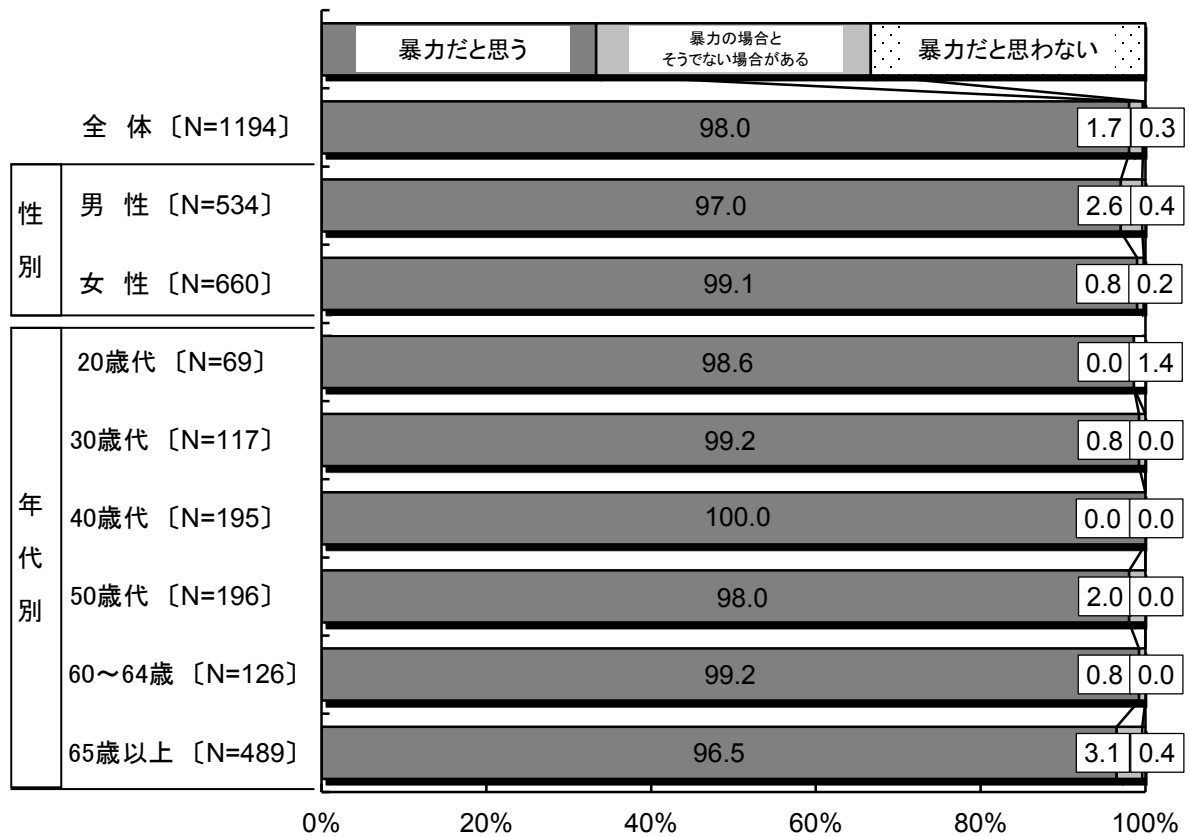
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

特に大きな差異はない。

17-6図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(オ 刃物等を突きつけて脅す)



カ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する

「暴力だと思う」が81.7%、「暴力の場合とそうでない場合がある」16.7%

【全体】

「暴力だと思う」が81.7%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が16.7%、「暴力だと思わない」は1.6%である。

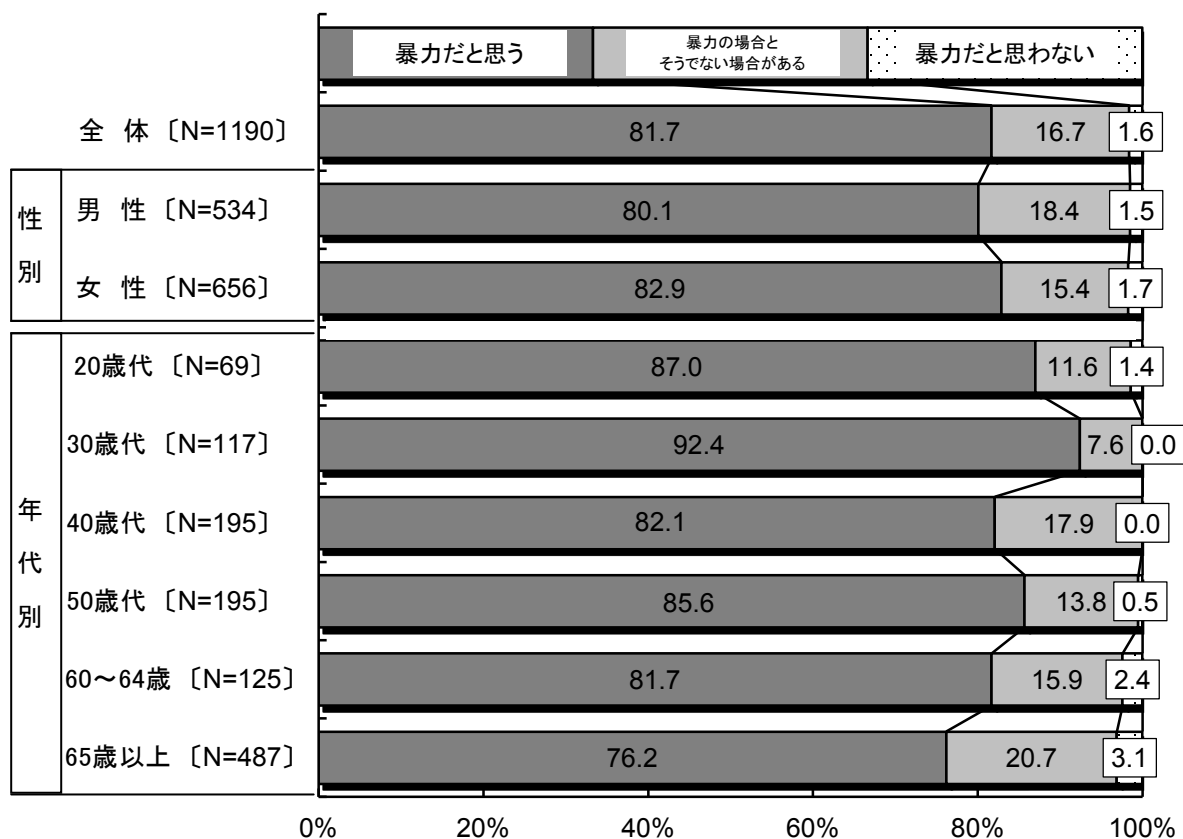
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

65歳以上は、「暴力だと思う」が76.2%で他の年代に比べて低い。

17-7図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(カ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する)



キ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる

「暴力だと思う」が77.2%、「暴力の場合とそうでない場合がある」19.9%

【全体】

「暴力だと思う」が77.2%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が19.9%、「暴力だと思わない」は2.9%である。

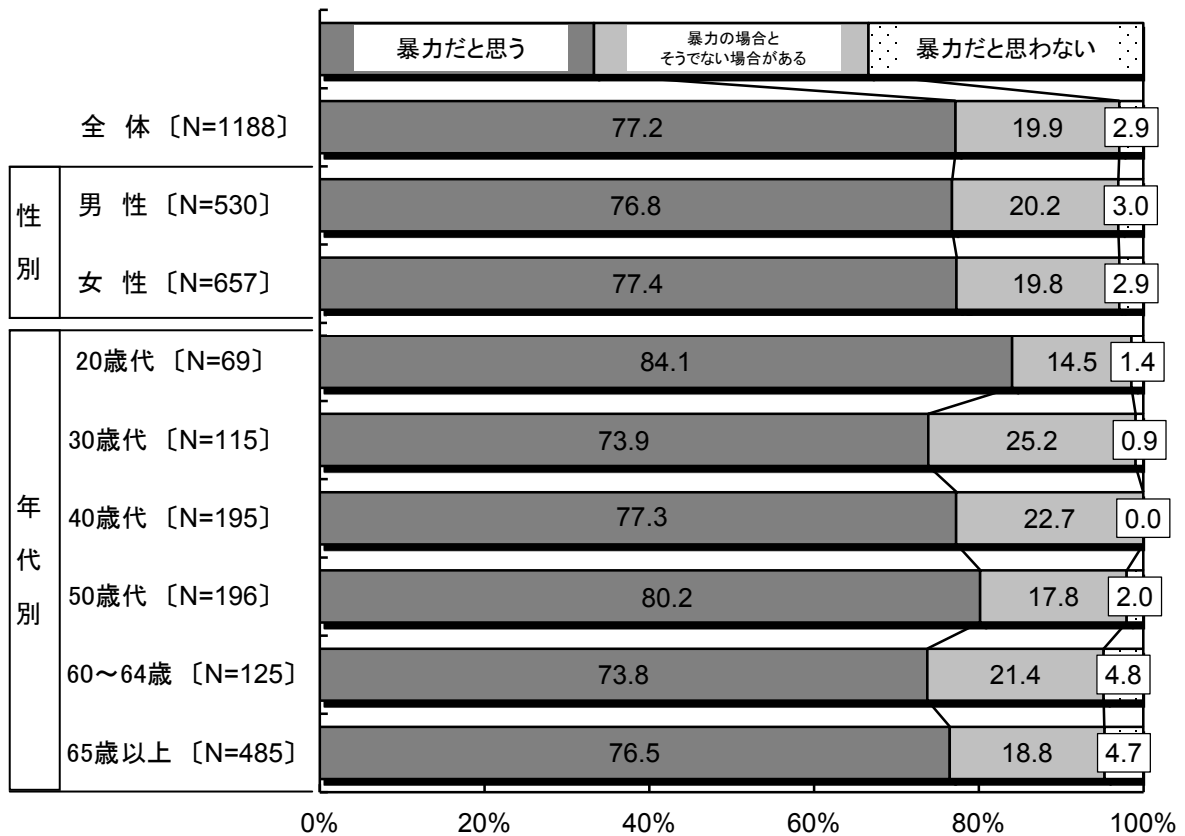
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

20歳代は「暴力だと思う」が84.1%と他の年代より若干高い。

17-8図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(キ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる)



ク 何を言っても長時間無視し続ける

「暴力だと思う」57.2%、「暴力の場合とそうでない場合がある」36.3%

【全体】

「暴力だと思う」が57.2%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が36.3%、「暴力だと思わない」は6.6%である。

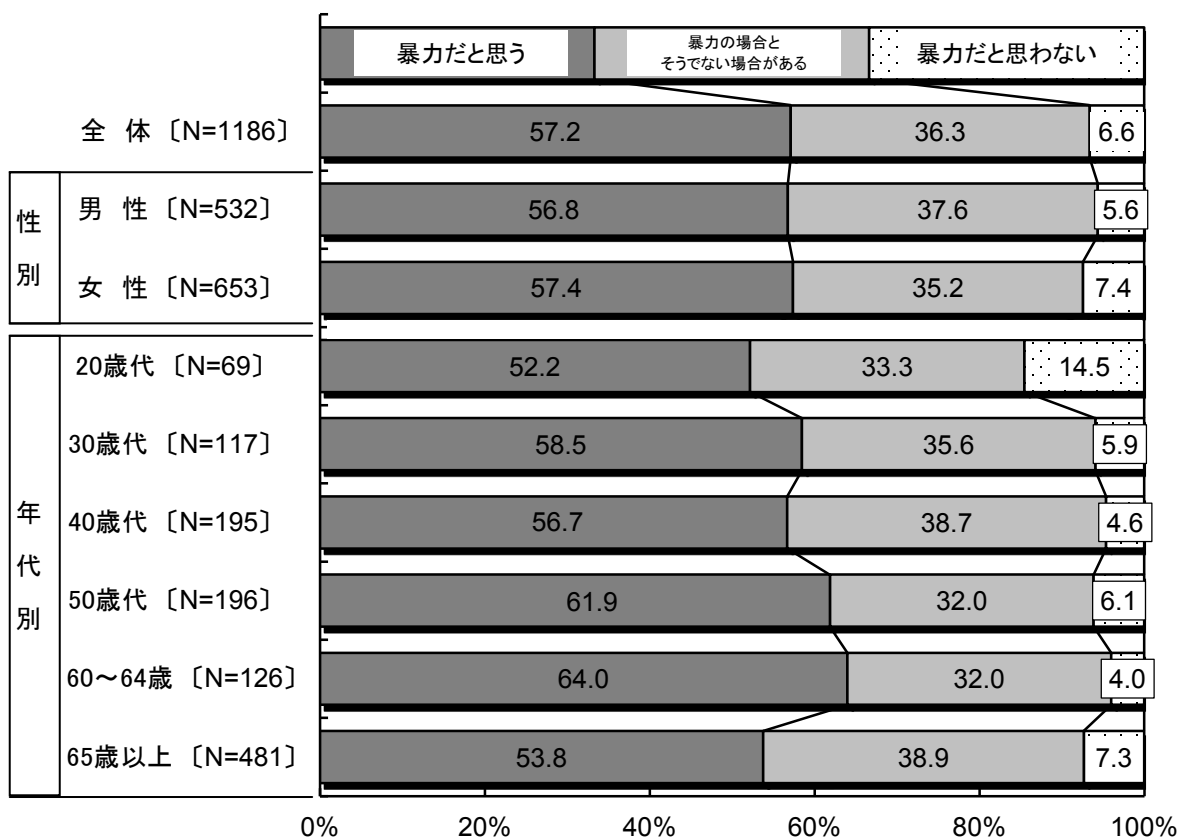
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

20歳代は、「暴力だと思わない」が14.5%で他の年代に比べて高い。

17-9図 暴力だと思う行為について【全体・性別・年代別】
(ク 何を言っても長時間無視し続ける)



ケ 交友関係や電話・メール等を細かく監視する

「暴力だと思う」58.7%、「暴力の場合とそうでない場合がある」33.9%

【全体】

「暴力だと思う」が58.7%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が33.9%、「暴力だと思わない」は7.4%である。

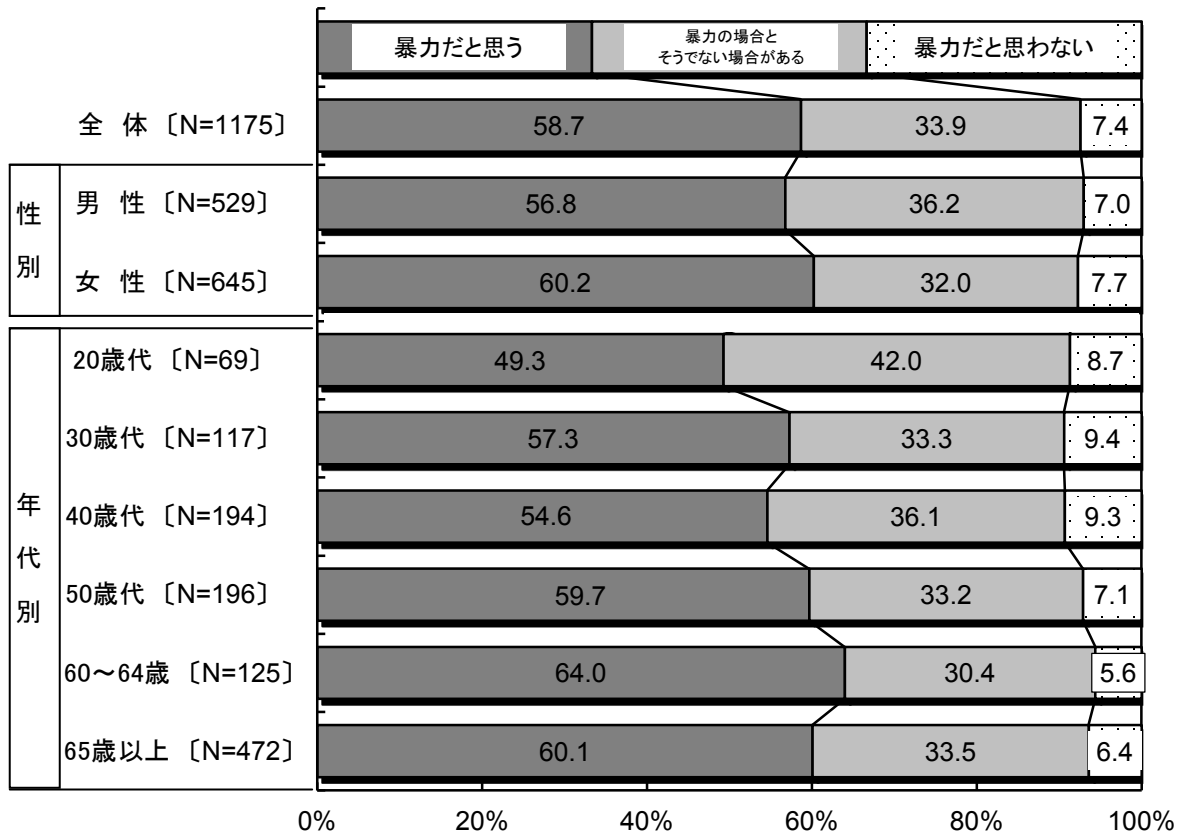
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

50歳代、60～64歳、65歳以上は、「暴力だと思う」が60%前後で他の年代に比べて高い。20歳代は、「暴力だと思う」が49.3%で他の年代に比べて低い。

17-10図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
（ケ 交友関係や電話・メール等を細かく監視する）



コ 相手が傷つくようなことを言う

「暴力だと思う」が81.2%、「暴力の場合とそうでない場合がある」16.7%

【全体】

「暴力だと思う」が81.2%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が16.7%、「暴力だと思わない」は2.1%である。

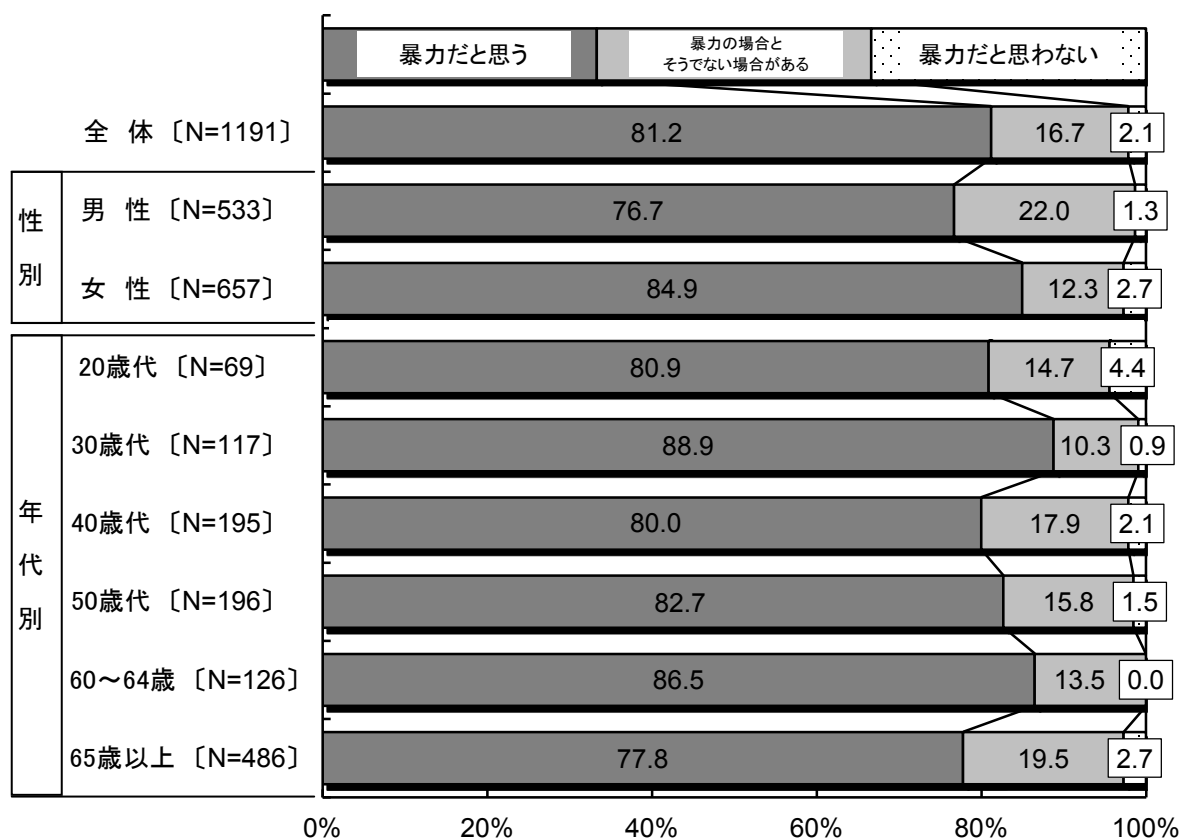
【性別】

「暴力だと思う」は、女性が84.9%で男性の76.7%より8.2ポイント高く、男性は「暴力の場合とそうでない場合がある」が22.0%で女性の12.3%より9.7ポイント高い。

【年代別】

特に大きな差異はない。

17-11図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
 (コ 相手が傷つくようなことを言う)



サ 大声でどなる

「暴力だと思う」65.1%、「暴力の場合とそうでない場合がある」30.5%

【全体】

「暴力だと思う」が65.1%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が30.5%、「暴力だと思わない」は4.4%である。

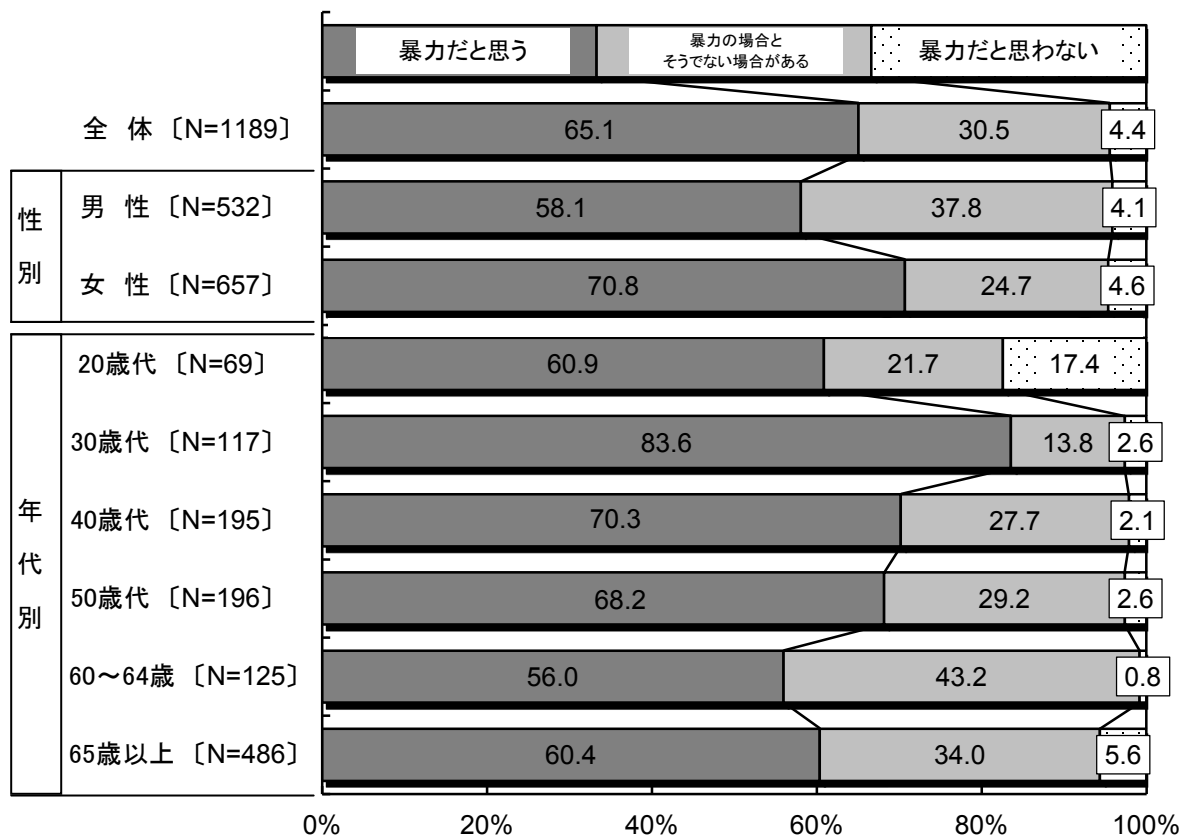
【性別】

「暴力だと思う」は、女性が70.8%で男性の58.1%より12.7ポイント高く、男性は「暴力の場合とそうでない場合がある」が37.8%で女性の24.7%より13.1ポイント高い。

【年代別】

30歳代は、「暴力だと思う」が83.6%で他の年代に比べて高い。60～64歳は、「暴力の場合とそうでない場合がある」が43.2%と他の年代に比べて高い。

17-12図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(サ 大声でどなる)



シ 生活費を渡さない

「暴力だと思う」が79.0%、「暴力の場合とそうでない場合がある」16.9%

【全体】

「暴力だと思う」が79.0%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が16.9%、「暴力だと思わない」は4.1%である。

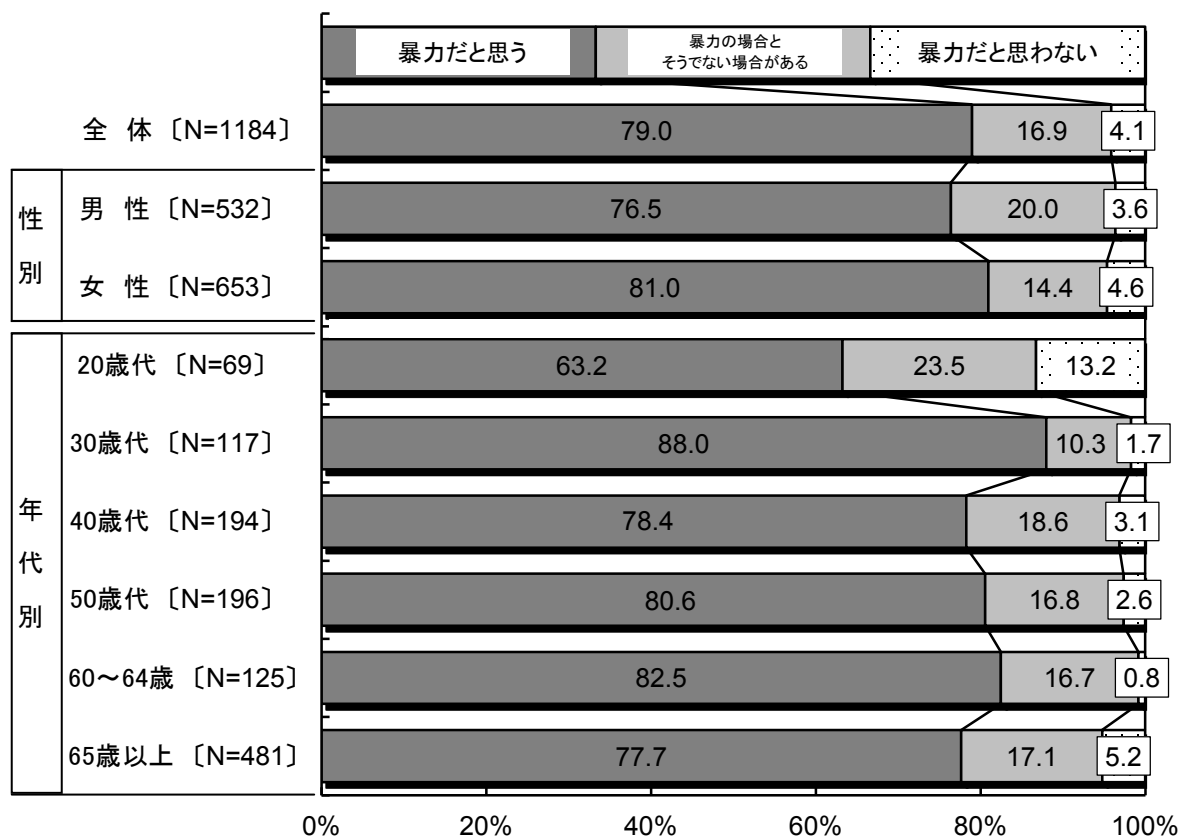
【性別】

男性は、「暴力の場合とそうでない場合がある」が20.0%で女性の14.4%より5.6ポイント高い。

【年代別】

20歳代は、「暴力だと思う」が63.2%で他の年代に比べて低く、30歳代は「暴力だと思う」が88.0%で他の年代に比べて高い。

17-13図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(シ 生活費を渡さない)



(18-1) 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為の経験について

問18-1 あなたは、配偶者や恋人との間で次のような行為を経験したことがありますか。
それぞれについて1～4のいずれかに○

「経験がある」49.4%、「経験はない」50.6% ⇒ 半数近くは経験がある

※配偶者や恋人との間で行われる暴力だと思ふ行為(次頁 ア 手でぶつ・殴る～シ 生活費を渡さない)の項目に「したことがある」「両方」「されたことがある」のいずれか1つでも○がある場合、「経験がある」とする。

【全体】

「経験がある」が49.4%、「経験はない」が50.6%である。

【性別】

特に大きな差異はない。

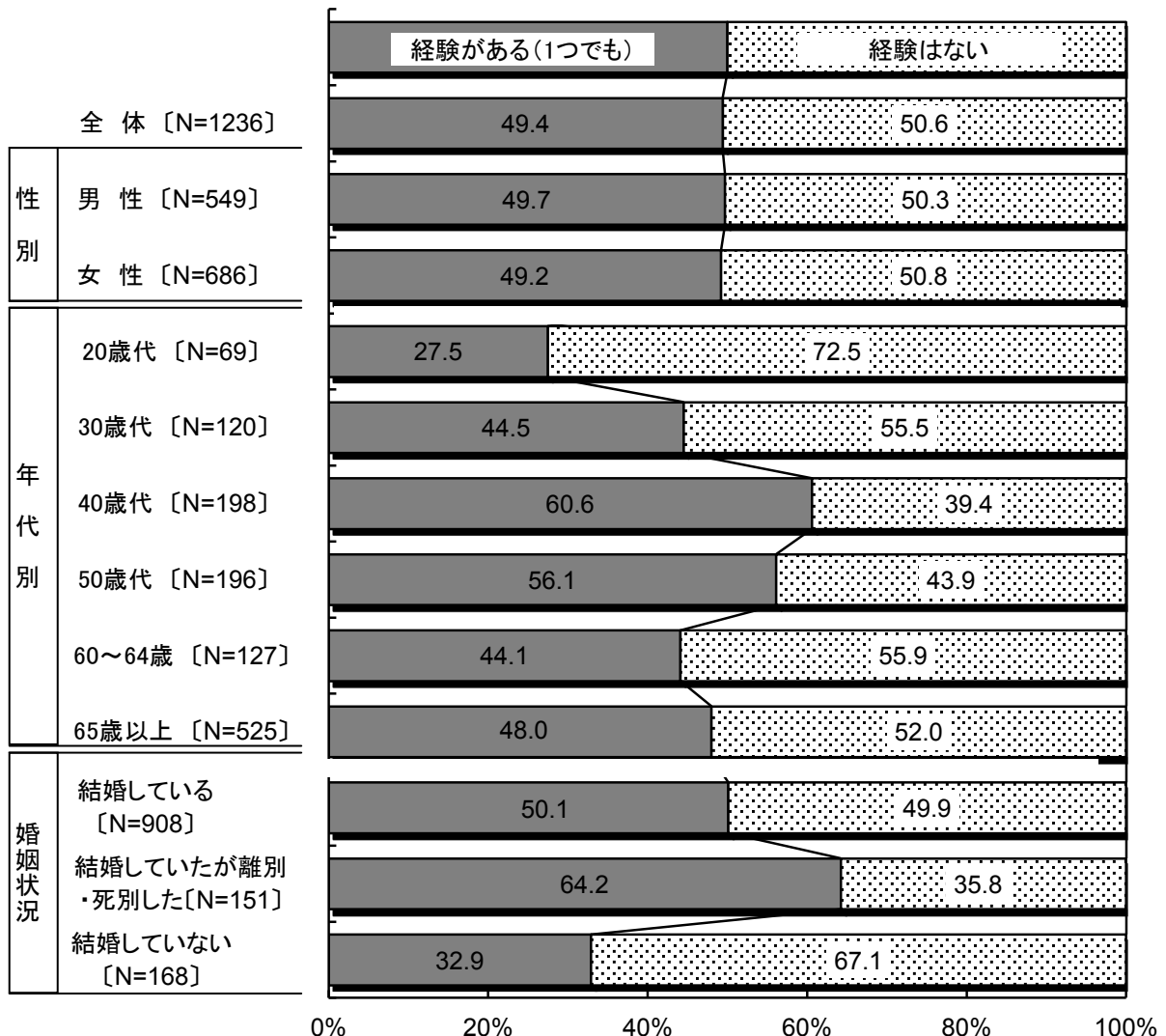
【年代別】

40歳代は「経験がある」が60.6%で最も高く、50歳代が56.1%で続いている。

【婚姻状況】

結婚していたが離別・死別した人は「経験がある」が64.2%と高く、結婚していない人は32.9%と低い。

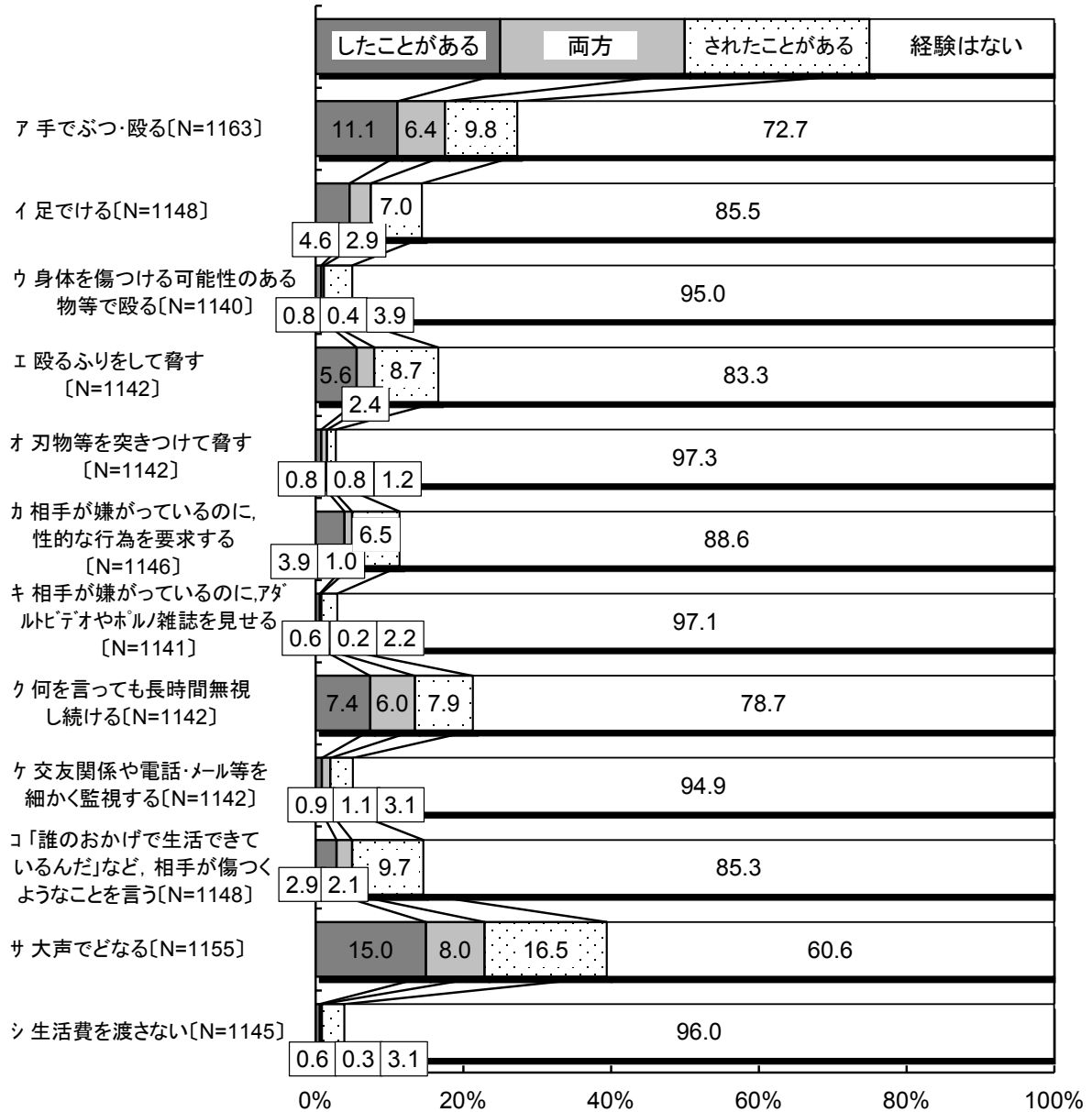
18(1)-1図 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為の経験有無について
〔全体・性別・年代別・婚姻状況別〕



【行為別】

各行為とも「経験はない」が最も多いが、「サ 大声でどなる」が「したことがある (15.0%)」「されたことがある (16.5%)」「両方 (8.0%)」とも各行為の中で最も高く、ついで「ア 手でぶつ・殴る」が「したことがある (11.1%)」「されたことがある (9.8%)」「両方 (6.4%)」と高い。

18(1)-2図 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為の経験有無について〔行為別〕



【性別】

全体では、いずれかの行為を「したことがある」は男性209人、女性88人、「されたことがある」は男性64人、女性275人で「したことがある」は男性が多く、「されたことがある」は女性が多い。

行為別に「経験がある」の実数では、「シ 大声でどなる」は男性203人、女性252人で男性、女性共に「経験がある」の実数が最も多く、ついで「ア 手でぶつ・殴る」が男性145人、女性173人、「ク 何を言っても長時間無視し続ける」が男性115人、女性128人と続く。

また、「サ 大声でどなる」は、女性が「されたことがある」が最も多いのに対し、男性は「したことがある」が最も多い。

18(1)-1表 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思う行為の経験有無について(実数・%)〔男性〕

行為別	人数	したことがある	両方	されたことがある	経験がある	経験がある(%)
ア 手でぶつ・殴る	517	89	41	15	145	28.0
イ 足でける	514	32	20	18	70	13.6
ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る	510	5	2	6	13	2.5
エ 殴るふりをして脅す	512	53	14	15	82	16.0
オ 刃物等を突きつけて脅す	512	6	1	2	9	1.8
カ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	515	41	5	3	49	9.5
キ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	511	6	1	1	8	1.6
ク 何を言っても長時間無視し続ける	511	54	39	22	115	22.5
ケ 交友関係や電話・メール等を細かく監視する	510	6	5	11	22	4.3
コ 「誰のおかげで生活できているんだ」とか「かいしょうなし」など、相手が傷つくようなことを言う	510	21	16	14	51	10.0
サ 大声でどなる	514	137	51	15	203	39.5
シ 生活費を渡さない	514	5	2	2	9	1.8
全体	549	209	109	64	273	49.7

18(1)-2表 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思う行為の経験有無について(実数・%)〔女性〕

行為別	人数	したことがある	両方	されたことがある	経験がある	経験がある(%)
ア 手でぶつ・殴る	645	40	34	99	173	26.8
イ 足でける	634	21	13	62	96	15.1
ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る	630	3	2	38	43	6.8
エ 殴るふりをして脅す	630	12	13	84	109	17.3
オ 刃物等を突きつけて脅す	630	3	8	12	23	3.7
カ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	631	4	6	70	80	12.7
キ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	630	0	1	23	24	3.8
ク 何を言っても長時間無視し続ける	631	31	30	67	128	20.3
ケ 交友関係や電話・メール等を細かく監視する	631	4	8	24	36	5.7
コ 「誰のおかげで生活できているんだ」とか「かいしょうなし」など、相手が傷つくようなことを言う	638	12	8	97	117	18.3
サ 大声でどなる	641	36	41	175	252	39.3
シ 生活費を渡さない	630	3	1	32	36	5.7
全体	686	88	94	275	337	49.2

(18-2) 配偶者や恋人間の暴力に関する相談状況について〔複数回答〕

問18-2 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。○はいくつでも

「どこ(だれ)にも相談しなかった」	67.2%
「友人・知人に相談した」	20.1%
「親族に相談した」	19.0%

【全体】

「どこ(だれ)にも相談しなかった」が67.2%と最も高く、「友人・知人に相談した」が20.1%、「親族に相談した」が19.0%で続いている。

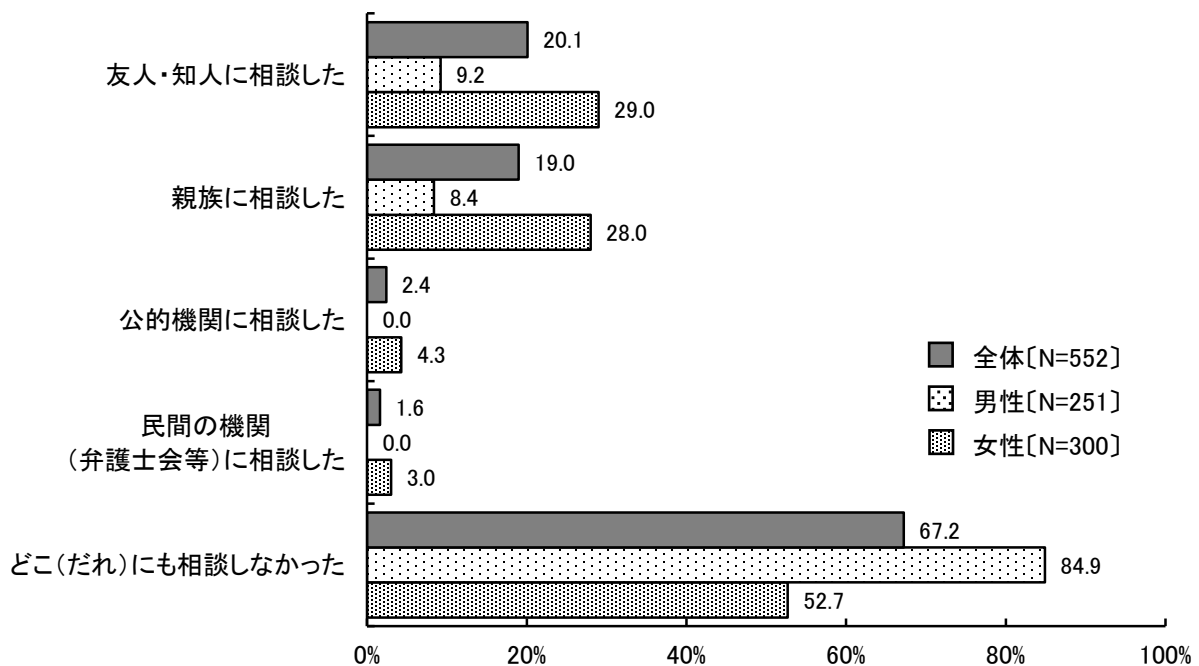
「公的機関に相談した」は、2.4%と少ない。

【性別】

男性は、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が84.9%で、女性の52.7%に比べて32.2ポイント高い。女性は、「友人・知人に相談した」が29.0%、「親族に相談した」が28.0%でいずれも男性（それぞれ9.2%、8.4%）に比べて高い。

問18-1で「したことがある」、「両方」、「されたことがある」と回答した方のみ

18(2)-1図 配偶者や恋人間の暴力に関する相談状況について〔全体・性別〕



(19-1) 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験について

問19-1 あなたは、これまでに、職場・学校・地域で、次のような経験をしたことがありますか。

「経験がある」30.3%、「経験はない」69.7% ⇒ 全体の約3割は経験がある

※配偶者や恋人との間で行われる行為(次頁 ア 嫌がっているのに卑猥な話を聞かされた～サ その他)の項目に「職場」「学校」「地域」のいずれか1つでも○がある場合、「経験がある」とする。

【全体】

「経験がある」が30.3%、「経験はない」が69.7%である。

【性別】

女性は「経験がある」が36.7%で男性の22.4%に比べて14.3ポイント高い。

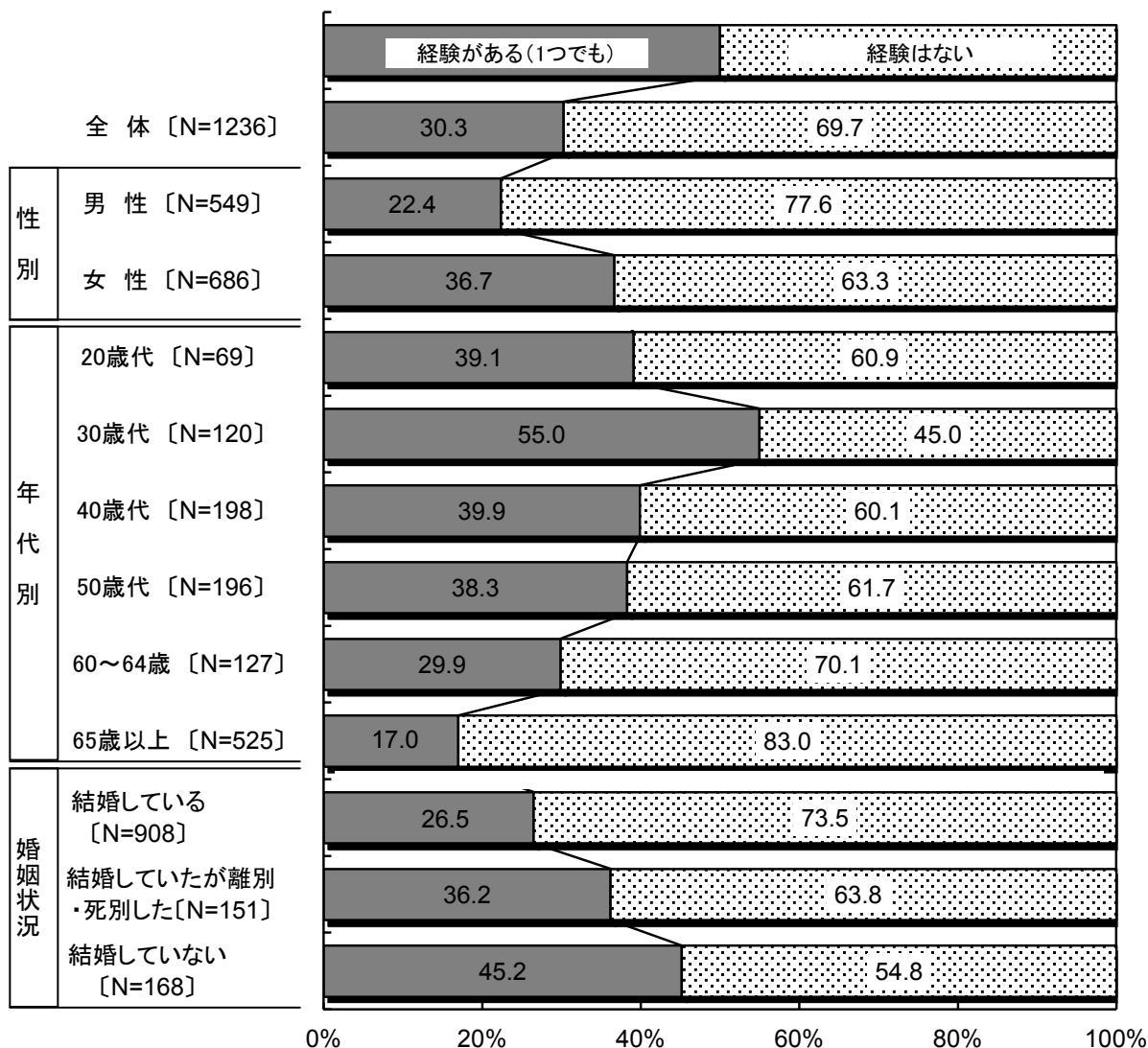
【年代別】

30歳代は「経験がある」が55.0%で最も高い。

【婚姻状況】

結婚していない人は「経験がある」が45.2%と結婚している人の26.5%に比べて18.7ポイント高い。

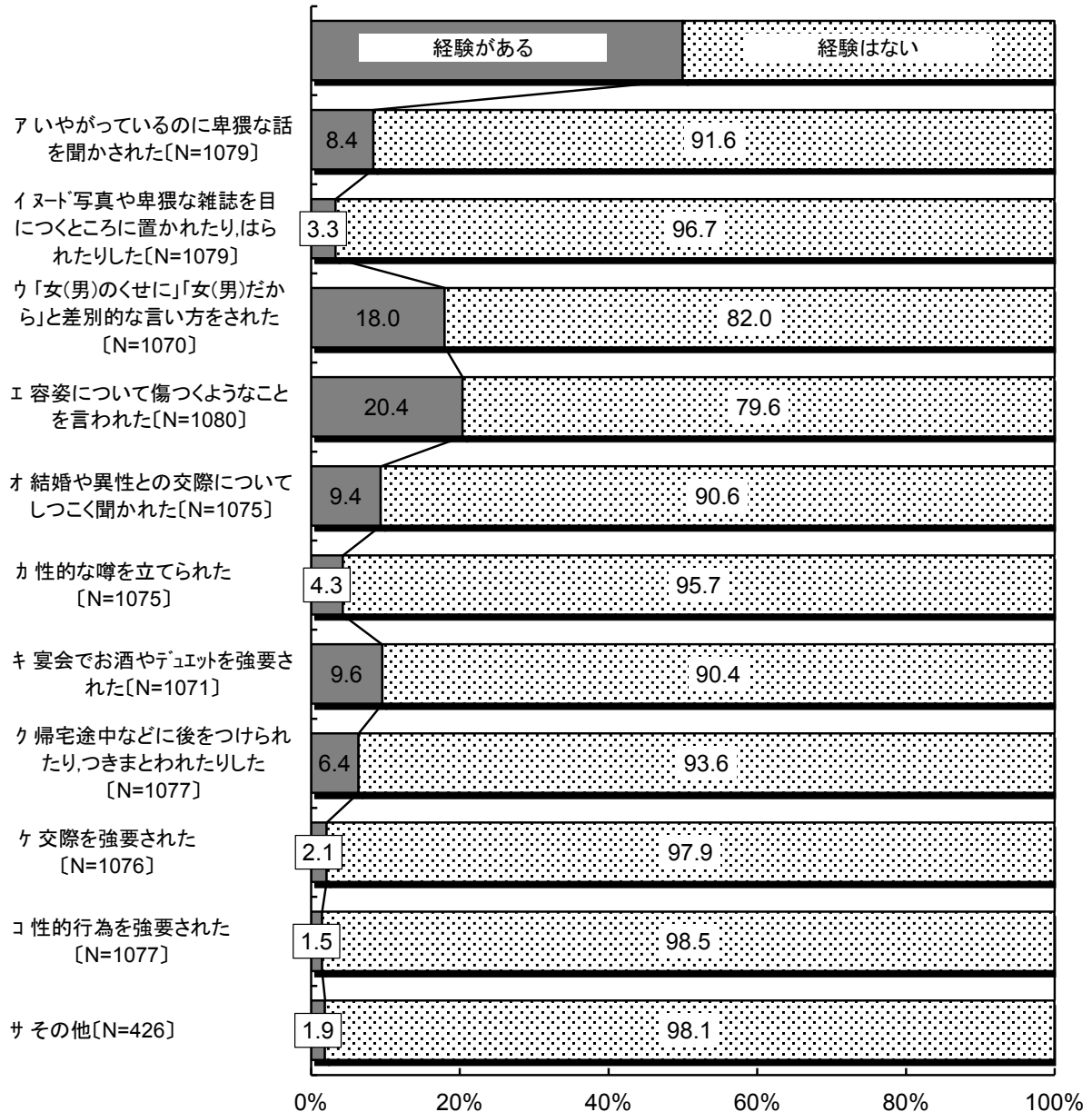
19(1)-1図 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験有無について
〔全体・性別・年代別〕



【行為別】

各行為とも「経験はない」が「経験がある」より高いが、「エ 容姿について傷つくようなことを言われた」が20.4%で、「経験がある」が最も高い。ついで「ウ「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」が18.0%、「キ 宴会でお酒やデュエットを強要された」が9.6%と高くなっている。

19(1)-2図 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験有無について〔行為別〕



【性別】

男性、女性とも「経験がある」の実数では、「エ 容姿について傷つくようなことを言われた」が男性77人、女性142人で最も多く、ついで「ウ「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」が男性61人、女性131人と多い。

19(1)-1表 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験有無について

(実数・%)〔男性〕

行為別	人数	受けた場所			経験の有無		経験の有無(%)	
		職場	学校	地域	ある	ない	ある	ない
ア いやがっているのに卑猥な話を聞かされた	475	21	12	5	34	441	7.2	92.8
イ ノード写真や卑猥な雑誌を目につくところに置かれたり、はられたりした	472	11	9	1	17	455	3.6	96.4
ウ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	472	36	23	15	61	411	12.9	87.1
エ 容姿について傷つくようなことを言われた	473	40	41	10	77	396	16.3	83.7
オ 結婚や異性との交際についてしつこく聞かれた	471	28	11	7	39	432	8.3	91.7
カ 性的な噂を立てられた	472	12	1	5	17	455	3.6	96.4
キ 宴会でお酒やデュエットを強要された	470	22	5	8	32	438	6.8	93.2
ク 帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした	472	4	1	3	8	464	9.4	90.6
ケ 交際を強要された	472	2	0	2	4	468	0.8	99.2
コ 性的行為を強要された	471	0	0	1	1	470	0.2	99.8
全体	549	87	52	34	123	426	22.4	77.6

19(1)-2表 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験有無について

(実数・%)〔女性〕

行為別	人数	受けた場所			経験の有無		経験の有無(%)	
		職場	学校	地域	ある	ない	ある	ない
ア いやがっているのに卑猥な話を聞かされた	604	45	4	12	57	547	9.4	90.6
イ ノード写真や卑猥な雑誌を目につくところに置かれたり、はられたりした	606	10	0	9	19	587	3.1	96.9
ウ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	597	80	39	40	131	466	21.9	78.1
エ 容姿について傷つくようなことを言われた	606	71	75	24	142	464	23.4	76.6
オ 結婚や異性との交際についてしつこく聞かれた	604	45	14	20	63	541	10.4	89.6
カ 性的な噂を立てられた	603	11	10	12	29	574	4.8	95.2
キ 宴会でお酒やデュエットを強要された	601	60	2	9	71	530	11.8	88.2
ク 帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした	605	14	5	42	61	544	9.4	90.6
ケ 交際を強要された	604	13	4	4	19	585	3.1	96.9
コ 性的行為を強要された	605	8	1	7	14	591	2.3	97.7
全体	686	155	97	114	252	434	36.7	63.3

(19-2) 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントされた場合の相談状況について

〔複数回答〕

問19-2 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
○はいくつでも

「どこ(だれ)にも相談していない」	51.3%
「友人・知人に相談した」	30.8%
「親族に相談した」	22.9%

【全体】

「どこ(だれ)にも相談していない」が51.3%と最も高く、「友人・知人に相談した」が30.8%、「親族に相談した」が22.9%で続いている。

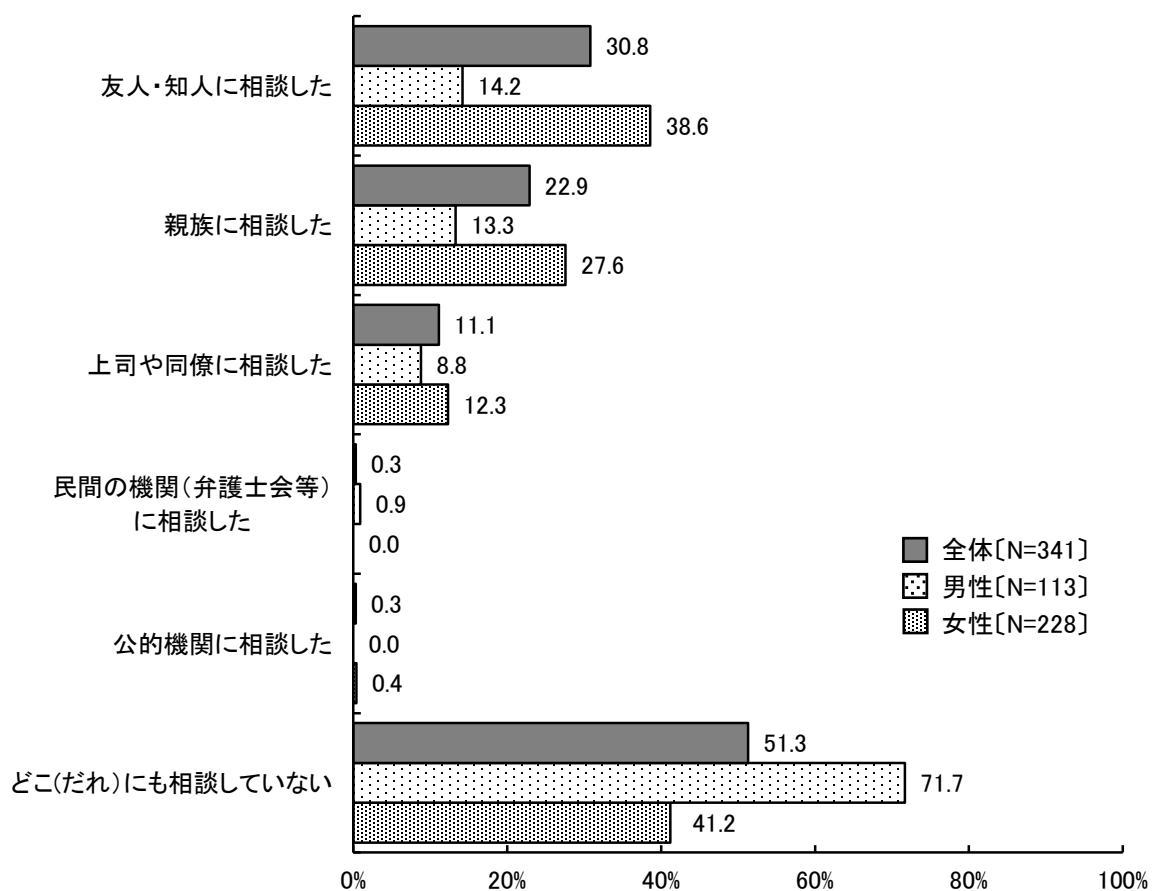
「公的機関に相談した」は、0.3%と少ない。

【性別】

男性は、「どこ(だれ)にも相談していない」が71.7%で、女性の41.2%に比べて30.5ポイント高い。女性は、「友人・知人に相談した」が38.6%、「親族に相談した」が27.6%でいずれも男性(それぞれ14.2%、13.3%)に比べて高い。

問19-1で「職場」、「学校」、「地域」と回答した方のみ

19(2)-1図 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントをされた場合の相談状況について〔全体・性別〕



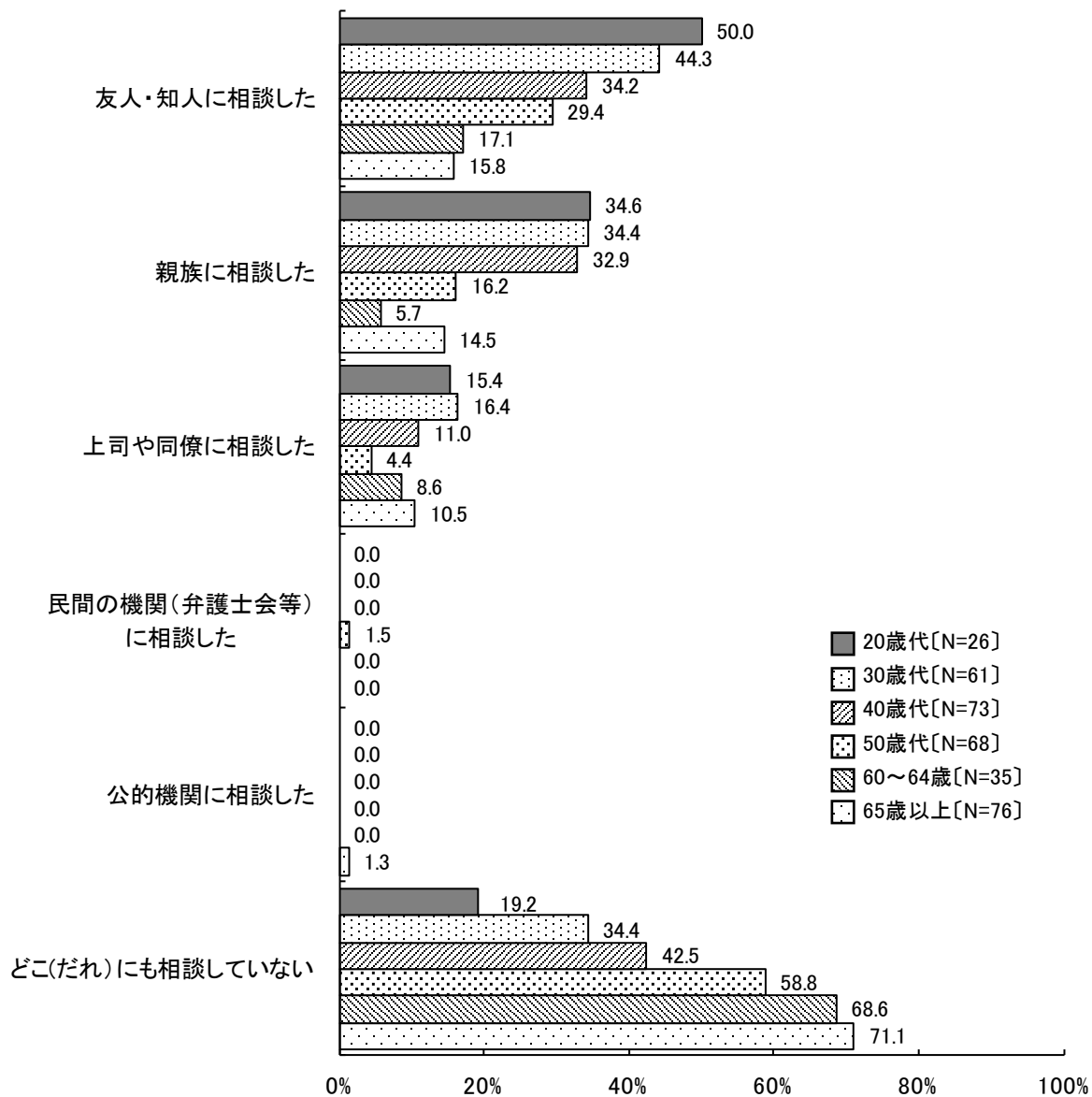
【年代別】

20歳代は、「友人・知人に相談した」が50.0%で他の年代に比べて高い。

「どこ（だれ）にも相談していない」は20歳代が19.2%に対し65歳以上は71.1%と高く、年代に比例して高くなっている。

問19-1で「職場」、「学校」、「地域」と回答した方のみ

19(2)-2図 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントをされた場合の相談状況について〔年代別〕



7. 男女共同参画の取り組みについて

(20) 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について

問20 あなたは、次の言葉や法律を知っていますか。それぞれについて1～3のいずれかに○

『知っている』（認知度が高い）順

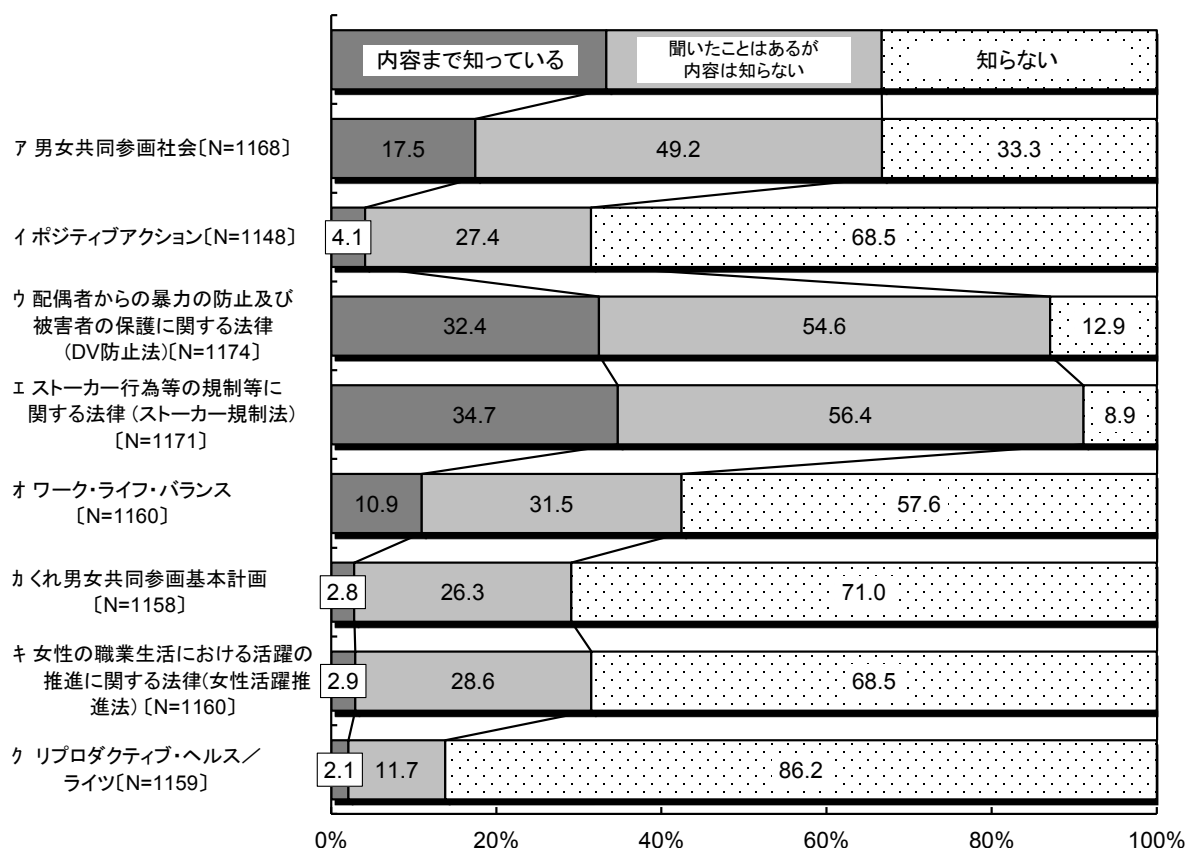
「ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法）」	91.1%
「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」	87.0%
「男女共同参画社会」	66.7%

※「内容まで知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせて『知っている』とする。

■認知度が高い順

エ ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法）	91.1%
ウ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）	87.0%
ア 男女共同参画社会	66.7%
オ ワーク・ライフ・バランス	42.4%
イ ポジティブアクション <small>（社会的・構造的な差別によって不利益を被っている女性等に対して、実質的な機会均等を実現するための暫定的な措置）</small>	31.5%
キ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）	31.5%
カ くれ男女共同参画基本計画	29.1%
ク リプロダクティブ・ヘルス／ライツ <small>（性と生殖に関する安全と健康を享受し、子どもを持つか持たないか、また、子どもの数や出産時期について決める自由を持つこと）</small>	13.8%

20-1図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体〕



ア 男女共同参画社会

『知っている』66.7%, 「知らない」33.3% ⇒ 『知っている』が33.4ポイント高い

【全体】

「聞いたことがあるが内容は知らない」が49.2%と最も高く、「内容まで知っている」が17.5%で合わせて『知っている』が66.7%となっている。

『知っている』は、「知らない」33.3%より33.4ポイント高い。

【性別】

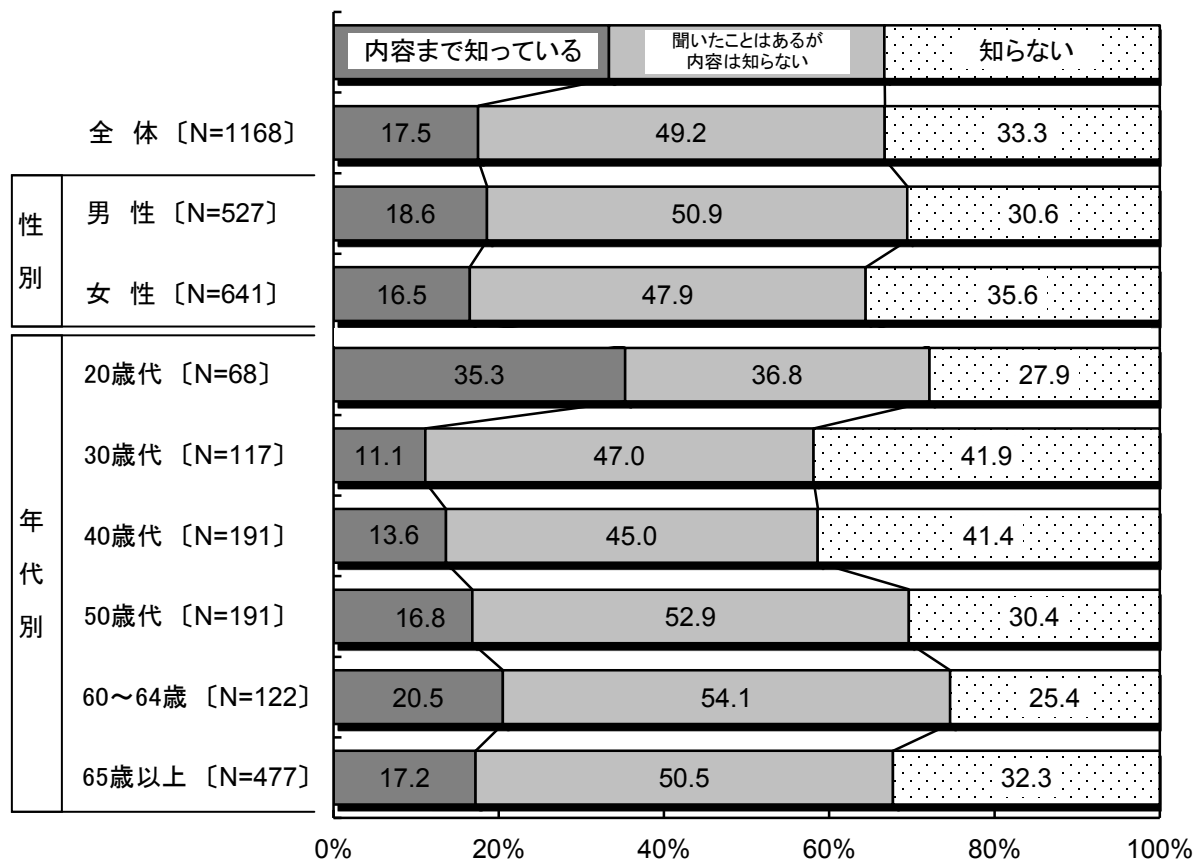
女性は「知らない」が35.6%で、男性の30.6%に比べて5.0ポイント高い。

【年代別】

20歳代は、「内容まで知っている」が35.3%で他の年代に比べて最も高い。

30歳代、40歳代は、「知らない」が40%を超えており、他の年代に比べて若干高い。

20-2図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(ア 男女共同参画社会)



イ ポジティブアクション

(社会的・構造的な差別によって不利益を被っている女性等に対して、実質的な機会均等を実現するための暫定的な措置)

『知っている』31.5%, 「知らない」68.5% ⇒ 「知らない」が37.0ポイント高い

【全体】

「知らない」が68.5%と最も高く、「聞いたことがあるが内容は知らない」が27.4%、「内容まで知っている」が4.1%で合わせて『知っている』が31.5%となっている。

「知らない」は、『知っている』を大きく上回っている。

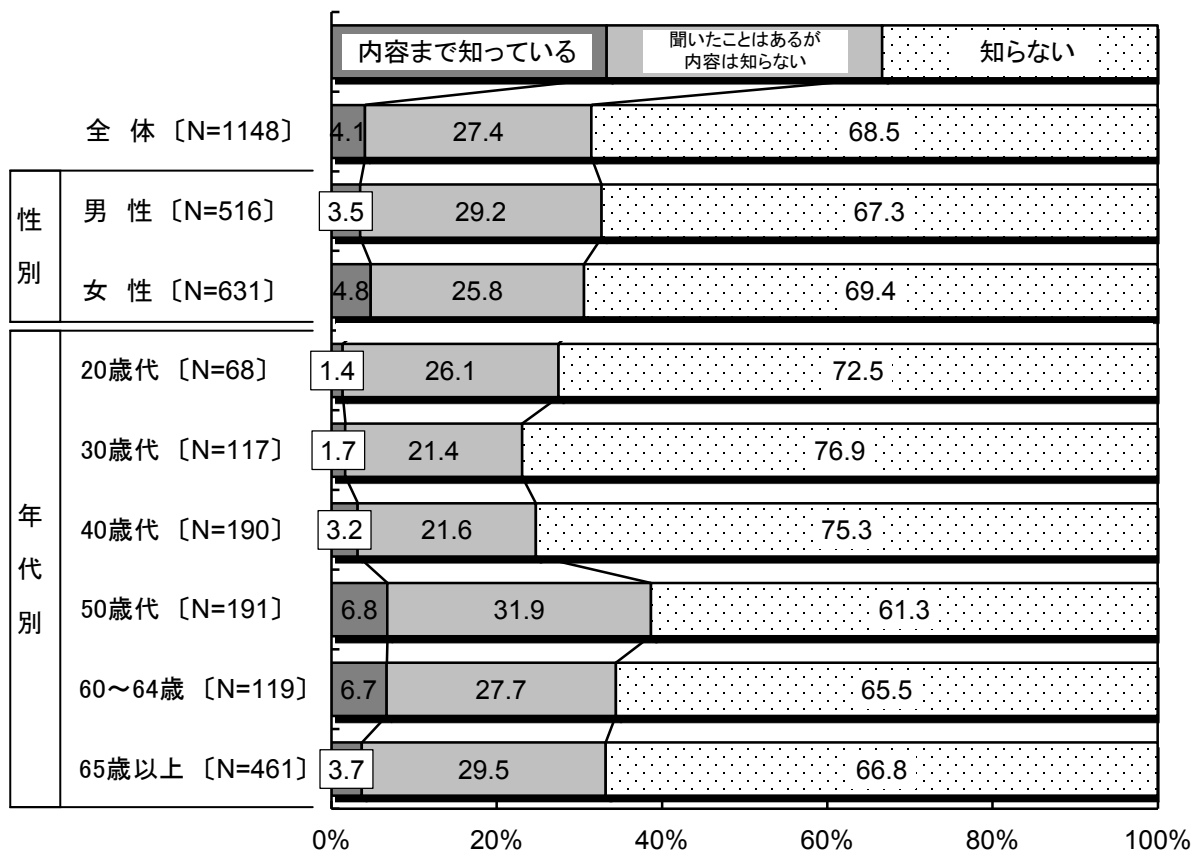
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

50歳代, 60~64歳, 65歳以上は、「聞いたことがあるが内容は知らない」がそれぞれ31.9%, 27.7%, 29.5%で若い年代に比べて高い。

20-3図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(イ ポジティブアクション)



ウ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)

『知っている』87.0%, 「知らない」12.9% ⇒ 『知っている』が74.1ポイント高い

【全体】

「聞いたことがあるが内容は知らない」が54.6%と最も高く、「内容まで知っている」が32.4%で合わせて『知っている』が87.0%となっている。

『知っている』は、「知らない」12.9%より74.1ポイント高い。

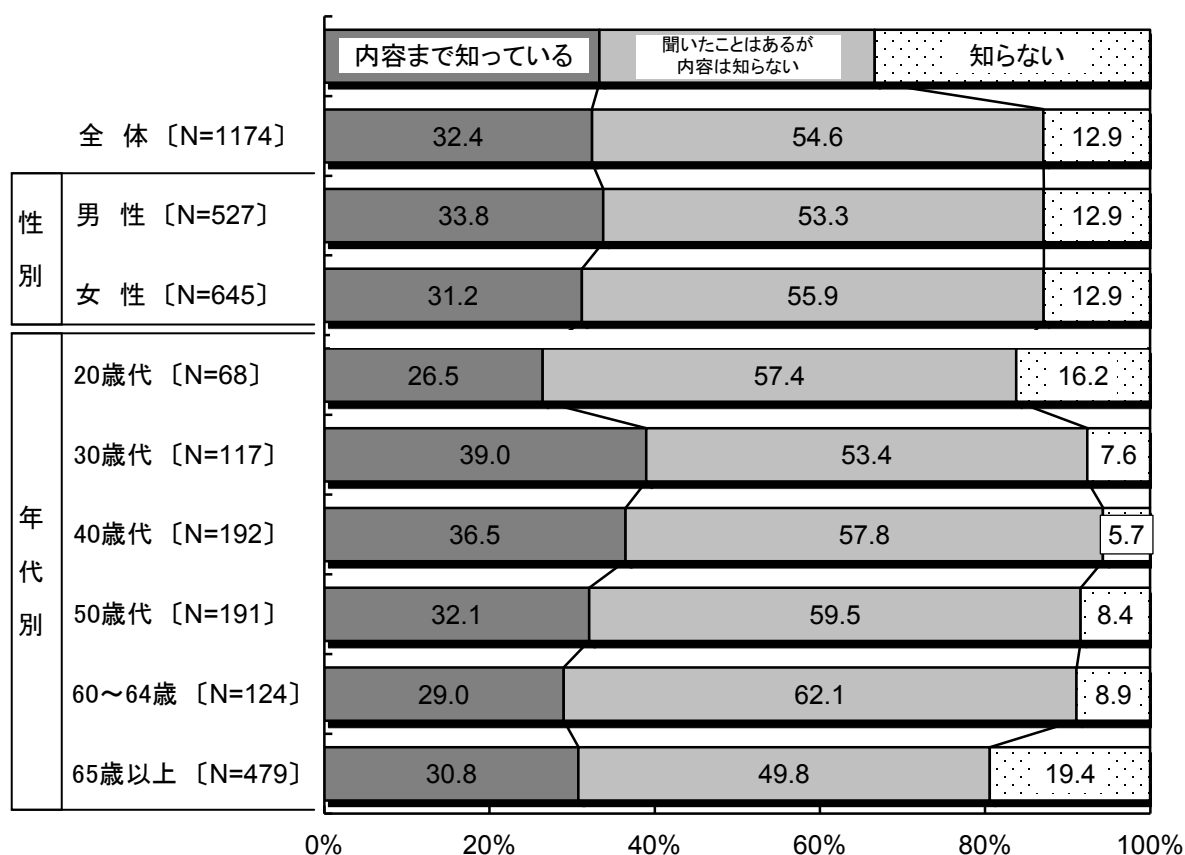
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

20歳代, 65歳以上は, 「知らない」がそれぞれ16.2%, 19.4%で他の年代に比べて高い。

20-4図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(ウ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法))



エ ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法）

『知っている』 91.1%, 「知らない」 8.9% ⇒ 「知っている」が82.2ポイント高い

【全体】

「聞いたことがあるが内容は知らない」が56.4%と最も高く、「内容まで知っている」が34.7%で合わせて『知っている』が91.1%となっており、『知っている』が「知らない」の8.9%を大きく上回っている。

【性別】

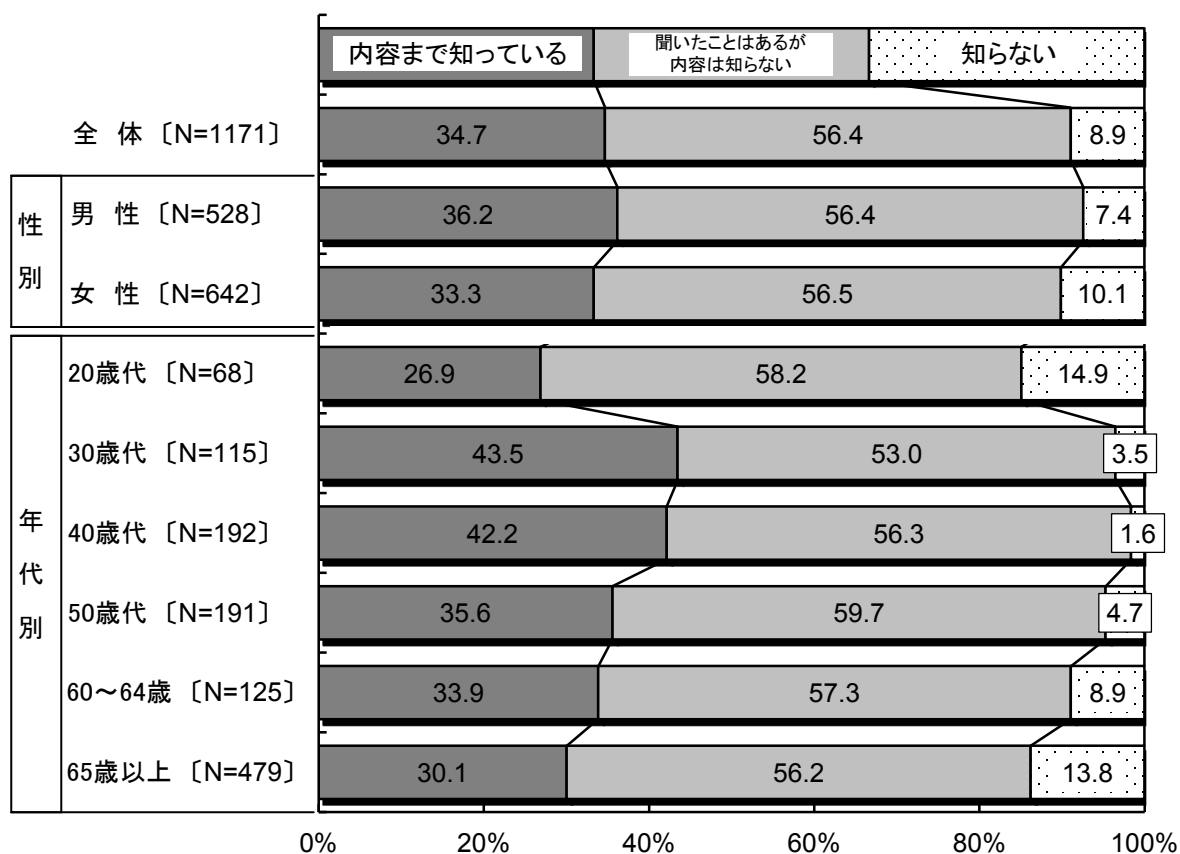
特に大きな差異はない。

【年代別】

20歳代は「内容まで知っている」が26.9%と他の年代より低い。

20歳代, 65歳以上は, 「知らない」がそれぞれ14.9%, 13.8%で他の年代に比べて高い。

20-5図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
（エ ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法））



オ ワーク・ライフ・バランス

『知っている』42.4%, 「知らない」57.6% ⇒ 「知らない」が15.2ポイント高い

【全体】

「知らない」が57.6%と最も高く、「聞いたことがあるが内容は知らない」が31.5%、「内容まで知っている」が10.9%で合わせて『知っている』が42.4%となっており、「知らない」が15.2ポイント高い。

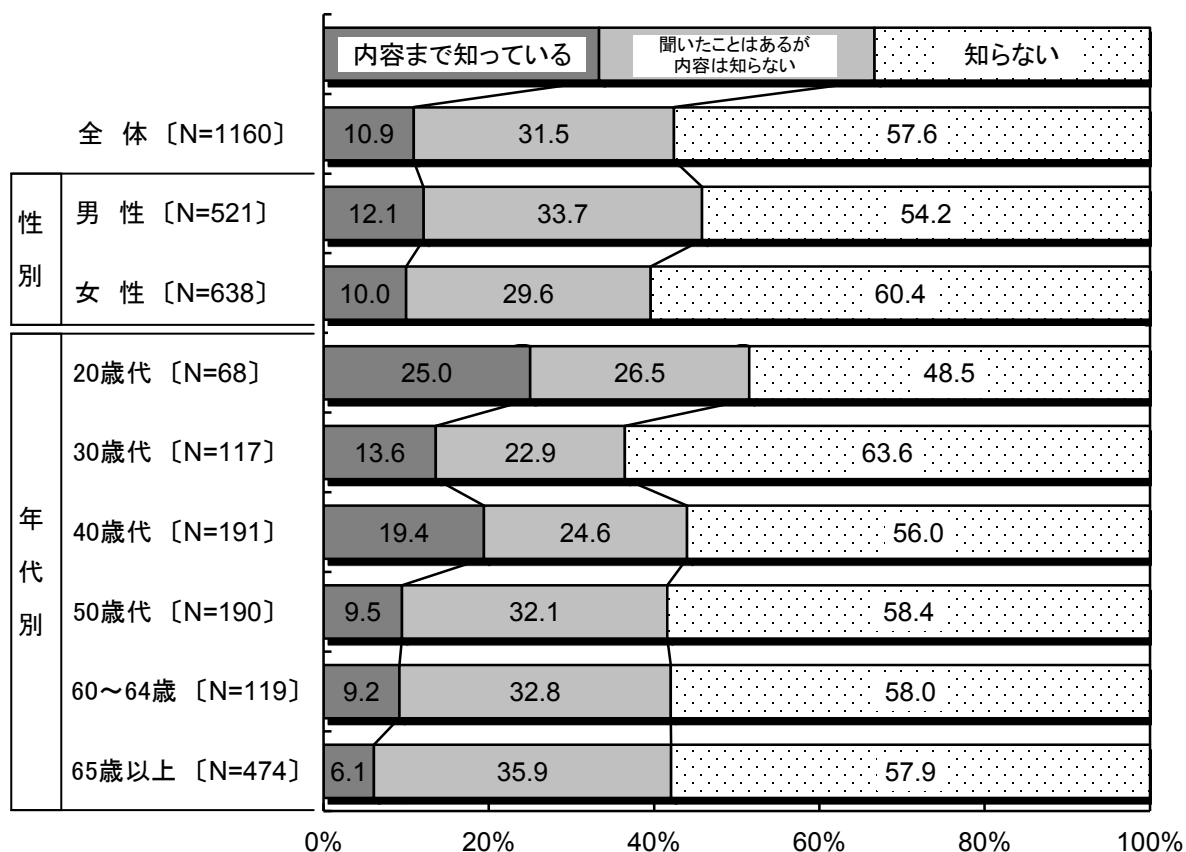
【性別】

女性は「知らない」が60.4%と男性の54.2%より6.2ポイント高い。

【年代別】

20歳代は「内容まで知っている」が25.0%と他の年代に比べて高く、「知らない」が48.5%で他の年代に比べて低い。

20-6図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(オ ワーク・ライフ・バランス)



カ くれ男女共同参画基本計画

『知っている』 29.1%, 「知らない」 71.0% ⇒ 「知らない」 が41.9ポイント高い

【全体】

「知らない」が71.0%と最も高く、「聞いたことがあるが内容は知らない」が26.3%、「内容まで知っている」が2.8%で合わせて『知っている』が29.1%となっており、「知らない」が41.9ポイント高い。

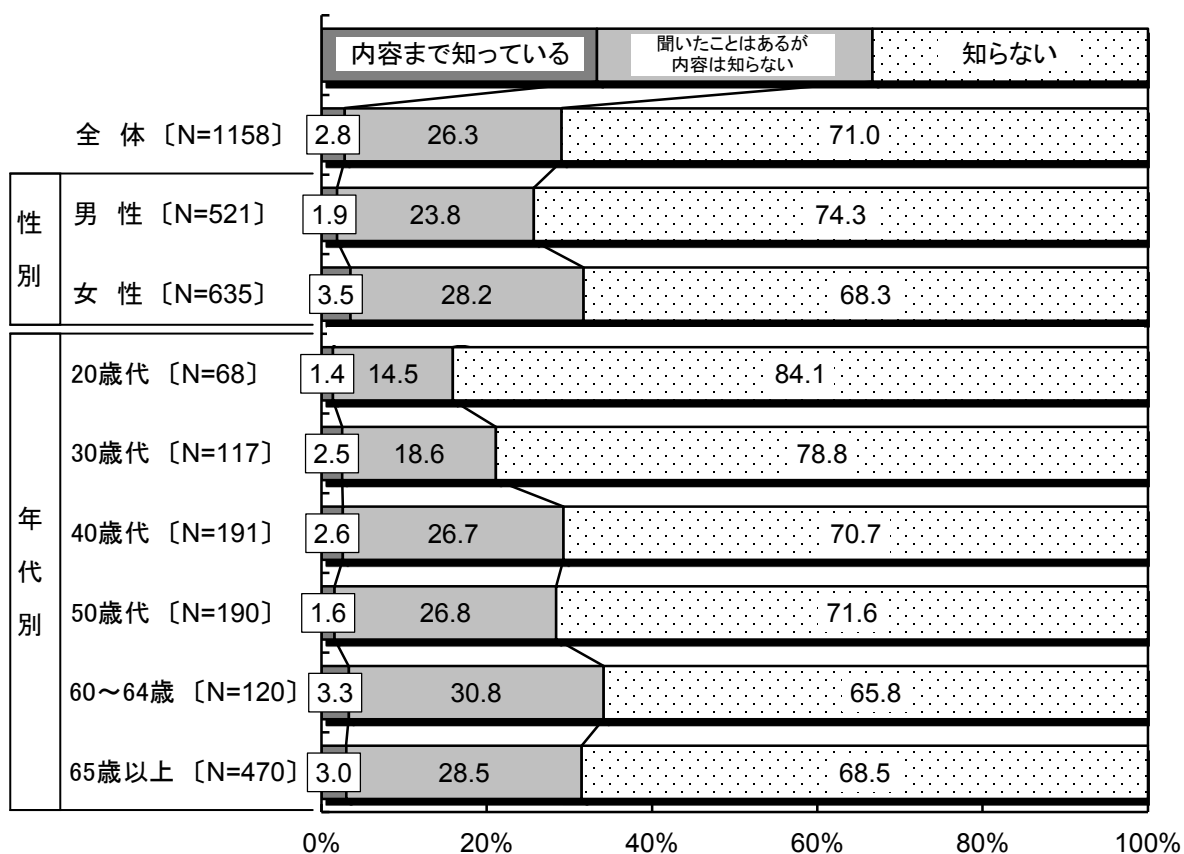
【性別】

男性は「知らない」が74.3%と女性の68.3%より6.0ポイント高い。

【年代別】

20歳代は、「知らない」が84.1%で他の年代に比べて高い。

20-7図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(カ くれ男女共同参画基本計画)



キ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）

『知っている』 31.5%, 「知らない」 68.5% ⇒ 「知らない」 が37.0ポイント高い

【全体】

「知らない」が68.5%と最も高く、「聞いたことがあるが内容は知らない」が28.6%、「内容まで知っている」が2.9%で合わせて『知っている』が31.5%となっており、「知らない」が37.0ポイント高い。

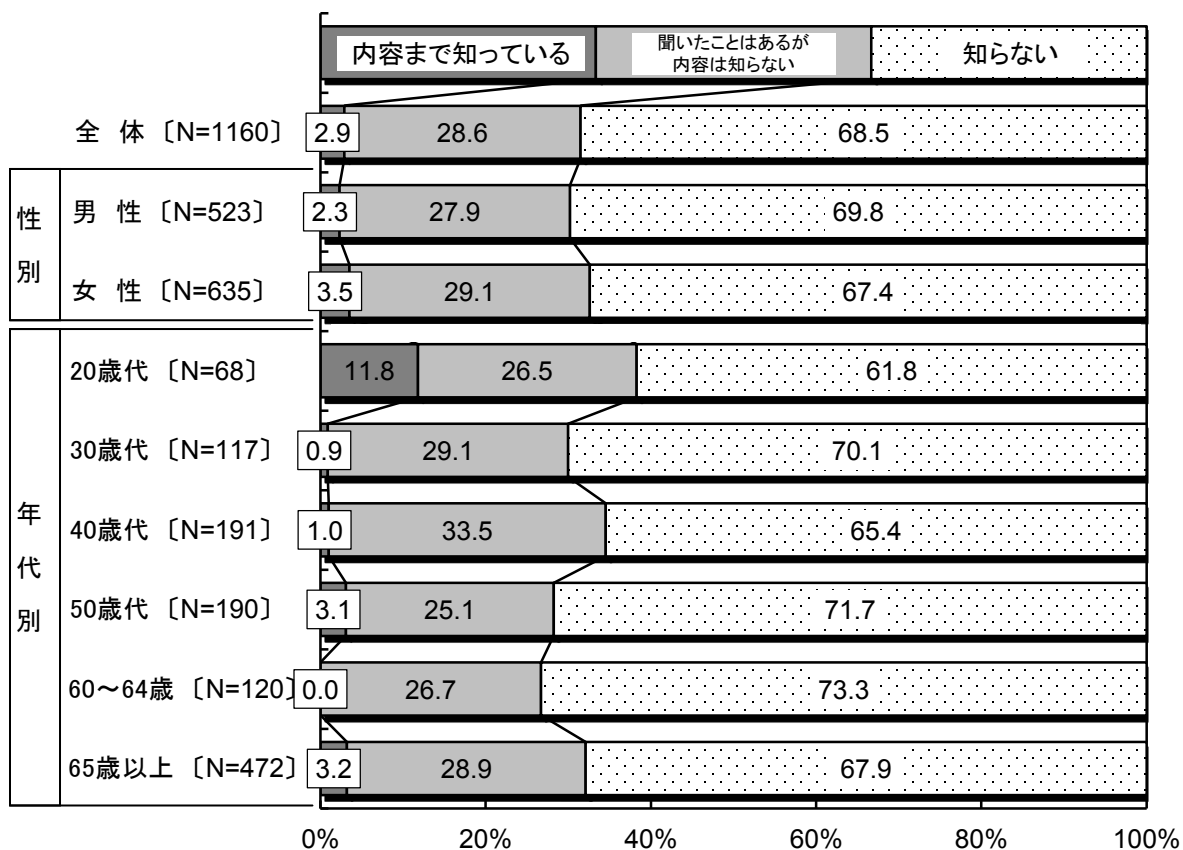
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

20歳代は、「内容まで知っている」が11.8%で他の年代に比べて高い。

20-8図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
（キ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法））



ク リプロダクティブ・ヘルス／ライツ

(性と生殖に関する安全と健康を享受し、子どもを持つか持たないか、また、子どもの数や出産時期について決める自由を持つこと)

『知っている』13.8%, 「知らない」86.2% ⇒ 「知らない」が72.4ポイント高い

【全体】

「知らない」が86.2%と最も高く、「聞いたことがあるが内容は知らない」が11.7%、「内容まで知っている」が2.1%で合わせて『知っている』が13.8%となっており、「知らない」が72.4ポイント高い。

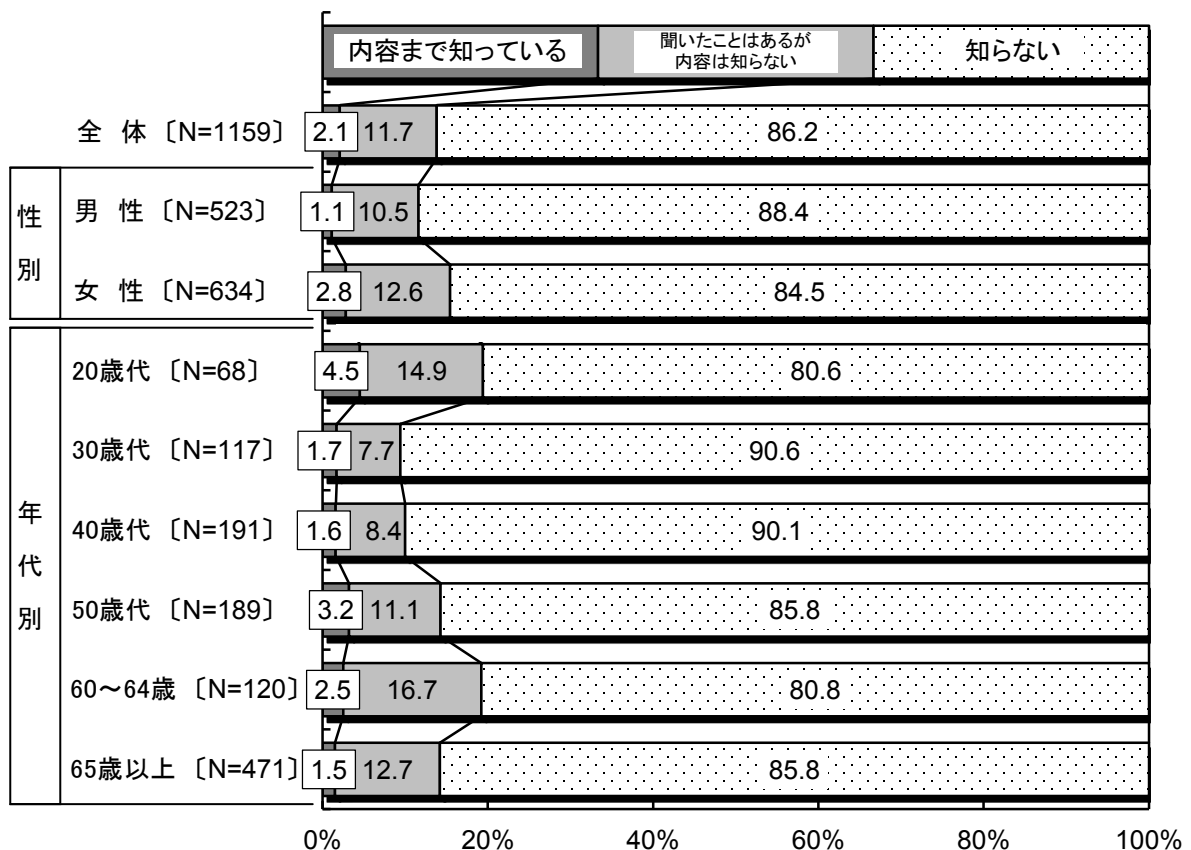
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

20歳代、60～64歳は、「内容まで知っている」「聞いたことがあるが内容は知らない」を合わせた『知っている』がそれぞれ19.4%、19.2%で他の年代に比べて高い。

20-9図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(ク リプロダクティブ・ヘルス／ライツ)



(21) 男女共同参画を推進する上で、力を入れて取り組むべきことについて〔複数回答〕

問 21 呉市が男女共同参画を推進する上で、どのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。○はいくつでも

1位	「子育て支援の充実」	58.9%
2位	「男女共同参画に関する情報の提供」	49.7%
2位	「高齢者支援の充実」	49.4%

※「男女共同参画に関する情報の提供」の49.7%と「高齢者支援の充実」の49.4%は、回答比率の差が信頼区間未満のため共に2位としている。

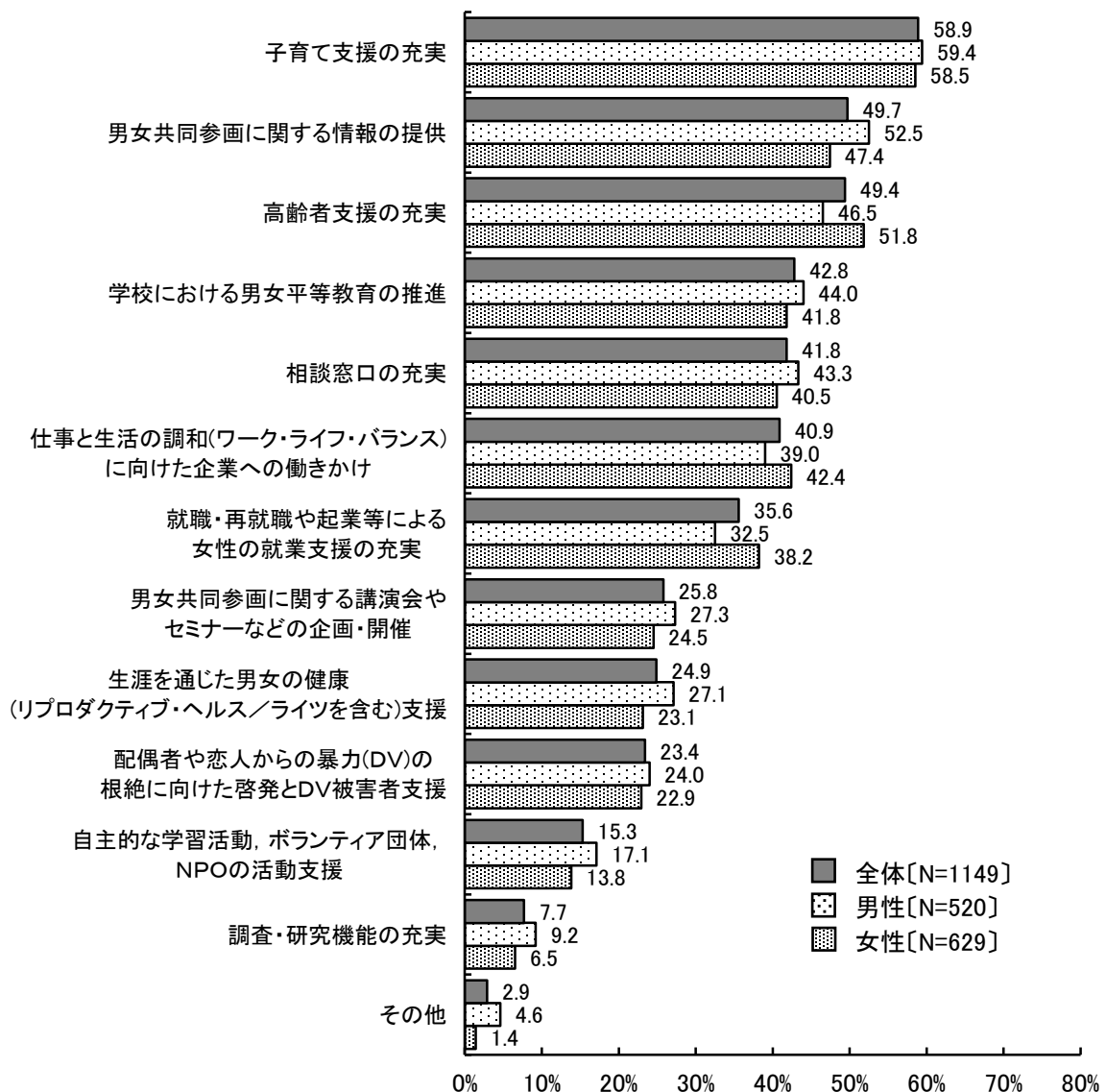
【全体】

「子育て支援の充実」が58.9%と最も高く、「男女共同参画に関する情報の提供」が49.7%、「高齢者支援の充実」が49.4%、「学校における男女平等教育の推進」が42.8%で続いている。

【性別】

女性は「高齢者支援の充実」が51.8%、「仕事と生活の調和に向けた企業への働きかけ」が42.4%、「就職・再就職や起業等による女性の就業支援の充実」が38.2%で男性より高い。

21-1図 男女共同参画を推進する上で、力を入れて取り組むべきことについて〔全体・性別〕



【年代別】

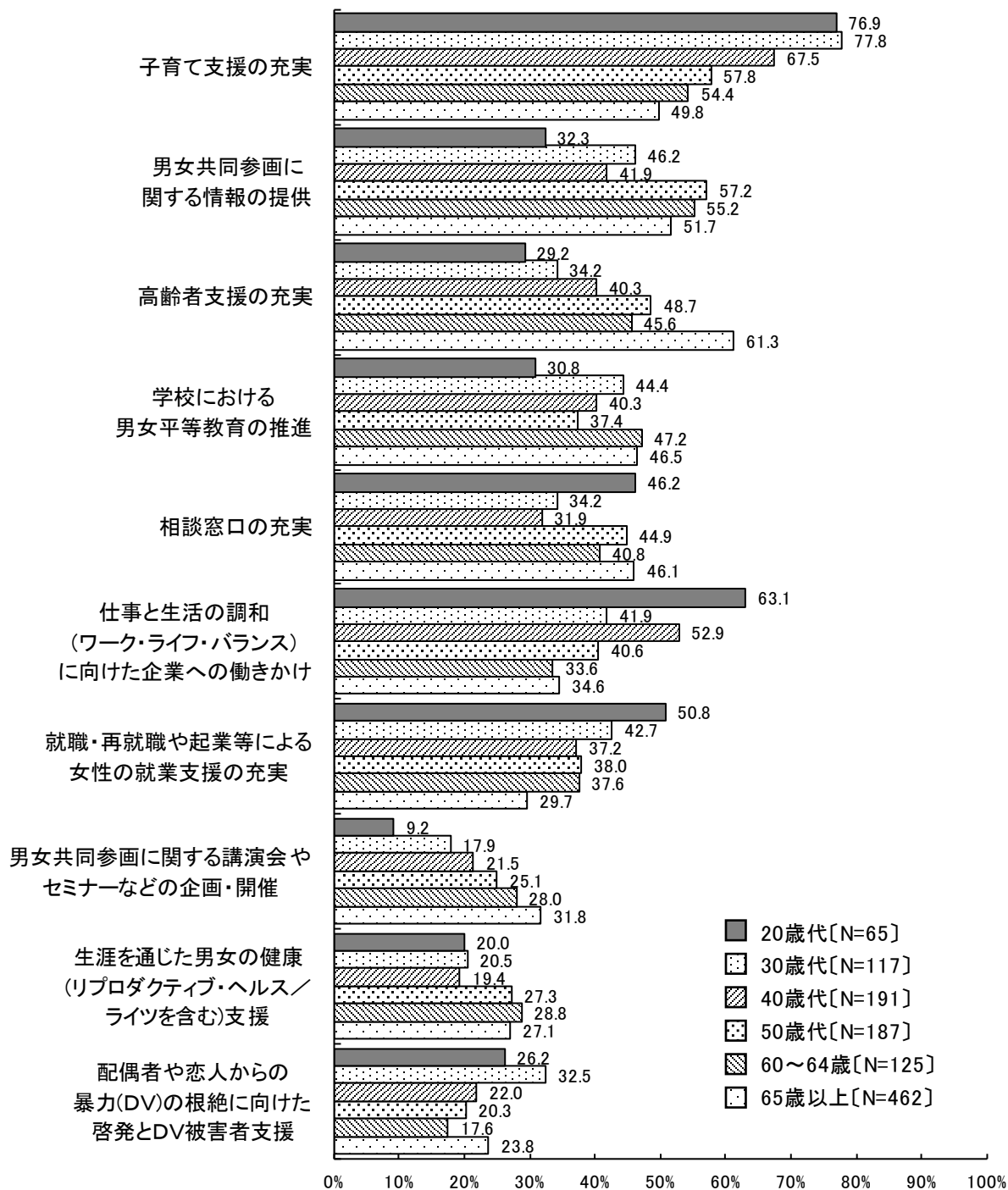
20歳代、30歳代は、「子育て支援の充実」がそれぞれ76.9%、77.8%で他の年代に比べて高い。

また20歳代は、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に向けた企業への働きかけ」が63.1%で他の年代に比べて高い。

20歳代は、「男女共同参画に関する情報の提供」が32.3%で他の年代に比べて低い。

65歳以上は、「高齢者支援の充実」が61.3%で他の年代に比べて高い。

21-2図 男女共同参画を推進する上で、力を入れて取り組むべきことについて〔年代別〕
(上位10項目)



IV. 自由回答の一覧

1. 自由回答の記入状況

男女共同参画実現に向けて、意見や要望等を求めたところ、合計91人から、121件の回答が得られた。

(1) 記述者数

年代	性別		計
	男性	女性	
20歳代	2	2	4
30歳代	4	3	7
40歳代	4	8	12
50歳代	11	13	24
60～64歳	3	3	6
65歳以上	17	21	38
合計	41	50	91

2. 分野別意見数

回答者によっては、複数の意見を記述している者もいるため、意見件数と記述者数は一致しない。

分野	件数
1. 家庭生活における男女共同参画についての意見	9
2. 職場における男女共同参画についての意見	14
3. 仕事と家庭生活、地域活動、市民活動の両立についての意見	7
4. 子育て（子どもの教育）についての意見	2
5. 男女共同参画社会づくりのための法律や施策についての意見	57
6. その他市政一般についての意見	17
7. その他	13
8. 分からない	2
合計	121

3. 自由意見（要約）一部抜粋

●家庭生活について

- ◇ 「男は仕事，女は家庭」という環境で育ったので，就職の頃に男女雇用機会均等法が施行され戸惑った。今の20代30代の世代は学校で男女平等の教育を受けているためか，家事に抵抗がない男性が多いようだが，「男のくせに」と批判する親世代向けの教育が必要なのでは。（女性・40歳代）
- ◇ 若い人は男女共同が進んでいるが，男は台所に入らざるべしと教えられている男性は今更出来ず，配偶者が亡くなった場合に苦労すると思う。（女性・65歳以上）
- ◇ 主人や，主人の父，主人の兄弟・男友人等は男尊女卑的な考え方をしている人が多く，地域的なものもあるのかと思う。女性がもっと活躍できる社会が実現できるのであれば私も協力したい。（女性・30歳代）

●職場について

- ◇ 経営者（資本側）が意識改革しないとムリだろう。罰金をとって企業にライフワークバランスを徹底するべき。（女性・50歳代）
- ◇ 長時間労働をなくす，奥さんにばかり子どもの世話，介護を押しつけない等，管理職，役員の意識改革が必要だと思う。（女性・40歳代）
- ◇ 男性の育児参加はまだまだで，女がして当たり前という考えがある。企業がもっと真面目に取り組み，北欧のように意識改革してほしい。学校の教育だけでなく，職場も一体となり取り組むべき。（女性・40歳代）
- ◇ 職場での休業制度も，大企業や公務員の恵まれた環境内での話で，中小企業では難しい。（女性・50歳代）
- ◇ 我々の様な一般サラリーマンは時間外勤務手当がなければ満足のいく生活水準には到達しない。（男性・50歳代）
- ◇ 男性も残業が多く，家事・育児をする時間がとりにくいのも理解している。男性も女性も負担少なくするには，まず労働環境の改善が必要ではないかと思う。（女性・30歳代）
- ◇ 男が主たる収入を得ていると，やはり育休は収入面から取りにくい。（男性・30歳代）
- ◇ 私はシングルマザーで会社員（正社員）であり，生活は安定しており男女平等の処遇を受け，管理職を任されている。しかし50代半前で体の変調が表れて，体力的，精神的に男の方々と同じように出来ない現実を感じている。会社もやはりそういったことへの配慮が必要だと思う。（女性・40歳代）

●仕事と家庭生活，地域活動，市民活動の両立について

- ◇ 女性が家庭，子供を持ち，仕事を続ける事はとても難しいと感じる。子供が病気などで学校を休む，警報が出て学校が休みになる毎に，母親が仕事を休む事になる。父親の職場では理解してもらえない。仕事を辞めた方もおり，本当に困っている。（女性・40歳代）

- ◇ 育児中も（子育ての終わった今も）社会とのかかわりが失われてゆく淋しさを味わった。2つのものは追えないと思い込んで（思い込まされた？）家庭を選び、淋しさを感じつつ我が子の成長を夫と2人で見守った。介護した親達も今は亡く、定年退職した夫と2人になり、社会や人間のありようを考えさせられている。（女性・65歳以上）

●子育て（子どもの教育）について

- ◇ 上を見ればきりが無いが、深夜勤務、残業がなければ、子供達を高校以上の学校へ進ませることはできなかった。子供達の経済事情が良くなく、今は奨学金を親である私が返済している状態で、このままでは老後のことが心配。（男性・50歳代）

●男女共同参画社会づくりのための法律や施策について

- ◇ こんな事をしたからといって変わるのか？住みやすい呉市にしなければ男女共同参画なんて無理だ。住みにくいから働かざるをえない現状が問題ではないのか？（男性・40歳代）
- ◇ 女性の仕事と家事は両立できるが、出産・育児か介護が加わると難しくなるのでこの2つの支援を期待する。（女性・40歳代）
- ◇ 出産は女性にしかできない為、子育て世帯に対し、もっと充実した制度・サービスを提供すべき。出産して保育園に預けられないのはありえない。7か月の子どもを4月に預けたが、呉は都心と違って待機はほぼ無いものの中途入所はまだ厳しいと感じる。（女性・40歳代）
- ◇ 予算配分を今後の若い年齢層に当ててほしい。箱もの・高齢者への手厚いサービスは削減すべき。これからの呉市（だけではないが）を支えるのは若年層なので。（男性・60～64歳）
- ◇ 意識改革よりもまずは外から。女性が心配なく働ける環境を作ってもらいたい。（女性・60～64歳）
- ◇ この度このアンケートをすることによって初めて男女共同参画というものがあると知った。何かの機会に男女共同参画をもっと知ることがあればもっと知りたい。（女性・50歳代）
- ◇ いつのまにか無くなったとならないように継続してほしい。（男性・40歳代）
- ◇ 呉市が現在取り組んでいる男女共同参画に関する施策にはどのようなものがあるのか、「市政だより」を注視しているつもりだが覚えがうすい。呉市が上記施策を広く深く進めるのであれば、いかに興味のない人々へ知らせていくかを考えてはどうか。（男性・40歳代）
- ◇ アンケート調査だけでなく、何らかの形でフォローしてほしい。（男性・65歳以上）
- ◇ 今までの生活の中での意識は薄かったが、いろんな働きかけのおかげか、やっぱり共同共助の意識は育ち、広まっていると思う。もちろん地域差、年齢の段階によって差は大きい。（女性・65歳以上）

<資料> 調査票

あなたの声をお聴かせください！

男女共同参画市民アンケート調査

アンケート御協力をお願い

市民の皆様には、日ごろから市政への御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。
呉市では、男女が互いに人権を尊重し、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて、さまざまな取組を進めています。

このたびお願いしているアンケート調査は、市民の皆様の男女共同参画に関する考えなどをお伺いし、今後の施策に活かすための基礎資料とすることを目的に実施するものです。

調査は、市内にお住まいの20歳以上の方から無作為に抽出した2,500人の方をお願いしています。ご回答は無記名で、内容はすべて統計的に処理を行いますので、個人が特定されることはありません。また、アンケート結果を他の目的に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の主旨を御理解いただき、御協力くださいますようお願い申し上げます。

平成28年6月

呉市

ご記入にあたってのお願い

- このアンケートは、封筒のあて名のご本人が回答してください。
- 回答者様の氏名や住所を記入する必要はありません。
- 質問ごとに、あてはまる回答の番号を選び、○で囲んでください。
「その他」にあてはまる場合は、()内にその内容を具体的に記入してください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合があります。
→ (矢印) や【 】内に説明がある場合は、その指示にそってご記入ください。
- 記入は、調査票に直接、鉛筆、またはボールペンでご記入ください。

すべての記入が終わりましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、平成28年7月25日(月)までに御投函ください。※切手を貼る必要はありません。

<問い合わせ先>

呉市 市民部人権センター

〒737-8501 呉市中央4丁目1-6

TEL：(0823) 25-3476(直通)

FAX：(0823) 26-6267

E-mail：zinken@city.kure.lg.jp

家庭生活における男女共同参画についておたずねします。

問1 「男は仕事，女は家庭」といった性別によって男女の役割を固定する考え方（固定的役割分担意識）についてあなたの考えを教えてください。○は1つだけ

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 賛成する | 2 どちらかといえば賛成する |
| 3 どちらかといえば賛成しない | 4 反対する |
| 5 わからない | |

【現在結婚している方のみにおたずねします】

問2-1 あなたの家庭の役割分担は，どのようにしていますか。
それぞれについて1～6のいずれかに○

	主に夫	主に妻	夫・妻 で半々	夫・妻 以外の 家族	家族で 協力	該当 しない
ア 炊事（かたづけを含む）	1	2	3	4	5	6
イ 掃除	1	2	3	4	5	6
ウ 洗濯	1	2	3	4	5	6
エ 育児（乳幼児の世話）	1	2	3	4	5	6
オ 介護・看護	1	2	3	4	5	6
カ 生活費を得ること	1	2	3	4	5	6
キ 重大事項の決定 （高額な商品や土地・家屋の購入など）	1	2	3	4	5	6
ク 家計の管理	1	2	3	4	5	6
ケ 自治会等の地域活動への参加	1	2	3	4	5	6
コ PTA活動等の学校行事への参加	1	2	3	4	5	6

【現在結婚している方のみにおたずねします】

問2-2 あなたは家庭での役割分担について，どのように感じていますか。○は1つだけ

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 満足している | 2 どちらかといえば満足している |
| 3 どちらかといえば不満である | 4 不満である |

問3 あなたは，一般的に女性が職業をもつことについて，どのように思いますか。
○は1つだけ

- 1 女性は職業をもたない方がよい(専業主婦型)
- 2 結婚するまでは，職業をもつ方がよい(結婚退職型)
- 3 子どもができるまでは職業をもち，子どもができたなら辞める方がよい(出産退職型)
- 4 結婚・出産に関わらず，ずっとフルタイムで職業を続ける方がよい(職業継続型)
- 5 子どもができたなら辞め，大きくなったら再び職業をもつ方がよい(再就職型)
- 6 家事・育児に影響がない程度で，パートタイマーやアルバイトをする方がよい(家事優先型)
- 7 その他 ()

【現在、お勤めしている方のみにおたずねします】

問4 あなたの職場の現状にあてはまることは、次のうちどれですか。○はいくつでも

- 1 募集・採用・配属に男女差がある
- 2 仕事の内容・分担に男女差がある
- 3 能力・成果の評価に男女差がある
- 4 教育訓練の機会を男女が平等に与えられていない
- 5 休暇の取りやすさに男女差がある
- 6 女性は、結婚・出産等により早期退職する慣習がある
- 7 お茶くみやコピー等の雑用は、女性の役割という慣習がある
- 8 あてはまるものはない

【現在、お勤めしている方のみにおたずねします】

問5-1 あなたは、管理職に昇進できるのであれば、昇進したいと思いますか。

○は1つだけ

- 1 昇進したい
- 2 どちらかといえば昇進したい
- 3 どちらかといえば昇進したくない
- 4 昇進したくない

問5-2へ

【問5-1で、3、4を選択した方のみ】

問5-2 どのような状況が整えられたら昇進したいと思いますか。○はいくつでも

- 1 給与額が自分の希望に合うなら
- 2 長時間労働がなければ
- 3 管理職の仕事が魅力あるものに思えれば
- 4 休業・休暇がとりやすければ
- 5 育児・介護等が必要なくなれば
- 6 家族の理解・協力があれば
- 7 どのような状況でも昇進したいと思わない
- 8 その他（具体的に)

問6 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。○はいくつでも

- 1 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
- 2 介護支援サービスの充実
- 3 家事・育児支援サービスの充実
- 4 男性の家事参加への理解・意識改革
- 5 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革
- 6 働き続けることへの女性自身の意識改革
- 7 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
- 8 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
- 9 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
- 10 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
- 11 その他 ()
- 12 特にない

問7 育児・介護休業制度は、男女がともに取得できる制度ですが、男性の利用者が少ないのが現状です。その理由は何だと思いませんか。○はいくつでも

- 1 制度利用後の待遇面が心配だから
- 2 取得する必要がないから
- 3 職場に迷惑がかかると思うから
- 4 休業取得に対し、職場の理解が得られないから
- 5 仕事が忙しくて利用できない
- 6 収入減になるから
- 7 他の休暇で対応できるから
- 8 子育てや介護は、女性の役割だと思うから
- 9 男性が育児・介護休業を取得できることを知らないから
- 10 その他 ()

問8 男女がともに仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いませんか。○は3つまで

- 1 労働時間を短縮すること
- 2 有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること
- 3 育児・介護休業制度を利用しやすくすること
- 4 育児や介護が理由で退職した従業員を再雇用する制度を導入すること
- 5 育児・介護休業中の給付金を充実すること
- 6 在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入すること
- 7 社内託児所の設置等、子育て支援を充実すること
- 8 経営者や管理職の意識を改革すること
- 9 その他 ()

地域活動、市民活動における男女共同参画についておたずねします。

問9-1 あなたは、地域活動や市民活動に現在参加していますか。○は1つだけ

1 参加している

2 参加していない

問10へ

問9-2へ

【問9-1で「2 参加していない」と回答された方のみにおたずねします】

問9-2 あなたが、現在、活動に参加していない理由は何ですか。○はいくつでも

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 情報がないから | 2 きっかけがないから |
| 3 忙しく、時間がとれないから | 4 家族が協力的ではないから |
| 5 関心がないから | 6 その他 () |

次ページ
へ

問10 あなたは、地域活動等の現状についてどのように思いますか。○はいくつでも

- 1 男性の参加が少ない
- 2 団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく慣行がある
- 3 活動の準備や後かたづけ等は、女性がやる慣行がある
- 4 会議等で女性が発言しにくい雰囲気がある
- 5 女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない
- 6 男女が平等に活動している
- 7 その他 ()

仕事と家庭生活、地域活動・市民活動の両立についておたずねします。

問11 あなたの生活における優先度について、あなたの**現実と理想**にいちばん近いものを、次の中から選んでください。**現実と理想**それぞれについて1～5のいずれかに○

		優先している	どちらかといえば優先している	どちらともいえない	どちらかといえば優先していない	優先していない
「現実」の優先度	ア あなたの生活における「仕事」の優先度	1	2	3	4	5
	イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度	1	2	3	4	5
	ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度	1	2	3	4	5
	エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度	1	2	3	4	5
「理想」の優先度	ア あなたの生活における「仕事」の優先度	1	2	3	4	5
	イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度	1	2	3	4	5
	ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度	1	2	3	4	5
	エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度	1	2	3	4	5

問12 あなたは、今後、男性が女性とともに、家事、育児、介護、地域活動やボランティアなどの市民活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。○は3つまで

- 1 男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと
- 2 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること
- 3 まわりの人が、夫・妻の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること
- 4 男性が家事等に参加することの社会的評価を高めること
- 5 子どもたちに対して、学校等で男女平等意識を育てる教育を推進すること
- 6 男女の固定的役割分担意識をなくすための啓発活動をさらに進めること
- 7 男性の家事等への関心を高めるよう、啓発や情報提供を行うこと
- 8 講習会や研修等を行い、男性の家事等の技能を高めること
- 9 仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること
- 10 男性が家事等を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめること
- 11 男性自身が、働き方を工夫して労働時間の削減をすすめること
- 12 その他（)

子育てについておたずねします。

問13 あなたは、子どもの育て方に関する次のような方針について、どのように考えていますか。それぞれについて1～5のいずれかに○

	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	わから ない
ア 男女とも経済的自立ができるように育てる	1	2	3	4	5
イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる	1	2	3	4	5
ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	1	2	3	4	5
エ 男は仕事、女は家庭を守るように育てる	1	2	3	4	5
オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる	1	2	3	4	5

問14 (全員がお答えください) お子さまの有無に関わらず、自分の子どもに受けさせたい教育(最終学歴)についてあてはまるものに○をつけてください。

○はそれぞれ1つずつ

① 男の子の場合	1 高校 3 大学	2 短期大学, 各種学校, 専修学校 4 大学院	5 その他 ()
② 女の子の場合	1 高校 3 大学	2 短期大学, 各種学校, 専修学校 4 大学院	5 その他 ()

問15 父親が子育てに関わることについてどのように考えますか。○はいくつでも

- 1 父親も育児を行うことは当然だ
- 2 子どもに良い影響を与える
- 3 父親自身に良い影響を与える
- 4 育児は女性の方が向いている
- 5 仕事と両立させることは、現実として難しい
- 6 母親が育児をしていないと誤解される
- 7 その他 ()
- 8 特にない

男女の人権の尊重についておたずねします。

問16 あなたは、次のような事柄における男女の地位について、どのように感じますか。それぞれについて1～6のいずれかに○

	男性の方が 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	平等である	どちらかといえば 女性の方が 優遇されている	女性の方が 優遇されている	わからない
ア 家庭生活	1	2	3	4	5	6
イ 就職や職場	1	2	3	4	5	6
ウ 地域活動	1	2	3	4	5	6
エ 学校教育	1	2	3	4	5	6
オ 法律や制度	1	2	3	4	5	6
カ 社会の通念や慣習	1	2	3	4	5	6
キ 政治や政策決定の場	1	2	3	4	5	6
ク 社会全体	1	2	3	4	5	6

問17 あなたは、配偶者や恋人の間で行われる次のような行為を暴力だと思いますか。
それぞれについて1～3のいずれかに○

	暴力だと思 う	暴力の場合と そうでない 場合がある	暴力だと思 わない
ア 手でぶつ・殴る	1	2	3
イ 足でける	1	2	3
ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る	1	2	3
エ 殴るふりをして脅す	1	2	3
オ 刃物等を突きつけて脅す	1	2	3
カ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	1	2	3
キ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
ク 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3
ケ 交友関係や電話・メール等を細かく監視する	1	2	3
コ 「誰のおかげで生活できているんだ」とか「かいしょうなし」など、相手が傷つくようなことを言う	1	2	3
サ 大声でどなる	1	2	3
シ 生活費を渡さない	1	2	3

問18-1 あなたは、配偶者や恋人との間で次のような行為を経験したことがありますか。
それぞれについて1～4のいずれかに○

	したことが ある	両方	されたこと がある	経験は ない
ア 手でぶつ・殴る	1	2	3	4
イ 足でける	1	2	3	4
ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る	1	2	3	4
エ 殴るふりをして脅す	1	2	3	4
オ 刃物等を突きつけて脅す	1	2	3	4
カ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	1	2	3	4
キ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3	4
ク 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3	4
ケ 交友関係や電話・メール等を細かく監視する	1	2	3	4
コ 「誰のおかげで生活できているんだ」とか「かいしょうなし」など、相手が傷つくようなことを言う	1	2	3	4
サ 大声でどなる	1	2	3	4
シ 生活費を渡さない	1	2	3	4

1つでもあったら
問 18-2 へ

すべて4なら
問 19-1 へ

【問 18-1 で1つでも「したことがある」、「両方」、「されたことがある」と回答された方のみにおたずねします】

問 18-2 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

○はいくつでも

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1 親族に相談した | 2 友人・知人に相談した |
| 3 公的機関に相談した | 4 民間の機関(弁護士会等)に相談した |
| 5 どこ(だれ)にも相談しなかった | |

問 19-1 あなたは、これまでに、職場・学校・地域で、次のような経験をしたことがありますか。○はそれぞれ該当するものすべて

	職場	学校	地域	経験はない
ア いやがっているのに卑猥な話を聞かされた	1	2	3	4
イ ヌード写真や卑猥な雑誌を目につくところに置かれたり、はられたりした	1	2	3	4
ウ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	1	2	3	4
エ 容姿について傷つくようなことを言われた	1	2	3	4
オ 結婚や異性との交際についてしつこく聞かれた	1	2	3	4
カ 性的な噂を立てられた	1	2	3	4
キ 宴会でお酒やデュエットを強要された	1	2	3	4
ク 帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした	1	2	3	4
ケ 交際を強要された	1	2	3	4
コ 性的行為を強要された	1	2	3	4
サ その他()	1	2	3	4

1つでもあったら
問 19-2 へ

すべて4なら
問 20 へ

【問19-1で1つでも「職場」、「学校」、「地域」と回答された方のみにおたずねします】

問 19-2 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

○はいくつでも

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 親族に相談した | 2 上司や同僚に相談した |
| 3 友人・知人に相談した | 4 公的機関に相談した |
| 5 民間の機関(弁護士会等)に相談した | 6 どこ(だれ)にも相談していない |

男女共同参画の取り組みについておたずねします。

問 20 あなたは、次の言葉や法律を知っていますか。
 それぞれについて1～3のいずれかに○

	内容まで 知っている	聞いたことは あるが内容は 知らない	知らない
ア 男女共同参画社会	1	2	3
イ ポジティブアクション	1	2	3
ウ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に 関する法律（DV防止法）	1	2	3
エ ストーカー行為等の規制等に関する法律 （ストーカー規制法）	1	2	3
オ ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
カ くれ男女共同参画基本計画	1	2	3
キ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律 （女性活躍推進法）	1	2	3
ク リプロダクティブ・ヘルス／ライツ （性と生殖に関する安全と健康を享受し、子どもを 持つか持たないか、また、子どもの数や出産時期 について決める自由を持つこと）	1	2	3

問 21 呉市が男女共同参画を推進する上で、どのようなことに力を入れて取り組むべきだ
 と思いますか。○はいくつでも

- 1 男女共同参画に関する情報の提供
- 2 男女共同参画に関する講演会やセミナーなどの企画・開催
- 3 学校における男女平等教育の推進
- 4 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に向けた企業への働きかけ
- 5 配偶者や恋人からの暴力(DV)の根絶に向けた啓発とDV被害者支援
- 6 相談窓口の充実
- 7 子育て支援の充実
- 8 生涯を通じた男女の健康(リプロダクティブ・ヘルス／ライツを含む)支援
- 9 高齢者支援の充実
- 10 就職・再就職や起業等による女性の就業支援の充実
- 11 自主的な学習活動、ボランティア団体、NPOの活動支援
- 12 調査・研究機能の充実
- 13 その他 ()

●呉市の男女共同参画に関する施策等について、御意見や御要望があれば、記入してください。

～御協力ありがとうございました。～

同封の返信用封筒（切手を貼る必要はありません）に入れて、

平成28年7月25日（月）までに御投函ください。

男女共同参画市民アンケート調査
報告書

発行日 平成28年11月

発行 呉市 市民部 人権センター

〒737-8501 呉市中央4丁目1番6号

電話: (0823)25-3476

FAX: (0823)26-6267

E-mail: zinken@city.kure.lg.jp